

平成14年度研修事業の概要 (各研修事業別個表)

A. 一週間以上の中長期間の研修

1. 教職員等中央研修講座		
第1回 校長、教頭等		1
第2回 校長、教頭等		3
第3回 校長、教頭等		5
第4回 校長、教頭等		7
第1回 中堅教員		9
第2回 中堅教員		11
第3回 中堅教員		13
第4回 中堅教員		15
2. 洋上研修		
第1団		17
第2団		19
3. 生徒指導総合研修講座		21
4. 英語教育指導者講座		
第1ブロック		24
第2・3ブロック		28
第4ブロック		32
第5ブロック		36
第6ブロック		40
第7ブロック		44
第8ブロック		47
第9ブロック		51
第10ブロック		55
5. 外国人児童生徒等日本語指導講習会		
前期		59
後期		62
6. 新産業技術等指導者養成講習		
【新産業技術コース】		
農業：A-1		65
農業：A-2		67
工業：B-1		69
工業：B-2		71
商業：C-1		73
商業：C-2		75
水産：D-1		77
水産：D-2		79
家庭：E-1		81
家庭：E-2		83
家庭：E-3		85
家庭：E-4		87
看護：F-1-1		89
看護：F-1-2		91
看護：F-2		93
技術：G-1		95
技術：G-2-1		97
技術：G-2-2		99
技術：G-2-3		101
技術：G-2-4		103
技術：G-2-5		105
技術：G-2-6		107
家庭：H-1		109
【情報技術コース】		
工業：I-1		111
工業：I-2		113
商業：J-1		115
商業：J-2		121

7. 学校安全教育指導者研修会	
第1回 交通安全	1 2 3
第2回 防災・心の教育	1 2 5
8. 公立小・中学校幹部事務職員研修講座	1 2 7
9. 高等学校産業教育実習助手講習	
農業	1 2 9
工業	1 3 1
10. 会計事務研修	
会計事務特別研修	1 3 3

B. 派遣研修

教職員派遣研修

【海外】

短期派遣	1 3 5
若手派遣	1 3 7
日米国民交流・若手教員の米国派遣	1 3 9
英語担当派遣 12月	1 4 1
英語担当派遣 6月	1 4 3

【国内】

産業教育（産業教育内地留学生）	1 4 5
理科教育（科学教育研究室研修生）	1 4 8

C. 3日～1週間未満の研修

1. 進路指導講座	
東日本地区	1 5 0
西日本地区	1 5 2
2. 公立高等学校事務職員幹部研修講座	1 5 4
3. 教育情報化推進指導者養成研修	
指導主事－全国1講座	1 5 6
指導主事－全国2講座	1 5 8
小学校－全国講座	1 6 0
中学校・高等学校－全国1講座	1 6 2
中学校・高等学校－全国2講座	1 6 4
中学校・高等学校－全国3講座	1 6 6
盲学校・聾学校－全国講座	1 6 8
養護学校－全国講座	1 7 0
小学校－東部1講座	1 7 2
小学校－東部2講座	1 7 4
小学校－中部1講座	1 7 6
小学校－中部2講座	1 7 8
小学校－西部1講座	1 8 0
小学校－西部2講座	1 8 2
中学校・高等学校－東部1講座	1 8 4
中学校・高等学校－東部2講座	1 8 6
中学校・高等学校－東部3講座	1 8 8
中学校・高等学校－東部4講座	1 9 0
中学校・高等学校－東部5講座	1 9 2
中学校・高等学校－東部6講座	1 9 4
中学校・高等学校－中部1講座	1 9 6
中学校・高等学校－中部2講座	1 9 8
中学校・高等学校－中部3講座	2 0 0
中学校・高等学校－中部4講座	2 0 2
中学校・高等学校－中部5講座	2 0 4
中学校・高等学校－西部1講座	2 0 6
中学校・高等学校－西部2講座	2 0 8
中学校・高等学校－西部3講座	2 1 0
中学校・高等学校－西部4講座	2 1 2
中学校・高等学校－西部5講座	2 1 4
中学校・高等学校－西部6講座	2 1 6

4. 「総合的な学習の時間」研修講座（小学校英語活動研修講座）	
第1回	2 1 8
第2回	2 2 1
第3回	2 2 5
5. 総合学科等新科目実技指導講座	2 2 8
6. 道徳教育連携・推進講座	
第1回中央研修講座	2 3 0
第2回中央研修講座	2 3 2
7. 環境教育担当教員講習会	
東部地区	2 3 4
西部地区	2 3 6
8. 体験活動担当教員講習会	
東日本ブロック	2 3 8
西日本ブロック	2 4 1
9. 学校体育指導者中央講習会	
東部地区	2 4 4
中部地区	2 4 6
西部地区	2 4 8
10. 健康教育指導者中央研修会	2 5 1
11. 先端技術体験プログラム	
工業：K-1	2 5 4
12. 公立小・中学校中堅事務職員研修講座	2 5 6
13. 養護教諭中央研修会	2 5 8
14. 保健室相談活動研修会	2 6 0
15. 学校栄養職員等研修会	2 6 2
16. 国立大学等部長級研修	2 6 4
17. 国立大学等課長級研修	2 6 7
18. 国立大学事務長研修	2 7 0
19. 国立大学等課長補佐級研修	2 7 3
20. 会計事務研修	
【地区別会計事務研修】	2 7 6
北海道地区	
東北地区	
関東甲信越地区	
東海・北陸地区	
近畿地区、	
中国・四国地区	
九州地区	
21. 留学生担当者研修会	2 8 6

D. 1日～2日の短期間の研修

1. 人権教育セミナー	
第1回	2 8 8
第2回	2 9 0
2. エイズ・薬物乱用防止教育研修会	2 9 2
3. 公立学校（高等学校・特殊教育諸学校）事務職員研修講座	2 9 4
4. 衛生管理研修会	2 9 6
5. 外国語指導助手に対する研修	
【来日直後】	
新規来日外国語指導助手研修（4月期）	2 9 8
新規来日外国語指導助手研修（A日程・B日程・第2次）	3 0 0
【契約更新時】	
再契約予定者研修会（A日程・B日程）	3 0 3
6. 留学生交流研究協議会	
北海道、東北、関東地区	3 0 6
中部、近畿地区	3 0 8
中国、四国地区	3 1 0

E. その他（各都道府県に研修の実施を委託している研修）

- 1. 道徳教育連携・推進講座
地区別研修講座 3 1 2
- 2. 外国語指導助手に対する研修
【中間期】
招致期間中外国語指導助手研修（中間期） 3 1 3

F. 教員研修センターが実施した研修の一部を衛星で配信する研修

- 衛星配信研修 3 1 4

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修講座（第1回校長，教頭等）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第一係		
研修目的 （趣旨）	校長，教頭等に対し，学校の管理運営，学習指導などの諸問題について，それぞれの職務に必要な研修を行い，その識見を高め，指導力の向上を図ることを目的とする。		
対 象	高等学校の校長・教頭		
開催期日	平成14年 6月18日（火）～平成14年 7月 9日（火）	22日間	
参加人数	計画人数	200人	受講者数 172人 （参加率） 86.0%
開催場所	独立行政法人 教員研修センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	107人	62.6%	46人	26.9%	11人	6.4%	7人	4.1%

2. 研修内容に関する主な意見

- 教育改革の中心にいる人々から直に講義を受けたことで，本筋が見え非常に役立った。
- 組織マネジメントで自分の弱点を見つけることができた。また，学校での方向性が理解できた。
- 演習については，他県の実情をお聞きする機会にもなり，大変勉強になった。
- 多岐にわたる問題について，バランスよく配慮された研修内容であった。
- やや講義が多い。
- 実践研究のコメントが今後の実践の上で役に立つ。また，この発表形式を参考に取り入れたい。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度教職員等中央研修講座日程表：第1回校長・教頭等研修講座（257回）

参加者：高（長50）（頭150）計200名

平成14年6月18日（火）～平成14年7月9日（火）

第1週	6/18(火)	6/19(水)	6/20(木)	6/21(金)	6/22(土)	6/23(日)
午前 9:30～ 12:00	科目名 (講師名) 受付 10:40～ オリエンテーション①	科目名 (講師名) オリエンテーション② 10:30～ 世界と日本 平野 次郎	科目名 (講師名) オリエンテーション③ 教育課程 児島 邦宏	科目名 (講師名) 班長会② 教職員(1) 清水 幹裕	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00	開講式 教育改革の 推進(文)★	13:30～16:00 教育と法規 菱村 幸彦	13:30～16:00 進路指導 鹿嶋研之助	13:00～15:30 教職員(2) 清水 幹裕		
午後2 15:15～ 16:45	写真撮影 GKK 班長会①	16:15～ 班別協議会 ①	16:15～ 班別協議会 ②	15:45～ 学校管理運営演 習事前検討会①		
第2週	6/24(月)	6/25(火)	6/26(水)	6/27(木)	6/28(金)	6/29(土)
午前1 8:45～ 10:15	科目名 (講師名) 実践研究①	科目名 (講師名) 実践研究②	科目名 (講師名) 実践研究③	科目名 (講師名) 実践研究④	科目名 (講師名) 実践研究⑤	自由研修
午前2 10:30～ 12:00	教育課題演 習(1)	人権尊重の 教育 森田 明	企業マネジ メント 津田 和明	組織マネジ メント (1)	組織マネジ メント (4)	
午後1 13:30～ 15:00	教育課題演 習(2)	13:00～14:30 男女共同参 画社会★ (文)	不登校・いじ めへの対応 菅野 純	組織マネジ メント (2)	組織マネジ メント (5)	
午後2 15:15～ 16:45	危機管理★ 田中 正博	14:40～16:10 芸術 家田 紀子 金井 紀子	地方行政財 政制度(文) ★	組織マネジ メント (3)	組織マネジ メント (6)	
17:00～		16:30～ 学校管理運営演 習事前検討会②	学校管理運営演 習事前検討会③			
第3週	7/1(月)	7/2(火)	7/3(水)	7/4(木)	7/5(金)	7/6(土)
午前 9:30～ 12:00	科目名 (講師名) 学校管理運 営演習 (1)	科目名 (講師名) 学校管理運 営演習 (3)	科目名 (講師名) 学校管理運 営演習 (5)	科目名 (講師名) 総合的な学 習の時間★ 吉崎 静夫	科目名 (講師名) 館外活動 (歌舞伎座)	自由研修
午後1 13:30～ 15:00	学校管理運 営演習 (2)	学校管理運 営演習 (4)	学校管理運 営演習 (6)	情報教育 清水 康敬	館外活動 (歌舞伎座)	
午後2 15:15～ 16:45			地方教育行政 制度の改善 (文)	著作権 (文)★ 班長会③		
第4週	7/8(月)	7/9(火)				
午前 9:30～ 12:00	科目名 (講師名) オリエンテーション④ ボランティア教育 中田 武仁	科目名 (講師名) オリエンテーション⑤ 9:30～11:00 スポーツ 三屋 裕子 11:30～12:00 閉講式				
午後1 13:30～ 15:00	健康教育 町沢 静夫					
午後2 15:15～ 16:45	歴史・民俗 安田 喜憲					

★印：衛星配信

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修講座（第2回校長，教頭等）				
担当課係	研修事業第一課 長期研修第一係				
研修目的 （趣旨）	校長，教頭等に対し，学校の管理運営，学習指導などの諸問題について，それぞれの職務に必要な研修を行い，その識見を高め，指導力の向上を図ることを目的とする。				
対 象	中学校の校長・教頭，指導主事				
開催期日	平成14年 7月16日（火）	～	平成14年 8月 6日（火）	22日間	
参加人数	計画人数	150人	受講者数	141人	（参加率） 94.0%
開催場所	独立行政法人 教員研修センター				

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	77人	55.4%	46人	33.1%	15人	10.8%	1人	0.7%

2. 研修内容に関する主な意見

- 第一線で活躍されている講師の話は，魅力的であり，新鮮で中身は得るものが大きかった。
- 組織マネジメントの講義並びに演習が大変勉強になった。来年度に生かしたい。
- 講義の内容の一部についてほとんど知っている事も多く，改善の余地がある。
- 講師の方々の受講者のレベルを考慮して話す能力の高さ，話手の人柄の持つ影響力の大きさを感じた。
- 内容が多岐に渡り，幅広いものであったが，むしろ内容をしばったほうが良い。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度教職員等中央研修講座日程表：第2回校長・教頭等研修講座（258回）

参加者：中（長50）（頭50）・指（50）合計150名

平成14年7月16日（火）～平成14年8月6日（火）

		7/16(火)	7/17(水)	7/18(木)	7/19(金)	7/20(土)	7/21(日)
第1週		科 目 名 (講師名)	科 目 名 (講師名)	科 目 名 (講師名)	科 目 名 (講師名)	自由研修	自由研修
午 前 9:30～ 12:00		受付 10:40～ オリエンテーション①	オリエンテーション② 10:30～ 世界と日本 大宅 映子	オリエンテーション③ 教育と法規 ★ 若井 彌一	班長会② 教職員(1) 石津 廣司		
午後1 13:30～ 15:00	★ 写真撮影 GKK	開講式	13:30～16:00 教育課程★ 安彦 忠彦	13:30～16:00 情報教育 久保田 裕	13:00～15:30 教職員(2) 石津 廣司		
午後2 15:15～ 16:45		教育改革の 推進(文)					
		班長会①	16:15～ 班別協議会 ①	16:15～ 班別協議会 ②	15:45～ 実践研究①		
第2週	7/22(月)	7/23(火)	7/24(水)	7/25(木)	7/26(金)	7/27(土)	7/28(日)
	科 目 名 (講師名)	科 目 名 (講師名)	科 目 名 (講師名)	科 目 名 (講師名)	科 目 名 (講師名)	自由研修	自由研修
午前1 8:45～ 10:15	実践研究②	実践研究③	館外活動 (歌舞伎座)	実践研究④	実践研究⑤		
午前2 10:30～ 12:00	教育課題演 習(1)	企業マネジ メント 辰巳 進		組織マネジ メント (1)	組織マネジ メント (4)		
午後1 13:30～ 15:00	教育課題演 習(2)	不登校・いじ めへの対応 大木 みわ	館外活動 (歌舞伎座)	組織マネジ メント (2)	組織マネジ メント (5)		
午後2 15:15～ 16:45	危機管理 上地 安昭	人権尊重の 教育 福田 弘	組織マネジ メント (3)	組織マネジ メント (6)			
17:00～	学校管理運営演 習事前検討会①	学校管理運営演 習事前検討会②	学校管理運営演 習事前検討会③				
第3週	7/29(月)	7/30(火)	7/31(水)	8/1(木)	8/2(金)	8/3(土)	8/4(日)
	科 目 名 (講師名)	科 目 名 (講師名)	科 目 名 (講師名)	科 目 名 (講師名)	科 目 名 (講師名)	自由研修	自由研修
午 前 9:30～ 12:00	学校管理運 営演習 (1)	学校管理運 営演習 (3)	学校管理運 営演習 (5)	道徳教育★ 小寺 正一	総合的な学 習の時間 吉崎 静夫		
午後1 13:30～ 15:00	学校管理運 営演習 (2)	学校管理運 営演習 (4)	学校管理運 営演習 (6)	地方行財政 制度(文)★	13:00～14:30 エネルギー 教育(文)		
午後2 15:15～ 16:45			地方教育行政 制度の改善 (文)	男女共同参 画社会★ (文) 班長会③	14:40～16:10 芸術 前沢 悦子 矢田 信子		
第4週	8/5(月)	8/6(火)					
	科 目 名 (講師名)	科 目 名 (講師名)					
午 前 9:30～ 12:00	オリエンテーション④ 国際理解教 育 恒吉 僚子	オリエンテーション⑤ 9:30～11:00 スポーツ 西田 善夫 11:30～12:00 閉講式					
午後1 13:30～ 15:00	健康教育 和唐 正勝						
午後2 15:15～ 16:45	自然科学 三浦 宏文						

★印：衛星配信

★印：衛星配信

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修講座（第3回校長，教頭等）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第一係		
研修目的 （趣旨）	校長，教頭等に対し，学校の管理運営，学習指導などの諸問題について，それぞれの職務に必要な研修を行い，その識見を高め，指導力の向上を図ることを目的とする。		
対 象	小学校の校長・教頭，中学校の教頭，指導主事		
開催期日	平成15年 1月 8日（水）～平成15年 1月29日（水）	22日間	
参加人数	計画人数：250人	受講者数：245人	（参加率）：98.0%
開催場所	独立行政法人 教員研修センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	183人	75.0%	54人	22.1%	2人	0.8%	5人	2.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 最先端の問題，特に組織マネジメント，教員評価について学べ視野が広がった。
- 国の教育改革の動向を再認識すると共に，自らの意識向上に役立った。
- 教育改革の大切な時期であるので，改革に携わってきた方々の思いを直接聞きたい。
- 危機管理の講義は今管理職に求められている能力の一つであるため，2時間半の内容にしてほしい。
- 行政サイドと現場とのズレを感じる場面があった。もっと現場に密着した内容のプログラムがあってもよかったのではないか。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度教職員等中央研修講座日程表：第3回校長・教頭等研修講座（262回）

参加者：小（長50）（頭75）・中（頭75）・指（50）合計250名

平成15年1月8日（水）～平成15年1月29日（水）

第1週			1/8(水)	1/9(木)	1/10(金)	1/11(土)	1/12(日)
			科目名 (講師名)	科目名 (講師名)	科目名 (講師名)		
午前 9:30～ 12:00			受付 10:40～ オリエンテーション①	オリエンテーション② 10:30～ 世界と日本 河野 健一	オリエンテーション③ 教職員(1) 俵 正市	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00			開講式 13:50～15:20 教育改革の 推進(文)★	13:30～16:00 教育と法規 菱村 幸彦	13:00～15:30 教職員(2) 俵 正市		
午後2 15:35～ 16:55			写真撮影 GKK 班長会①	16:15～ 班別協議会 ①	15:45～ 班別協議会 ②		
第2週	1/13(月)	1/14(火)	1/15(水)	1/16(木)	1/17(金)	1/18(土)	1/19(日)
	科目名 (講師名)	科目名 (講師名)	科目名 (講師名)	科目名 (講師名)	科目名 (講師名)		
午前1 8:45～ 10:15	自由研修 (成人の日)	班長会② 8:45～9:05 実践研究① 9:15～	実践研究②	実践研究④	実践研究⑤	自由研修	自由研修
午前2 10:30～ 12:00		教育課題演 習(1)	企業マネジ メント 辰巳 進	組織マネジ メント (1)	組織マネジ メント (4)		
午後1 13:30～ 15:00		教育課題演 習(2)	地方行財政 制度(文) ★	組織マネジ メント (2)	ママネジメント (5)		
午後2 15:15～ 16:45		危機管理 田中 正博	実践研究③	組織マネジ メント (3)	組織マネジ メント (6)		
17:00～		学校管理運営演 習事前検討会①	学校管理運営演 習事前検討会②				
第3週	1/20(月)	1/21(火)	1/22(水)	1/23(木)	1/24(金)	1/25(土)	1/26(日)
	科目名 (講師名)	科目名 (講師名)	科目名 (講師名)	科目名 (講師名)	科目名 (講師名)		
午前 9:30～ 12:00	学校管理運 営演習 (1)	学校管理運 営演習 (3)	学校管理運 営演習 (5)	教育課程 児島 邦宏	館外活動 (歌舞伎座)	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00	学校管理運 営演習 (2)	学校管理運 営演習 (4)	学校管理運 営演習 (6)	13:00～14:30 不登校・いじ めへの対応 石隈 利紀	館外活動 (歌舞伎座)		
午後2 15:15～ 16:45			地方教育行政 制度の改善 (文)	14:40～16:10 芸術 蒲原 史子 小林 功 班長会③			
第4週	1/27(月)	1/28(火)	1/29(水)				
	科目名 (講師名)	科目名 (講師名)	科目名 (講師名)				
午前 9:30～ 12:00	総合的な学 習の時間★ 西野 範夫	オリエンテーション④ 道徳指導★ 横山 利弘	オリエンテーション⑤ 9:30～11:00 環境教育★ 市田 則孝 11:30～12:00 閉講式				
午後1 13:30～ 15:00	人権尊重の 教育 今野 敏彦	情報教育 赤堀 侃司					
午後2 15:15～ 16:45	男女共同参 画社会 (文)	著作権 (文)					

★印：衛星配信

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修講座（第4回校長、教頭等）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第一係		
研修目的 （趣旨）	校長、教頭等に対し、学校の管理運営、学習指導などの諸問題について、それぞれの職務に必要な研修を行い、その識見を高め、指導力の向上を図ることを目的とする。		
対 象	小学校の教頭、幼稚園園長、指導主事、センター指導主事		
開催期日	平成15年 2月12日（水）～平成15年 3月 5日（水）	22日間	
参加人数	計画人数：200人	受講者数：174人	（参加率）：87.0%
開催場所	独立行政法人 教員研修センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	137人	79.2%	34人	19.7%	1人	0.6%	1人	0.6%

2. 研修内容に関する主な意見

- 組織マネジメント演習は大変良かった。学年主任・分掌部長等にも広めたいきたい。
- 自分の身に付けなくてはならない能力が明らかにできた。
- 情報を整理し、校務運営に活かしていきたい。
- 危機管理についての諸講義は大変参考になった。
- 法規の講義は、具体例・判例等を挙げていただいたので理解しやすかった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度教職員等中央研修講座日程表：第4回校長・教頭等研修講座（263回）

参加者：小（頭75）・幼（25）・指（50）・セ指（50）合計200名

平成15年2月12日（水）～平成15年3月5日（水）

第1週			2/12(水)	2/13(木)	2/14(金)	2/15(土)	2/16(日)
			科 目 名 (講師名)	科 目 名 (講師名)	科 目 名 (講師名)		
午前 9:30～ 12:00		建国記念日	受付 10:40～ オリエンテーション①	オリエンテーション② 10:30～ リーダー論 金平敬之助	オリエンテーション③ 教職員(1) 松崎 勝	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00			開講式 13:50～14:50 教育改革の 推進(文)★ 写真撮影	13:30～16:00 教育と法規 菱村 幸彦	13:00～15:30 教職員(2) 松崎 勝		
午後2 15:35～ 16:55			班長会①	16:15～ 班別協議会 ①	15:45～ 班別協議会 ②		
第2週	2/17(月)	2/18(火)	2/19(水)	2/20(木)	2/21(金)	2/22(土)	2/23(日)
	科 目 名 (講師名)	科 目 名 (講師名)	科 目 名 (講師名)	科 目 名 (講師名)	科 目 名 (講師名)		
午前1 8:45～ 10:15	班長会② 8:45～9:05 実践研究① 9:15～	実践研究②	実践研究③	実践研究④	実践研究⑤	自由研修	自由研修
午前2 10:30～ 12:00	教育課題演 習(1)	不登校・いじ めへの対応★ 亀口 憲治	学級経営をめ ぐる問題とそ の対応 滝 充	組織マネジ メント (1)	組織マネジ メント (4)		
午後1 13:30～ 15:00	教育課題演 習(2)	13:00～14:30 産業・経済 水谷 研治	企業マネジ メント 津田 和明	組織マネジ メント (2)	組織マネジ メント (5)		
午後2 15:15～ 16:45	危機管理 上地 安昭	14:40～16:10 松本 幸二 梅田 朋子	地方行財政 制度(文)★	組織マネジ メント (3)	組織マネジ メント (6)		
17:00～	学校管理運営演 習事前検討会①	16:30～ 学校管理運営演 習事前検討会②	学校管理運営演 習事前検討会③				
第3週	2/24(月)	2/25(火)	2/26(水)	2/27(木)	2/28(金)	3/1(土)	3/2(日)
	科 目 名 (講師名)	科 目 名 (講師名)	科 目 名 (講師名)	科 目 名 (講師名)	科 目 名 (講師名)		
午前 9:30～ 12:00	館外活動 (歌舞伎座)	学校管理運 営演習 (1)	学校管理運 営演習 (3)	教育課程 山極 隆 小川 博久	学校管理運 営演習 (5)	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00	館外活動 (歌舞伎座)	学校管理運 営演習 (2)	学校管理運 営演習 (4)	人権尊重の 教育 坪井 節子	学校管理運 営演習 (6)		
午後2 15:15～ 16:45				男女共同参 画社会 (文) GKK	地方教育行政 制度の改善 (文)		
第4週	3/3(月)	3/4(火)	3/5(水)				
	科 目 名 (講師名)	科 目 名 (講師名)	科 目 名 (講師名)				
午前 9:30～ 12:00	道徳教育 七條 正典	オリエンテーション④ 総合的な学 習の時間★ 高階 玲治	オリエンテーション⑤ 9:30～11:00 人生論 金子 満雄 11:30～12:00 閉講式				
午後1 13:30～ 15:00	情報教育★ 永野 和男	特殊教育 牟田 悦子					
午後2 15:15～ 16:45	著作権 (文)	哲学 今道 友信					

★印：衛星配信

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修講座（第1回中堅教員）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第一係		
研修目的 （趣旨）	中堅教員等に対し，学校の管理運営，学習指導などの諸問題について，それぞれの職務に必要な研修を行い，その識見を高め，指導力の向上を図ることを目的とする。		
対 象	小・中・高等学校の中堅教員（教務主任）		
開催期日	平成14年 5月 7日（火）～平成14年 6月 7日（金）	32日間	
参加人数	計画人数：200人	受講者数：199人	（参加率）：99.5%
開催場所	独立行政法人 教員研修センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	167人	84.8%	23人	11.7%	1人	0.5%	6人	3.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 講師の先生方が超一流著名な方々で，直にお話を伺うことができありがたく思っている。
- 組織マネジメントの講義，演習はとてもよかった。今後も続けてほしい。
- 組織マネジメントは組織の中での自分の役割等について考えさせられるところがあり，また，ひとつ意識を変えたところです。
- 世界の教育理念，教育と社会との有り様を的確にとらえ，日本の教育政策が展開されていることがよく理解できた。
- 改革の方向，今我々が考え，実行しなければならない点がよく解った。
- 法規演習では，いろいろな場面での対応の仕方や法的根拠を導き出す中で，教育が様々な法によって裏付けられていることが実感できた。
- 中教審の考えの背景にあるもの等，今までよくわからなかった面が，かなり整理できた。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度教職員等中央研修講座日程表：第1回中堅教員研修講座（256回）

参加者：教務主任（小（100）・中（50）・高（50））合計200名

平成14年5月7日（火）～平成14年6月7日（金）

第1週		5/7(火)	5/8(水)	5/9(木)	5/10(金)	5/11(土)	5/12(日)
		科目名 (講師名)	科目名 (講師名)	科目名 (講師名)	科目名 (講師名)		
午前 9:30～ 12:00		受付 10:40～ オリエンテーション①	オリエンテーション② 10:30～ リーダー論 金平敬之助	オリエンテーション③ 教育と法規 伊藤 公一	班長会② 教職員(1) 清水 幹裕	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00		開講式 教育改革の 推進(文) ★	人権尊重の 教育 福田 弘	コミュニケ ーション	13:30～16:00 教職員(2) 清水 幹裕		
午後2 15:15～ 16:45		写真撮影 GKK 班長会①	班別協議会 ①	班別協議会 ②			
第2週	5/13(月)	5/14(火)	5/15(水)	5/16(木)	5/17(金)	5/18(土)	5/19(日)
午前 9:30～ 12:00	教育課題 演習 (1)	教育課題 演習 (3)	道徳教育 七條 正典	教育課程 山極 隆★ 渋沢 文隆	特別活動 高階 玲治	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00	教育課題 演習 (2)	教育課題 演習 (4)	不登校・いじ めへの対応★ 伊藤美奈子 実践研究①	13:00～15:30 学校経営★ 葉養 正明	13:00～15:30 地方教育行 財政制度 高倉 翔		
午後2 15:15～ 16:45	16:15～ 学校管理運営演 習事前検討会①	16:15～ 学校管理運営演 習事前検討会②		15:45～ 実践研究②	15:45～ 実践研究③		
第3週	5/20(月)	5/21(火)	5/22(水)	5/23(木)	5/24(金)	5/25(土)	5/26(日)
午前 9:30～ 12:00	学習指導・ 評価 梶田 勲一	9:30～12:30 総合的な学 習の時間(1) ★9:30～11:00 工藤 文三	生徒指導 國分 康孝	実践研究⑤ 10:30～ 児童の権利 条約(文)	館外活動 (歌舞伎座)	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00	世界と日本 池上 彰	13:30～ 総合的な学 習の時間(2) 工藤 文三	実践研究④	地方行財政 制度(文)	館外活動 (歌舞伎座)		
午後2 15:15～ 16:45	歴史・民族 竹内 誠	総合的な学 習の時間(3) 工藤 文三 ～16:00	学校管理運営演 習事前検討会③	学校管理運営演 習事前検討会④			
第4週	5/27(月)	5/28(火)	5/29(水)	5/30(木)	5/31(金)	6/1(土)	6/2(日)
午前 9:30～ 12:00	学校管理運 営演習 (1)	学校管理運 営演習 (3)	学校管理運 営演習 (5)	学校管理運 営演習 (7)	特殊教育★ 緒方 明子	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00	学校管理運 営演習 (2)	学校管理運 営演習 (4)	学校管理運 営演習 (6)	学校管理運 営演習 (8)	13:00～14:30 企業マネジ メント 小野 俊一		
午後2 15:15～ 16:45				地方教育行政 制度の改善★ (文) 班長会③	14:40～16:10 芸術 蒲原 史子 小林 功		
第5週	6/3(月)	6/4(火)	6/5(水)	6/6(木)	6/7(金)		
午前 9:30～ 12:00	組織マネジ メント (1)	組織マネジ メント (4)	情報教育 林 徳治	オリエンテーション④ 環境教育 小澤紀美子	オリエンテーション⑤ 9:30～11:00 人生論 小川 三夫 11:30～12:00 閉講式		
午後1 13:30～ 15:00	組織マネジ メント (2)	組織マネジ メント (5)	生涯学習 浅井 経子	13:00～15:00 進路指導 松井賢二			
午後2 15:15～ 16:45	組織マネジ メント (3)	組織マネジ メント (6)	著作権★ (文)	倫理・哲学 加藤 尚武			

★印：衛星配信

5/21総合的な学習の時間の衛星配信講義は9:30～11:00

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修講座（第2回中堅教員）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第一係		
研修目的 （趣旨）	中堅教員等に対し，学校の管理運営，学習指導などの諸問題について，それぞれの職務に必要な研修を行い，その識見を高め，指導力の向上を図ることを目的とする。		
対 象	高等学校の中堅教員		
開催期日	平成14年 8月20日（火）～平成14年 9月20日（金）	32日間	
参加人数	計画人数：200人	受講者数：183人	（参加率）：91.5%
開催場所	独立行政法人 教員研修センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	112人	62.6%	48人	26.8%	19人	10.6%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

○通常では聴くことのできない講師のお話や様々な演習に接することができた。

○他県の先生方との交流が図られたことが良かった。

○講義のレベルが高く，また内容も充実していたので自分の視野を広げることに大変役に立った。

○多岐にわたる講座が設定され，学校管理演習，組織マネジメントに重点をおいた構成が良かった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度教職員等中央研修講座日程表：第2回中堅教員研修講座（259回）

参加：教（200） 合計200名

平成14年8月20日（火）～平成14年9月20日（金）

第1週		8/20(火)	8/21(水)	8/22(木)	8/23(金)	8/24(土)	8/25(日)
		科目名 (講師名)	科目名 (講師名)	科目名 (講師名)	科目名 (講師名)		
午前 9:30～ 12:00		受付	オリエンテーション②	オリエンテーション③ 教育と法規 伊藤 公一	班長会② 教職員(1) 清水 幹裕	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00		10:40～ オリエンテーション①	10:30～ 産業・経済 片岡 寛				
午後2 15:15～ 16:45		開講式 教育改革の 推進(文) ★ 写真撮影 GKK 班長会①	リーダー論 ★ 逸見 純昌	コミュニケ ーション	13:30～16:00 教職員(2) 清水 幹裕		
第2週	8/26(月)	8/27(火)	8/28(水)	8/29(木)	8/30(金)	8/31(土)	9/1(日)
午前 9:30～ 12:00	教育課題 演習 (1)	教育課題 演習 (3)	道徳教育 横山 利弘	教育課程★ 水原 克敏	生徒指導★ 森田 洋司	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00	教育課題 演習 (2)	教育課題 演習 (4)	不登校・いじ めへの対応 金澤 純三	人権尊重の 教育 今野 敏彦	13:30～16:00 学校経営 岡東壽隆		
午後2 15:15～ 16:45	16:15～ 学校管理運営演 習事前検討会①	16:15～ 学校管理運営演 習事前検討会②	実践研究①	実践研究②	16:15～ 実践研究③		
第3週	9/2(月)	9/3(火)	9/4(水)	9/5(木)	9/6(金)	9/7(土)	9/8(日)
午前 9:30～ 12:00	9:00～11:30 特別活動 片岡 徳雄	総合的な学 習の時間(1) 工藤 文三	進路指導★ 鹿嶋研之助	地方教育行 財政制度 堀 和郎	特殊教育 飯田 雅子	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00	著作権 (文)	13:00～ 総合的な学 習の時間(2) 工藤 文三	健康教育 石川 哲也	地方行財政 制度(文)	13:00～14:30 児童の権利 条約(文) ★		
午後2 15:15～ 16:45	実践研究④	総合的な学 習の時間(3) 工藤 文三	実践研究⑤	学校管理運営 習事前検討会④	14:40～16:10 芸術 藤野 カヨ 平田 道子		
17:00～		～16:00	17:00～ 学校管理運営 習事前検討会③				
第4週	9/9(月)	9/10(火)	9/11(水)	9/12(木)	9/13(金)	9/14(土)	9/15(日)
午前 9:30～ 12:00	学校管理運 営演習 (1)	学校管理運 営演習 (3)	学校管理運 営演習 (5)	学校管理運 営演習 (7)	館外活動 (歌舞伎座)	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00	学校管理運 営演習 (2)	学校管理運 営演習 (4)	学校管理運 営演習 (6)	学校管理運 営演習 (8)	館外活動 (歌舞伎座)		
午後2 15:15～ 16:45				地方教育行政 制度の改善★ (文) 班長会③			
第5週	9/16(月)	9/17(火)	9/18(水)	9/19(木)	9/20(金)		
午前 9:30～ 12:00	自由研修 (敬老の日) 振り替え	組織マネジ メント (1)	組織マネジ メント (4)	オリエンテーション④ ボランティ ア教育 田代 正美	オリエンテーション⑤ 9:30～11:00 スポーツ 山口 良治 11:30～12:00 閉講式		
午後1 13:30～ 15:00		組織マネジ メント (2)	組織マネジ メント (5)	企業マネジ メント 袖山 雅弘			
午後2 15:15～ 16:45		組織マネジ メント (3)	組織マネジ メント (6)	倫理・哲学 永井 均			

★印：衛星配信

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修講座（第3回中堅教員）				
担当課係	研修事業第一課 長期研修第一係				
研修目的 （趣旨）	中堅教員等に対し，学校の管理運営，学習指導などの諸問題について，それぞれの職務に必要な研修を行い，その識見を高め，指導力の向上を図ることを目的とする。				
対 象	小・中学校の中堅教員				
開催期日	平成14年10月1日（火）～平成14年11月1日（金）				32日間
参加人数	計画人数	300人	受講者数	284人	（参加率） 94.7%
開催場所	独立行政法人 教員研修センター				

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	158人	55.8%	85人	30.0%	13人	4.6%	27人	9.5%

2. 研修内容に関する主な意見

- 一つのことを極めている一流の方々の話は心打つものがあった。
- 新しい文科省の方針や現在の教育をめぐる状況や最新の情報を知ることができた。
- これからの教育実践に生かせる講義内容であった
- 講義によって分かりやすさの差が大きい。
- 教育行政や学校経営，法規等，広い視野に立った講義を聴くことができた。弁護士の先生や教育長・企業の一線で活躍なさっている方々の経験を踏まえた話は参考になった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度教職員等中央研修講座日程表：第3回中堅教員研修講座（260回）

参加者：小(100)・中(200) 合計300名

平成14年10月1(火)～平成14年11月1(金)

第1週		10／1(火)	10／2(水)	10／3(木)	10／4(金)	10／5(土)	10／6(日)
		科目名 (講師名)	科目名 (講師名)	科目名 (講師名)	科目名 (講師名)		
午前 9:30～ 12:00		受付	オリエンテーション②	オリエンテーション③ 教育と法規 若井 彌一	班長会② 教職員(1) 松崎 勝	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00		10:40～ オリエンテーション①	10:30～ 世界と日本 河野 健一	コミュニケーション 13:30～16:00 教職員(2) 松崎 勝			
午後2 15:15～ 16:45		開講式 教育改革の 推進(文) ★ 写真撮影 GKK 班長会①	リーダー論 逸見 純昌		班別 協議会②		
第2週	10／7(月)	10／8(火)	10／9(水)	10／10(木)	10／11(金)	10／12(土)	10／13(日)
午前 9:30～ 12:00	教育課題 演習 (1)	教育課題 演習 (3)	道徳教育 七條 正典	教育課程 谷川 彰英	学習指導・ 評価★ 梶田 正己	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00	教育課題 演習 (2)	教育課題 演習 (4)	不登校・いじめ への対応 勝田 顕	地方行財政 制度(文)	人権尊重の 教育 森 実		
午後2 15:15～ 16:45	16:15～ 学校管理運営演 習事前検討会①	16:15～17:15 新聞を学 ぶ、新聞で 学ぶ 高橋 守	実践研究①	実践研究②	実践研究③		
第3週	10／14(月)	10／15(火)	10／16(水)	10／17(木)	10／18(金)	10／19(土)	10／20(日)
午前 9:30～ 12:00	体育の日	学校経営 菊池龍三郎	特別活動 山口 満	9:00～12:00 総合的な学 習の時間(1) ★9:00～10:40 村川 雅弘	地方教育行 財政制度★ 松井 一磨	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00		学級経営をめ ぐる問題とそ の対応 小松 郁夫	著作権 (文)	13:00～ 総合的な学 習の時間(2) 村川 雅弘	13:00～14:30 情報教育 鈴木 敏恵		
午後2 15:15～ 16:45		実践研究④	15:15～17:15 学校管理運営演 習事前検討会③	総合的な学 習の時間(3) 村川 雅弘 ～15:30	14:40～16:10 芸術 家田 紀子 金井 紀子		
17:00～		17:00～ 学校管理運営演 習事前検討会②					
第4週	10／21(月)	10／22(火)	10／23(水)	10／24(木)	10／25(金)	10／26(土)	10／27(日)
午前 9:30～ 12:00	学校管理運 営演習 (1)	学校管理運 営演習 (3)	学校管理運 営演習 (5)	学校管理運 営演習 (7)	館外活動 (国立劇場)	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00	学校管理運 営演習 (2)	学校管理運 営演習 (4)	学校管理運 営演習 (6)	学校管理運 営演習 (8)	館外活動 (国立劇場)		
午後2 15:15～ 16:45				地方教育行政 制度の改善★ (文) 班長会③			
第5週	10／28(月)	10／29(火)	10／30(水)	10／31(木)	11／1(金)		
午前 9:30～ 12:00	組織マネジ メント (1)	組織マネジ メント (4)	生徒指導 星野 周弘	オリエンテーション④ 進路指導 渡辺三枝子	オリエンテーション⑤ 9:30～11:00 自然科学 坂田俊文		
午後1 13:30～ 15:00	組織マネジ メント (2)	組織マネジ メント (5)	<選択> 環境教育 国際理解教育 サカ・ンゴ・イ・ガ・デ・イ 田島 伸二	<選択> 健康教育 特殊教育 野津有司★ 中井 滋	11:30～12:00 閉講式		
午後2 15:15～ 16:45	組織マネジ メント (3)	組織マネジ メント (6)	児童の権利 条約(文)★	企業マネジ メント 木村 政雄			

★印：衛星配信 10/17総合的な学習の時間の衛星配信講義は9:00～10:40

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修講座（第4回中堅教員）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第一係		
研修目的 （趣旨）	中堅教員等に対し，学校の管理運営，学習指導などの諸問題について，それぞれの職務に必要な研修を行い，その識見を高め，指導力の向上を図ることを目的とする。		
対 象	小学校の中堅教員		
開催期日	平成14年11月19日（火）～平成14年12月20日（金）	32日間	
参加人数	計画人数：300人	受講者数：267人	（参加率）：89.0%
開催場所	独立行政法人 教員研修センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	233人	87.6%	32人	12.0%	1人	0.4%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 各界の著名な先生方からの講話を聴くことができ大変勉強になった。
- 講義と演習のバランスや，プログラムもよく，考えを深めていくことができた。
- 法規に関わる講義，また，企業及び作家等の教育関係者以外の方の話が刺激があり，感銘を受けた。
- 本研修がどのように役立ったかを，先輩の方々に聞く講義があると良い。
- 学校管理運営演習は問題を精選する必要があると思う。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度教職員等中央研修講座日程表：第4回中堅教員研修講座（261回）

研修：小(300) 合計300名

平成14年11月19日(火)～平成14年12月20日(金)

第1週		11/19(火)	11/20(水)	11/21(木)	11/22(金)	11/23(土)	11/24(日)
午前 9:30～ 12:00		科目名 (講師名) 受付	科目名 (講師名) 8:40～10:20 オリエンテーション② 10:30～12:00 著作権(文)	科目名 (講師名) オリエンテーション③ 教育と法規 菱村 幸彦	科目名 (講師名) 班長会② 教職員(1) 松崎 勝	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00		開講式 教育改革の 推進(文) ★	産業・経済 赤池 学	コミュニケ- ーション	13:30～16:00 教職員(2) 松崎 勝		
午後2 15:15～ 16:45		写真撮影 GKK 班長会①	班別協議会 ①	班別協 議会②			
第2週	11/25(月)	11/26(火)	11/27(水)	11/28(木)	11/29(金)	11/30(土)	12/1(日)
午前 9:30～ 12:00	教育課題 演習 (1)	教育課題 演習 (3)	道徳教育 横山 利弘	教育課程 澁澤 文隆	学習指導・ 評価 梶田 正己	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00	教育課題 演習 (2)	教育課題 演習 (4)	不登校・いじ めへの対応 亀口 憲治	人権尊重の 教育 坪井 節子	地方行財政 制度(文)		
午後2 15:15～ 16:45	16:15～ 学校管理運営演 習事前検討会①	16:15～ 学校管理運営演 習事前検討会②	実践研究①	実践研究②	実践研究③		
第3週	12/2(月)	12/3(火)	12/4(水)	12/5(木)	12/6(金)	12/7(土)	12/8(日)
午前 9:30～ 12:00	生徒指導 諸富 祥彦	特別活動★ 天笠 茂	9:00～12:00 総合的な学 習の時間(1) 村川 雅弘	学校経営 八尾坂修	地方教育行 財政制度 松井 一磨	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00	13:45～15:15 世界と日本 森本敏	児童の権利 条約(文)	13:00～ 総合的な学 習の時間(2) 村川 雅弘	学級経営をめ ぐる問題とそ の対応 ★ 滝 充	13:00～14:30 リーダー論 童門 冬二		
午後2 15:15～ 16:45	実践研究④	健康教育 中村 明子 17:00～ 学校管理運営演 習事前検討会③	総合的な学 習の時間(3) 村川 雅弘 ～15:30	学校管理運営演 習事前検討会④	14:40～16:10 芸術 前澤 悦子 矢田 信子		
第4週	12/9(月)	12/10(火)	12/11(水)	12/12(木)	12/13(金)	12/14(土)	12/15(日)
午前 9:30～ 12:00	学校管理運 営演習 (1)	学校管理運 営演習 (3)	学校管理運 営演習 (5)	学校管理運 営演習 (7)	館外活動 (国立劇場)	自由研修	自由研修
午後1 13:30～ 15:00	学校管理運 営演習 (2)	学校管理運 営演習 (4)	学校管理運 営演習 (6)	学校管理運 営演習 (8)	館外活動 (国立劇場)		
午後2 15:15～ 16:45				地方教育行政 制度の改善★ (文) 班長会③			
第5週	12/16(月)	12/17(火)	12/18(水)	12/19(木)	12/20(金)		
午前 9:30～ 12:00	組織マネジ メント (1)	組織マネジ メント (4)	進路指導 渡辺三枝子	オリエンテーション④ 情報教育 鈴木 敏恵	オリエンテーション⑤ 9:30～11:00 ことばと心 杉 みき子 11:30～12:00 閉講式		
午後1 13:30～ 15:00	組織マネジ メント (2)	組織マネジ メント (5)	<選択> 環境教育 国際理解教育 三島 次郎 影浦 攻★	特殊教育 大南 英明			
午後2 15:15～ 16:45	組織マネジ メント (3)	組織マネジ メント (6)	企業マネジ メント 茂木友三郎	スポーツ 秋山エリカ			

★印：衛星配信

I 研修概要

研 修 名	洋上研修（第1団）			
担当課係	研修事業第二課 国内短期研修係			
研修目的 （趣旨）	洋上研修は、初任者研修の対象となる公立学校の新任教員（以下「初任者」という。）に対して「船上における研修」と「寄港地における研修」を行うことにより、その知見を広めるとともに、都道府県・指定都市・中核市及び校種の枠を超えて相互に交流し、教員としての一体感を養うことを目的とする。			
対 象	公立学校の新任教員、国立及び私立の小学校等の新任教員の一部。			
開催期日	平成14年 7月26日（金）	～	平成14年 8月 3日（土）	9日間
参加人数	計画人数	450人	受講者数	400人（参加率） 88.9%
開催場所	船内及び寄港地（沖縄県・松山市）			

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	298人	78.0%	82人	21.5%	2人	0.5%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 指導方法や理念等、情報交換できたことで自分の教育観もより一層高まった。
- 他県の教員と交流できネットワークが広がったことがよかった。
- 文部科学省の講義では今後の方向性や現実的な実態も聞くことができ視野が広がった。
- 班別討議での経験は今後の教員生活の財産になった。
- カウンセリングの講義をもっと聞きたかった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

洋上研修第1団日程表

	月 日 (曜日)	発着時間 ・ 港 名	主 な 研 修 内 容							宿泊地
1	7月26日 (金)	17:00 発 東京都 晴海埠頭	受付13:00 ～14:00 集合 14:00	結 団 式 14:30 ～15:00	団 長 講 話	オリエンテー ション 避難訓練	班 別 ミーティング	係 別 ミーティング	船	
2	7月27日 (土)		朝の 集い	教育 改 革 の 動 向 田中壮一郎	学 習 指 導 要 領 の 変 遷 天 笠 茂	アイスブレイク ----- 班別討議	班別討議 アイスブレイク	寄港地活動 オリエンテ ーション	音楽の 楽しみ (夕食後)	船
3	7月28日 (日)		朝の 集い	特別講義「スポーツ」 衣笠 祥雄	評 価 に つ い て 山 極 隆	班 別 討 議				船
4	7月29日 (月)	10:00 着 沖 縄	朝の 集い	子どもの問題行動の実 態とその対応 松原 達哉	班 別 討 議				子どもへの接し方と教育 相談 亀口 憲治	船
5	7月30日 (火)	19:00 発 沖 縄	朝の 集い	寄 港 地 活 動 (沖 縄 県) (ひめゆりの塔、那覇市内自由行動)						船
6	7月31日 (水)		朝の 集い	班別討議	洋上運動会 準 備	洋 上 運 動 会				船
7	8月1日 (木)	9:00 着 松 山 19:00 発	朝の 集い	寄 港 地 活 動 (松 山 市) (松 山 市 内 自 由 行 動)						船
8	8月2日 (金)		朝の 集い	討 議 内 容 の 発 表						船
9	8月3日 (土)	10:00 着 東京都 晴海埠頭	朝の 集い	解団式 10:30 ～ 解散時間 11:30 ～						

I 研修概要

研 修 名	洋上研修（第2団）		
担当課係	研修事業第二課 国内短期研修係		
研修目的 （趣旨）	洋上研修は、初任者研修の対象となる公立学校の新任教員（以下「初任者」という。）に対して「船上における研修」と「寄港地における研修」を行うことにより、その知見を広めるとともに、都道府県・指定都市・中核市及び校種の枠を超えて相互に交流し、教員としての一体感を養うことを目的とする。		
対 象	公立学校の新任教員、国立及び私立の小学校等の新任教員の一部。		
開催期日	平成14年 8月 9日（金）～平成14年 8月17日（土）	9日間	
参加人数	計画人数：450人	受講者数：298人	（参加率）：66.2%
開催場所	船内及び寄港地（北九州市・北海道）		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	190人	70.4%	77人	28.5%	0人	0.0%	3人	1.1%

2. 研修内容に関する主な意見

- 他県の方と交流することで、自分の視野を広げたり抱えていた悩みや不安を共感しあうことができた。
- 教員として自分を見つめ直す機会を得ることができました。また全国各地にネットワークが広がり有意義だった。
- 文部科学省の講義を聞くことができ大変よかった。
- 北方領土に対する意識を持つことができた。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

洋上研修第2団日程表

	月 日 (曜日)	発着時間 ・ 港 名	主 な 研 修 内 容								宿泊地
1	8月9日 (金)	17:00 発 東京都 晴海埠頭	受付13:00 ～14:00 集合 14:00	結 団 式 14:30 ～15:00	団 長 講 話	オリエンテー ション 避難訓練	班 別 ミーティング	係 別 ミーティング		船	
2	8月10日 (土)		朝の 集い	子どもへの接し方と 教育相談 東山 紘久	戦後日本の教育の国家 基準の変遷 安彦 忠彦	アイスブレイク ----- 班別討議	班別討議 アイスブレイク	寄港地活動 オリエンテ ーション	音楽の 楽しみ (夕食後)	船	
3	8月11日 (日)	9:00 着 北九州 21:00 発	朝の 集い	寄 港 地 活 動 (福 岡 県) (北 九 州 市 内 自 由 行 動)						船	
4	8月12日 (月)		朝の 集い	子どもの問題行動の 実態とその対応 森田 洋司	評 価 に つ い て 金本 正武	班 別 討 議				船	
5	8月13日 (火)		朝の 集い	班別討議	洋上運動会 準 備	洋 上 運 動 会				船	
6	8月14日 (水)	8:00 着 花 咲 21:00 発	朝の 集い	寄 港 地 活 動 (北 海 道) (北 方 四 島 交 流 セ ン タ ー 、 納 沙 布 岬 、 根 室 市 内 自 由 行 動)						船	
7	8月15日 (木)		朝の 集い	特別講義「地球環境 制約の時代を迎え て」丹保憲仁	教 育 改 革 の 動 向 小田 豊	班 別 討 議				船	
8	8月16日 (金)		朝の 集い	討 議 内 容 の 発 表						船	
9	8月17日 (土)	10:00 着 東京都 晴海埠頭	朝の 集い	解団式 10:30 ～ 解散時間 11:30 ～							

I 研修概要

研 修 名	生徒指導総合研修講座			
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係			
研修目的 (趣旨)	不登校・いじめ・暴力行為など生徒指導上の諸問題に適切に対応するため、生徒指導担当教員に対して、生徒指導、教育相談の理論及び実際について総合的かつ実践的研修を実施する。			
対 象	都道府県教育委員会等が推薦する国公立小学校、中学校、高等学校、中等教育学校等の教員又は指導主事			
開催期日	平成14年 7月22日(月)～平成14年 8月 9日(金)	19日間		
参加人数	計画人数	141人	受講者数	132人 (参加率) 93.6%
開催場所	独立行政法人 教員研修センター			

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	101人	77.7%	25人	19.2%	0人	0.0%	4人	3.1%

2. 研修内容に関する主な意見

○生徒指導の本質的な意義をわかり易く指導していただいた。(20件) ○不登校への対応について具体的でよくわかった。(9件) ○屈曲されがちな「カウンセリングマインド」という言葉をかみ砕いて説明して下さった。(8件) ○ユーモアを交えながら生徒指導上必要な法規等、勉強になった。(8件) ○バーチャルカウンセリングがとても新鮮だった。はっきりとした方向を示して頂いた点等、新たな点に気づくことが出来た。(6件) ○人間関係づくりの大切さ、又、そのやり方をわかりやすく説明して上手に我々を動かしてくれたので緊張がほぐれた。(5件) ○いじめ問題を構造的にとらえることができた。(3件) ○生徒指導と道徳教育の関わりについて、わかりやすく講義いただいた。(2件) ○「子どもの立場で理解し、大人の立場に立って指導する」カウンセリングの誤解を学んだ。(2件) ○問題行動を起こした子どもを指導するのではなく、問題行動を起こさない子どもから考えていく、自己統制力を身につけさせていくことの必要性など、講義の流れやまとめ方が良かった。(2件) ○事例に基づく助言が大変役に立った。ネットワーク作りの大切さを痛感した。(2件) ○薬物や性非行についての専門的知識を得ることが出来た。(2件) ○荒れる子・いい子すぎる子・安定している子がどのようにできるかについて、良くわかりました。又、そんな子どもへの対応についての話もわかりやすかった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

講義日程

月・日 (曜)	講 師 名	講 義 題
7/22 (月)	オリエンテーション・開講式	
	文部科学省担当官	生徒指導上の諸問題の現状と文部科学省の施策について
	独立行政法人教員研修センター 主幹 福田 隆 行	コミュニケーション・人間関係づくり
7/23 (火)	筑波大学教授 新井 邦二郎	◇児童期の心理と発達課題（小学校）
	茨城大学教授 安達 喜美子	◇思春期の心理と発達課題（中高等学校）
	警察庁生活安全局少年課企画係長 橋 本 卓	☆関係機関との連携の在り方（1） 学校と警察との連携の強化による非行防止対策の推進
7/24 (水)	千葉大学名誉教授 坂 本 昇 一	生徒指導の原理と方法
	関西学院大学教授 横 山 利 弘	生きる力を育む生徒指導の在り方 ー道徳教育との接点ー
7/25 (木)	東京学芸大学教授 上 野 一 彦	◇LD・ADHD児の理解と指導 ☆
	立教大学教授 町 沢 静 夫	◇青少年問題の理解と対応
	厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課指導係長 船 場 一 郎	☆関係機関との連携の在り方（2） 厚生労働省
	法務省東京保護観察所観察一課 保護観察官 鈴木 美香子	☆関係機関との連携の在り方（3） 法務省
7/26 (金)	東京都杉並区立天沼中学校校長 嶋 崎 政 男	カウンセリングマインドを生かした 学級・学校づくり
	大阪市立大学教授 森 田 洋 司	☆いじめ問題の理解と対応
7/27 (土)	自由研修	
7/28 (日)	自由研修	
7/29 (月)	早稲田大学教授 菅 野 純	☆不登校児童生徒への援助の在り方
	お茶の水女子大学助教授 伊藤 美奈子	☆スクールカウンセラーを活用した組織 的な生徒指導の在り方
7/30 (火)	国立教育政策研究所生徒指導研究センター総括研究官 森 嶋 昭 伸	◇学級がうまく機能しない状況への理解 と対応
	警視庁少年育成課副主幹 石 橋 昭 良	◇薬物乱用・性非行問題への対応
		生徒指導事例研究（1）
7/31 (水)	帝京大学教授 星 野 周 弘	☆問題行動を起こす児童生徒への対応
		生徒指導事例研究（2）

◇印は校種別の講義または選択の講義

☆印は衛星配信講義

月・日 (曜)	講 師 名	講 義 題
8 / 1 (木)	ス ー パ ー バ イ ザ ー 埼玉県上福岡市立西小学校 教頭 金 澤 広 明 埼玉県熊谷市立久下小学校 校長 井 上 清 東京学芸大学講師 樺 澤 徹 二 文教大学講師 森 川 澄 男 広島国際大学助教授 相 馬 誠 一 東海女子大学助教授 花 井 正 樹	生徒指導事例研究 (3) (4)
8 / 2 (金)	兵庫教育大学教授 富 永 良 喜	☆ストレスマネジメント
		館外活動
8 / 3 (土)	自由研修	
8 / 4 (日)	自由研修	
8 / 5 (月)	筑波大学教授 飯 田 稔	豊かな心の育成と自然体験活動
	社会福祉法人敬愛会敬愛の園 理事長 島 村 俊 夫	社会奉仕活動で育まれるもの
	聖徳栄養短期大学助教授 岡 田 弘	◇心を育てるグループ・エンカウンター ☆
	東京学芸大学助教授 小 林 正 幸	◇ソーシャル・スキル・トレーニングの ☆理論と実際
8 / 6 (火)	東京理科大学助教授 小 山 望	教育指導に生かすロールプレイング
	日本体育大学教授 成 田 國 英	☆体験活動の意義とそれを生かした生徒指導 小中高3名からの発表と協議・講義
8 / 7 (水)	東京女子体育大学教授 尾 木 和 英	☆生徒指導の全体計画と援助体制づくり
	国際基督教大学教授 小 谷 英 文	◇グループ・カウンセリングの理論と 方法
	三重大大学教授 市 川 千 秋	◇ブリーフ・カウンセリングの理論と 技法
8 / 8 (木)	上越教育大学教授 若 井 彌 一	生徒指導に関わる法的諸問題
	お茶の水女子大学名誉教授 尾 田 幸 雄	教育者としての在り方生き方
		体験発表＜生徒指導総合研修講座を通して学んだこと＞
8 / 9 (金)	東京成徳大学教授 國 分 康 孝	開発的カウンセリング
	閉講式	

◇印は校種別の講義または選択の講義

☆印は衛星配信講義

I 研修概要

研 修 名	英語教育指導者講座（第1ブロック）			
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係			
研修目的 (趣旨)	都道府県教育委員会との連携・協力の下、中学校及び高等学校における英語指導上の諸問題に関する専門的な講義・演習等を通して、英語担当の指導主事及び指導的立場を担う教員の指導力の向上、特に、英語を聞き話すことを指導する力を育成し、中学校及び高等学校における英語教育の改善・充実に資する。			
対 象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し、英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。			
開催期日	平成14年12月 5日（木）～平成14年12月20日（金）			16 日間
参加人数	計画人数	50人	受講者数	48人（参加率） 96.0%
開催場所	岩手県立総合教育センター			

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	19人	39.6%	29人	60.4%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 理論と実践のバランスを考えた内容だと大変有り難い。
 ○高校の現場経験のある先生は高校に焦点を絞った講義に成りがちで、中学校教師には実用的ではないと思う。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講 義 日 程（第1ブロック）

	午前（9:30～12:30）	午後（13:30～16:30）
	講師・内容	講師・内容
12月 5日 (木)	／	開 講 式
6日 (金)	A 加納 幹雄 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践 ----- B アンハー・マイケル （岩手大学教育学部外国語教師） 新しい言語活動の理論と実践	A アンハー・マイケル （岩手大学教育学部外国語教師） 新しい言語活動の理論と実践 ----- B 加納 幹雄 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践
7日 (土)	自 主 研 修	自 主 研 修
8日 (日)	自 主 研 修	自 主 研 修
9日 (月)	A ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践 ----- B 海外研修参加者報告等 花巻市立花巻中学校教諭 太田 健 岩手県立盛岡第四高等学校教諭 吉田達行	A 海外研修参加者報告等 花巻市立花巻中学校教諭 太田 健 岩手県立盛岡第四高等学校教諭 吉田達行 ----- B ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
10日 (火)	A ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践 ----- B 高梨 庸雄 （京都ノートルダム女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	A 高梨 庸雄 （京都ノートルダム女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践 ----- B ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
11日 (水)	A ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践 ----- B 高梨 庸雄 （京都ノートルダム女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	A 高梨 庸雄 （京都ノートルダム女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践 ----- B ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践

	午前 (9:30~12:30)	午後 (13:30~16:30)
	講師・内容	講師・内容
12日 (木)	A 緑川 日出子 (昭和女子大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	A 山崎 友子 (岩手大学教育学部助教授) 新しい言語活動の理論と実践
	B 山崎 友子 (岩手大学教育学部助教授) 新しい言語活動の理論と実践	B 緑川 日出子 (昭和女子大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
13日 (金)	A 緑川 日出子 (昭和女子大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	A 千々岩 佳史 (岩手大学教育学部教授) 新しい言語活動の理論と実践
	B 千々岩 佳史 (岩手大学教育学部教授) 新しい言語活動の理論と実践	B 緑川 日出子 (昭和女子大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
14日 (土)	自主研修	自主研修
15日 (日)	自主研修	自主研修
16日 (月)	A 東後 勝明 (早稲田大学教授) 教養講座	A 佐野 正之 (横浜国立大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
	B 佐野 正之 (横浜国立大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	B 東後 勝明 (早稲田大学教授) 教養講座
17日 (火)	A 佐野 正之 (横浜国立大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	A ナサーニアル・ショーツ (県立総合教育センター) 新しい言語活動の理論と実践
	B ナサーニアル・ショーツ (県立総合教育センター) 新しい言語活動の理論と実践	B 佐野 正之 (横浜国立大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
18日 (水)	A 朝尾 幸次郎 (東海大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	A ナサーニアル・ショーツ (県立総合教育センター) 新しい言語活動の理論と実践
	B ナサーニアル・ショーツ (県立総合教育センター) 新しい言語活動の理論と実践	B 朝尾 幸次郎 (東海大学教授) 新しい言語活動の理論と実践

	午前 (9:30~12:30)	午後 (13:30~16:30)
	講師・内容	講師・内容
19日 (木)	A 平田 和人 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践	A 朝尾 幸次郎 (東海大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
	B 朝尾 幸次郎 (東海大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	B 平田 和人 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践
20日 (金)	I T Pの実施 及び 閉 会 行 事	

I 研修概要

研 修 名	英語教育指導者講座（第2・3ブロック）			
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係			
研修目的 （趣旨）	都道府県教育委員会との連携・協力の下、中学校及び高等学校における英語指導上の諸問題に関する専門的な講義・演習等を通して、英語担当の指導主事及び指導的立場を担う教員の指導力の向上、特に、英語を聞き話すことを指導する力を育成し、中学校及び高等学校における英語教育の改善・充実に資する。			
対 象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し、英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。			
開催期日	平成14年 6月24日（月）	～	平成14年 7月12日（金）	19日間
参加：数	計画人数：	100人	受講者数：	97人（参加率） 97.0%
開催場所	独立行政法人 教員研修センター			

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	20人	21.7%	65人	70.7%	2人	2.2%	5人	5.4%

2. 研修内容に関する主な意見

- 大変役に立つ内容で、今までの自分にこれまでにない刺激となりました。どの講義も新鮮に感じられ、特に現在かかえている問題や今後の課題が明確になり、学校にもどってからいろいろ試してみたい。
- 沢山の講師陣から、理論的な事を沢山教えていただいた。理論をもっと具体例を提示して教えていただければ、さらに良かったのではないかと思います。
- 沢山の先生方が苦労したBの資料の意味は何だったのか。
- 朝の授業研究は、中・高お互いに参観できる機会を設けて欲しい。
- 文部科学省の方には、特に具体的に物事を言っていただきたいと思います。
- パワーポイントを利用する先生が多かったですが、小さい字がほとんど見えなかった。
- 100名近い先生方がA・B班に分けて3週間過ごしてしまうと、あまりに変化無く話し合いや考えが固定してしまうので、AB班を合体させグループ内の活性化を図るのも良い。
- 理論と実践をわけてもらえると良かった。
- グループ活動で行う授業研究の時間が少なかったように感じられた。授業研究以外にも20名程度の中・高別の活動は、十分充実したものになると思う。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講 義 日 程 (第2・3ブ ロック)

第1週

	午前 (9:30~12:30)	午後 (13:30~16:30)
	講師・内容	講師・内容
[6月] 24日 (月)		開 講 式
25日 (火)	A 平田 和人 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践 ----- B ティモシー ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	A ティモシー ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践 ----- B 平田 和人 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践
26日 (水)	A 朝尾 幸次郎 (東海大学教授) コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習 ----- B 村川 久子 (会津大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	A 村川 久子 (会津大学教授) 新しい言語活動の理論と実践 ----- B 朝尾 幸次郎 (東海大学教授) コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習
27日 (木)	A 朝尾 幸次郎 (東海大学教授) コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習 ----- B 卯城 祐司 (筑波大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	A 卯城 祐司 (筑波大学教授) 新しい言語活動の理論と実践 ----- B 朝尾 幸次郎 (東海大学教授) コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習
28日 (金)	A ジェームズ R. バワーズ (明治大学教授) 新しい言語活動の理論と実践 ----- B 海外研修報告	A 海外研修報告 ----- B ジェームズ R. バワーズ (明治大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
29日 (土)	自主研修	自主研修
30日 (日)	自主研修	自主研修

第2週

	午前 (9:30~12:30)	午後 (13:30~16:30)
	講師・内容	講師・内容
[7月] 1日 (月)	A 吉田 研作 (上智大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	A 東後 勝明 (早稲田大学教授) 教養講座
	B 東後 勝明 (早稲田大学教授) 教養講座	B 吉田 研作 (上智大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
2日 (火)	A 金谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	A 卯城 祐司 (筑波大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
	B 卯城 祐司 (筑波大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	B 金谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
3日 (水)	A ティモシー ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	A 長澤 邦紘 (茨城大学助教授) 新しい言語活動の理論と実践
	B 長澤 邦紘 (茨城大学助教授) 新しい言語活動の理論と実践	B ティモシー ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
4日 (木)	A 佐野 正之 (横浜国立大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	A ヒュー オリファント (お茶の水女子大学外国人教師) 教養講座
	B ヒュー オリファント (お茶の水女子大学外国人教師) 教養講座	B 佐野 正之 (横浜国立大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
5日 (金)	A 佐野 正之 (横浜国立大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	A ジェームズ R. バワーズ (明治大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
	B ジェームズ R. バワーズ (明治大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	B 佐野 正之 (横浜国立大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
6日 (土)	自主研修	自主研修
7日 (日)	自主研修	自主研修

第3週

	午前 (9:30~12:30)	午後 (13:30~16:30)
	講師・内容	講師・内容
8日 (月)	A 吉田 研作 (上智大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	A 高梨 庸雄 (京都ノートルダム女子大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
	B 高梨 庸雄 (京都ノートルダム女子大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	B 吉田 研作 (上智大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
9日 (火)	A 高梨 庸雄 (京都ノートルダム女子大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	A 富田 祐一 (大東文化大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
	A 富田 祐一 (大東文化大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	B 高梨 庸雄 (京都ノートルダム女子大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
10日 (水)	A ティモシー ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	A TOEFL-ITP
	B TOEFL-ITP	B ティモシー ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
11日 (木)	A 加納 幹雄 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践	A 金谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
	B 金谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	B 加納 幹雄 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践
12日 (金)	閉 講 式	

I 研修概要

研 修 名	英語教育指導者講座（第4ブロック）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 (趣旨)	都道府県教育委員会との連携・協力の下、中学校及び高等学校における英語指導上の諸問題に関する専門的な講義・演習等を通して、英語担当の指導主事及び指導的立場を担う教員の指導力の向上、特に、英語を聞き話すことを指導する力を育成し、中学校及び高等学校における英語教育の改善・充実に資する。		
対 象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し、英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。		
開催期日	平成14年 9月 2日(月) ～ 平成14年 9月20日(金)	19日間	
参加人数	計画人数：100人	受講者数：36人	(参加率)：36.0%
開催場所	独立行政法人 教員研修センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	11人	31.4%	23人	65.7%	0人	0.0%	1人	2.9%

2. 研修内容に関する主な意見

○全般的に非常に有効な講義内容のものが多く、参考に成りました。やはり、持ち帰り、授業に導入するのが目的なら、体験は大切です。今回は、特に言語活動を中心に体験出来た講義は印象に残っています。 ○実践的で素晴らしい講義で、いろいろな教授法を紹介して充実した時間を過ごせました。 ○生徒指導で問題になる生徒に対して、どのように英語を指導していくのかその問題にも触れながら対処すべき点を含み講義が展開されれば良いかと思いました。 ○一人の講師の方が、少なくとも2回講義された方が効果的だったのではと思う。 ○anthony damko先生や松本先生をはじめ、その道の権威の方々の講義を直接受けることができたことに感謝しています。書物を読んだだけでは得られない重要なことを学びました。 ○模擬授業の計画のために話し合いをしているときに、これまで学んだいろいろなskillや考え方などが出てきて、自然と復習していることも興味深く思いました。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講 義 日 程(第4ブロック)

第1週

	講 師 ・ 内 容	
	午前(9:30~12:30)	午前(13:30~16:30)
2日 (月)		開 講 式
3日 (月)	1 加納 幹雄 (文部科学省教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践 「日本の英語教育の目指すところ」	1 北原 延晃 (東京都狛江市立狛江第一中学校) 海外研修報告
	2 北原 延晃 (東京都狛江市立狛江第一中学校) 海外研修報告	2 加納 幹雄 (文部科学省教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践 「日本の英語教育の目指すところ」
4日(水)	1 Kenneth Sagawa (日米会話学院専任講師) 新しい言語活動の理論と実践 「ディスカッション指導の工夫」	1 小菅 和也 (拓殖大学国際開発学部助教授) 新しい指導と評価の理論と実践 「スピーキング活動の導入と展開」
	2 小菅 和也 (拓殖大学国際開発学部助教授) 新しい指導と評価の理論と実践 「スピーキング活動の導入と展開」	2 Kenneth Sagawa (日米会話学院専任講師) 新しい言語活動の理論と実践 「ディスカッション指導の工夫」
5日 (木)	1 金谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践 「英語のInputとIntakeを増やす工夫」その1	1 松本 茂 (東海大学教育研究所教授) 新しい言語活動の理論と実践 「ディベートの導入と展開」その1
	2 松本 茂 (東海大学教育研究所教授) 新しい言語活動の理論と実践 「ディベートの導入と展開」その1	2 金谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践 「英語のInputとIntakeを増やす工夫」その1
6日 (金) 中高わけ	高 Anthony Demko (日米会話学院専任講師) 新しい言語活動の理論と実践 「スピーキングの基礎」	高 Claudia Peretti (モデルランゲージスタジオ副代表) 新しい指導と評価の理論と実践 「コミュニケーション活動の基礎と展開」
	中 Claudia Peretti (モデルランゲージスタジオ副代表) 新しい指導と評価の理論と実践 「コミュニケーション活動の基礎と展開」	中 Anthony Demko (日米会話学院専任講師) 新しい言語活動の理論と実践 「スピーキングの基礎」
7日 (土)	自 主 研 修	自 主 研 修
8日 (日)	自 主 研 修	自 主 研 修

講 義 日 程(第4ブロック)

第2週

	講 師 ・ 内 容	
	午前(9:30~12:30)	午前(13:30~16:30)
9日 (月)	1 朝尾 幸次郎 (東海大学英語文科コミュニケーション学科教授) パソコンを活用した英語指導の演習	1 James Bowers (明治大学商学部教授) 新しい言語活動の理論と実践 「コミュニケーション活動中心の授業への転換」
	2 James Bowers (明治大学商学部教授) 新しい言語活動の理論と実践 「コミュニケーション活動中心の授業への転換」	2 朝尾 幸次郎 (東海大学英語文科コミュニケーション学科教授) パソコンを活用した英語指導の演習
10日 (火)	2 James Bowers (明治大学商学部教授) 新しい言語活動の理論と実践 「コミュニケーション活動中心の授業への転換」	2 朝尾 幸次郎 (東海大学英語文科コミュニケーション学科教授) パソコンを活用した英語指導の演習
	1 朝尾 幸次郎 (東海大学英語文科コミュニケーション学科教授) パソコンを活用した英語指導の演習	1 James Bowers (明治大学商学部教授) 新しい言語活動の理論と実践 「コミュニケーション活動中心の授業への転換」
11日 (水)	1 緑川 日出子 (昭和女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践 「リーディング指導の工夫改善」その1	1 古川 登美子 (新潟経営大学助教授) 新しい指導と評価の理論と実践 「英語学習の動機付け」
	2 古川 登美子 (新潟経営大学助教授) 新しい指導と評価の理論と実践 「英語学習の動機付け」	2 緑川 日出子 (昭和女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践 「リーディング指導の工夫改善」その1
12日 (木)	2 松本 茂 (東海大学教育研究所教授) 新しい言語活動の理論と実践 「ディベートの導入と展開」その2	2 緑川 日出子 (昭和女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践 「リーディング指導の工夫改善」その2
	1 緑川 日出子 (昭和女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践 「リーディング指導の工夫改善」その2	1 松本 茂 (東海大学教育研究所教授) 新しい言語活動の理論と実践 「ディベートの導入と展開」その2
13日 (金)	1 Jeffrey Miller (白鷗大学経営学部助教授) 新しい言語活動の理論と実践 「スピーキングの基礎」	1 Anthony Newell (早稲田大学政治経済学部教授) 新しい言語活動の理論と実践 「指導に活かす音声学の基礎」
	2 Anthony Newell (早稲田大学政治経済学部教授) 新しい言語活動の理論と実践 「指導に活かす音声学の基礎」	2 Jeffrey Miller (白鷗大学経営学部助教授) 新しい言語活動の理論と実践 「スピーキングの基礎」
14日 (土)	自 主 研 修	自 主 研 修
15日 (日)	自 主 研 修	自 主 研 修

講 義 日 程(第4ブロック)

第3週

	講 師 ・ 内 容	
	午前(9:30~12:30)	午前(13:30~16:30)
16日 (月)	自 主 研 修	自 主 研 修
17日 (火) 中高わけ	中 佐野 正之 (横浜国立大学教育人間科学部) 新しい指導と評価の理論と実践 「アクションリサーチによる授業改善の方策」	高 金谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践 「英語のInputとIntakeを増やす工夫」その2
	高 金谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践 「英語のInputとIntakeを増やす工夫」その2	中 佐野 正之 (横浜国立大学教育人間科学部) 新しい指導と評価の理論と実践 「アクションリサーチによる授業改善の方策」
18日 (水)	A + B 松本 茂 (東海大学教育研究所教授) 新しい言語活動の理論と実践 「ディベートの導入と展開」その3	A + B 松本 茂 (東海大学教育研究所教授) 新しい言語活動の理論と実践 「ディベートの導入と展開」その3
19日 (木) 中高わけ	中 平田 和人 (文部科学省教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践 「評価の基本的な考え方と実践上の工夫」	中 模擬授業演習 「課題解決に向けた授業づくり」
	高 模擬授業演習 「課題解決に向けた授業づくり」	高 平田 和人 (文部科学省教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践 「評価の基本的な考え方と実践上の工夫」
20日 (金)	TOEFL-ITP 閉 講 式	

I 研修概要

研 修 名	英語教育指導者講座（第5ブロック）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 (趣旨)	都道府県教育委員会との連携・協力の下、中学校及び高等学校における英語指導上の諸問題に関する専門的な講義・演習等を通して、英語担当の指導主事及び指導的立場を担う教員の指導力の向上、特に、英語を聞き話すことを指導する力を育成し、中学校及び高等学校における英語教育の改善・充実に資する。		
対 象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し、英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。		
開催期日	平成15年 2月12日（水）～平成15年 2月28日（金）	17日間	
参加人数	計画人数：60人	受講者数：59人	（参加率）：98.3%
開催場所	独立行政法人 教員研修センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	29人	50.0%	23人	39.7%	0人	0.0%	6人	10.3%

2. 研修内容に関する主な意見

○私達の英語力を高めるためにとても有意義であった。 ○日本のどの大学でもこのような講座が受けられるところはない。一流の講師の先生方に感動した。 ○コミュニケーションの能力向上が、文科省の進めている方向なのだと理解するが、週3時間で効果的にできるとは疑問に思う。 ○デモンストレーションは決められたペアで行うのは良いが、その後、全員がペア、グループに分かれて実践する場面を設定していただけると良かった。 ○コンピュータの授業は、知らないことを沢山教えていただき、ついて行くのが大変でした。アシストしてくれる人がもう1人教室にいと良かった。 ○つくばフォーマットの参加型の研修が新鮮で学ぶことが多かった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講義日程

第5ブロック

第1週

	午前 (9:30~12:30)	午後 (13:30~16:30)
	講師・内容	講師・内容
[2月]	10:30~11:00 受付	13:30~ 開講式
12日	11:00~ オリエンテーション	14:00~ 班別集合写真撮影
(水)	11:30~ 作成資料交換準備	14:30~ 作成資料・講義資料配付
13日	A 加納 幹雄 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践	A 小松 達也 (明海大学教授) 特別講座
(木)	B 小松 達也 (明海大学教授) 特別講座	B 加納 幹雄 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践
14日	A 朝尾 幸次郎 (東海大学教授) コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習	A 松本 茂 (東海大学教育研究所教授) 新しい言語活動の理論と実践
(金)	B 松本 茂 (東海大学教育研究所教授) 新しい言語活動の理論と実践	B 朝尾 幸次郎 (東海大学教授) コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習
15日	自主研修	自主研修
(土)		
16日	自主研修	自主研修
(日)		

(注) 海外研修報告 2月13日(木) 午後(18:00~19:30)

模擬授業研修 2月14日(金) 午前(8:40~9:20)

	午前 (9:30~12:30)	午後 (13:30~16:30)
	講師・内容	講師・内容
17日 (月)	A 新里 眞男 (富山大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践 ----- B 松本 茂 (東海大学教育研究所教授) 新しい言語活動の理論と実践	A 松本 茂 (東海大学教育研究所教授) 新しい言語活動の理論と実践 ----- B 新里 眞男 (富山大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
18日 (火)	A 新里 眞男 (富山大学教授) 模擬授業演習 ----- B 金谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	A 金谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践 ----- B 新里 眞男 (富山大学教授) 模擬授業演習
19日 (水)	A ティモシー ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践 ----- B 朝尾 幸次郎 (東海大学教授) コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習	A 朝尾 幸次郎 (東海大学教授) コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習 ----- B ティモシー ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
20日 (木)	A 金谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践 ----- B ティモシー ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	A ティモシー ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践 ----- B 金谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
21日 (金)	A ジョリー 佐々木 幸子 (愛知淑徳大学教授) 新しい言語活動の理論と実践 ----- B ティモシー ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	A ティモシー ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践 ----- B ジョリー 佐々木 幸子 (愛知淑徳大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
22日 (土)	自主研修	自主研修
23日 (日)	自主研修	自主研修

(注) 模擬授業研修 2月19日(水) 午前(8:40~9:20)

海外研修報告 2月20日(木) 午後(18:00~19:30)

模擬授業研修 2月21日(金) 午前(8:40~9:20)

第5ブロック

第3週

	午前 (9:30~12:30)	午後 (13:30~16:30)
	講師・内容	講師・内容
24日 (月)	A ジェームズ R. パワーズ (明治大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	A 吉田 研作 (上智大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
	B 吉田 研作 (上智大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	B ジェームズ R. パワーズ (明治大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
25日 (火)	A ジェームズ R. パワーズ (明治大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	A 吉田 研作 (上智大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
	B 吉田 研作 (上智大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	B ジェームズ R. パワーズ (明治大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
26日 (水)	A B 松本 茂 (東海大学教育研究所教授) 新しい言語活動の理論と実践	A B ヒュー オリファント (お茶の水女子大学外国人教師) 特別講座
27日 (木)	A 平田 和人 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践	A 東後 勝明 (早稲田大学教授) 教養講座
	B 東後 勝明 (早稲田大学教授) 教養講座	B 平田 和人 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践
28日 (金)	TOEFL-ITP 閉講式	

(注) 模擬授業研修 2月24日(月) 午前(8:40~9:20)

I 研修概要

研 修 名	英語教育指導者講座（第6ブロック）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	都道府県教育委員会との連携・協力の下、中学校及び高等学校における英語指導上の諸問題に関する専門的な講義・演習等を通して、英語担当の指導主事及び指導的立場を担う教員の指導力の向上、特に、英語を聞き話すことを指導する力を育成し、中学校及び高等学校における英語教育の改善・充実に資する。		
対 象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し、英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。		
開催期日	平成14年 8月19日（月）～平成14年 9月 3日（火）	16日間	
参加人数	計画人数	80人	受講者数 66人（参加率） 82.5%
開催場所	平安会館（京都府）		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	21人	31.8%	42人	63.6%	0人	0.0%	3人	4.6%

2. 研修内容に関する主な意見

○このような研修は広く募集してもらい、又、回数も増やし、より多くの先生にこのような機会が与えられたらよいと思う。 ○タイトルを見ると”新しい言語活動の理論と実際”が多かったが、講義内容は各々違うものであったので、その講師の先生が独自に行っている講義内容にリンクしたタイトルをつけて欲しかった。 ○指導法についての講義、発音の基礎や通訳の方法、自分の英語に役立つ講義と構成もゆたかで良かった。 ○講義内容はどれも興味深く、新しい発想と見方を自分の英語教育の実践に対してもたらししてくれたので、非常に有意義でした。 ○教養講座の内容が、全体的に講義の題目と内容に関連の無いものが多かった。 ○「新しい指導と評価の理論と実践」という名目の元に多角的講座内容が組まれており、多くの事を学ぶ事が出来た。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講 義 日 程 (第6ブロック)

第1週

	午前	午後	備考
19日 (月)	(9:00~9:30) 受 付 (2階「嵯峨」) (9:30~10:30) 日程説明等 (1階「平安」) (10:00~10:30) 開 講 式 (1階「平安」) (10:30~11:30) 写 真 撮 影 (1階「平安」) リ-ダ-会議 (1階「平安」) 資料収集等 (2階「嵯峨」)	(12:30~13:00) オリエンテーション (1階「平安」) (13:00~16:00) TOEFL - ITP (1階「平安」) (16:00~16:30) グループ・ミーティング ・ A 1 (2階「嵯峨」) ・ A 2 (1階「平安」) ・ B 1 (2階「嵯峨」) ・ B 2 (1階「平安」)	(17:30~19:30) 情報交換会 (2階「白河」) (~21:00) 授業研究等 (「嵯峨」)
	午前 (9:30~12:30)	午後 (13:30~16:30)	備考
20日 (火)	A 加納 幹雄 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践 ----- B ロバート ファウザー (京都大学助教授) 新しい言語活動の理論と実践	A ロバート ファウザー (京都大学助教授) 新しい言語活動の理論と実践 ----- B 加納 幹雄 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践	(16:40~17:30) グループ・ミーティング 模擬授業研究 (A2・B2「嵯峨」) (A1・B1「羽衣」) ※資料B
21日 (水)	A 佐野 正之 (横浜国立大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践 ----- B ティモシー ライト (大妻女子大学教授) ※資料A 新しい言語活動の理論と実践	A ティモシー ライト (大妻女子大学教授) ※資料A 新しい言語活動の理論と実践 ----- B 佐野 正之 (横浜国立大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	(~21:00) 授業研究等 (「嵯峨」、「羽衣」)
22日 (木)	A 佐野 正之 (横浜国立大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践 ----- B ティモシー ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	A ティモシー ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践 ----- B 佐野 正之 (横浜国立大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	
23日 (金)	A ヒュー オリファント (お茶の水大学講師) 教養講座 ----- B ティモシー ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	A ティモシー ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践 ----- B ヒュー オリファント (お茶の水大学講師) 教養講座	※午後の講義終了 後、そ会場で グループ・ミーティング
24日 (土)	自主研修		
25日 (日)			

	午前 (9:30~12:30)	午後 (13:30~16:30)	備考
26日 (月)	A ジェームズ R. パワーズ (明治大学教授) 新しい言語活動の理論と実践 ----- B 金谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	A 金谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践 ----- B ジェームズ R. パワーズ (明治大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	(16:40~17:30) グループ・ミーティング 模擬授業研究 (A2・B2「聴解」) (A1・B1「羽衣」) ※資料B
27日 (火)	A ジェームズ R. パワーズ (明治大学教授) 新しい言語活動の理論と実践 ----- B トーマス ロブ (京都産業大学教授) コンピュータ等の教育機器を使った英語指導法演習	A トーマス ロブ (京都産業大学教授) コンピュータ等の教育機器を使った英語指導法演習 ----- B ジェームズ R. パワーズ (明治大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	(~21:00) 授業研究等 (「聴解」、「羽衣」)
28日 (水)	A 吉田 研作 (上智大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践 ----- B 伊東 治巳 (鳴門教育大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	A 伊東 治巳 (鳴門教育大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践 ----- B 吉田 研作 (上智大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	
29日 (木)	A 静 哲人 (関西大学助教授) 新しい指導と評価の理論と実践 ----- B ウェザロール ウィリアム (ジャーナリスト) 新しい言語活動の理論と実践	A ウェザロール ウィリアム (ジャーナリスト) 新しい言語活動の理論と実践 ----- B 静 哲人 (関西大学助教授) 新しい指導と評価の理論と実践	
30日 (金)	A 静 哲人 (関西大学助教授) 新しい指導と評価の理論と実践 ----- B ウェザロール ウィリアム (ジャーナリスト) 新しい言語活動の理論と実践	A ウェザロール ウィリアム (ジャーナリスト) 新しい言語活動の理論と実践 ----- B 静 哲人 (関西大学助教授) 新しい指導と評価の理論と実践	※午後の講義終了 後、その会場で グループ・ミーティング
31日 (土)	自主研修		
9月1日 (日)			

第3週

	午前（9:30～12:30）	午後（13:30～16:30）	備考
2 日 (月)	A 平田 和人 (文部科学省教育課程課教科調査官) ※資料C 新しい指導と評価の理論と実践	A 小松 達也 (明海大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	※午後の講義終了 後、その会場で グループ・ミーティング (17:30～19:30)
	B 小松 達也 (明海大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	B 平田 和人 (文部科学省教育課程課教科調査官) ※資料C 新しい指導と評価の理論と実践	情報交換会 (2 階「白河」) (～21:00)
			授業研究等 (「雄飛」、「羽衣」)

	午前 (9:30~12:30)	午後	備考
3 日 (火)	伊藤 文昭 (京都府総合教育センター研究主事兼指導主事) 海外研修報告 (2 階「白河」)	(13:30~14:00) 講 評 等 (2 階「白河」) (14:00~14:30) 閉 講 式 (2 階「白河」) (14:30~15:00) 事 務 連 絡 (2 階「白河」)	※講義開始までに チェックアウト (宿泊者のみ)

I 研修概要

研 修 名	英語教育指導者講座（第7ブロック）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	都道府県教育委員会との連携・協力の下、中学校及び高等学校における英語指導上の諸問題に関する専門的な講義・演習等を通して、英語担当の指導主事及び指導的立場を担う教員の指導力の向上、特に、英語を聞き話すことを指導する力を育成し、中学校及び高等学校における英語教育の改善・充実に資する。		
対 象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し、英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。		
開催期日	平成14年 8月19日（月）～平成14年 9月 6日（金）	19日間	
参加人数	計画人数：44人	受講者数：44人	（参加率）：100.0%
開催場所	山口県婦人教育文化会館		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	21人	47.7%	22人	50.0%	0人	0.0%	1人	2.3%

2. 研修内容に関する主な意見

- 多くのオトリティの方々から貴重な講義をいただき、大変勉強になった。
- 評価のことで質問の時間がなく、もう少し評価などについて詳細に話して頂けるとの期待があったが残念だった。
- 事前に内容がもう少しわかっていると、あらかじめ準備学習ができると思う。
- 講師の先生が素晴らしく、内容、人柄、英語力、講義の進め方等大変感銘を受けた。
- 中学校のAB合同での討論、高校合同での討論が無かったのは残念。
- 実践を取り入れた内容が豊富で良かった
- 中学校の先生方と一緒に講義することにより中学校の様子がわかり参考になった。
- 教育理論に関する講義は、やや難しく理解に苦しんだ。
- 概念に関するだけの講義は、帰県してから他の教員へ伝達するのが難しい。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講義日程(第7ブロック)

	午前(9:30~12:30)		会場	午後(13:30~16:30)		会場
	班	講師(所属)		班	講師(所属)	
8月19日 (月)				開講式(13:30~)/写真撮影 グループミーティング		大ホール
8月20日 (火)	A	平田和人(文部科学省) 新しい指導と評価の理論と実践	第4研修室	A	静 哲人(関西大学) 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室
	B	静 哲人(関西大学) 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室	B	平田和人(文部科学省) 新しい指導と評価の理論と実践	第4研修室
8月21日 (水)	A	TOEFL-ITPテスト	第4研修室	A	白井宏明(岩国高等学校) 宮村和幸(大津高等学校)	第4研修室
	B			清木伸幸(華陵高等学校) 海外研修報告		
8月22日 (木)	A	板倉武子(福岡女学院大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第1研修室	A	小松達也(明海大学) 教養講座	第4研修室
	B	小松達也(明海大学) 教養講座	第4研修室	B	板倉武子(福岡女学院大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第1研修室
8月23日 (金)	A	板倉武子(福岡女学院大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第1研修室	A	Susan Davis(梅光学院大学) 新しい言語活動の理論と実践	第4研修室
	B	Susan Davis(梅光学院大学) 新しい言語活動の理論と実践	第4研修室	B	板倉武子(福岡女学院大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第1研修室
8月24日 (土)	自主研修					
8月25日 (日)	自主研修					
8月26日 (月)	A	吉田研作(上智大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第1研修室	A	佐野正之(横浜国立大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第4研修室
	B	佐野正之(横浜国立大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第4研修室	B	吉田研作(上智大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第1研修室
8月27日 (火)	A	吉田研作(上智大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第1研修室	A	佐野正之(横浜国立大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第4研修室
	B	佐野正之(横浜国立大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第4研修室	B	吉田研作(上智大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第1研修室
8月28日 (水)	A	柳瀬陽介(広島大学) 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室	A	Timothy Wright(大妻女子大学) 新しい言語活動の理論と実践	第4研修室
	B	Timothy Wright(大妻女子大学) 新しい言語活動の理論と実践	第4研修室	B	柳瀬陽介(広島大学) 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室
8月29日 (木)	A	柳瀬陽介(広島大学) 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室	A	Timothy Wright(大妻女子大学) 新しい言語活動の理論と実践	第4研修室
	B	Timothy Wright(大妻女子大学) 新しい言語活動の理論と実践	第4研修室	B	柳瀬陽介(広島大学) 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室

平成14年度英語教育指導者講座(第7ブロック) 講義日程

	午前(9:30~12:30)		会場	午後(13:30~16:30)		会場
	班	講師(所属)		班	講師(所属)	
8月30日 (金)	A	伊東治己(鳴門教育大学) 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室	A	Timothy Wright(大妻女子大学) 新しい言語活動の理論と実践	第4研修室
	B	Timothy Wright(大妻女子大学) 新しい言語活動の理論と実践	第4研修室	B	伊東治己(鳴門教育大学) 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室
8月31日 (土)	自主研修					
9月1日 (日)	自主研修					
9月2日 (月)	A	金谷憲(東京学芸大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第1研修室	A	James Bowers(明治大学) 新しい言語活動の理論と実践	第4研修室
	B	James Bowers(明治大学) 新しい言語活動の理論と実践	第4研修室	B	金谷憲(東京学芸大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第1研修室
9月3日 (火)	A	金谷憲(東京学芸大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第1研修室	A	James Bowers(明治大学) 新しい言語活動の理論と実践	第4研修室
	B	James Bowers(明治大学) 新しい言語活動の理論と実践	第4研修室	B	金谷憲(東京学芸大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第1研修室
9月4日 (水)	A	田邊祐司(専修大学) 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室	A	加納幹雄(文部科学省) 新しい指導と評価の理論と実践	第4研修室
	B	加納幹雄(文部科学省) 新しい指導と評価の理論と実践	第4研修室	B	田邊祐司(専修大学) 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室
9月5日 (木)	A	田邊祐司(専修大学) 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室	A	Colin Donald(梅光学院大学) 教養講座	第4研修室
	B	Colin Donald(梅光学院大学) 教養講座	第4研修室	B	田邊祐司(専修大学) 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室
9月6日 (金)	閉講式		大ホール			

I 研修概要

研 修 名	英語教育指導者講座（第8ブロック）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	都道府県教育委員会との連携・協力の下、中学校及び高等学校における英語指導上の諸問題に関する専門的な講義・演習等を通して、英語担当の指導主事及び指導的立場を担う教員の指導力の向上、特に、英語を聞き話すことを指導する力を育成し、中学校及び高等学校における英語教育の改善・充実に資する。		
対 象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し、英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。		
開催期日	平成14年 8月19日（月） ～ 平成14年 9月 6日（金）	19日間	
参加人数	計画人数	40人	受講者数 36人 （参加率） 90.0%
開催場所	ホテル千秋閣，眉山会館（徳島市）		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	20人	55.6%	16人	44.4%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

○多くの著名な講師の話を拝聴でき、大変有り難く思う。

○レベルが高く、領域的にもバランスがとれていて非常に良い。

○実体験させてくれるものが多く、又、アレンジすれば授業に応用できるものが多くあった。

○理論だけでなく、実践方法についても各講座でバリエーションに富んでおり、現場ですぐ使える教材の量には驚く。

○演習によって講義内容の理解を深めることが出来た。

○ディスカッションの時間が多かった事も大切なことで、中高の情報交換をすることができ、今後の英語教育の取り組みにも大きな影響を与えと思う。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講 義 日 程 (第8ブロック)

第1週

	午前 (9:30~12:30)	午後 (13:30~16:30)
	講師・内容	講師・内容
[8月] 19日 (月)		開 講 式
20日 (火)	A ジェームズ R. パワーズ (明治大学教授) 新しい言語活動の理論と実践 B 模擬授業・意見交換	A 模擬授業・意見交換 B ジェームズ R. パワーズ (明治大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
21日 (水)	A ジェームズ R. パワーズ (明治大学教授) 新しい言語活動の理論と実践 B 6か月海外研修報告 (平成13年度参加者2名)	A 6か月海外研修報告 (平成13年度参加者2名) B ジェームズ R. パワーズ (明治大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
22日 (木)	A 吉田 研作 (上智大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践 B 東後 勝明 (早稲田大学教授) 教養講座	A 東後 勝明 (早稲田大学教授) 教養講座 B 吉田 研作 (上智大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
23日 (金)	A 吉田 研作 (上智大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践 B 加納 幹雄 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践	A 加納 幹雄 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践 B 吉田 研作 (上智大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
24日 (土)	自主研修	自主研修
25日 (日)	自主研修	自主研修

第2週

	午前 (9:30~12:30)	午後 (13:30~16:30)
	講師・内容	講師・内容
26日 (月)	A 朝尾 幸次郎 (東海大学教授) コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習	A 伊東 治己 (鳴門教育大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
	B 伊東 治己 (鳴門教育大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	B 朝尾 幸次郎 (東海大学教授) コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習
27日 (火)	A 朝尾 幸次郎 (東海大学教授) コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習	A 松本 茂 (東海大学教育研究所教授) 新しい言語活動の理論と実践
	B 松本 茂 (東海大学教育研究所教授) 新しい言語活動の理論と実践	B 朝尾 幸次郎 (東海大学教授) コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習
28日 (水)	A 金谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	A 松本 茂 (東海大学教育研究所教授) 新しい言語活動の理論と実践
	B 松本 茂 (東海大学教育研究所教授) 新しい言語活動の理論と実践	B 金谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
29日 (木)	A 金谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	A 小松 達也 (明海大学教授) 特別講座
	B 小松 達也 (明海大学教授) 特別講座	B 金谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
30日 (金)	A 佐野 正之 (横浜国立大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	A ヒュー オリファント (お茶の水女子大学外国人教師) 教養講座
	B ヒュー オリファント (お茶の水女子大学外国人教師) 教養講座	B 佐野 正之 (横浜国立大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
31日 (土)	自主研修	自主研修
[9月] 1日 (日)	自主研修	自主研修

第3週

	午前 (9:30~12:30)	午後 (13:30~16:30)
	講師・内容	講師・内容
2日 (月)	A 今井 裕之 (兵庫教育大学助教授) 新しい指導と評価の理論と実践 ----- B キップ ケイツ (鳥取大学外国人講師) 特別講座	A キップ ケイツ (鳥取大学外国人講師) 特別講座 ----- B 今井 裕之 (兵庫教育大学助教授) 新しい指導と評価の理論と実践
3日 (火)	A ティモシー ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践 ----- B 竹中 龍範 (香川大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	A 竹中 龍範 (香川大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践 ----- B ティモシー ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
4日 (水)	A ティモシー ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践 ----- B 中村 純作 (徳島大学教授) 教養講座	A 中村 純作 (徳島大学教授) 教養講座 ----- B ティモシー ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
5日 (木)	A ティモシー ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践 ----- B 平田 和人 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践	A 平田 和人 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践 ----- B ティモシー ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
6日 (金)	TOEFL ITP (Institutional Testing Program) 閉 講 式	

I 研修概要

研 修 名	英語教育指導者講座（第9ブロック）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	都道府県教育委員会との連携・協力の下，中学校及び高等学校における英語指導上の諸問題に関する専門的な講義・演習等を通して，英語担当の指導主事及び指導的立場を担う教員の指導力の向上，特に，英語を聞き話すことを指導する力を育成し，中学校及び高等学校における英語教育の改善・充実に資する。		
対 象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し，英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。		
開催期日	平成14年12月 2日（月） ～ 平成14年12月20日（金）	19日間	
参加人数	計画人数：60人	受講者数：50人	（参加率）：83.3%
開催場所	長崎県教育センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	25人	50.0%	24人	48.0%	0人	0.0%	1人	2.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 大学生への講義なのか，教師への講義なのか内容を疑う事もあった。生徒を相手に日々指導に悩んでいる教師が対象であることを念頭に置いた講義を望む。
- 地域に帰って報告できるような内容ではなかった。せめて質問した内容についてキチンと答えを出して欲しい。
- 大学や学会のような講義的内容より，現場の実情を考えた実用的内容の方が集中して聴くことができ分かり易かった。もちろん理論なども我々英語教師は学習しなければならないと思うが理論にとどまらず現場の授業や指導，目標などどう変化させていくか，考えていくことが大切だと思う。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講 義 日 程 (第9ブロック)

	午前 (9:30~12:30)	午後 (13:30~16:30)
	講師・内容	講師・内容
12月 2日 (月)		開 講 式
3日 (火)	A 平田 和人 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践 ----- B 吉田 研作 (上智大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	A 吉田 研作 (上智大学教授) 新しい言語活動の理論と実践 ----- B 平田 和人 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践
4日 (水)	A 佐野 正之 (横浜国立大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践 ----- B 吉田 研作 (上智大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	A 吉田 研作 (上智大学教授) 新しい言語活動の理論と実践 ----- B 佐野 正之 (横浜国立大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
5日 (木)	A 高木 信之 (熊本大学助教授) 新しい言語活動の理論と実践 ----- B 佐野 正之 (横浜国立大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	A 佐野 正之 (横浜国立大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践 ----- B 高木 信之 (熊本大学助教授) 新しい言語活動の理論と実践
6日 (金)	A 高木 信之 (熊本大学助教授) 新しい言語活動の理論と実践 ----- B ポーラ・マッカンドルー (長崎シーボルト大学外国人講師) 新しい言語活動の理論と実践	A ポーラ・マッカンドルー (長崎シーボルト大学外国人講師) 新しい言語活動の理論と実践 ----- B 高木 信之 (熊本大学助教授) 新しい言語活動の理論と実践
7日 (土)	自 主 研 修	自 主 研 修
8日 (日)	自 主 研 修	自 主 研 修

	午前 (9:30~12:30)	午後 (13:30~16:30)
	講師・内容	講師・内容
9日 (月)	A 東後 勝明 (早稲田大学教授) 特別講義	A 金谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
	B 金谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	B 東後 勝明 (早稲田大学教授) 特別講義
10日 (火)	A サラ・ホルツバーレイン (長崎純心大学助教授) 新しい言語活動の理論と実践	A 金谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
	B 金谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	B サラ・ホルツバーレイン (長崎純心大学助教授) 新しい言語活動の理論と実践
11日 (水)	A TOEFL-ITP	A 前田 由美子 (西陵高等学校教諭) 海外研修受講者講義
	B TOEFL-ITP	B 田口 良子 (西有家町立西有家中学校教諭) 海外研修受講者講義
12日 (木)	A ジェームズ・パワーズ (明治大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	A テリー・ラスカウスキー (熊本大学外国人教師) 新しい言語活動の理論と実践
	B テリー・ラスカウスキー (熊本大学外国人教師) 新しい言語活動の理論と実践	B ジェームズ・パワーズ (明治大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
13日 (金)	A ジェームズ・パワーズ (明治大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	A テリー・ラスカウスキー (熊本大学外国人教師) 新しい言語活動の理論と実践
	B テリー・ラスカウスキー (熊本大学外国人教師) 新しい言語活動の理論と実践	B ジェームズ・パワーズ (明治大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
14日 (土)	自 主 研 修	自 主 研 修
15日 (日)	自 主 研 修	自 主 研 修

	午前 (9:30~12:30)	午後 (13:30~16:30)
	講師・内容	講師・内容
16日 (月)	A 松本 茂 (東海大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	A ティモシー・ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
	B ティモシー・ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	B 松本 茂 (東海大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
17日 (火)	A 松本 茂 (東海大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	A 高木 信之 (熊本大学助教授) 新しい指導と評価の理論と実践
	B 高木 信之 (熊本大学助教授) 新しい指導と評価の理論と実践	B 松本 茂 (東海大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
18日 (水)	A 大坪 喜子 (長崎大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	A ティモシー・ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
	B ティモシー・ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	B 大坪 喜子 (長崎大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
19日 (木)	A 加納 幹雄 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践	A ティモシー・ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
	B ティモシー・ライト (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	B 加納 幹雄 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践
20日 (金)	閉 講 式	

I 研修概要

研 修 名	英語教育指導者講座（第10ブロック）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	都道府県教育委員会との連携・協力の下、中学校及び高等学校における英語指導上の諸問題に関する専門的な講義・演習等を通して、英語担当の指導主事及び指導的立場を担う教員の指導力の向上、特に、英語を聞き話すことを指導する力を育成し、中学校及び高等学校における英語教育の改善・充実に資する。		
対 象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し、英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。		
開催期日	平成15年 1月27日（月）～平成15年 2月14日（金）	19日間	
参加人数	計画人数：40人	受講者数：33人	（参加率）：82.5%
開催場所	沖縄県立総合教育センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	14人	46.7%	14人	46.7%	0人	0.0%	2人	6.6%

2. 研修内容に関する主な意見

- 学校に戻ってからなるべく多く英語を使うように心掛けたい。
- 英語をもっと勉強したいという気持ちが強くなった。
- 研修で学んだことを授業に生かしたい。
- 理論、実践的な内容が織り込まれていて良かった。
- 言語習得とはこういうものだということを改めて教えて頂いた。
- 受講者との意見交換により、充実した研修内容になった。
- 学校現場で即実践できる内容で、大変勉強になった。
- 難しい理論でも、具体例を挙げて理解させる手法はとても感心し、見習うべきだと思った。
- 色々なアクティビティーを通して、自分の授業が余り変化がないことを反省した。
- インターネットの講義は、英語教育の講座の中でしか学習できないような内容にしてほしかった。
- ボランティアで行った授業研究は、研修カリキュラムに入れて、もっと深く話し合えたらなお良かった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講 義 日 程

第 1 週

	午前 (9:30~12:30)		午後 (13:30~16:30)	
	講師・内容	部屋	講師・内容	部屋
1 月 27 日 (月)	開 講 式	講義室	TOEFL-ITP	
28 日 (火)	加 納 幹 雄 A (文部科学省教育課程教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践		大 城 賢 (沖縄国際大学助教授) 新しい言語活動の理論と実践	
	大 城 賢 B (沖縄国際大学助教授) 新しい言語活動の理論と実践		加 納 幹 雄 (文部科学省教育課程教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践	
29 日 (水)	吉 田 研 作 A (上智大学教授) コミュニケーション・アプローチ		小 松 達 也 (明海大学教授) 「特別講座」通訳	
	小 松 達 也 B (明海大学教授) 「特別講座」通訳		吉 田 研 作 (上智大学教授) コミュニケーション・アプローチ	
30 日 (木)	吉 田 研 作 A (上智大学教授) コミュニケーション・アプローチ		佐 野 正 之 (横浜国立大学教授) 教師の指導力を伸ばすアクション・リサーチ	
	佐 野 正 之 B (横浜国立大学教授) 教師の指導力を伸ばすアクション・リサーチ		吉 田 研 作 (上智大学教授) コミュニケーション・アプローチ	
31 日 (金)	佐 野 正 之 A (横浜国立大学教授) 教師の指導力を伸ばすアクション・リサーチ		緑 川 日出子 (昭和女子大学教授) 読みの教材を使った授業づくり	
	緑 川 日出子 B (昭和女子大学教授) 読みの教材を使った授業づくり		佐 野 正 之 (横浜国立大学教授) 教師の指導力を伸ばすアクション・リサーチ	
2 月 1 日 (土)	自 主 研 修			
2 日 (日)	自 主 研 修			

第2週

	午前（9：30～12：30）		午後（13：30～16：30）	
	講師・内容	部屋	講師・内容	部屋
3日 (月)	A 金 谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践		ヒュー オリファント (お茶の水女子大学外国人教師) 教養講座	
	B ヒュー オリファント (お茶の水女子大学外国人教師) 教養講座		金 谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	
4日 (火)	A 金 谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践		ヒュー オリファント (お茶の水女子大学外国人教師) 教養講座	
	ヒュー オリファント B (お茶の水女子大学外国人教師) 教養講座		金 谷 憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	
5日 (水)	A 山 内 進 (琉球大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践		兼 本 円 (琉球大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	
	兼 本 円 B (琉球大学教授) 新しい言語活動の理論と実践		山 内 進 (琉球大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	
6日 (木)	松 本 茂 (東海大学教育研究所教授) 新しい言語活動の理論と実践		山 内 進 (琉球大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	
	山 内 進 (琉球大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践		松 本 茂 (東海大学教育研究所教授) 新しい言語活動の理論と実践	
7日 (金)	松 本 茂 (東海大学教育研究所教授) 新しい言語活動の理論と実践		ティモシー ライト (大妻女子大学教授) コミュニケーションプラクティス	
	ティモシー ライト (大妻女子大学教授) コミュニケーションプラクティス		松 本 茂 (東海大学教育研究所教授) 新しい言語活動の理論と実践	
8日 (土)	自 主 研 修			
9日 (日)	自 主 研 修			

第3週

	午前（9：30～12：30）		午後（13：30～16：30）	
	講師・内容	部屋	講師・内容	部屋
2月 10日 (月)	松原芳和（開邦高校教諭） 仲宗根勝（那覇商業高校教諭） 金城美智子（西原中学校教諭） 海外研修報告		ダグラス ドライスタット （沖縄国際大学助教授） インターネットを利用した英語教育	
	ダグラス ドライスタット （沖縄国際大学助教授） インターネットを利用した英語教育		松原芳和（開邦高校教諭） 仲宗根勝（那覇商業高校教諭） 金城美智子（西原中学校教諭） 海外研修報告	
11日 (火)	自主研修		自主研修	
12日 (水)	ティモシー ライト （大妻女子大学教授） コミュニケーションプラクティス		緑 川 日出子 （昭和女子大学教授） 読みの教材を使った授業づくり	
	緑 川 日出子 （昭和女子大学教授） 読みの教材を使った授業づくり		ティモシー ライト （大妻女子大学教授） コミュニケーションプラクティス	
13日 (木)	ティモシー ライト （大妻女子大学教授） コミュニケーションプラクティス		平 田 和 人 （文部科学省教育課程教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践	
	平 田 和 人 （文部科学省教育課程教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践		ティモシー ライト （大妻女子大学教授） コミュニケーションプラクティス	
14日 (金)	閉 講 式	講義室		

I 研修概要

研修名	外国人児童生徒等日本語指導講習会（前期）		
担当課係	研修事業第三課 語学・国立学校係		
研修目的 （趣旨）	小学校、中学校における外国人児童生徒等に対する日本語指導等に関する専門的な研修を行い、日本語指導等を担当する教員等の指導力の向上を図り、小学校及び中学校における外国人児童生徒教育の一層の充実を図る。		
対 象	小学校、中学校の教員及び教育委員会の指導主事等で、原則として外国人児童生徒等に対する日本語指導等について一定の知識と経験を有する者。		
開催期日	平成14年 7月31日（水）～平成14年 8月 2日（金）	3日間	
参加人数	計画人数	100人	受講者数 79人 （参加率） 79.0%
開催場所	ホテルフロラシオン青山（東京）		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	50人	68.5%	13人	17.8%	0人	0.0%	10人	13.7%

2. 研修内容に関する主な意見

【講習会全体】

- ・それぞれとても質の高い講義を聴くことが出来て、とても参考になった。（多数）
- ・日本語学習の大切さ、文化の違いを理解すること、指導法など理論的学習が出来た。今後に生かしていきたい。（多数）
- ・県内にも外国籍児童を受け入れている学校は沢山あると思うのに、講習会の中でも出ていたように横のつながりが無い状態。自校でも手探りの状態での指導だったので、今回様々な面からの講義が聴けて良かった。
- ・普段疑問に思っていたことの多くが、この講習会で解決、あるいはその糸口を見つけることが出来た。来年はぜひ後期の講習会に参加したい。
- ・他県の人との交流も出来た。教具作りなども紹介して欲しい。分かり易く、明日からでもすぐに役立つ話が多くないと有り難い。

【事例発表】

（小学校分科会）

- ・学校や地域によって現状に大きな違いがあるので、口頭による事例発表では分かり難い。
- ・事例発表について、もう少し具体的な指導が欲しかった。
- ・発表と直接関係なかったが、各校のレポートの課題や悩みに回答いただいてよかった。
- ・参加者の意図を察知し、話の中にさり気なく入れた先生の対応、とても助かった。今現場で何を困っているのかを取り入れた話を今後ともお願いしたい。
- ・寄せられた質問・悩みに答えるという内容のものもあり、参考になることもあった。“家庭学習”の項目で、日本語ボランティアの方々の協力を得るということだったが、そういう方がいなかったため、地域ではどのように対処すべきか疑問が残った。その場で質問の時間がなかった。
- ・自分の沢山の経験に基づいた助言、大変参考になった。出来れば質疑応答の時間が多い方が、会場の先生方の役に立つのではないかと。
- ・もっと各校の授業の取り組み方（時間割）や、取り出しの形態について情報交換したかった。
- ・初期指導が中心であったが、中期以降の事例がもう少しあればと思った。
- ・指定を受けたということもあるのか、学校全体で取り組んでおり、各機関や構内などでも協力体制が整えられていて羨ましさを感じた。現実的なものとして、学級担任などとの連携の取り方にも難しいものがあるのではないだろうか。

(中学校分科会)

- ・子供達の現状を報告し他にはたらきかけていくこと、子供が自立する為に何をしていくか等、大変参考になった。また、ゼロから出発することではなく、色々な情報を収集していけばよいとの教えも参考になった。
- ・学校によって、学習者によって指導法が千差万別。学校指導体制の確立と教員間の意志の疎通、地域等の連携の必要性を感じた。
- ・事例を2つ位にして、情報交換の時間をしっかり取って欲しい。また、会場の雰囲気は堅いので、くつろいで情報交換が出来るように配慮して欲しい。

Ⅲ 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 外国人児童生徒等日本語指導講習会 日程表

日時：平成14年7月31日(水)～8月9日(金)
場所：ホテルフロラシオン青山

【前期】

9:00	10:20	50	11:30	12:45	13:55	14:15	35	15:15	16:00	45	控室
7月31日(水)		受付	開講式	講義 「外国人児童生徒の背景と日本語指導」 東京外国語大学 横田淳子教授		講義 「文字・漢字」 東京外国語大学 酒井順子助教授					鼓(2F)
8月1日(木)	講義 「音声」 東北大学 助川泰彦助教授			講義 「言語と文化」 ・中国語 高知大学 池 純子非常勤講師 ・ポルトガル語 東京外国語大学 アソビエロ・イン非常勤講師		事例発表 指導助言者 ・小学校分科会 (社)国際日本語普及協会 関口明子部長 ・中学校分科会 愛知淑徳大学 松本一子非常勤講師					鼓(2F)
8月2日(金)	講義 「文法」 東京外国語大学 柏崎雅世教授			講義 「教科学習と日本語」 (財)波多野ファミリスクール 大蔵守久主管		閉講式					鼓(2F)

【後期】

9:00	10:00	15	20	50	11:30	12:45	14:15	35	16:45	控室
8月5日(月)		受付	開講式	講義 「日本語力評価法」 東京外国語大学 伊東祐郎教授		講義 「カウンセリング」 明治学院大学 井上孝代教授				梅(2F)
8月6日(火)	講義 「バイリンガル・子どもの言語発達」 メディア教育開発センター 小野 博教授			講義 「日本語教授法」 (社)国際日本語普及協会 品田潤子部長		講義 「カリキュラム・ガイドライン」 東京外国語大学 小林幸江教授				梅(2F)
8月7日(水)	演習A ※ 指導助言者 東京外国語大学 小林幸江教授、柏崎雅世教授、 藤森弘子助教授、藤村知子助教授、 酒井順子助教授、伊丹千恵助教授			演習A ※ 指導助言者 同左						梅(2F)
8月8日(木)	講義 「JSLカリキュラムについて」 東京学芸大学 高木光太郎助教授 齋藤ひろみ助教授			演習B ※ 指導助言者 独立行政法人国立国語研究所 教員研修センター 中国帰国者定着促進センター 東京学芸大学 石井恵理子日本語教育第一課長 池上摩希子教務第二係長 齋藤ひろみ助教授						琴(2F)
8月9日(金)	カリキュラム検証授業 成果発表 指導助言者 東京学芸大学 齋藤ひろみ助教授		講義 ◇ 「これからの外国人児童生徒教育」 東京学芸大学 佐藤郡衛教授	閉講式 ～12:15						琴(2F)

* 演習は、分科会形式で行う。

「演習A」：初期の日本語指導に関する内容

「演習B」：初期指導から教科学習へつながる段階の日本語指導に関する内容

I 研修概要

研 修 名	外国人児童生徒等日本語指導講習会（後期）				
担当課係	研修事業第三課 語学・国立学校係				
研修目的 （趣旨）	小学校、中学校における外国人児童生徒等に対する日本語指導等に関する専門的な研修を行い、日本語指導等を担当する教員等の指導力の向上を図り、小学校及び中学校における外国人児童生徒教育の一層の充実を図る。				
対 象	小学校、中学校の教員及び教育委員会の指導主事等で、原則として外国人児童生徒等に対する日本語指導等について一定の知識と経験を有する者。				
開催期日	平成14年 8月 5日（月）	～	平成14年 8月 9日（金）	5日間	
参加人数	計画人数	100人	受講者数	72人	（参加率） 72.0%
開催場所	ホテルフロラシオン青山（東京）				

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	55人	79.7%	12人	17.4%	0人	0.0%	2人	2.9%

2. 研修内容に関する主な意見

【講習会全体】

- ・多くのことを知ることが出来て、今後の指導に大いに役立つと思う。
- ・情報がよく分かって良かった。実践的な話や活動がもっとあると良かった。
- ・フィリピンの事例を知りたかった。
- ・JSLカリキュラムに関する講義や演習を地方でも開催して欲しい。
- ・中学校に関する内容が少ない気がした。

【演習A】

- ・カリキュラム・ガイドラインに基づいての指導案なので、すぐ授業に使えるという利点がある。
- ・理論と実践を駆使した演習は能動的で良かった。
- ・グループで模擬授業をしたことは、とても実践的で良かった。
- ・初期指導の経験のない者には時間が短いような気がするが、授業案作りの過程での話し合いは非常に参考になった。
- ・演習で取り上げた文型に関わる細かな指導のポイントや留意点などが、グループの先生方からたくさん教わることが出来て、とても有意義だった。
- ・やや時間が足りなかったが、講義を聴くだけの研修よりは良かった。
- ・演習後の指導助言はとても役に立ったと思う。
- ・具体的な指導法、留意点等具体的に教えていただけて役に立った。
- ・模擬授業を組み立てていく時の講師の助言、一つ一つが本当にこれから役立つことばかりで感謝している。
- ・言葉を交わすことも初めての人達のグループということもあり、自己紹介等で授業の話し合い、教材作り、流れの練習など時間の割には内容が多かったと思う。環境も全て想定なのでやりやすかった。
- ・模擬授業までの時間が短く、意見をまとめながら作り上げる大変さを感じた。
- ・どんな所に気を付けて指導したらよいか具体的に教えていただいたが、小学校の現場で全てが通用するのは疑問。

【演習B】

- ・AUを使用した演習活動はとてもよかった。(多数)
- ・早速実践できる指導案が作成できたので満足。意見を出し合える人が多いグループだったのでとても有意義だった。学校現場では一人で考えなければならないため、突き当たっても打破できないことも多い。担当している者同士だと分かり合える。
- ・講師の先生から事前に資料を配付され、説明もあったので大きなズレはなく指導案が出来た。
- ・JSLカリキュラムを使つての具体的なアイデアを教わりとても参考になった。
- ・講義を聴いただけでは分からないところがよく分かった。
- ・最後の発表の時間が大変参考になった。
- ・カリキュラムが小学生向けに(基準で)考えられたものが多く、中学生向けのものをもっと学習したかった。全体発表3つとも小学校だったので物足りなかった。(多数)
- ・日本語カリキュラム・ガイドラインとの兼ね合いが少し分かり難かった。

【授業成果発表】

- ・中学校でのJSLカリキュラム実践発表があれば聞いてみたい。(多数)
- ・指導助言よりも、会場の質疑応答で得るものが多くあった。特にJSLについての取り組み方に関する発表がとても参考になった。
- ・具体的な授業のビデオを見た後で色々話を聞いていただいたので、考え方がよく理解できた。
- ・もっとたくさんの検証結果を聞きたかった。
- ・教科担任側で一人の生徒に多くの教員が関わり、生徒の教室での実態を掴みにくく、横の連携が取り難い中学校での実践例を見たかった。
- ・提案者の資料形式がバラバラだった。これは発表と関連するので形式は同じにするべき。成功ばかりの話よりも失敗課題についても触れるべき。

Ⅲ 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 外国人児童生徒等日本語指導講習会 日程表

日時：平成14年7月31日(水)～8月9日(金)
場所：ホテルフロラシオン青山

【前期】

	9:00	10:20	50	11:30	12:45	13:55	14:15	35	15:15	16:00	45	控室
7月31日(水)		受付	開講式	講義 「外国人児童生徒の背景と日本語指導」 東京外国語大学 横田淳子教授		講義 「文字・漢字」 東京外国語大学 酒井順子助教授						鼓(2F)
8月1日(木)	講義 「音声」 東北大学 助川泰彦助教授			講義 「言語と文化」 ・中国語 高知大学 池 純子非常勤講師 ・ポルトガル語 東京外国語大学 アソビエロ・イン非常勤講師		事例発表 指導助言者 ・小学校分科会 (社)国際日本語普及協会 関口明子部長 ・中学校分科会 愛知淑徳大学 松本一子非常勤講師						鼓(2F)
8月2日(金)	講義 「文法」 東京外国語大学 柏崎雅世教授			講義 「教科学習と日本語」 (財)波多野ファミリスクール 大蔵守久主管			閉講式					鼓(2F)

【後期】

	9:00	10:00	15	20	50	11:30	12:45	14:15	35	16:45	控室
8月5日(月)			受付	開講式		講義 「日本語力評価法」 東京外国語大学 伊東祐郎教授		講義 「カウンセリング」 明治学院大学 井上孝代教授			梅(2F)
8月6日(火)	講義 「バイリンガル・子どもの言語発達」 メディア教育開発センター 小野 博教授				講義 「日本語教授法」 (社)国際日本語普及協会 品田潤子部長		講義 「カリキュラム・ガイドライン」 東京外国語大学 小林幸江教授				梅(2F)
8月7日(水)	演習A ※ 指導助言者 東京外国語大学 小林幸江教授、柏崎雅世教授、 藤森弘子助教授、藤村知子助教授、 酒井順子助教授、伊丹千恵助教授				演習A ※ 指導助言者 同左						梅(2F)
8月8日(木)	講義 「JSLカリキュラムについて」 東京学芸大学 高木光太郎助教授 齋藤ひろみ助教授				演習B ※ 指導助言者 独立行政法人国立国語研究所 中国帰国者定着促進センター 東京学芸大学		石井恵理子日本識教育部第一課長 池上摩希子教務第二係長 齋藤ひろみ助教授				琴(2F)
8月9日(金)	カリキュラム検証授業 成果発表 指導助言者 東京学芸大学 齋藤ひろみ助教授		講義 ◇ 「これからの外国人児童生徒教育」 東京学芸大学 佐藤郡衛教授	閉講式 ～12:15							琴(2F)

* 演習は、分科会形式で行う。

「演習A」：初期の日本語指導に関する内容

「演習B」：初期指導から教科学習へつながる段階の日本語指導に関する内容

I 研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習 （農業：A－1）		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 （趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年 8月19日（月） ～ 平成14年 8月23日（金）	5	日間
参加人数	計画人数：35人	受講者数：26人	（参加率）：74.3%
開催場所	筑波大学遺伝子実験センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	23人	88.5%	2人	7.7%	0人	0.0%	1人	3.8%

2. 研修内容に関する主な意見

- 検討された講習内容で大変役立った。
- 解っていなかった遺伝子組換え技術について、理解を深められたことが大きな収穫。頭の中の知識だけでなく、具体的な実験を行うことにより、生きた知識となった。
- 組換えは疑問点が多く、授業に不安があったが、それが払拭され自信を持って授業に取り組める。
- 高校教育でバイオテクノロジーはどうかと思ったが、考え方がかなり変わった。
- 遺伝子組換え食品とは何か等正しいことを知らなくてはいけない大切さなどが印象的だ。大変解りやすいお話であった。
- 講師の先生方とのディベートの時間が特に良かった。「話し合う」「おしつけない」「科学的に考える」ことがとても大切に感じた。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度新産業技術等指導者養成講習日程

(農業, A-1)

全国農業高等学校長協会

全国農業高等学校長協会										
日時	8:30	9:00	10:30	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	
8月19日 (月)	受付	開講式、オリエンテーション (講義)学習指導要領について		昼休み	講義: 遺伝子組換え教育について、遺伝子組換えDNA実験指針 講義と実習: 教育用キットを用いた組換え実験					
8月20日 (火)		講義と実習: 教育用キットを用いた組換え実験		昼休み	講義と実習: 教育用キットを用いた組換え実験(つづき) 総合討論と質疑応答					
8月21日 (水)		見学(農業生物資源研究所)		昼休み	見学(農業環境技術研究所)		見学(農林水産先端技術研究所)			
8月22日 (木)		講義: 遺伝子組換えと環境安全性	講義: 遺伝子組換え食品と安全性	昼休み	講義: 食品からのDNA抽出とPCRによる組換え遺伝子の検出Ⅰ (実験前)	実習: 食品からのDNA抽出とPCRによる組換え遺伝子の検出Ⅰ				
8月23日 (金)		実習: 食品からのDNA抽出とPCRによる組換え遺伝子の検出Ⅰ	講義: 食品からのDNA抽出とPCRによる組換え遺伝子の検出Ⅰ (実験後)	昼休み	総合討論および質疑応答 (予定講師: 鎌田 博、小野道之)		閉講式			

I 研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習（農業：A－2）		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 (趣旨)	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年 8月19日(月) ～ 平成14年 8月23日(金)	5 日間	
参加人数	計画人数：30人	受講者数：38人	(参加率)：126.7%
開催場所	東京テクノ・ホルティ園芸専門学校		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	37人	97.4%	1人	2.6%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- フラワーデザインについて、正しい知識や技術を身につけられた。
- 花材準備から授業計画・実施に至るまで大変参考になった。
- 何人もの講師に講義を受けられたことが良かった。
- 道具の使い方、姿勢など、決して本には書かれてないことを教えていただいた。
- 市場の現状と最新技術が見聞でき、非常に参考になった。
- 花屋でアレンジメントのカゴを買うと高く感じるが、安い材料でも工夫すればきちんとできると思った。今回の教材も、特別なものはなく、いつでも花屋で手に入るの、家でも学校でもこれから作っていけると思った。
- ドライフラワーのイメージは、暗いイメージでとらえていたが、この実習で新たにチャレンジしたい分野だと感じた。
- 学校のカリキュラムに導入する必要があると感じた。
- アレンジメントについての自分の意識・見方が変わり、研修に参加したことで、アレンジメントのスタート地点に立ったような気がする。1週間は短く感じ、まだまだ研修したい気がする。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度新産業技術等指導者養成講習日程

(農業, A-2)

全国農業高等学校長協会

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8月19日 (月)	開 校 式	(講義) フラワーデザイン概論		昼休み	(実習) アレンジメントの基礎				
8月20日 (火)	(講義・実習) 植物の組み合わせ アレンジメントの応用			昼休み	(講義・実習) 資材の基礎テクニック コサージュの作り方				
8月21日 (水)	(見学・講義) 株式会社大田花き市場見学・園芸流通			昼休み	(講義・実習) 切花の取り扱い方 水揚げ実習 1				
8月22日 (木)	(講義・実習) 授業準備の方法 水揚げ実習 2 花束の作り方と包装			昼休み	(講義・実習) 植物の加工 ドライフラワーのアレンジ				
8月23日 (金)	(講義・実習) 色彩 イメージによる花の選び方とアレンジ			昼休み	(講義・実習) 園芸セラピー		閉 校 式		

東京テクノ・ホルティ園芸専門学校

I 研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習 (工業：B-1)				
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係				
研修目的 (趣旨)	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。				
対 象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成14年 7月22日(月) ~ 平成14年 7月26日(金)	5 日間			
参加人数	計画人数	47人	受講者数	47人	(参加率) 100.0%
開催場所	東京工業大学				

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	26人	55.3%	14人	29.8%	0人	0.0%	7人	14.9%

2. 研修内容に関する主な意見

- 最初に考えていた内容とは違う方向。いずれも目から鱗が落ちるような内容。
- 教員側が変わらなければならない時代に突入している実感が湧いた。
- 必要とされる技術者＝環境現象の仕組みを解き明かした知識・技術・能力を身につけなければならないという言葉が印象に残った。
- 都市環境に向けての開発、「息をする壁」等についてももう少し具体的に聞きたかった。
- 分散型電源の実用性が思っていたより進んでいる反面、電力系統連携技術の難しさを感じた。
- 熱力学の基本から解説があり、エネルギーの消費の限界が理解できた。
- 東工大の技術の高さがわかる。
- 石炭、天然ガスを原料とするソーラーハイブリット燃料、技術がここまで進んでいるとは知らなかった。
- 汚染対策、修復技術について重要性を感じた。
- 環境工学関係の取り組みの必要性、研究開発の重要性を再認識できた。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 新産業技術等指導者養成講習 日程

テーマ：エネルギー利用と環境保全技術に関する講義と施設見学
 期日：平成14年7月22日(月)～7月26日(金)
 会場：東京工業大学大岡山キャンパス
 東京工業大学すずかけ台キャンパス
 工学部附属工業高等学校

	9:30	10:00	10:30	12:30	13:30	15:00	15:10	17:00	17:30-19:00
第1日 7月22日(月) 大岡山キャンパス 西8E号館 10F 大会議室	受 付	開 講 式	講演 国立教育政策研究所 文部科学省 佐藤 義雄 「新教育課程の編成と 21世紀の工業教育」	昼 食	講義 赤堀 侃司 「学習指導方法の改善」	休 憩	施設見学 大岡山キャンパス 専門別研究室見学 (5分野を予定)	休 憩	懇 親 会
第2日 7月23日(火) すずかけ台キャンパス 大5号館 G511講義室	9:30 講義 石川 忠晴 「環境計測の組み 立て方と留意点」 (水環境計測を例として)	11:00 休 憩	11:10 講義 梅干野 晃 「都市・建築と 環境共生技術」	12:40 昼 食	13:40 講義 吉川 邦夫 「小型廃棄物ガス化発電」 (廃棄物の発生元での 有効利用をめざして)	15:10 休 憩	15:20 施設見学 すずかけ台キャンパス 専門別研究室見学 (環境理工学創造専攻)	17:00	
第3日 7月24日(水) 工学部附属 工業高等学校	9:30 講義 竹内 守 「SSHに至る までの変遷」	10:30 講義 門馬 進 「SSHの取り組みの概要」 多胡 賢太郎 「SSHの取り組みのポイント」	11:30 昼 食	13:00 施設見学 井口 実千代 成田 彰	14:00 情報交換 竹内 守 山口 正勝	15:00 検討会 竹内 守 多胡 賢太郎	17:00		
第4日 7月25日(木) 大岡山キャンパス 西3号館 W331 講義室	9:30 講義 七原 俊也 「分散型電源と 電力システム」	11:00 休 憩	11:10 講義 渡邊 良 「国際的な学力評価」	12:40 昼 食	13:40 講義 吉澤 善男 「IT初級-消費の限界」	15:10 休 憩	15:20 施設見学 原子炉工学研究所 極低温物性研究センター	17:00	
第5日 7月26日(金) 大岡山キャンパス 西8E号館 10F 大会議室	講義 玉浦 裕 「ソーラーハイブリッド燃料と ガソリンの開発」	休 憩	講義 梶内 俊夫 「土壌の修復技術」	閉 講 式					
	9:30	11:00	11:10	12:40	13:10				

I 研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習 (工業：B-2)		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 (趣旨)	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年 7月22日(月) ～ 平成14年 7月26日(金)	5	日間
参加人数	計画人数：25人	受講者数：16人	(参加率)：64.0%
開催場所	大阪機工株式会社 東京テクニカルセンター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	8人	50.0%	8人	50.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

○丁寧な説明であったため、説明の内容は理解できました。今までの疑問も解決でき充実していました。

○加工実習の時間にゆとりがなく、もう少し時間をかけてやりたかった。

○集中的に講義を受け自分なりに、全体の様子がわかりました。また、日本中から来られた先生方と話ができて、他県の工業高校の色々な状況も知ることができ、自分の見聞が広がりました。

○学校にも機械はあるが、使用頻度が少ないものもあり、このように企業から直接にきちんとした使い方を教えてもらう講習会は、教員にとっても非常に良い事だと思いました。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成14年度

新産業技術等指導者養成講座

(マシニングセンタのプログラミングと生産の自動化)

大阪機工株式会社 東京テクニカルセンター

月 日	9	10	11	12	13	14	15	16	17
平成14年 7月22日 (月)		受付	開講式 会社概要 説明見学	講義 自動プログラミングの実際 プログラミングの概要 1 補完機能及び加工内容の動作 1		講義 自動プログラミングの実際 プログラミングの概要 1 補完機能及び加工内容の動作 1	講義 自動プログラミングの実際 プログラミングの概要 2 実習 加工内容の動作 2		
7月23日 (火)	講義 これらの 工業教育	講義 自動プログラミングの実際 実習 加工内容の動作 3			実習 工具交換動作		講義 自動プログラミングの実際 加工内容 1・2 実習 段取り・テストピース切削		
7月24日 (水)	講義 自動プログラミングの実際 加工内容 1・2 実習 段取り・テストピース切削		実習 自動プログラミングの実際 加工実習・テストピース切削		実習 自動プログラミングの実際 加工実習・テストピース切削				
7月25日 (木)	実習 加工段取り・テストピース切削				実習 加工段取り テストピース切削		講義 自動工作機械の原理と構成		
7月26日 (金)	講義 マシニング センター及び周辺機器に於ける自動化技術①				講義 マシニング センター及び周辺機器に於ける自動化技術②		閉講式		

担当 全国工業高等学校長協会

I 研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習 （商業：C－1）		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 (趣旨)	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年 7月22日(月) ～ 平成14年 7月26日(金)	5	日間
参加人数	計画人数：47人	受講者数：27人	(参加率)：57.4%
開催場所	千葉商科大学		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	24人	92.3%	2人	7.7%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 「商品サービス化と流通」の“最新の流通課題”の講義が特によかった。
- 商業教育の重要性、求められる姿を把握し、新しい形での商業教育を認識できた。
- 具体的な流通システムの現状の実態を理解できた。
- 商品が何なのかを曖昧なままにせずに教えていくことの重要性を改めて思った。
- 基礎知識だけでなく、多くの資料、内容から知らない部分をレクチャーされ、理解が深まった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成14年度新産業技術等指導者養成講習日程

(商業、C-1)

受託団体名 (財) 全国商業高等学校協会

月 日 (曜 日)	午 前 9:00 9:30 10:00 11:00 12:00					午 後 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00				
7月22日 (月)		受 開 講 講 付 式	(講義) 「新学習指導要領と新しい 商業教育」			(講義) 「21世紀のマーケティング戦略」		(大学内見学)	懇親会	
7月23日 (火)		(講義) 「流通構造変化に対応した 小売行動の現状」				(商品実習) A. 商品のソフト化と消費技術 B. 飲料商品の多様化		(商品実習) B. 同 A. 同		
7月24日 (水)		(企業・マーケティ ング実務見学) 高島屋(日本橋) ＜見学と質疑応答＞	(講義) 「百貨店のマーケ ティング」	移動	日本銀行内見学	(講義) 「日本経済と日 本銀行の政策」	貨幣博物 館見学			
7月25日 (木)			(講義) 「生命保険の基礎知識」		(講義) 「わが国の信託業務の 現状と信託銀行の役割」	(講義) 「損害保険の 基礎知識」				
7月26日 (金)			(講義) 「わが国における 証券教育の現況」		(講義) 「商品のサービス化と流通」	研究 協議	閉 講 式			

実施場所 千葉商科大学

I 研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習（商業：C-2）		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 (趣旨)	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年 8月 5日(月) ～ 平成14年 8月 9日(金)	5	日間
参加人数	計画人数	60人	受講者数 61人 (参加率) 101.7%
開催場所	一橋大学大学院商学研究科		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	50人	83.3%	9人	15.0%	0人	0.0%	1人	1.7%

2. 研修内容に関する主な意見

- 新しい知識、深い知識に触れ、5日間が短く感じた。
- これまで参加した研修の中で、最も勉強になった。
- これからも是非行って欲しい。一流大学の先生は内容も一流であると認識。自分のあらゆる面での不足を認知した。
- 自己改革の必要性を感じた。(多数)
- 地方での情報収集には限界がある。この研修会を通して、大変役に立った。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度新産業技術等指導者養成講習日程表

(経済の変化(サービス化, グローバル化, 情報通信ネットワーク化等)とビジネス教育に関する講義と実習)

時 間 月 日 (曜日)	9:30	10:00	10:30	12:30	13:30	15:00	16:00	16:30
8月5日 (月)	受 付	開講式	[新学習指導要領の改定について] 国立教育政策研究所教育課程研究 センター研究開発部教育課程調査官 吉野弘一		[講義: わが国の簿記会計の潮流] 一橋大学大学院商学研究科教授 安藤英義			
8月6日 (火)			[講義: 知的財産権とイノベーション] 一橋大学大学院商学研究科教授 長岡貞男		[講義: 情報環境の変化と情報教育の充実] 横浜市立大学商学部教授 野々山隆幸			
8月7日 (水)			[講義: 国際化の進展と国際理解] 神奈川大学経営学部教授 田中則仁		[見学: サントリー武蔵野ビール工場] 一橋大学大学院商学研究科講師 松井 剛			
8月8日 (木)			[講義: 規制緩和の進展と日本経済の今後] 一橋大学大学院商学研究科教授 山内弘隆		[講義: 情報革命と意識の変化] 一橋大学大学院商学研究科教授 石野福弥			
8月9日 (金)			[講義: 経済のサービス化・ソフト化と消費の変化] 一橋大学大学院商学研究科教授 片岡 寛		[講義: 現代の管理会計] 一橋大学大学院商学研究科教授 廣本敏郎		閉講式	

I 研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習 (水産：D-1)		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 (趣旨)	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年 8月26日(月) ~ 平成14年 8月30日(金)	5	日間
参加人数	計画人数 24人	受講者数 17人	(参加率) 70.8%
開催場所	独立行政法人水産大学校		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	14人	82.4%	3人	17.6%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 引張実験しか行ったことがなかったので、今回の「材料強度試験」は貴重な体験だった。
- 講義「海洋温度差発電とその有効利用について」は、話題性、将来性のあるとてもよい話だった。
- 大学で行なっている研究の新しい話が聞けたことで、大変役に立った。
- 水産と工学の結びつきに関心させられた。水産高校でも手本とさせて貰おうと思う。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成14年度新産業技術等指導者養成講習日程

(水産, D-1)

全国水産高等学校長協会

日時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8月26日 (月)	受付	開講式 ガイダンス	(講義) 機械設計の 基礎と応用	昼食	(実習) ・精密加工と品質評価実験 ・材料強度試験				
8月27日 (火)		(講義) ソフトコンピューティングと 水産系への応用	(講義) 機械のヘルモリング の基礎と応用	昼食	(実習) ・DADSを利用した機械システムの制御シミュレーション ・環境流体実験				
8月28日 (水)		(講義) 海洋温度差発電 とその有効利用 について	(講義) 冷凍装置と凍結 保存	昼食	(実習) ・ヒートポンプ・冷凍システムの実験 ・内燃機関の性能解析				
8月29日 (木)		(講義) 船用ディーゼル機関 による大気汚染 の現状と対策	(講義) 沿岸海洋環境の 改善	昼食	(見学) 三菱重工下関造船所工場見学				
8月30日 (金)		(講義) 精密加工の基礎 と応用	(研究協議) 21世紀の 海洋機械工学 について	閉講式					

※注：午後の実習は、2テーマ交代で行う。

実施場所 水産大学校 海洋機械工学科

I 研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習 (水産：D-2)		
担当課係	研修事業第三課 道德・産業教育係		
研修目的 (趣旨)	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年 8月26日(月) ~ 平成14年 8月30日(金)	5	日間
参加人数	計画人数：20人	受講者数：14人	(参加率) 70.0%
開催場所	茨城県立海洋高等学校		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	11人	84.6%	1人	7.7%	0人	0.0%	1人	7.7%

2. 研修内容に関する主な意見

- 最新の医学情報、潜水事故の具体的データを知ることができた。
- 減圧症を甘く見ていた。今後、指導に対しても慎重に取り組むつもりだ。
- 文献のみでしか症状を読む機会がなかったので、スライドでの解説は大変参考になった。
- 「潜水と身体適応」の内容よりも講義(授業)の仕方が参考になった。
- 先生方の講義方法が非常に参考になった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式 1)

平成 1 4 年度新産業技術等指導者養成講習日程

(水産 , D - 2)

全国水産高等学校長協会

	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
8 月 26 日 (月)			開 講 式	講習会の 説明	休 憩	《講義》 潜水医学 減圧症と再圧治療	休 憩	《講義・実習》 救急蘇生法実習	自由練習		
8 月 27 日 (火)		テスト①	《講義》 潜水と身体適応	休 憩	《講義・実習》 ダイビングにおける水泳 ・フィン泳力とスイング ・ダイビングの必要性	休 憩	《実習・検定》 泳力テスト (8 0 0 M)	自由練習			
8 月 28 日 (水)		テスト②	《講義》 潜水計画と指導計画 海況判断	休 憩	《講義》 潜水物理学	休 憩	《実習・検定》 平行潜水 (4 0 M)	自由練習			
8 月 29 日 (木)		テスト③	《実習》 ダイビング指導及び検定	休 憩	《講義・実習》 レスキューと潜水器材	休 憩	《実習・検定》 水中脱着 4 0 0 M フリップ・アー	最終 実技検定			
8 月 30 日 (金)		テスト④	《実習》 潜水計画及び指導計画	休 憩	《実習》 個人、集団指導及び安全管理 スクーバダイビング示範能力(複合)	休 憩	閉 講 式				

注 1 講習の内容については、講師の都合により変更する場合があります。

注 2 実習において休憩は状況を見て臨機に行います。

実施場所：茨城県立海洋高等学校

I 研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習 (家庭：E-1)		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 (趣旨)	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年 7月29日(月) ～ 平成14年 8月 2日(金)	5	日間
参加人数	計画人数：50人	受講者数：46人	(参加率)：92.0%
開催場所	兵庫教育大学大学院神戸サテライト		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	24人	55.8%	18人	41.9%	0人	0.0%	1人	2.3%

2. 研修内容に関する主な意見

- 他県の先生方との交流ができ、県や学校の様子、教材内容や実習の方法等、意見交換ができてよかった。
- 研修カリキュラムが、順を追って「誕生」からわかりやすく構成されていて、短い日数でも充実していた。
- 知識と技術のバランスがよく、充実した内容だった。
- 乳幼児との交流、観察実習の日程は2日間だったが、発表時間がバタバタしていたので、もう少し時間を増やせばよかったのではと思った。
- 代理母の話等、タイムリーな話を専門的角度から教えてもらってよかった。
- 特に、「情緒・社会性の発達」は、具体例を踏まえ、実習に行く現場の状況についての話が聞けてよかった。また、よい資料もいただき、もう少し時間が多くてもよかったと思う。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 新産業技術等指導者養成講習 講習内容

新産業技術コース 家庭

時間 日付	9:30	10:00	10:30	11:30	12:30	13:30	15:00	15:30	16:30
7月29日 (月)	受 付	開 講 式 ①	(講義)「認知・思考の発達」 兵庫教育大学助手 宮元博章 ①			(講義)「乳幼児の生活と遊び」 静岡大学教授 金田利子 ①	(講義)「乳幼児の遊びの実際」 兵庫教育大学連合学校教育 学研究科博士課程院生(湊川 女子短期大学教授) 中西利恵 ①		
7月30日 (火)	(講義)「ことばの発達」 兵庫教育大学講師 宇野宏幸 ①			(講義)「情緒・社会性の発達」 兵庫教育大学教授 松村京子 ①		(講義)「母体の健康と乳幼児の発育」 大阪教育大学教授 天富美禰子 ①	(講義)「交流・観察 方法」 兵庫教育大学教授 松村京子 ①		
7月31日 (水)	(実習)「乳幼児交流・観察実習 1」 参加者を2グループに分け、保育所で参加型(交流)実習と非参加型 (観察)実習のいずれかを行う。 兵庫教育大学教授 松村京子 兵庫教育大学連合学校教育学研究科博士課程及び 兵庫教育大学学校教育研究科修士課程 院生5名 博士研究生1名 ②					(演習)「実習分析のためのグループ演習 1」 午前の観察結果についての分析と話し合いを行う。 兵庫教育大学教授 松村京子 兵庫教育大学連合学校教育学研究科博士課程及び 兵庫教育大学学校教育研究科修士課程 院生5名 博士研究生1名 ①, ③			
8月 1日 (木)	(実習)「乳幼児交流・観察実習 2」 前日の交流実習と観察実習を入れ替えて行う。 兵庫教育大学教授 松村京子 兵庫教育大学連合学校教育学研究科博士課程及び 兵庫教育大学学校教育研究科修士課程 院生5名 博士研究生1名 ②					(演習)「実習分析のためのグループ演習 2」 午前の観察結果についての分析と話し合いを行う。 兵庫教育大学教授 松村京子 兵庫教育大学連合学校教育学研究科博士課程及び 兵庫教育大学学校教育研究科修士課程 院生5名 博士研究生1名 ①, ③			
8月 2日 (金)	(講義)「乳幼児理解 のための教育」 兵庫教育大学教授 松村京子 ①		(演習)「乳幼児理解のための学習指導計画」 各自の学校での指導計画を発表し、話し合う。 兵庫教育大学教授 松村京子 神戸市教育委員会指導主事 井上裕美子 ①		記 念 写 真	(講義)「家庭科の改訂の趣旨と保育に関 する指導」 文部科学省初等中等教育局視学官 河野公子 ①		閉講式 ①	

(注) ○付き数字は実施場所を示す。①：講義室1 ②：川原保育所(垂水区)，細田保育所(長田区)，羽坂保育所(兵庫区)，西灘保育所(灘区) ③：コンピュータ教室

I 研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習（家庭：E-2）		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 (趣旨)	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年 8月 1日(木) ～ 平成14年 8月 9日(金)	8 日間	
参加人数	計画人数：25人	受講者数：29人	(参加率)：116.0%
開催場所	文京社会福祉専門学校		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	27人	96.4%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	3.6%

2. 研修内容に関する主な意見

- 内容が一方的ではなく、いろいろな手法を使ったので、即学校に帰って使えそうだった。
- 講義、実技、施設見学等内容が盛りだくさんな講習で、大変勉強になった。
- 科学的な根拠に基づく技術の重要性がわかった。今までは、形を教えていた様な気がし、反省している。
- 実体験の大切さがわかった。
- 介護に関わる者としての姿勢や考え方について新たな視点を得ることができた。
- 具体的でわかりやすい、資料をたくさん用意していただき感謝しています。
- 本だけではわからないポイントを知ることができた
- 事例がたくさんあって、とてもわかりやすかった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度新産業技術等指導者養成講習日程

(家庭科 E-2)

文京社会福祉専門学校

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16
8月1日 (木) 第1日目	開 講 式	アイスブレイク 自己紹介	講義 「介護福祉教育 とカリキュラム」	昼休み	講義 「介護概論」			
8月2日 (金) 第2日目	講義 「高齢社会と社会福祉」			昼休み	講義 「介護保険の基礎知識」			
8月3日 (土) 第3日目	実習 「介護技術の基礎Ⅰ」 環境整備とベットメイキング			昼休み	実習 「介護技術の基礎Ⅱ」 移動援助の基本			
8月4日 (日)	休講日							
8月5日 (月) 第4日目	実習 「介護技術の基礎Ⅲ」 車イスへの移乗と移動の介助			昼休み	実習 「介護技術の基礎Ⅳ」 着替えの援助・排泄の援助			
8月6日 (火) 第5日目	実習 「介護技術の基礎Ⅴ」 食事の援助			昼休み	実習 「介護技術の基礎Ⅵ」 清潔の援助			
8月7日 (水) 第6日目	講義 「介護保険と在宅介護」 ホームヘルプサービスの現状			昼休み	演習 「介護過程とケアプラン」 問題解決技法とその訓練			
8月8日 (木) 第7日目	講義 「介護実習について」 実習目標とスーパービジョン			昼休み	福祉施設見学 「介護老人福祉施設見学」			
8月9日 (金) 第8日目	実習 「介護技術のまとめ」 介護福祉士国家試験(実技試験)の考察			昼休み	講義 「講習のまとめ」	講義 文部科学省 視学官	閉 講 式	

I 研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習 (家庭：E-3)		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 (趣旨)	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年 8月 1日(木) ～ 平成14年 8月 9日(金)	8	日間
参加人数	計画人数：25人	受講者数：16人	(参加率)：64.0%
開催場所	株式会社内田洋行 教育システム事業部		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	10人	62.5%	5人	31.3%	0人	0.0%	1人	6.3%

2. 研修内容に関する主な意見

- 詳しい内容がわからなく、不安だったが、内容も充実していて有意義な研修だった。
- 授業の運営やパソコン教室の運営・管理についても講義や討論する時間があると良いと思う。
- 研修に参加している先生方の学校の家庭科の現状を知りたかった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成14年度 新産業技術等指導者養成講習日程

(家庭, E-3)

株式会社内田洋行 教育システム事業部

月日	曜日	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
8月1日	木	受付	開講式 講義:文部科学省		昼休み	オリエンテーション	(講義・実習)表計算ソフトの活用 基礎				
8月2日	金		(講義・実習) 表計算ソフトの活用 基礎		昼休み	(講義・実習) 表計算ソフトの活用 基礎					
8月3日	土		(講義・実習) 表計算ソフトの活用 基礎		昼休み	(講義・実習) 表計算ソフトの活用 基礎					
8月4日	日										
8月5日	月		(講義)アパレルCAD研修		昼休み	(講義)アパレルCAD研修					
8月6日	火		(見学)最新施設見学 (企業・学校等)		昼休み	(見学)最新施設見学 (企業・学校等)					
8月7日	水		(講義・実習)プレゼンテーション研修 (PowerPoint基礎)		昼休み	(講義・実習)プレゼンテーション研修 (PowerPoint基礎)					
8月8日	木		(実習)課題実習 (プレゼンテーション準備)		昼休み	(実習)課題実習 (プレゼンテーション準備)					
8月9日	金		(研究協議)課題発表		昼休み	研修会まとめ Q&A	閉講式				

実施場所:株式会社 内田洋行 潮見オフィス 〒135-8730 東京都江東区潮見2-9-15 TEL:03-56734-6397 FAX:03-5634-4088

I 研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習（家庭：E-4）		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 (趣旨)	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年 8月 5日(月) ～ 平成14年 8月 8日(木)	4	日間
参加人数	計画人数 20人	受講者数 10人	(参加率) 50.0%
開催場所	装道きもの学院		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	10人	100.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 着物を着る技術だけでなく、内面的な効果、忘れがちな礼儀、奥ゆかしさ等多くのことを教えていただいた。
- 「家庭科教育の動向」について、地方であるため、中央の動向理解に誤解があったことを知った。
- 理解したつもりであっても、体は動かないので、反復練習の大切さを改めて知らされた。
- 「なぜ」を学ぶ事の大切さ、美しい着物とはどのような着方が具体的に理解できた。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度新産業技術等指導者養成講習日程

(家庭、E-4)

日 時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
8月5日 (月)		開 内 容 講 説 明 式 ※ ①	(講義) 家庭科 教育 の動向	(講義) 着装の基本 「体型の補正と 下着のつけ方」	昼 食	(着装) 外出着の着装と帯結び			※①連絡事項
8月6日 (火)			(講義) きものの精神美学	昼 食	(着装) 礼装の着装 留袖の着装と帯結び(二重太鼓)				
8月7日 (水)			(礼法) 装道礼法の基本	昼 食	(着装) A 男子の礼装の着装 B 女袴の着装				
8月8日 (木)			(着装) 外出着の着装と帯結び	昼 食	(着装) 着装の総仕上げ	記 念 撮 影	座 談 会	閉 講 式	

装道きもの学院 お茶の水校

I 研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習（看護：F-1-1）		
担当課係	研修事業第三課 道德・産業教育係		
研修目的 (趣旨)	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年 8月 5日(月) ～ 平成14年 8月13日(火)	8 日間	
参加人数	計画人数	30人	受講者数 24人 (参加率) 80.0%
開催場所	愛国高等学校		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	21人	87.5%	3人	12.5%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

○医療、病院において高度な知識、技術を身につけ救命にあたる方の必要性を改めて感じた。 ○具体例を挙げ講義をしていただいたので、自分の中で悩んでいたものが整理できた。 ○どんな看護師を育てたいのか、考えられる学生を育てていくことの大切さを知った。 ○看護の視点はさまざまな方向から見ることの大切さを改めて感じた。新しい試みを行っていきたいと思う。 ○私立学校に勤めているので、このような研修に参加する機会が少なかったが、今回研修に参加することができ、文献からの情報のみで得ていた知識を、自分なりに確認できたことで、よりよい方向へ進める気がする。 ○各校との交流、意見交換がもっとしたかった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

(別紙様式1)

(看護、F-1-1)

平成14年度新産業技術等指導者養成講習日程
全国看護高等学校長協会

日 時	9:30 10:00	12:30	13:30	16:30
8月 5日 (月)	受付 及び 開講式 (講義) 高校教育及び 看護教育の動向 文部科学省 大橋 泰久 氏	昼休み (昼食)	(講義) 看護学の教育課程 山梨県立看護大学長 林 滋子 先生	
8月 6日 (火)	(講義) 看護過程の展開の指導法 東京都立保健科学大学 保健学部看護学科 石川 ふみよ 先生	昼休み (昼食)	(講義) フィジカルアセスメント教育とその指導法 東京都立保健科学大学 保健学部看護学科 勝野 とわ子 先生 實取 直子 先生 習田 明裕 先生	
8月 7日 (水)	(講義) 看護教育における評価の視点と 評価方法の検討 筑波大学医療技術短期大学部 高島 尚美 先生	昼休み (昼食)	(講義) 教育心理学の視点による教育方法の改善 昭和大学保健医療学部 久保田 まり 先生	
8月 8日 (木)	看護過程の展開 (ペーパーペイシェントによる演習)	移 動	施設見学 (14:30~16:00) 北里大学病院救急救命センター	
8月 9日 (金)	(講義) 地域看護評価論 東京都立保健科学大学 保健学部看護学科 猫田 泰敏 先生	昼休み (昼食)	(講義) 成人看護学・老人看護学の授業展開 川崎市立看護短期大学 真部 昌子 先生	
8月10日 (土)	(講義) 看護研究とその指導法 (看護文献・情報の活用など) 東京都立保健科学大学 保健学部看護学科 塚本 尚子 先生			
8月12日 (月)	(講義) 臨地実習教育の在り方 千葉大学看護学部 大室 律子 先生	昼休み (昼食)	(講義) 精神看護学臨地実習の指導 群馬県立精神医療 センター看護部長 坂田 三允 先生	15:30
8月13日 (火)	(講義) 在宅看護論 (臨地実習含む) の 授業展開と臨地実習指導 千葉大学看護学部 石垣 和子 先生	昼休み (昼食)	研究協議 衛生看護科における 教育の現状と課題 文部科学省 大橋 泰久 氏	閉講式 —

*実施場所：愛国高等学校 ただし、8月8日(木) 午後は北里大学病院救急救命センター

I 研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習（看護：F－1－2）		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 （趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年 8月19日（月）～平成14年 8月27日（火）	8	日間
参加人数	計画人数：30人	受講者数：29人	（参加率）：96.7%
開催場所	熊本大学教育学部		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	14人	48.3%	15人	51.7%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 有意義な時間を過ごすことができた。これからの授業展開に生かせるよう努力したい。
(多数)
- 幅広い知識を得ることができた。勉強の工夫の必要性を強く感じた。
- 実際の例を交え、とてもわかりやすい。
- このような研修を続けて欲しい。さらに、これをもっと深めてもらいたい。
- グループワークは高校と専攻科が混じっており、意見がまとめるに難しかった。(多数)
- 教授法の紹介は大変参考になった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講 習 会 日 程 表

1. 講習会日程 : 8月19日(月)～8月27日(火) 8日間
 2. 講習時間 : 午前の部 9:30～12:30 3時間
 : 午後の部 13:30～16:30 3時間
 3. 日程表

日 程	午 前 の 部	午 後 の 部
8月19日(月)	研究協議 : 高等教育及び看護教育の現状と課題1 指導助言 : 木原 信市 教授	講義 : 看護学の体系と看護教育課程 講師 : 河瀬 比佐子 助教授
8月20日(火)	講義 : 看護理論と看護過程 講師 : 花田 妙子 助教授	講義 : 看護過程と看護診断 講師 : 花田 妙子 助教授
8月21日(水)	講義 : 看護教育技法 講師 : 花田 妙子 助教授	講義 : 成人看護学の授業展開 講師 : 谷口 まり子 助教授
8月22日(木)	講義 : 在宅看護学の授業展開1 講師 : 東 清巳 講師	実習 : 在宅看護学の授業展開2 講師 : 東 清巳 講師
8月23日(金)	講義 : 老人看護学の授業展開 講師 : 河瀬 比佐子 助教授	実習 : 施設見学(医学部附属病院) 講師 : 木原 信市 教授 実習助手 : 梅木 彰子 助手 木子 莉瑛 助手
8月24日(土)	講義 : 母子看護学の授業展開 講師 : 上田 公代 教授	
8月26日(月)	実習 : 臨地実習の教育技法1 講師 : 上田 公代 教授 谷口 まり子 助教授 実習助手 : 梅木 彰子 助手 木子 莉瑛 助手	実習 : 臨地実習の教育技法2 講師 : 上田 公代 教授 谷口 まり子 助教授 実習助手 : 梅木 彰子 助手 木子 莉瑛 助手
8月27日(火)	講義 : 高等教育及び看護教育の動向 講師 : 木原 信市 教授 指導助言 : 大橋 泰久 教科調査官	研究協議 : 高等教育及び看護教育の現状と課題2 指導助言 : 木原 信市 教授

I 研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習（看護：F－2）		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 （趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年 7月29日（月）～平成14年 8月 6日（火）	8	日間
参加人数	計画人数：30人	受講者数：16人	（参加率）：53.3%
開催場所	大阪府立白菊高等学校		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	11人	68.8%	4人	25.0%	0人	0.0%	1人	6.3%

2. 研修内容に関する主な意見

- 大きな医療の変化に伴い、今後の看護について、これからの方向性を考える良い機会となりました。
- 同じ教育者の視点で、看護の在り方が講義され、自己を振り返る良い機会となった。
- 成人看護、「手術の看護」について大変参考になった。
- 安全、安楽な環境への取り組みや工夫がとても参考になった。
- 教職の年数を重ねても、勉強をする姿勢が大切であることを痛感した。
- 同じ悩みを持つ先生方と接することができ、勇気とやる気もらった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成14年度新産業技術等指導者養成講習日程

(看護、F-2)

全国看護高等学校長協会

日 時	9:30	10:00	12:30	13:30	16:30
7月29日 (月)	受 付 及び 開 講 式	(講義)「看護研究の進展と動向」 大阪大学医学部保健学科 早川 和生 先生	昼休み (昼食)	(講義)「医療文化論」 近畿大学医学部 清水 忠彦 先生	
7月30日 (火)		(講義)「出生をめぐる倫理問題」 大阪大学大学院医学系研究科 霜田 求 先生	昼休み (昼食)	(講義)「循環器疾患治療の進展」 大阪大学医学部保健学科 三上 洋 先生	
7月31日 (水)		(講義)「先天異常児の包括的医療」 大阪大学医学部保健学科 永井 利三郎 先生	昼休み (昼食)	(施設見学) 大阪府立母子保健総合医療センター	
8月 1日 (木)		(講義)「IT革命に伴う看護の在り方」 (情報処理室での演習を含む) 兵庫県立看護大学 川口 孝泰 先生	昼休み (昼食)	(講義)「外科及び移植医療の動向」 大阪大学医学部保健学科 城戸 良弘 先生	
8月 2日 (金)		(講義)「免疫及びアレルギー疾患の動向」 大阪大学医学部保健学科 荻野 敏 先生	昼休み (昼食)	(講義)「栄養管理技術の進展」 大阪大学医学部保健学科 高木 洋治 先生	
8月 3日 (土)		(講義)「感染症の起こる仕組み」 大阪大学医学部保健学科 土肥 義胤 先生			
8月 5日 (月)		(講義)「生殖医療技術の進展と動向」 大阪大学医学部保健学科 大橋 一友 先生	昼休み (昼食)	(講義)「精神保健看護学の現状と動向」 大阪大学医学部保健学科 國生 拓子 先生	
8月 6日 (火)		(講義)「高校教育及び看護教育の動向」 文部科学省 大橋 泰久 氏	昼休み (昼食)	(研究)「衛生看護科における教育の現 状と課題」 文部科学省 大橋 泰久 氏	15:30 閉 講 式

*実施場所：大阪府立白菊高等学校

ただし、7月31日(水) 午後は大阪府立母子保健総合医療センター

I 研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習 (技術：G-1)			
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係			
研修目的 (趣旨)	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、中学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。			
対 象	中学校の技術・家庭科担当教員等又は教育委員会の関係指導主事			
開催期日	平成14年 8月19日(月) ～ 平成14年 8月23日(金)	5 日間		
参加人数	計画人数	47人	受講者数	49人 (参加率) 104.3%
開催場所	千葉大学教育学部			

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	21人	42.9%	26人	53.1%	2人	4.1%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- ものづくりの原点を大切にすることの意義を学ぶことができた。
- アクリル板の加工は大変勉強になった。
- 他府県の先生と協力し、意見を交わしながら作業を行うことができたのは、今回の講習で得た、一番のものだった。
- リサイクルへの取り組みの考え方、リサイクルへの対応方法が参考になった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成14年度新産業技術等指導者養成講習日程

(技術G-1)

	9:00	10	11	12	13	14	15	16	17
8月 19(月) (教室)	開講式 (2208)	講義 (渡邊) 休 (本講座の趣旨) (評価基準・方法) (新学習指導要領をふまえて) (2208)	講義 (渡邊) 休 (評価基準・方法) (2208)	休	実習 (渡邊) (プラスチックによる木材加工用ジグの製作)	休	実習 (渡邊)		
20(火) (教室)	本日の学習 のポイント (各班ごとに、動力発生のおくみ関係部品、シャーシー関係部品に則して、使用条件と構成素材の関係について体験的に学習する) (2208)	休	体験的学習 (5102、附中・技術室)	休	体験的学習 (同左)	休	講義 (松田) 「自動車に使用されている新素材」 (2208)		体験的学習 (5102、附中・技術室)
21(水) (教室)	本日の学習 のポイント (各班ごとに、動力発生のおくみ関係部品、シャーシー関係部品に則して、使用条件と構成素材の関係について体験的に学習する) (5102)	休	体験的学習 (5102、附中・技術室)	休	体験的学習 (同左)	休	体験的学習 (同左)		
22(木) (教室)	本日の学習 のポイント (各班ごとに、ボディ関係の部品、ブレーキ関係の部品に関して、実際の部品に則して、使用条件と構成素材の関係について体験的に学習する) (5102)	休	体験的学習 (5102、附中・技術室)	休	体験的学習 (同左)	休	体験的学習 (同左)		
23(金) (教室)	本日の学習 のポイント (各班ごとに、ボディ関係の部品、ブレーキ関係の部品に関して、実際の部品に則して、使用条件と構成素材の関係について体験的に学習する) (5102)	休	体験的学習 (5102、附中・技術室)	休	体験的学習 (同左)	休	体験的学習 (同左)		

体験的学習は、参加者が50名と多いため、4班に分かれて行います。班分けは、事前にお願ひしますアンケートをもとに行います。参加者との事前の連絡のために、専用のホーム・ページをつくります。本件問ひあわせ先のメールアドレスへアクセス下さい。

I 研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習 (技術：G-2-1)		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 (趣旨)	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、中学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	中学校の技術・家庭科担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年 9月30日(月) ～ 平成14年10月11日(金)	10 日間	
参加人数	計画人数：32人	受講者数：19人	(参加率)：59.4%
開催場所	宮城県教育研修センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	17人	89.5%	2人	10.5%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 評価の話題等、タイムリーなテーマが多く、勉強になった。
- 10日間が大変充実していた。今回学んだことをベースに、自分なりに勉強していきたい。
- 動画の取り込み、音声、バックミュージック等の使い方がわかり、今後に生かせると思った。
(多数)
- 各学校のコンピュータ整備の格差を知り、それぞれの課題に対して技術・家庭科教師の役割の重要性を知った。
- 他県との情報交換もあり、参考になることが多かった。
- 授業で活用できるプリントやソフトウェアがもう少し工夫されれば、研修での内容が授業にすぐに役立つと思う。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成14年度新産業技術等指導者養成講習日程

(技術、G-2-1)

社団法人 日本教育工学会

	9:00	午 前	12:00	13:00	午 後	16:00	教室名
第1日 9/30 (月)	受付 9:30~	オリエンテーション (10:00~ (開講式) (10:30~	(講演)技術・家庭における 情報教育の在り方 講師:国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 渡邊 康夫	(講義)宮城県における 情報教育の現状と課題 講師:宮城県教育研修センター 情報教育班長 西 重明	(講義)技術・家庭 における情報教育 の現状 講師:宮城県教育庁研修免許班 管理主事 千葉 繁美		講義室 (II)
第2日 10/1 (火)	(講義・実習)ネットワーク技術と活用Ⅰ (ネットワークの概要) 講師:利府町立利府小学校 教諭 須藤 淳 塩竈市立浦戸中学校 教諭 山口 孝彦			(講義・実習)ネットワーク技術と活用Ⅱ (基本的なネットワークのシステム概要) 講師:利府町立利府小学校 教諭 須藤 淳 塩竈市立浦戸中学校 教諭 山口 孝彦			第四 実習室
第3日 10/2 (水)	(講義・実習)ネットワーク技術と活用Ⅲ (ネットワークシステムの構築と設定) 講師:利府町立利府小学校 教諭 須藤 淳 塩竈市立浦戸中学校 教諭 山口 孝彦			(講義・実習)ネットワーク技術と活用Ⅳ (教室LANの実践) 講師:利府町立利府小学校 教諭 須藤 淳 塩竈市立浦戸中学校 教諭 山口 孝彦			第四 実習室
第4日 10/3 (木)	(講義・実習)マルチメディア技術の活用Ⅰ (マルチメディアのデータ形式) 講師:気仙沼市立新月中学校 教諭 小野寺 幸博 塩竈市立第三中学校 教諭 菊地 博明			(講義・実習)マルチメディア技術の活用Ⅱ (マルチメディアを活用するシステム) 講師:気仙沼市立新月中学校 教諭 小野寺 幸博 塩竈市立第三中学校 教諭 菊地 博明			第二 実習室
第5日 10/4 (金)	(講義・実習)マルチメディア技術の活用Ⅲ (プレゼンテーションの手法) 講師:気仙沼市立新月中学校 教諭 小野寺 幸博 塩竈市立第三中学校 教諭 菊地 博明			(講義・実習)各種ソフトウェアの紹介 講師:(社)日本教育工学会			第二 実習室
第6日 10/7 (月)	(講義・実習)プログラムと計測・制御Ⅰ 講師:宮城教育大学 助教授 水谷 好成 東北学院大学 助教授 岩本 正敏 仙台市立高森中学校 教諭 工藤 哲			(講義・実習)プログラムと計測・制御Ⅱ 講師:宮城教育大学 助教授 水谷 好成 東北学院大学 助教授 岩本 正敏 仙台市立高森中学校 教諭 工藤 哲			第二 実習室
第7日 10/8 (火)	(講義・実習)プログラムと計測・制御Ⅲ 講師:宮城教育大学 助教授 水谷 好成 東北学院大学 助教授 岩本 正敏 仙台市立高森中学校 教諭 工藤 哲			(講義・実習)プログラムと計測・制御Ⅳ 講師:宮城教育大学 助教授 水谷 好成 東北学院大学 助教授 岩本 正敏 仙台市立高森中学校 教諭 工藤 哲			第二 実習室
第8日 10/9 (水)	(講義・実習)インターネットと学校教育Ⅰ (情報モラルとインターネット) 講師:名取市立第一中学校 教諭 小野 久行 中田町立上沼小学校 教諭 高山 光義			(講義・実習)インターネットと学校教育Ⅱ (Webページ作成) 講師:名取市立第一中学校 教諭 小野 久行 中田町立上沼小学校 教諭 高山 光義			第二 実習室
第9日 10/10 (木)	(講義・実習)インターネットと学校教育Ⅲ (Webページ作成) 講師:名取市立第一中学校 教諭 小野 久行 中田町立上沼小学校 教諭 高山 光義			(講義・実習)インターネットと学校教育Ⅳ (Webページ作成の成果発表と協議) 講師:名取市立第一中学校 教諭 小野 久行 中田町立上沼小学校 教諭 高山 光義			第二 実習室
第10日 10/11 (金)	(講義・協議)研修成果の 協議と発表 講師:宮城県古川教育事務所 指導主事 星 豪 宮城県教育研修センター 指導主事 矢戸 健悦			(講義)これからの 情報教育 講師:宮城教育大学 助教授 水谷好成			講義室 (II)

I 研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習 (技術：G-2-2)		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 (趣旨)	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、中学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	中学校の技術・家庭科担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年 7月29日(月) ～ 平成14年 8月 9日(金)	10 日間	
参加人数	計画人数：34人	受講者数：20人	(参加率)：58.8%
開催場所	東京都立科学技術高等学校		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	14人	70.0%	6人	30.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- マルチメディア教材の開発実習がとても楽しく勉強になりました。また、教材作成のポイントをはじめ、プレゼンテーションの手法等の講義も今後に即生させる内容であり大変参考になりました。
- 自分の知識や技術を高めるとともに、今まで持っていた不安や迷いがほとんどなくなり方向性を得ることができた。
- 大変実のある研修でした。人的ネットワークの重要性を感じました。他県の人たちとの情報交換をしながら地域に戻って、情報分野のハード、ソフト面の充実を訴えていきたい。
- 情報活用がいかに大切かを実感いたしました。大変勉強になりました。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成14年度新産業技術等指導者養成講座日程表
(技術、G-2-2) 社団法人 日本教育工学会

	9:00	午 前	12:00	13:00	午 後	16:00	教室名
第1日 7/29 (月)	受付 9:00~	オリエンテーション (9:30~ (開講式) (10:00~	(講演) 技術・家庭における 情報教育の在り方 講師: 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 渡邊 康夫	(講義・協議) 各都道府県における情報教育の現状と課題 講師: 東京都教育庁指導部 主任指導主事 岩佐 哲男			4 F 437 情報技術室
第2日 7/30 (火)	(講義) これからのネットワーク技術Ⅰ (ネットワークの概要) 講師: アライドテレシス株式会社 中塚 郁恵 新里由紀子		(講義・実習) これからのネットワーク技術Ⅱ (基本的なネットワークのシステム概要) 講師: アライドテレシス株式会社 中塚 郁恵 新里由紀子				4 F 437 情報技術室
第3日 7/31 (水)	(講義・実習) これからのネットワーク技術Ⅲ (ネットワークシステムの構築) 講師: アライドテレシス株式会社 中塚 郁恵 新里由紀子		(講義) これからのネットワーク技術Ⅳ (教室内LANの実践) 講師: 通信・放送機構 主任研究員 大島 克己				4 F 437 情報技術室
第4日 8/1 (木)	(講義) マルチメディア技術Ⅰ (マルチメディアのデータ形式) 講師: 筑波大学附属駒場中・高等学校 教諭 市川 道和		(講義・実習) マルチメディア技術Ⅱ (マルチメディアを活用するシステム) 講師: 筑波大学附属駒場中・高等学校 教諭 市川 道和				4 F 第2 デザイン室
第5日 8/2 (金)	(講義・実習) マルチメディア技術Ⅲ (プレゼンテーションの手法) 講師: 筑波大学附属駒場中・高等学校 教諭 市川 道和		(講義・実習) 各種ソフトウェアの紹介 講師: 東京工業大学 研究員 高橋 晴夫				4 F 第2 デザイン室 437情報 技術室
第6日 8/5 (月)	(講義・実習) プログラムと計測・制御Ⅰ 講師: スズキ教育ソフト(株) 技師・課長 阿久津 一史 中山 正教		(講義・実習) プログラムと計測・制御Ⅱ 講師: スズキ教育ソフト(株) 技師・課長 阿久津 一史 中山 正教				4 F 437 情報技術室
第7日 8/6 (火)	(講義・実習) プログラムと計測・制御Ⅲ 講師: スズキ教育ソフト(株) 技師・課長 阿久津 一史 中山 正教		(講義・実習) プログラムと計測・制御Ⅳ 講師: スズキ教育ソフト(株) 技師・課長 阿久津 一史 中山 正教				4 F 437 情報技術室
第8日 8/7 (水)	(講義) インターネットと学校教育Ⅰ (情報モラルとインターネット) 講師: 横浜国立大学教育人間科学部 教授 中村 祐治		(講義・実習) インターネットと学校教育Ⅱ 講師: 台東区立桜橋中学校 教諭 石出 勉 東京学芸大学 鈴木 恵介				4 F 437 情報技術室
第9日 8/8 (木)	(講義・実習) インターネットと学校教育Ⅲ 講師: 台東区立桜橋中学校 教諭 石出 勉 東京学芸大学 鈴木 恵介		(講義・実習) インターネットと学校教育Ⅳ 講師: 通信・放送機構 主任研究員 大島 克己 台東区立桜橋中学校 教諭 石出 勉 東京学芸大学 鈴木 恵介				4 F 437 情報技術室
第10日 8/9 (金)	(講義・協議) 研修成果の 発表と協議 講師: 東京都教職員研修センター 統括指導主事 太田達郎	(講義) 技術科に おける評価について 講師: 国立教育政策研究所 教育課程調査官 渡邊 康夫	(閉講式) (12:00~ (社)日本教育工学会・他				4 F 437 情報技術室

I 研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習（技術：G-2-3）		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 （趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、中学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	中学校の技術・家庭科担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年10月21日（月）～平成14年11月1日（金）	10日間	
参加人数	計画人数：34人	受講者数：17人	（参加率）：50.0%
開催場所	愛知県総合教育センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	13人	76.5%	4人	23.5%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 内容的に大変充実した研修であった。現場ですぐに使えるものもあるので、学校に帰ったら試してみたい。
- 評価の面まで踏み込んだ内容で、大変役に立った。
- 学校現場での設定に役立った。
- 自分達で取り組んでいる制御との比較ができ、良かったと思う。
- 他県の先生との交流もでき、様々な情報交換ができた。内容が盛りだくさんの研修で勉強になった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成14年度新産業技術等指導者養成講習日程

(技術、G-2-3)

社団法人 日本教育工学会

	9:00	午 前	12:00	13:00	午 後	16:00	教室 名
第 1 日 10/21 (月)	受付 9:30~	オリエンテーション (10:00~ (開講式) (10:30~	(講演) 技術・家庭における 情報教育の在り方 講師: 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 渡邊 康夫	(講義・協議) 情報教育について 講師: 愛知県総合教育センター 研究指導主事 鈴木 環	(講義・協議) ネットワークの基礎 講師: 愛知県総合教育センター 研究指導主事 森田 満夫 研究指導主事 深沢 国良 研究指導主事 伊藤 博行	視聴覚室 第3 実習室	
第 2 日 10/22 (火)	(講義・実習) ネットワークの構築と基本設定 講師: 愛知県総合教育センター 研究指導主事 森田 満夫 研究指導主事 深沢 国良 研究指導主事 伊藤 博行			(講義・実習) インターネットの利用 講師: 愛知県総合教育センター 研究指導主事 森田 満夫 研究指導主事 深沢 国良 研究指導主事 伊藤 博行		第3 実習室	
第 3 日 10/23 (水)	(講義・実習) ネットワークの運用と保守Ⅰ 講師: 愛知県総合教育センター 研究指導主事 森田 満夫 研究指導主事 深沢 国良 研究指導主事 伊藤 博行			(講義・実習) ネットワークの運用と保守Ⅱ 講師: 愛知県総合教育センター 研究指導主事 森田 満夫 研究指導主事 深沢 国良 研究指導主事 伊藤 博行		第3 実習室	
第 4 日 10/24 (木)	(講義・実習) マルチメディア技術の活用Ⅰ (マルチメディアのデータ形式) 講師: 愛知県総合教育センター 研究指導主事 山内 賢一 スズキ教育ソフト インストラクター 長井 真由美 インストラクター 加藤 智奈美 中村 修己			(講義・実習) マルチメディア技術の活用Ⅱ (マルチメディアを活用するシステム) 講師: スズキ教育ソフト(株) インストラクター 長井 真由美 インストラクター 加藤 智奈美 中村 修己		第3 実習室	
第 5 日 10/25 (金)	(講義・実習) マルチメディア技術の活用Ⅲ (プレゼンテーションの手法) 講師: スズキ教育ソフト(株) インストラクター 長井 真由美 インストラクター 加藤 智奈美 中村 修己			(講義・実習) マルチメディア技術の活用Ⅳ (データ作成と発表) 講師: スズキ教育ソフト(株) インストラクター 長井 真由美 インストラクター 加藤 智奈美 中村 修己		第3 実習室	
第 6 日 10/28 (月)	(講義・実習) プログラムと計測・制御 (制御技術とプログラム作成) 講師: 愛知県総合教育センター 研究指導主事 山内 賢一 スズキ教育ソフト 技師・課長 阿久津 一史 課長 内山 文寿			(講義・実習) 動く模型の製作と計測・制御Ⅰ (キューブベリックを活用したプログラミング) 講師: スズキ教育ソフト(株) 技師・課長 阿久津 一史 課長 内山 文寿		電工室 第3 実習室	
第 7 日 10/29 (火)	(講義・実習) 動く模型の製作と計測・制御Ⅱ (プログラムによるマイコンの制御) 講師: スズキ教育ソフト(株) 技師・課長 阿久津 一史 課長 内山 文寿			(講義・実習) 各種ソフトウェアの紹介 講師: (社)日本教育工学会		第3 実習室	
第 8 日 10/30 (水)	(講義) インターネットの概要と学校での利用 講師: 愛知県総合教育センター 研究指導主事 太田 守彦 研究指導主事 鈴木 環 研究指導主事 伊藤 博行			(講義・実習) インターネットの活用と電子メールの利用 講師: 愛知県総合教育センター 研究指導主事 太田 守彦 研究指導主事 鈴木 環 研究指導主事 伊藤 博行		第3 実習室	
第 9 日 10/31 (木)	(講義・実習) Webページの作成Ⅰ 講師: 愛知県総合教育センター 研究指導主事 太田 守彦 研究指導主事 鈴木 環 研究指導主事 伊藤 博行			(講義・実習) Webページの作成Ⅱ 講師: 愛知県総合教育センター 研究指導主事 太田 守彦 研究指導主事 鈴木 環 研究指導主事 伊藤 博行		第3 実習室	
第10日 11/1 (金)	(講義・協議) 研修成果の 協議と発表 講師: 愛知県総合教育センター 研究指導主事 山内 賢一		(講義) これからの 情報教育 講師: 朝日大学 教授 奥山 徹	(閉講式) (12:10~ (社)日本教育工学会・他		第3 実習室	

I 研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習（技術：G-2-4）		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 (趣旨)	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、中学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	中学校の技術・家庭科担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年 6月24日(月) ～ 平成14年 7月 5日(金)	10 日間	
参加人数	計画人数：38人	受講者数：8人	(参加率)：21.1%
開催場所	大阪府教育センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	5人	62.5%	3人	37.5%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 今の情報教育に必要である内容を考えられ研修できるようになっていたのも、大変よかった。
- 大学の先生より話が聞けて現在のコンピュータ教育で何が問題であるかがつかめた。全国的な傾向もよくわかった。
- よい研修の機会であった。
- どの講座も大変役に立った。
- 飽きのこない内容で充実していた。
- 最適な環境の中で研修させていただき、感謝しています。
- 各県の先生方と話ができてとてもよかった。また専門的な事項を数多く学ぶことができてよかった。
- 今後の取り組みの良い参考になった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成14年度新産業技術等指導者養成講習日程

(技術、G-2-4)

社団法人 日本教育工学会

	9:30	午 前	12:30	13:30	午 後	16:30	教室名
第1日 6/24 (月)	受付 9:30~	オリエンテーション (10:00~) (開講式) (10:30~)	(講義) 情報教育における 技術・家庭の在り方 講師: 国立教育政策研究所 教育課程調査官 渡邊 康夫	(講義) 技術科における 評価について 講師: 国立教育政策研究所 教育課程調査官 渡邊 康夫	(講義・協議) 各都道府県における 情報教育の現状と課題 講師: 大阪府教育センター 主任指導主事 山田 幸男		視聴覚 研修室 (2)
第2日 6/25 (火)	(講義・実習) マルチメディア技術Ⅰ 講師: スズキ教育ソフト(株) 杉村 智恵子 江原 美帆			(講義・実習) マルチメディア技術Ⅱ 講師: スズキ教育ソフト(株) 杉村 智恵子 江原 美帆			材料計測 実験室
第3日 6/26 (水)	(講義・実習) 計測・制御Ⅰ 講師: スズキ教育ソフト(株) 阿久津 一史 江原 美帆			(講義・実習) 計測・制御Ⅱ 講師: スズキ教育ソフト(株) 阿久津 一史 江原 美帆			材料計測 実験室
第4日 6/27 (木)	(講義・実習) 計測・制御Ⅲ 講師: 岸和田市立春木中学校 教諭 西岡 隆 大阪府教育センター専門教育室 指導主事 福岡 優			(講義・実習) 計測・制御Ⅳ 講師: 岸和田市立春木中学校 教諭 西岡 隆 大阪府教育センター専門教育室 指導主事 福岡 優			電子技術 実験室
第5日 6/28 (金)	(講義・実習) ネットワーク技術Ⅰ 講師: 有限会社トランステック 代表取締役 川本 俊行 大阪府教育センター専門教育室 指導主事 阿部 政之			(講義・実習) ネットワーク技術Ⅱ 講師: 有限会社トランステック 代表取締役 川本 俊行 大阪府教育センター専門教育室 指導主事 阿部 政之			材料計測 実験室
第6日 7/1 (月)	(講義・実習) ネットワーク技術Ⅲ 講師: 有限会社トランステック 代表取締役 川本 俊行 大阪府教育センター専門教育室 指導主事 阿部 政之			(講義・実習) ネットワーク技術Ⅳ 講師: 有限会社トランステック 代表取締役 川本 俊行 大阪府教育センター専門教育室 指導主事 阿部 政之			材料計測 実験室
第7日 7/2 (火)	(講義・実習) マルチメディア技術Ⅲ 講師: スカイ・シンク・システム(株) 主任技師 森下 和彦 小原 哲也			(講義・実習) マルチメディア技術Ⅳ 講師: スカイ・シンク・システム(株) 主任技師 森下 和彦 小原 哲也			プログラミング 研修室 (2)
第8日 7/3 (水)	(講義) インターネットと学校教育 講師: 大阪府教育センター専門教育室 指導主事 角谷 知彦			(講義・実習) ホームページ作成Ⅰ 講師: 大阪府教育センター専門教育室 指導主事 角谷 知彦 指導主事 今田 晃一 指導主事 門田 浩一			プログラミング 研修室 (2)
第9日 7/4 (木)	(講義・実習) ホームページ作成Ⅱ 講師: 大阪府教育センター専門教育室 指導主事 今田 晃一 指導主事 門田 浩一			(講義・実習) ホームページ作成Ⅲ 講師: 大阪府教育センター専門教育室 指導主事 今田 晃一 指導主事 門田 浩一			プログラミング 研修室 (2)
第10日 7/5 (金)	(講義) これからの 情報教育 講師: 大阪教育大学 教授 越桐 国雄			(講義・協議) 研修成果の 発表と協議 講師: 大阪府教育センター 主任指導主事 山田 幸男			プログラミング 研修室 (2)
	(閉講式) (12:30~)			(社) 日本教育工学会・他			

大阪府教育センター

I 研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習（技術：G-2-5）		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 (趣旨)	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、中学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	中学校の技術・家庭科担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年11月18日(月) ～ 平成14年11月29日(金)	10 日間	
参加人数	計画人数	38人	受講者数 21人 (参加率) 55.3%
開催場所	鳥取県教育研修センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	18人	85.7%	3人	14.3%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 技術と情報教育をどのようにリンクさせるか、どのように「ものづくり」と情報を融合するのかについて考えることができた。
- 小学校、高校とのつながりで、どのような情報教育を行うべきか等の参考になる内容ばかりであった。
- 同じ県でも、それぞれの地区での取り組みがかなり差があった。そのことを認識することができ、非常に有益であった。
- 難しいこともわかりやすく指導していただき、その内容はもちろん、その元となっている考え方に触れることができ、非常に為になった。
- 「プログラムと計測・制御」は、以前から取り組みたい内容であったので、大変参考になった。技術科の今後に大きくかわる内容だと考える。
- 全ての教材がスキルアップに役立った。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成14年度新産業技術等指導者養成講習日程表
(技術、G-2-5) 社団法人 日本教育工学会

	9:00	午 前	12:00	13:00	午 後	16:00	教室名
第1日 11/18 (月)	受付 9:00～	オリエンテーション (9:30～) (開講式) (10:00～)	(講演) 技術・家庭における 情報教育の在り方 講師：国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 渡邊 康夫	(研究・協議) 各都道府県における情報教育の現状と課題 講師：鳥取県教育センター 情報教育課長 安田 暢宏 研修主事 池田 康敏			本館3F 第3 研修室
第2日 11/19 (火)	(講義・実習)プログラムと計測・制御Ⅰ 講師：藤枝市立西益津中学校 教 諭 紅林 秀治 日本教育工学会 三谷新太郎			(講義・実習)プログラムと計測・制御Ⅱ 講師：藤枝市立西益津中学校 教 諭 紅林 秀治 日本教育工学会 三谷新太郎			情報館棟 2F パソコン 研修室3
第3日 11/20 (水)	(講義・実習)プログラムと計測・制御Ⅲ 講師：藤枝市立西益津中学校 教 諭 紅林 秀治 日本教育工学会 三谷新太郎			(講義・実習)プログラムと計測・制御Ⅳ 講師：藤枝市立西益津中学校 教 諭 紅林 秀治 日本教育工学会 三谷新太郎			情報館棟 2F パソコン 研修室3
第4日 11/21 (木)	(講義・実習)マルチメディア技術の活用と 教材作成Ⅰ(静止画・動画編集) 講師：株式会社愛進堂アイシナレッジスクール 講 師 田中 慎治 山路 竜也			(講義・実習)マルチメディア技術の活用と 教材作成Ⅱ(静止画・動画編集) 講師：株式会社愛進堂アイシナレッジスクール 講 師 田中 慎治 山路 竜也			情報館棟 1F パソコン 研修室1
第5日 11/22 (金)	(講義・実習)マルチメディア技術の活用と 教材作成Ⅲ(静止画・動画編集) 講師：株式会社愛進堂アイシナレッジスクール 講 師 田中 慎治 山路 竜也			(講義・実習)マルチメディア技術の活用と 教材作成Ⅳ(Web教材の作成) 講師：株式会社愛進堂アイシナレッジスクール 講 師 田中 慎治 山路 竜也			情報館棟 1F パソコン 研修室1
第6日 11/25 (月)	(講義・実習)「情報とコンピュータ」における カリキュラムと評価 講師：筑波大学附属駒場中・高等学校 教 諭 市川 道和			(講義・実習)講義を活かした カリキュラムの作成 講師：筑波大学附属駒場中・高等学校 教 諭 市川 道和			情報館棟 2F パソコン 研修室3
第7日 11/26 (火)	(講義・協議)作成したカリキュラムの 発表と協議 講師：筑波大学附属駒場中・高等学校 教 諭 市川 道和			(演習)各種ソフトウェアの紹介 講師：日本教育工学会			情報館棟 2F パソコン 研修室3
第8日 11/27 (水)	(講義・実習)これからのネットワーク技術Ⅰ (ネットワークの概要) 講師：鳥取大学 助教授 中西 功			(講義・実習)これからのネットワーク技術Ⅱ (基本的なネットワークのシステム概要) 講師：鳥取大学 助教授 中西 功			情報館棟 2F パソコン 研修室2
第3日 11/28 (木)	(講義・実習)これからのネットワーク技術Ⅲ (ネットワークシステムの構築と設定) 講師：鳥取大学 助教授 西田 英樹			(講義・実習)これからのネットワーク技術Ⅳ (教室内LANの実践) 講師：鳥取大学 助教授 西田 英樹			情報館棟 2F パソコン 研修室2
第10日 11/29 (金)	(講義・協議)研修成果の 発表と協議 講師：鳥取県教育委員会 指導主事 澤田 明範 鳥取県教育センター 研修主事 池田 康敏			(講義)これからの 情報教育 講師：鳥取大学 教授 山岸 正明	(閉講式) (12:00～) (社)日本教育工学会・他		本館3F 第3 研修室

I 研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習 (技術：G-2-6)		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 (趣旨)	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、中学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	中学校の技術・家庭科担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年 9月 2日(月) ～ 平成14年 9月13日(金)	10 日間	
参加人数	計画人数：36人	受講者数：13人	(参加率)：36.1%
開催場所	佐賀県教育センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	11人	84.6%	1人	7.7%	0人	0.0%	1人	7.7%

2. 研修内容に関する主な意見

○今回のような研修の受講は大変ためになった。自校に戻り、地域や県内の先生方に伝えていきたい。

○パソコンの組立を初めてしたが、とても勉強になった。

○マルチメディア全般のそれぞれの扱いについて、不得意な所まで学習できた。

○研修の復習をする時間となり、それぞれが考えを意見することで、有意義な話し合いになった。

○他県の先生と交流ができ、情報交換等もできた。2週間は長いようで短かった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成14年度新産業技術等指導者養成講習日程

(技術、G-2-6)

社団法人 日本教育工学会

	9:00	午 前	12:00	13:00	午 後	16:00	教室名
第1日 9/2 (月)	受付 9:00～	オリエンテーション (9:30～) (開講式) (10:00～)	講師:国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 渡邊 康夫	(講演)技術・家庭における の進展とこれからの社会 情報教育の現状と課題 講師:佐賀県教育センター情報課長 田久保真介 佐賀県教育庁学校教育課 指導主事 平川 秀樹	(講義・協議)情報化 各県における		第2情報 講義室 第3情報 パソコン室
第2日 9/3 (火)	(講義・実習)これからのネットワーク技術I (ネットワークの概要) 講師:佐賀県立多久高等学校 鳥栖市立鳥栖西中学校 佐賀県教育センター	教 諭 教 諭 研究員	山下 利秀 下川登志雄 吉野 憲治	(講義・実習)これからのネットワーク技術II (基本的なネットワークのシステム構成)			第2情報 講義室
第3日 9/4 (水)	(講義・実習)これからのネットワーク技術II (通信プロトコルの概要) 講師:鳥栖市立鳥栖西中学校 佐賀県立多久高等学校 佐賀県教育センター	教 諭 教 諭 研修員	下川登志雄 山下 利秀 池田 新	(講義・実習)これからのネットワーク技術III (ネットワークシステムの構築と設定)			第2情報 講義室
第4日 9/5 (木)	(講義・実習)マルチメディア技術の 活用方法と教材作成I (マルチメディアに関する考え方) 講師:佐賀市立城南中学校 教頭 山田 洋 佐賀県教育センター 研究員 築波 真史 佐賀県教育センター 研修員 白濱 正博		(講義・実習)マルチメディア技術の 活用方法と教材作成II (マルチメディアを活用するシステムの構築) 講師:佐賀県教育センター 研修員 池田 勝 佐賀県教育センター 研修員 牛草 智浩				第1情報 パソコン室
第5日 9/6 (金)	(講義・実習)マルチメディア技術の 活用方法と教材作成III (プレゼンテーションをより効果的にする方法) 講師:佐賀県教育センター 研修員 池田 勝 佐賀県教育センター 研修員 牛草 智浩		(演習)各種ソフトウェアの紹介 講師:(社)日本教育工学会				第1情報 パソコン室 第3情報 パソコン室
第6日 9/9 (月)	(講義・実習)プログラムと計測・制御I (アルゴリズムの考え方) 講師:佐賀県教育センター 佐賀県教育センター スズキ教育ソフト(株)	情報教育係長 中原 正幸 研修員 見浦 浩徳 課 長 阿久津一史	(講義・実習)プログラムと計測・制御II (センサーの計測技術)				第1情報 パソコン室 情報準備 室
第7日 9/10 (火)	(講義・実習)プログラムと計測・制御III (インターフェースと制御技術) 講師:佐賀県立佐賀工業高等学校 佐賀県教育センター スズキ教育ソフト(株)	教 諭 研修員 課 長	(講義・実習)プログラムと計測・制御IV (プログラムとアクチュエータ) 山口 智啓 見浦 浩徳 阿久津一史				第1情報 パソコン室
第8日 9/11 (水)	(講義・実習)インターネットと学校教育I (情報教育とホームページ) 講師:佐賀県教育センター 佐賀県教育センター	研究員 研修員	(講義・実習)インターネットと学校教育II (JavaScriptを用いたホームページの作成) 築波 真史 白濱 正博				第1情報 パソコン室
第9日 9/12 (木)	(講義・実習)インターネットと学校教育III (PHPを用いたホームページの作成と テレビ会議の利用) 講師:佐賀県教育センター 研究員 山口光一郎 佐賀県教育センター 研究員 築波 真史		(講義・実習)インターネットと学校教育IV (インターネットシステムの概要と構築設定) 講師:佐賀県教育センター 研究員 山口光一郎 佐賀県教育センター 研修員 白濱 正博				第3情報 パソコン室
第10日 9/13 (金)	(講義・協議)研修成果の 発表と協議 講師:佐賀県教育庁学校教育課 産業教育係長 大串 繁樹	(講義)これからの 情報教育 講師:佐賀大学工学部 教授 近藤 弘樹	(閉講式) (12:00～) (社)日本教育工学会・他				第3情報 パソコン室

I 研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習（家庭：H-1）		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 (趣旨)	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、中学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	中学校の技術・家庭科担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年 7月29日(月) ～ 平成14年 8月 2日(金)	5	日間
参加人数	計画人数：50人	受講者数：53人	(参加率)：106.0%
開催場所	東京学芸大学		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	41人	82.0%	8人	16.0%	1人	2.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

○幼稚園側からの生の意見を聞くことができ、うれしかった。体験学習に対する疑問やわだかまりが無くなった。(多数) ○保育観察も良かったが、園長先生の生の声が聞け、とても参考になった。中学生を受け入れる大変さ等、自分が中学生を連れて行く時は中学生と幼児のかかわりばかり、話を煮詰めていたが、今回改めて受け入れる保育園のありがたさを痛感した。 ○現場で活躍している先生の体験を元にした話は参考になった。 ○全国の先生と情報交換ができたことが何よりの収穫。(多数)

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 新産業技術等指導者養成講習日程表（東京学芸大学）

時 間	9:00	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:00	14:30	15:00	16:00
7月29日 (月)			受 付	開 講 式 ガーデン	(講義) 「乳幼児の発達1」 保育場面の子供の遊びなどについて 発達の側面から説明 (担当) 倉持清美 (東京学芸大学講師) (会場) 生活科学学科研究棟		(講義) 「技術・家庭科の改訂と保育に関する指導」 (担当) 河野 公子 (文部科学省初等中等教育局視学官)			
7月30日 (火)		(講義) 「保育の現代的問題」 現代社会における保育の問題を扱う (担当) 田村 毅 (東京学芸大学講師) (会場) 生活科学学科研究棟		(講義) 「乳幼児の発達2」 保育場面の子供の遊びなどについて 発達の側面から説明 (担当) 倉持清美 (東京学芸大学講師) (会場) 生活科学学科研究棟		(講義) 「保育体験学習指導法1」 子どもの遊びとおもちゃについて扱う (担当) 井口 眞美 (東京学芸大学附属幼稚園 竹早園舎教諭)		(講義) 「保育体験学習指導法2」 (担当) 池崎 喜美恵 (東京学芸大学講師)		
7月31日 (水)		(実習) 「幼児観察1」 約4名毎の13グループに指導者が1名つき、適宜保育所で観察を行う (担当) 田村 毅 (東京学芸大学講師) 倉持 清美 (東京学芸大学講師) 中澤 智恵 (東京学芸大学講師) 東京学芸大学大学院生 13名 (会場) 小金井, 国分寺地区保育園 (13園)				(演習) 「保育体験学習の展開」 パネルディスカッション パネラー 金子 京子 (さいたま市立原山中学校教諭) 井口 眞美 (東京学芸大学附属幼稚園竹早園舎教諭) 阿部 睦子 (東京学芸大学附属中学校教諭) 司会 大竹 美登利 (東京学芸大学教授) 倉持 清美 (東京学芸大学講師)				
8月 1日 (木)		(実習) 「幼児観察2」 約4名毎の13グループに指導者が1名つき、適宜保育所で観察を行う (担当) 田村 毅 (東京学芸大学講師) 倉持 清美 (東京学芸大学講師) 東京学芸大学大学院生 13名 (会場) 小金井, 国分寺地区保育園 (13園)				(演習) 「保育体験学習指導法3」 授業案作成について指導する (担当) 大竹 美登利 倉持 清美 (会場) 生活科学学科研究棟	(演習) 「保育体験学習指導法4」 授業案作成を行う (担当) 大竹 美登利 (東京学芸大学講師) 倉持 清美 (東京学芸大学講師) (会場) 生活科学学科研究棟			
8月 2日 (金)		(演習) 「保育体験学習指導法4」 授業案作成を行う (担当) 大竹美登利 倉持清美 (会場) 生活科学学科研究棟	(演習) 「保育体験学習指導法5」 授業案発表を行う (担当) 大竹 美登利 (東京学芸大学講師) 倉持 清美 (東京学芸大学講師) (会場) 生活科学学科研究棟			(演習) 「保育体験学習指導法5」 授業案発表を行う (担当) 大竹 美登利 (東京学芸大学講師) 倉持 清美 (東京学芸大学講師) (会場) 生活科学学科研究棟		閉 講 式		

I 研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習 (工業：I－1)		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 (趣旨)	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年 7月22日(月) ～ 平成14年 8月30日(金)	30 日間	
参加人数	計画人数：22人	受講者数：13人	(参加率)：59.1%
開催場所	東京大学情報基盤センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	11人	84.6%	1人	7.7%	0人	0.0%	1人	7.7%

2. 研修内容に関する主な意見

- ネットワーク構築、管理、保守、の内容が一番おもしろく、興味深く学習できた。
- サーバーの仕組みを理解できた。また、実習で実際にファイヤウォール等を体験できたことが良かった。
- 確率の問題を現実に解析された講義は興味を引いた。
- 世界のインターネットの現状、これからのあるべき姿が少しわかった。
- 研修で得た知識を学校現場で有効利用できるように頑張っていきたい。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成14年度新産業技術等指導者養成講習日程

(工業, I-1)

委託団体名: 株式会社東大総研

日 時	10	11	12	13	14	15	16	17
7月22日(月)	開講式・オリエンテーション	(講義) 講習カリキュラムと技術概論	昼休み	(トピックス) 工業高校と今後のネットワーク社会 1	休憩	(講義) 本講習と「情報技術」教育について		
7月23日(火)	(実習) Linuxマシンの組み立て実習 ＜組み立て＞ 1		昼休み	(実習) Linuxマシンの組み立て実習 ＜組み立て＞ 1	休憩	(実習) Linuxマシンの組み立て実習 ＜OSインストール＞ 1		
7月24日(水)	(実習) LAN設定実習＜ケーブル作成＞ 2		昼休み	(実習) LAN設定実習＜LAN接続＞ 2	休憩	(実習) LAN設定実習＜アプリケーションのインストール＞ 2		
7月25日(木) ～7月26日(金)	(講義) Unix (Linux) の操作		昼休み	(講義) Unix (Linux) の操作	休憩	(講義) Unix (Linux) の操作		
7月29日(月) ～8月2日(金)	(講義) Javaプログラミング		昼休み	(講義) Javaプログラミング	休憩	(講義) Javaプログラミング		
8月5日(月)	(講義) ネットワーク構築、管理、保守		昼休み	(講義) ネットワーク構築、管理、保守	休憩	(講義) ネットワーク構築、管理、保守		
8月6日(火)	(見学) 東大数理工学見学会		昼休み	(見学) 東大数理工学見学会	休憩	(講義) ネットワーク構築、管理、保守		
8月7日(水) ～8月8日(木)	(講義) ネットワーク構築、管理、保守		昼休み	(講義) ネットワーク構築、管理、保守	休憩	(講義) ネットワーク構築、管理、保守		
8月9日(金)	(トピックス) ビジネスにおけるネットワーク運用 2		昼休み	(講義) ネットワーク構築、管理、保守	休憩	(講義) ネットワーク構築、管理、保守		
8月12日(月) ～8月15日(木)	(講義) ネットワークプログラミング		昼休み	(講義) ネットワークプログラミング	休憩	(講義) ネットワークプログラミング		
8月16日(金)	(実習) 教材・PICNICを使用したコントロール実習 3		昼休み	(実習) 教材・PICNICを使用したコントロール実習 3	休憩	(実習) 教材・PICNICを使用したコントロール実習 3		
8月19日(月)	(トピックス) H8マイコンの概要とH8LANキット用ソフト紹介 3		昼休み	(トピックス) H8マイコンの概要とH8LANキット用ソフト紹介 3	休憩	(トピックス) H8マイコンの概要とH8LANキット用ソフト紹介 3		
8月20日(火)	(課題研究) テーマ設定の説明		昼休み	(課題研究) 各グループでの課題テーマの実施	休憩	(トピックス) 大学研究における情報技術 4		
8月21日(水) ～8月29日(木)	(課題研究) 各グループでの課題テーマの実施		昼休み	(課題研究) 各グループでの課題テーマの実施	休憩	(課題研究) 各グループでの課題テーマの実施		
8月30日(金)	(発表準備・討議) -課題研究成果発表準備 -情報技術教育に関しディスカッション		昼休み	(発表) -研究成果発表	休憩	(発表) -研究成果発表 -閉講式		

実施場所: 東京大学情報基盤センター

I 研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習（工業：Ⅰ－Ⅱ）		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 （趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年 8月19日（月）～平成14年 8月30日（金）	10 日間	
参加人数	計画人数：25人	受講者数：22人	（参加率）：88.0%
開催場所	株式会社内田洋行 教育システム事業部		

Ⅱ アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	12人	60.0%	8人	40.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 企業の利用は、企業に負担を多くかけるが、緊張感の中で商品開発や技術の方向性を伺うことができたのは学習以上の効果が得られたと思う。
- いろいろな書籍で学んだ内容を講義、実習で裏付けできたこと、他の職種の分野におけるIT技術についても情報を得ることができた。
- 実際の社会に目を向けた具体的な話でよかった。
- 画像処理、CGの基本について、大変役立った。
- ウェブ上での必要なもの、どのような技術の使用があるのか、大変役に立った。
- 最新設備をいかに有効利用するかが役に立った。
- 工業高校の在り方、教員の在り方について適切なアドバイスをいただいた。
- 「課題研究・発表」は、まとめとしては大変有意義で良い企画だと思う。

Ⅲ 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成14年度 新産業技術等指導者養成講習日程

(工業, I-2)

社団法人 全国工業高等学校長協会

月日	曜日	9		10		11		12	13		14	15		16		17		18		
8月19日	月								受付	開 講 式	(講義)デジタル化技術の実際									
8月20日	火			(講義・実習)アナログデータのデジタル化技術 基礎			昼休み	(講義・実習)アナログデータのデジタル化技術 基礎												
8月21日	水			(講義・実習)アナログデータのデジタル化技術 基礎			昼休み	(講義・実習)アナログデータのデジタル化技術 基礎												
8月22日	木			(講義・実習)アナログデータのデジタル化技術 応用			昼休み	(講義・実習)アナログデータのデジタル化技術 応用												
8月23日	金			(講義・実習)アナログデータのデジタル化技術 応用			昼休み	(講義・実習)アナログデータのデジタル化技術 応用												
8月24日	土																			
8月25日	日																			
8月26日	月			(講義)画像処理・CGツールの利用技術			昼休み	(講義)インターネットの利用技術 I												
8月27日	火			(実習)インターネットの利用技術 II			昼休み	(実習)インターネットの利用技術 III												
8月28日	水			(見学)最新施設見学 (企業・学校等)			昼休み	(見学)最新施設見学 (企業・学校等)												
8月29日	木			(実習)課題研究 (プレゼンテーション準備)			昼休み	(実習)課題研究 (プレゼンテーション準備)												
8月30日	金			(研究協議)課題発表			昼休み	講義:文部科学省		閉 講 式										

実施場所:株式会社 内田洋行 潮見オフィス 〒135-8730 東京都江東区潮見2-9-15 TEL:03-56734-6397 FAX:03-5634-4088

I 研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習 (商業：J-1)		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 (趣旨)	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年 7月22日(月) ~ 平成14年 8月30日(金)	30 日間	
参加人数	計画人数	24人	受講者数 8人 (参加率) 33.3%
開催場所	財団法人ソフトピアジャパン 全国マルチメディア専門研修センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	6人	75.0%	2人	25.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 今までに経験のない有意義な研修であった。
- 生徒に情報を処理する能力・姿勢・判断する力を身に付けさせたい。
- 自分にとって新しい発見があった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

別紙様式1

NO 1.

平成14年度 新産業技術等 指導者養成講習 日程
(商業 J-1)

財団法人ソフピアジャパン

日時	10	11	12	13	14	15	16	17
7月22日(月)		開講式	オリエンテーション	昼休み	地域ネットワークと公共モデル(特別講義)		ソフピアジャパン施設の視察	
7月23日(火)	人々にとって情報のユビキタスとは何か(特別講義)			昼休み	ユビキタス・コンピューティングを意識した「コミュニティビジネスと地域振興」(特別講義)		商業科の情報教育に求めること(特別講義)	
7月24日(水)	インターインディペンデント時代の人とネットワーク(特別講義・実習)			昼休み	インターインディペンデント時代の人とネットワーク(特別講義・実習)			
7月25日(木)	インターインディペンデント時代の人とネットワーク(特別講義・実習)			昼休み	インターインディペンデント時代の人とネットワーク(特別講義・実習)			
7月26日(金)	フォトショップ			昼休み	フォトショップ			
7月27日(土)	イラストレータ(地図作成)			昼休み	イラストレータ(地図作成)			

実施場所 全国マルチメディア専門研修センター

別紙様式1

NO 2.

平成14年度 新産業技術等 指導者養成講習 日程
(商業 J-1)

財団法人ソフピアジャパン

日時	10	11	12	13	14	15	16	17
7月29日(月)	視 察			昼休み	視 察			
7月30日(火)	HTML			昼休み	HTML			
7月31日(水)	モバイル対応 ホームページ制作			昼休み	モバイル対応 ホームページ制作			
8月1日(木)	モバイル対応 ホームページ制作			昼休み	モバイル対応 ホームページ制作			
8月2日(金)	知的生産の勘どころ(特別講義)			昼休み	知的生産の勘どころ(特別講義)			
8月3日(土)	知的生産の勘どころ(特別講義)			昼休み	知的生産の勘どころ(特別講義)			

実施場所 全国マルチメディア専門研修センター

別紙様式1

NO 3.

平成14年度 新産業技術等 指導者養成講習 日程
(商業 J-1)

財団法人ソフピアジャパン

日時	10	11	12	13	14	15	16	17
8月5日(月)	JAVAプログラミング入門			昼休み	JAVAプログラミング入門			
8月6日(火)	JAVAプログラミング入門			昼休み	JAVAプログラミング入門			
8月7日(水)	サーバー構築			昼休み	サーバー構築			
8月8日(木)	サーバー構築			昼休み	サーバー構築			
8月9日(金)	JAVAプログラミング			昼休み	JAVAプログラミング			
8月10日(土)	JAVAプログラミング			昼休み	JAVAプログラミング			
8月11日(日)	JAVAプログラミング			昼休み	JAVAプログラミング			

実施場所 全国マルチメディア専門研修センター

別紙様式1

NO 4.

平成14年度 新産業技術等 指導者養成講習 日程
(商業 J-1)

財団法人ソフピアジャパン

日時	10	11	12	13	14	15	16	17
8月19日(月)	モバイル対応JAVAプログラミング			昼休み	モバイル対応JAVAプログラミング			
8月20日(火)	モバイル対応JAVAプログラミング			昼休み	モバイル対応JAVAプログラミング			
8月21日(水)	モバイル対応JAVAプログラミング			昼休み	モバイル対応JAVAプログラミング			
8月22日(木)	モバイル対応 アプリケーション開発			昼休み	モバイル対応 アプリケーション開発			
8月23日(金)	モバイル対応 アプリケーション開発			昼休み	モバイル対応 アプリケーション開発			
8月24日(土)	作品制作(モバイル対応 学校案内)			昼休み	作品制作(モバイル対応 学校案内)			

実施場所 全国マルチメディア専門研修センター

別紙様式1

NO 5.

平成14年度 新産業技術等 指導者養成講習 日程

(商業 J-1)

財団法人ソフピアジャパン

日時	10	11	12	13	14	15	16	17
8月26日(月)	作品制作(モバイル対応 学校案内)			昼休み	作品制作(モバイル対応 学校案内)			
8月27日(火)	作品制作(モバイル対応 学校案内)			昼休み	作品制作(モバイル対応 学校案内)			
8月28日(水)	作品制作(モバイル対応 学校案内)			昼休み	作品制作(モバイル対応 学校案内)			
8月29日(木)	作品制作(モバイル対応 学校案内)			昼休み	作品制作(モバイル対応 学校案内)			
8月30日(金)	午前9時開始 作品発表会(研究協議)		学習指導要領の 改訂と情報教育 (特別講義)	閉講式・交流会				

実施場所 全国マルチメディア専門研修センター

I 研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習（商業：J-2）		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 (趣旨)	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。		
対 象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事		
開催期日	平成14年 7月22日(月) ～ 平成14年 8月 2日(金)	10 日間	
参加人数	計画人数：30人	受講者数：26人	(参加率) 86.7%
開催場所	千葉商科大学		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	20人	90.9%	1人	4.5%	0人	0.0%	1人	4.5%

2. 研修内容に関する主な意見

- 新学習指導要領の施行において、科目の新設、統合がなされる中、どのように取り組んでいけばよいのかと言った事が見えてきたように思う。
- 研修で用意されたデータを使用して、アプリケーションの学習に専念できたことは大変良かった。
- 時代の変化をどう指導するか、変化に対応した人材を育てるには等、考えさせられた。有意義な講義だった。
- プレゼンテーションでの大切なことは、「人」だということを痛感した。
- HTML言語を使い、難しいと思っていたホームページの初歩の説明が詳しくなされ、勉強になった。
- 他府県の情報教育の現状を知り、交流をもつことができたのは、良い刺激となった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度新産業技術等指導者養成講座講習日程

科目名 講習番号
商業 J-2

委託団体名
全国商業高等学校長協会

実施場所
千葉商科大学

日 時	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	16:30
					0				
7月22日 (月)	受付	開講式	新指導要領と新しい商業教育 〈 1号館2-1会議室 〉		昼食	「プログラミングの指導」 Visual BASIC-1 (講義・実習) 〈 第6PC実習室 〉			
7月23日 (火)	Visual BASIC-2 (講義・実習) 〈 第6PC実習室 〉					昼食	Visual BASIC-3 (講義・実習) 〈 第6PC実習室 〉		
7月24日 (水)	「ビジネス情報の指導」 VBAの活用-1 (講義・実習) 〈 第6PC実習室 〉				昼食	VBAの活用-2 (講義・実習) 〈 第6PC実習室 〉			
7月25日 (木)	「ビジネス情報の指導」 データベースソフトの活用-1 (講義・実習) 〈 第6PC実習室 〉				昼食	データベースソフトの活用-2 (講義・実習) 〈 第6PC実習室 〉			
7月26日 (金)	データベースソフトの活用-3 (講義・実習) 〈 第6PC実習室 〉				昼食	データベースソフトの活用-4 (講義・実習)	情報モラルとセキュリティ管理 (講義・実習)		
						〈 第6PC実習室 〉			

日 時	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	16:30
					0				
7月29日 (月)	「ビジネス情報の指導」 ネットワークの基礎－1 (講義・実習) < 622教室 >				昼食	ネットワークの基礎 －2 (講義・実習) < 第6PC実習室 >			
7月30日 (火)	「文書デザインの指導」 ホームページと情報発信－1 (講義・実習) < 第6PC実習室 >				昼食	ホームページと情報発信－2 (講義・実習) < 第6PC実習室 >			
7月31日 (水)	「文書デザインの指導」 プレゼンテーションとその指導－1 (講義・実習) < 第6PC実習室 >				昼食	プレゼンテーションとその指導－2 (講義・実習) < 第6PC実習室 >			
	経営情報教育の指導 (講義)		各校のカリキュラムとその狙い (ディスカッション) < 1号館2-1会議室 >			「ビジネス情報」の指導 ビジネス情報の分析と活用 －1 (講義・実習) <第6pc実習室>			
8月2日 (金)	「ビジネス情報」の指導 ビジネス情報の分析と活用－2 (講義・実習) < 第6PC実習室 >				昼食	システム開発の基礎 (講義・実習) < 第6PC実習室 >			閉講式

I 研修概要

研 修 名	学校安全教育指導者研修会（第1回 交通安全）		
担当課係	研修事業第三課 体育・健康教育係		
研修目的 （趣旨）	各学校における交通安全教育及び、防災教育・災害時の心の健康に関する教員等の研修を行ない、安全教育指導者の資質の向上を図り、もって学校安全の充実に資する。		
対 象	国公立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特殊教育諸学校及び養護学校等の交通安全教育に関し、各都道府県において指導的役割を果たしている教員及び教育委員会の交通安全教育担当指導主事等。		
開催期日	平成 6月25日（火）～平成14年 6月28日（金）	4 日間	
参加人数	計画人数：210人	受講者数：169人	（参加率）80.5%
開催場所	独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター		

学校安全教育指導者研修会（第1回及び第2回、7日間）

参加人数	計画人数：210人	受講者数：335人	（参加率）159.5%

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	73人	54.5%	51人	38.1%	1人	0.7%	9人	6.7%

2. 研修内容に関する主な意見

- 実習や演習が多くほしい。
- 資料提示が英文で書かれているのはつらい。
- この研修をもとに学校の指導活動を変えてゆきたい。
- 私見を多く入れている講師や医学的な立場からの説明の講師がいて、学校現場でどう生かしたらよいか不安になった。
- 心配蘇生法は全国で行われている。中央でやる研修の意義がほしい。
- 形式にこだわらない実践的で教育効果の高い試みを紹介していただければ十分。
- パネルディスカッションなど、会場からの意見を反映させやすい講義形式やグループ会の機会を増やしてほしい。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 学校安全教育指導者研修会(第1回) 日程一覧

部会	会場	9:30	10:00	10:30	11:30	12:30	14:45	15:00	17:00
6月25日(火)	全體會	国際会議室	受付	開会式	講義1 「学校における交通安全教育の考え方、進め方」 文部科学省スポーツ・青少年局 体育官 戸田芳雄 【衛星配信予定】	昼食・休憩	シンポジウム 「家庭及び地域社会と連携した学校での交通安全教育の進め方」 ・シンポジスト 愛媛県川之江市立南小学校 教頭 東 誠 熊本県牛深市立魚浦中学校 教諭 波多孝樹 茨城県立佐竹高等学校 教頭 竹下威男 山形県遊佐町教育委員会 指導主事 寺嶋一郎 ・コーディネータ 文部科学省スポーツ・青少年局 体育官 戸田芳雄 【衛星配信予定】	休憩	講義2 「交通安全行動と心理」 大阪大学 名誉教授 長山 泰久 【衛星配信予定】

部会	会場	9:30	12:00	13:00	14:00	14:30	17:00
6月26日(水)	小・中・高棟	401 受付 講義・演習 <小学校部会> 「危険予測を中心とした教材の作成と活用について」 (財)日本交通安全教育普及協会 主幹 石毛昭治 静岡県生活文化部文化政策室 主査 桜井祥行	402 受付 講義・演習 <中学校部会> 「危険予測を中心とした教材の作成と活用について」 (財)日本交通安全教育普及協会 教育専門委員 和田浩明 神奈川県教育庁教育部保健体育課 指導主事 山田 寛	309 受付 講義・演習 <高等学校部会> 「危険予測を中心とした教材の作成と活用について」 広島国際大学 助教授 小川和久 千葉県立松戸南高等学校 教頭 田中敏明	昼食・休憩	講義3 「応急手当の意義と方法 ～心肺蘇生法改訂内容を 中心に～」 金沢大学 名誉教授 村上 誠一	実習1 「心肺蘇生法の手順と方法」 金沢大学 名誉教授 村上 誠一
					会場 センター棟 101	会場 スポーツ棟 第3体育室	

部会	会場	9:30	10:00	11:00	11:15	12:30	13:30	15:00	15:30	17:00
6月27日(木)	小・中・高棟	国際会議室	受付 講義4 「事例に見る自転車事故の現状と指導のポイント」 (財)交通事故総合分析センター 主任研究員 吉田伸一	休憩	講義5 「自転車の実技指導の進め方」 (財)日本交通安全教育普及協会 主幹 石毛昭治	昼食・休憩	実習2 「自転車の特性と安全指導」 (財)日本交通安全教育普及協会 主幹 石毛昭治 (財)日本サイクリング協会 業務第一部長 竹之下 守 他 指導員 7名			
		日本青年館(午前:中ホール) (午後:301会議室) 及び 明治公園	受付 講義6及び実習3 「二輪車の特性と安全指導(理論と実技)」 日本大学 教授 岡野道治 (社)全国二輪車安全普及協会指導員 (8名)		(引き続き) 講義6及び実習3 「二輪車の特性と安全指導(理論と実技)」 (12:30～13:30頃に1時間程度) 日本大学 教授 岡野道治 (社)全国二輪車安全普及協会指導員 (8名)	昼食・休憩	実習2 「自転車の特性と安全指導」 (財)日本交通安全教育普及協会 主幹 石毛昭治 (財)日本サイクリング協会 業務第一部長 竹之下 守 他 指導員 7名	休憩	講義7及び実習4 「自転車の実技指導の進め方」 (財)日本交通安全教育普及協会 教育専門委員 和田浩明 主幹 小池敏男 (補助) 参加指導主事	

部会		9:30		11:00 11:15		15:30 15:45	
6月28日(金)	小	受付	講義 8 「交通事故の責任と補償」 秋田大学 教授 小賀野 晶一	休憩・移動	研究発表・研究協議 <小学校部会> 「小学校における効果的な交通安全教育の進め方」 (発表校) 富山県高岡市立太田小学校 教諭 浦上 千里 (指導助言者) 岡山県教育庁保健体育課 課長補佐 矢萩 恵一 同 同 松村美智子 岡山県教育庁保健体育課 課長補佐 坂根 清貴 同 同 古正 栄司 (司会) 参加指導主事 2名		閉会
	会場 センター棟 416						
	研究発表・研究協議 <中学校部会> 「中学校における効果的な交通安全教育の進め方」 (発表校) 三重県磯部町立の矢中学校 教諭 竹村 里香 東京都あきる野市立秋多中学校 校長 中村 宗嗣 同 養護教諭 西村智津子 埼玉県教育庁生涯学習部健康教育課主任指導主事 松永 勝 同 新潟県長岡市立堤岡中学校 教諭 横山 幹雄 (司会) 参加指導主事 2名						
高	会場	国際交流棟 国際会議室			研究発表・研究協議 <高等学校部会> 「高等学校における効果的な交通安全教育の進め方」 (発表校) 宮城県立上沼高等学校 教諭 大槻 浩義 (指導助言者) 千葉県立君津青葉高等学校 校長 石井 征之 京都府立峰山高等学校 教諭 塩見 正典 茨城県教育庁保健体育課 学校保健係長 仲澤 進 (司会) 参加指導主事 2名		閉会
					会場 センター棟 309		

※ 講義1、シンポジウム、講義2については、平成14年8月1日(木)にエル・ネットを活用した衛星配信研修として配信する予定。

(各都道府県内における受信・再配信計画については、各都道府県教育委員会の本研修会担当課にご確認願います。)

I 研修概要

研 修 名	学校安全教育指導者研修会（第2回 防災・心の教育）		
担当課係	研修事業第三課 体育・健康教育係		
研修目的 （趣旨）	各学校における交通安全教育及び、防災教育・災害時の心の健康に関する教員等の研修を行ない、安全教育指導者の資質の向上を図り、もって学校安全の充実に資する。		
対 象	国公立の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特殊教育諸学校の防災教育・防災時の心の健康について、都道府県内で指導的立場にある教諭及び養護教諭並びに都道府県及び市町村教育委員会の担当指導主事等		
開催期日	平成15年 1月29日（水）～平成15年 1月31日（金）	3 日間	
参加人数	計画人数：210人	受講者数：166人	（参加率）：79.0%
開催場所	独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター		

学校安全教育指導者研修会（第1回及び第2回、7日間）

参加人数	計画人数：210人	受講者数：335人	（参加率）：159.5%

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	57人	55.9%	38人	37.3%	0人	0.0%	7人	6.9%

2. 研修内容に関する主な意見

○各災害の発生の仕方をふまえ、どう対応すべきかの具体的な取り組み例を多く出していただけだと思う。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

(別紙)

平成14年度 学校安全教育指導者研修会 日程一覧

1月29日 (水)	全 体 会	会 場 セ ン タ ー 棟 417 号 室	受 付 式	9:30 10:00 10:30	12:00 13:00	14:50 15:10	17:00
				講義 1 学校における防災教育の充実 文部科学省 スポーツ・青少年局 体育官 戸田 芳雄	講義 2 地震による災害の危険と安全確保の方法 長岡造形大学 教授 平井 邦彦	講義 3 火山噴火による危険と安全確保の方法 休 憩 東京大学 名誉教授 下鶴 大輔	

1月30日 (木)	全 体 会	会 場 セ ン タ ー 棟 417 号 室	受 付	9:30 10:00	12:00 13:00	14:50 15:10	17:00
				講義 4 幼児・児童生徒の犯罪被害の防止 千葉大学 教授 中村 攻	講義 5 気象災害の危険と安全確保の方法 NHK放送用語委員会 専門委員 宮澤 清治	講義 6 幼児・児童生徒の災害時における心の健康について 近畿大学医学部 名誉教授 花田 雅憲	

1月31日 (金)	幼 稚 園 小 学 校 中 学 校 高 等 学 校 心 の 健 康	会 場 セ ン タ ー 棟 502 号 室 403 号 室 405 号 室 409 号 室 415 号 室	受 付 【 各 分 科 会 場 こ と 】	9:30 10:00	12:00 13:00	15:00
				実践発表及び研究協議 1 家庭・地域と連携した幼稚園における効果的な安全教育（防災・防犯）の進め方	実践発表 防災 神奈川県桑野市立西幼稚園園長 木内清子 防犯 東京都台東区立清島幼稚園園長 三好みち子	指導助言 東京都江東区立元加賀幼稚園園長 原本憲子 聖徳大学短期大学部助教授 湯川秀樹
				実践発表及び研究協議 2 家庭・地域と連携した小学校における効果的な安全教育（防災・防犯）の進め方	防災 兵庫県播磨郡太子町立太田小学校校長 中川 望 防犯 青森県青森市立三内西小学校教頭 佐藤有至	埼玉県教育庁生涯学習部健康教育課主任指導主事 松永 勝 東京学芸大学助教授 渡邊正樹
				実践発表及び研究協議 3 家庭・地域と連携した中学校における効果的な安全教育（防災・防犯）の進め方	防災 北海道産部町立産部中学校校長 笹谷和彦 防犯 愛知県豊田町立帯木中学校教頭 雨森唯行	東京都教育庁指導部指導企画課指導主事 新井陽子 神戸大学教授 南 哲
				実践発表及び研究協議 4 家庭・地域と連携した高等学校における効果的な安全教育（防災・防犯）の進め方	防災 静岡県立浜松南高等学校校長 杉本一美 防犯 大阪府立阿武野高等学校教頭 吉村雅昭	茨城県教育委員会保健体育課学校保健係長 仲澤 進 横浜国立大学教授 斎藤 能
				実践発表及び研究協議 5 学校における災害時の児童生徒等の心の健康への対応について	東京都足立区立花保中学校養護教諭 西尾ひとみ 茨城県立那珂高等学校養護教諭 保坂恵子	大阪府立河南高等学校校長 森川英子 東海大学医学部教授 山崎晃寛

I 研修概要

研 修 名	公立小・中学校幹部事務職員研修講座				
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係				
研修目的 (趣旨)	公立の小学校及び中学校の事務職員に必要な研修を行い、事務職員の資質の向上と学校事務の効率的な運営に資する。				
対 象	公立小学校及び中学校の幹部事務職員で、学校事務職員の経験が20年以上、おおむね40歳以上の者				
開催期日	平成14年 8月19日(月) ～ 平成14年 8月28日(水)			10 日間	
参加人数	計画人数	100人	受講者数	94人	(参加率) 94.0%
開催場所	独立行政法人教員研修センター				

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	70人	75.3%	23人	24.7%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- どの講師の方も、とても熱意を持ってご指導いただいた。なかなかお聞きすることのできない第一線の方々のご講義ばかりでとても充実した十日間でした。
- この研修でないと得られない各地区の現場の状況が知ることができた。是非、今後とも続けていただくとともに、できれば、卒をひろげていただけるとありがたい。
- 今回、レポートのテーマと講義の内容がよくあっていたと思います。講義の内容が協議していく上で大変参考になりました。
- 全国の仲間たちの工夫あふれる発表を聞いて、パワーをいっぱいもらいました。
- 文部科学省の施策を直接聞けるのはありがたい。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度公立小・中学校幹部事務職員研修講座 日 程 表

8月19日(月)				13:30	14:10	14:50	15:00	15:10	15:15	16:45	17:00	18:00 ~
				受 付	オリエン テーション	休 憩	開講式	休 憩	講演1 「学校教育に 求めるもの」 (仮称) 大分県臼杵市教育委員会 教育長 岡部 親栄	休 憩	資料交換	情報交換会 レセプションホール
8月20日(火)	「班 別 協 議」	休 憩	講義1 「今日の子どもの 現状と課題」 文部科学省 初等中等教育局 主任視学官 小田 豊	11:45	13:00				16:30			
			屋休み						「班 別 協 議」 (課題レポート協議)			
8月21日(水)	「班 別 協 議」 (写真撮影)	休 憩	講義2 「地方教育行政制度」 文部科学省 初等中等教育局初等中等教育企画課	11:45	13:00			14:20	14:30	16:00		
			屋休み			「班 別 協 議」 (課題レポート協議)	休 憩	講義3 「地方教育財政について」 文部科学省 初等中等教育局財務課				
8月22日(木)			施設見学(宇宙開発事業団筑波宇宙センター)	14:00					16:30			
									「班 別 協 議」 (課題レポート協議)			
8月23日(金)			「班 別 協 議」 (外部講師を交えて)	11:45	13:00			14:30	14:45	17:00		
			屋休み			「班 別 協 議」 (外部講師を交えて)	休 憩			「班 別 協 議」 (課題レポート協議)		
8月24日(土) 8月25日(日)			自由研修									
8月26日(月)	「班 別 協 議」	休 憩	講義4 「学習指導要領について」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課教育課程企画室	11:45	13:00			14:30	14:45	16:15		
			屋休み			講義5 「人事服務について」 文部科学省 初等中等教育局初等中等教育企画課	休 憩	講義6 「開かれた学校づくり と学校外活動の充実」 文部科学省 生涯学習政策局生涯学習推進課				
8月27日(火)	「班 別 協 議」	休 憩	講演2 「企業における人材育成」 横浜ベイシエラトンホテル&タワーズ 研修担当ディレクター 横山 雅弘	11:45	13:00					17:00		
			屋休み						全 体 会 (課題レポート協議/班別協議の発表)			
8月28日(水)			講演3 「学校における 危機管理について」 白鳳女子短期大学 大学長 中本 克美	10:00	11:30	11:40	12:00					
			休 憩			閉 講 式						

I 研修概要

研 修 名	高等学校産業教育実習助手講習　　－農　業－					
担当課係	研修事業第三課　道徳・産業教育係					
研修目的 （趣旨）	高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対し、職務に必要な知識・技術について講習を行い、その資質の向上を図る。					
対　象	高等学校の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として３年以上勤務し、勤務成績の良好な者。					
開催期日	平成１４年　７月３０日（火）　～ 平成１４年　８月　９日（金）	９　日間				
参加人数	計画人数	６０人	受講者数	３０人	（参加率）	５０．０％
開催場所	東京農業大学農学部					

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	20人	76.9%	5人	19.2%	0人	0.0%	1人	3.8%

2. 研修内容に関する主な意見

- 教科教育法では、指導の手法や教科の目標について再認識させられた部分もあり、勉強してステップアップしていかなければと思う。
- ジブティ共和国の沙漠問題を通して、どのような視点で物事を見つめ、何を考え、学ぶべきか改めて考えさせられた。
- 農大の研修は大変素晴らしかった。他大学でも講義、実験、実習等があったが学校に持ち帰るには少しズレがあるものばかりであった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 高等学校産業教育実習助手講習 時間割表

日程	第 1 時限 9:00～10:30	休憩	第 2 時限 10:40～12:10	昼食	第 3 時限 13:00～14:30	休憩	第 4 時限 14:40～16:10	その他
7/30 (火)	受 付 開講式・オリエンテーション(9:00～) (10:00～)				生産環境整備の 科学と技術① 生態系の崩壊と 沙漠化 (塩倉高義)		生産環境整備の 科学と技術③ 乾燥地の生物生産 (高橋久光)	Welcome party キャンパス内レストランけやき 18:00～
7/31 (水)	緑環境創造の 科学と技術① 世界と日本の庭園 (鈴木誠)		緑環境創造の 科学と技術② 世界と日本の公園 (金子忠一)		農業科教育法① (大中正之)		生産環境整備の 科学と技術② 乾燥地域の 荒地緑化 (福永健司)	
8/1 (木)	生産環境整備の 科学と技術④ 耕うんと農地保全 (田島淳)		農業科教育法② (大中正之)		生産環境整備の科学と技術⑨ 生産環境整備の科学と技術・実習 有機質肥料製造・植栽の機械化実習・ 植物作物生産施設見学 (生産環境整備の科学と技術 講義担当者)			
8/2 (金)	農業科教育法③ (大中正之)		緑環境創造の 科学と技術③ 都市緑化とその技術 (近藤三雄)		生産環境整備の 科学と技術⑤ 半乾燥地の砂漠化と 植生復元 (根本正之)		生産環境整備の 科学と技術⑥ 緑化植物の生育と 乾燥要因 (高橋新平)	
8/3 (土)								
8/4 (日)								
8/5 (月)	生産環境整備の 科学と技術⑦ 乾燥地の灌漑と緑化 (渡邊文雄)		農業科教育法⑧ 特別講演 新学習指導要領につ いて (佐野 明)		緑環境創造の 科学と技術④ 緑化樹木の特性と 植栽 (濱野周泰)		緑環境創造の 科学と技術⑤ 地被植物の特性と 植栽 (鈴木貢次郎)	
8/6 (火)	農業科教育法④ (大中正之)		農業科教育法⑤ (大中正之)		農業科教育法⑥ (大中正之)		緑環境創造の 科学と技術⑧ 実習(造園植物の 取り扱い) (萩原信弘)	
8/7 (水)	緑環境創造の 科学と技術⑦ 緑環境の創造と、 今後の視点 (義茂寿太郎)		緑環境創造の 科学と技術⑥ 造園施工技術の 特徴 (小林章)		農業科教育法⑦ (大中正之)		生産環境整備の 科学と技術⑧ 乾燥地の農村開発 (高橋悟)	
8/8 (木)	生産環境整備の科学と技術⑩ 緑環境創造の科学と技術⑨ 植物栽培生産地の見学・庭園と公園の見学 (生産環境整備の科学と技術・緑環境創造の科学と技術 講義担当者・服部勉・相田明)							Farewell party キャンパス内レストランけやき 18:00～
8/9 (金)	特別講演(9:30～10:30) これからの農業と緑(学長 進士五十八) 修了証書授与・閉講式(11:00～)							

単位認定の授業科目

生産環境整備の科学と技術 1 単位
緑環境創造の科学と技術 1 単位
農業科教育法 1 単位

I 研修概要

研修名	高等学校産業教育実習助手講習　－工　業－		
担当課係	研修事業第三課　道徳・産業教育係		
研修目的 (趣旨)	高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対し、職務に必要な知識・技術について講習を行い、その資質の向上を図る。		
対　象	高等学校の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者。		
開催期日	平成14年　8月19日(月)　～ 平成14年　8月28日(水)	8　日間	
参加人数	計画人数：60人	受講者数：29人	(参加率)：48.3%
開催場所	群馬大学工学部		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	19人	65.5%	10人	34.5%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 現場を見据えた内容で、これからの学校での活動に大変役立つものとなった。
- いかに社会と結びつけるかと言う観点から工業教育が今後、担っていく役割が本当に大事なのだと改めて考えさせられた。
- 土木分野において、環境問題、防災について考えさせられた。建築でも同じ事が言えるので、今後役に立てたい。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

時間割表

群馬大学工学部

日 程	第 1 時 限 8:50~10:20	休 憩	第 2 時 限 10:30~12:00	昼食 (60)	第 3 時 限 13:00~14:30	休 憩	第 4 時 限 14:40~16:10
8月19日(月)	[受付・開講式・オリエンテーション]				物 理 化 学 1 (山延 健)		物 理 化 学 2 (山延 健)
8月20日(火)	物 理 化 学 3 (山延 健)		無 機 化 学 1 (尾崎純一)		無 機 化 学 2 (尾崎純一)		無 機 化 学 3 (尾崎純一)
8月21日(水)	有 機 化 学 1 (岡田行弘)		有 機 化 学 2 (岡田行弘)		有 機 化 学 3 (岡田行弘)		工 業 科 教 育 法 (佐藤義雄)
8月22日(木)	工 業 科 教 育 法 (佐藤義雄)		工 業 科 教 育 法 (佐藤義雄)		工 業 科 教 育 法 (佐藤義雄)		工 業 科 教 育 法 (佐藤義雄)
8月23日(金)	工 業 科 教 育 法 (佐藤義雄)		工 業 科 教 育 法 (佐藤義雄)		工 業 科 教 育 法 (佐藤義雄)		工 業 科 教 育 法 (佐藤義雄)
8月24日(土)							
8月25日(日)							
8月26日(月)	橋 梁 構 造 形 式 の 歴 史 (辻 幸和)		建設工学における地盤工学の役割 (鶴飼恵三)		土木構造物の技術革新 (杉山隆文)		地盤変形のコシミュレーション (若井明彦)
8月27日(火)	都市計画システムとゼロエミッション (黒田正和)		土木工学と防災工学 (小葉竹重機)		種々の環境問題と環境工学 (渡邊智秀)		自然災害への新たな対応 (片田敏孝)
8月28日(水)	土地利用と交通の相互利用 (青島縮次郎)		閉 講 式				

9月11日(水)	報告書(レポート)提出期限

I 研修概要

研 修 名	会計事務研修 会計事務特別研修				
担当課係	研修事業第三課 語学・国立学校係				
研修目的 (趣旨)	文部科学省所管の会計事務に従事する職員に対して国の会計法規に関する知識を修得させ、かつ、大学改革等に必要な見識を授けることにより、各職員の資質の向上を図ることを目的とする。				
対 象	次の(1)及び(2)のいずれの要件も満たしていること。 (1) 現在会計事務に従事し、かつ、1年以上会計事務の経験を有する者又はそれに相当する者で、原則として年齢25歳以上30歳以下の者。 ただし、事情やむを得ない場合にあっては、満35歳までの職員とすることができる(研修期間中に36歳になる者については認めない)。 (2) 簿記の初歩的な知識(3級程度)を有する者(市販本等による事前学習で可)。				
開催期日	平成14年 9月24日(火) ～ 平成14年10月11日(金)			18日間	
参加人数	計画人数	220人	受講者数	228人	(参加率) 103.6%
開催場所	独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター(東京)				

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	73人	42.0%	87人	50.0%	3人	1.7%	11人	6.3%

2. 研修内容に関する主な意見

【講義等全般】

- ・ポイントを押さえていて聞きやすかった。
- ・法令のみならず、実務にそった詳しい説明が良かった。
- ・国立学校法人特有の勘定科目を学ぶことが出来た。
- ・先行独立行政法人の現状が参考になった。
- ・実例が多く現場の知りたい情報が得られた。
- ・業務での話題を取り入れ興味をもって聞けた。
- ・独立行政法人化後の取扱い検討状況などを折り返みながらの講義だったので充実していた。

【今後、特別講義において取り上げて欲しいテーマ、内容(現行のテーマ以外)】

- ・先行独立行政法人の講義(実務、庶務、会計基準)
- ・民間企業(元国営企業NTT等)の会計職員に関する実務講義
- ・企業経営者の経営法等の講義
- ・財務会計制度に関する説明
- ・監査法人による講義

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成 14 年度会計事務特別研修講義日程表

月、日	曜 日	研修科目等 (9:30 ～ 12:30)		講 師	研修科目等 (13:30 ～ 16:30)		講 師
9.24	火			・ 受 付 (12:30 ～ 13:20) ・ 開講式 (13:30 ～ 13:50) ・ オリエンテーション (14:00 ～ 14:50)	班別会議 (15:00 ～ 15:30)	班別討議① (15:30 ～ 17:00)	
25	水	財 政 法		総務班 法規係長 松本 歩	会計法 (総則)		監査班 監査第二係長 堀江 直純
26	木	会計法 (収入)		財務省 主計局 法規課法規第 7 係長 中島 康夫	会計法 (支出負担行為)		財務省 主計局 法規課法規第 4 係長 内堀 一成
27	金	会計法 (支出)		財務省 主計局 法規課法規第 6 係長 古井 章雄	会計法 (時効・国庫金等)		財務省 主計局 法規課法規第 5 係長 長谷川 貴則
28	土						
29	日						
30	月	文部科学省に おける会計事 務について (9:30 ～ 11:00)	特別講義① (11:00 ～ 12:30)	総務班 法規係 宮川 裕司 東京国立博物館 総務部総務課長 松岡 正和	会計検査について (13:30 ～ 15:30)	班別討議② (15:30 ～ 17:00)	会計検査院 事務総長官房 法 規 課 法規第 1 係長 滝口 修央
10.1	火	会計法 (契約)・文部科学省に おける契約事務及び政府調達 事務について		政 府 調 達 室 企画渉外係長 廣岡 信行	会計法 (契約)・文部科学省に おける契約事務及び政府調達 事務について	政 府 調 達 室 企画渉外係長 廣岡 信行	
2	水	国有財産法・文部科学省 における国有財産事務に について		管財班 管財第一係長 鹿又 仁郎	国家公務員宿舎法・ 文部科学省における 宿舎事務について	国有財産調査官 渡邊 一幸	
3	木	文教予算につい て (9:30 ～ 11:30)	損害賠償等につ いて (11:30 ～ 12:30)	総括予算班 第二係長 阿部 哲也 総務班 企画係長 森 昭一郎	債権管理法・文部科学省 における債権管理事務に ついて (13:30 ～ 15:30)	特別 講義 ② (15:30 ～ 16:30)	経理班 経理第五係長 和田 聡 大臣官房企画官 永山 賀久
4	金	特別講義③		大原簿記学校 茶山 敏治	外部資金の取扱いについて	研究環境産業連携課 技術移転推進室 専門職 堤田 真也	
5	土						
6	日						
7	月	特別講義③		大原簿記学校 茶山 敏治	補助金の取扱いに ついて (13:30 ～ 15:30)	班別討議③ (15:30 ～ 17:00)	監 査 班 監査第一係長 佐藤 元則
8	火	特別講義③		大原簿記学校 茶山 敏治	決算事務について (13:30 ～ 15:30)	旅費法・文部 科学省におけ る旅費事務に ついて (15:30 ～ 17:00)	監 査 班 決算係長 築坂 直樹 経 理 班 経理第一係長 吉井 博幸
9	水	特別講義③		大原簿記学校 茶山 敏治	物品管理法・文部科学省 における物品管理事務に ついて (13:30 ～ 15:30)	自由 研究	用 度 班 物品係長 久保 信
10	木	試 験			特別講義④		会計課 専門官 猿渡 政範
11	金	閉 講 式					

I 研修概要

研修名	教職員派遣研修（短期派遣）				
担当課係	研修事業第二課 海外派遣研修係				
研修目的 （趣旨）	次代を担う青少年を育成する教員に，諸外国の教育，文化及び社会等の諸事情を視察させ，国際的視野に立った識見及び教職に対する誇りと自覚を高めさせることにより，初等中等教育諸学校の国際化を推進するための中核となる教員の養成，確保を図る。				
対 象	公立の小学校，中学校，高等学校，中等教育学校，盲学校，聾学校，養護学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で35歳以上55歳以下の者。				
派遣期間	別紙のとおり			16日間	
参加人数	計画人数	1743人	受講者数	1435人	（参加率） 82.3%
派遣国	別紙のとおり				

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	868人	64.0%	472人	34.8%	6人	0.4%	10人	0.7%

2. 研修内容に関する主な意見

○同一都市での長期間の研修は，児童・生徒の生活基盤を詳細に見ることができ，有意義だった。

○多数の学校訪問を行い参考になったが，訪問校数を減らし時間を十分に取る方法も良かったのではないか。

○訪問校の子供と共に半日過ごす研修があり，とても有意義だった。

○意見交換会では，日本と訪問国の疑問点等の情報交換が直接でき，大変有意義だった。

○訪問国の一般家庭を訪問でき，家庭の様子を知ることができ，とても満足した。

○ホームステイがあり，家庭の教育観にふれることができ，大変参考になった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

H14教職員派遣研修派遣団一覧（短期・都道府県団、ブロック団）

都道府県名	団名	派遣国	派遣都市	派遣期間	団員数
青森県	21	ドイツ	ライプツヒ	10月2日(水)～10月17日(木)	20
岩手県	31	ドイツ(アンハルト州)	ハレ	10月10日(木)～10月25日(金)	21
岩手県	32	カナダ(オンタリオ州)	バーリントン	10月24日(木)～11月8日(金)	21
宮城県	41	タイ	トンブリー	11月7日(木)～11月22日(金)	15
宮城県	42	オーストラリア(南オーストラリア州)	アデレード	11月7日(木)～11月22日(金)	14
秋田県	51	中国	西安	10月17日(木)～11月1日(金)	22
秋田県	52	マレーシア	アロー・スター	10月17日(木)～11月1日(金)	23
山形県	61	カナダ(オンタリオ州)	キングストン	9月26日(木)～10月11日(金)	20
茨城県	81	イタリア	ピアチェンツァ	10月9日(水)～10月24日(木)	19
茨城県	82	アメリカ(イリノイ州)	ロックフォード	10月9日(水)～10月24日(木)	19
茨城県	83	オーストラリア	ケーンズ	10月10日(木)～10月25日(金)	19
茨城県	84	スイス	ルツェルン	10月17日(木)～11月1日(金)	19
栃木県	91	中国	成都 長沙	10月3日(木)～10月18日(金)	20
栃木県	92	オーストラリア(ビクトリア州)	ワンガラッタ	10月31日(木)～11月15日(金)	20
群馬県	101	スウェーデン	ウプサラ	10月10日(木)～10月25日(金)	19
群馬県	102	イタリア	モデナ	10月10日(木)～10月25日(金)	19
群馬県	103	カナダ	レスブリッジ	10月10日(木)～10月25日(金)	19
埼玉県	111	イギリス	レスター	11月14日(木)～11月29日(金)	16
埼玉県	112	オーストラリア	タウンズビル	11月6日(水)～11月21日(木)	16
千葉県	121	オーストラリア	ビクターハーバー	10月24日(木)～11月8日(金)	15
東京都	131	中国	北京、西安、香港	10月17日(木)～11月1日(金)	18
新潟県	151	ベトナム	カント	11月7日(木)～11月22日(金)	23
新潟県	152	アメリカ(ユタ州)	プロボ	10月24日(木)～11月8日(金)	23
富山県	161	アメリカ(ワシントン州)	レッドモンド	11月8日(金)～11月23日(土)	22
石川県	171	フランス	ヴェルサイユ	10月10日(木)～10月25日(金)	20
石川県	172	アメリカ(マサチューセッツ州)	レキシントン	10月15日(火)～10月30日(水)	19
福井県	181	メキシコ	サンミゲル・デ・アイエンデ	9月26日(木)～10月11日(金)	19
山梨県	191	アメリカ(コネチカット州)	ハートフォード	10月3日(木)～10月18日(金)	22
山梨県	192	ドイツ	シュペリン	10月17日(木)～11月1日(金)	22
山梨県	193	ニュージーランド(南島)	クライストチャーチ	10月31日(木)～11月15日(金)	21
岐阜県	211	ベトナム	フエ	9月25日(水)～10月10日(木)	23
岐阜県	212	マレーシア	ジョージタウン	9月26日(木)～10月11日(金)	23
静岡県	221	イタリア	プレーシア	9月26日(木)～10月11日(金)	23
静岡県	222	ニュージーランド	ロトルア	10月10日(木)～10月25日(金)	23
三重県	241	イタリア	トリエステ	10月17日(木)～11月1日(金)	20
滋賀県	251	スペイン	サラマンカ	10月17日(木)～11月1日(金)	21
滋賀県	252	カナダ(ブリティッシュコロンビア州)	ビクトリア	9月26日(木)～10月11日(金)	20
京都府	261	アメリカ(マサチューセッツ州)	スプリングフィールド	11月7日(木)～11月22日(金)	24
大阪府	271	スペイン	バリアドリッド	11月14日(木)～11月29日(金)	15
兵庫県	281	ニュージーランド	ネーピア	10月10日(木)～10月25日(金)	21
奈良県	291	アメリカ(ミシガン州)	アナーバー	10月24日(木)～11月8日(金)	20
奈良県	292	オーストラリア(クィーンズランド州)	トゥーンバ	10月10日(木)～10月25日(金)	20
和歌山県	301	デンマーク	オーデンセ	11月7日(木)～11月22日(金)	23
鳥取県	321	ドイツ	ヴェルツブルク	9月26日(木)～10月11日(金)	22
岡山県	331	イギリス	ソールズベリ	10月10日(木)～10月25日(金)	20
山口県	351	ベトナム	ハロン	10月10日(木)～10月25日(金)	22
徳島県	361	ドイツ	カッセル	10月10日(木)～10月25日(金)	21
香川県	371	イギリス	カーディフ	10月24日(木)～11月8日(金)	22
香川県	372	カナダ	キッチエナー	10月17日(木)～11月1日(金)	24
愛媛県	381	スウェーデン	マルム	10月10日(木)～10月25日(金)	18
愛媛県	382	カナダ(オンタリオ州)	オークビル	9月26日(木)～10月11日(金)	18
愛媛県	383	ニュージーランド	ニュープリマス	9月5日(木)～9月20日(金)	22
高知県	391	イギリス	ケンブリッジ	11月14日(木)～11月29日(金)	18
福岡県	401	マレーシア	マラッカ	9月20日(金)～10月5日(土)	18
福岡県	402	ドイツ	マールブルク	10月24日(木)～11月8日(金)	18
福岡県	403	ニュージーランド	ロウーハット	10月17日(木)～11月1日(金)	18
福岡県	404	カナダ(アルバータ州)	レッドティア	10月11日(金)～10月26日(土)	18
長崎県	421	カナダ(オンタリオ州)	ピーターバロ	9月26日(木)～10月11日(金)	16
宮崎県	451	ドイツ(バイエルン州)	パッサウ	10月10日(木)～10月25日(金)	20
沖縄県	471	オーストラリア(ニューサウスウェールズ州)	セズノック	10月29日(火)～11月13日(水)	21
ブ ロ ッ ク 団	511	中国(浙江省)	嘉興	11月7日(木)～11月22日(金)	14
	512	チェコ	チェスケー・ブディヨビツェ	11月7日(木)～11月22日(金)	15
	521	オーストラリア	キャンベラ	10月24日(木)～11月8日(金)	13
	522	カナダ	カルガリー	11月7日(木)～11月22日(金)	12
	531	オーストラリア(ニューサウスウェールズ州)	ウォガウォガ	10月16日(水)～10月31日(木)	15
	532	アメリカ(テキサス州)	コーパス・クリスティ	11月7日(木)～11月22日(金)	12
	533	アメリカ(ルイジアナ州)	シュリーポート	11月14日(木)～11月29日(金)	11
	541	ニュージーランド	バーマストンノース	10月15日(火)～10月30日(水)	13
	542	アメリカ(ジョージア州)	アトランタ	11月7日(木)～11月22日(金)	13
	543	アメリカ(カリフォルニア州)	アーバイン	11月14日(木)～11月29日(金)	13
	544	ベトナム	ハイ・フォン	11月8日(金)～11月23日(土)	13
	545	スペイン	セゴビア	11月14日(木)～11月29日(金)	13
	551	オーストラリア(ニューサウスウェールズ州)	ニューカッスル	10月17日(木)～11月1日(金)	13
	552	カナダ(オンタリオ州)	バーリントン	11月14日(木)～11月29日(金)	14
	553	イタリア	テルニ	11月14日(木)～11月29日(金)	15
	561	アメリカ(ネネシー州)	ナッシュビル	11月7日(木)～11月22日(金)	22
養護教諭団	621	スウェーデン	ストックホルム	11月14日(木)～11月29日(金)	17
合 計	77団				1,435

I 研修概要

研 修 名	教職員派遣研修（若手派遣）				
担当課係	研修事業第二課 海外派遣研修係				
研修目的 （趣旨）	若手教員を連合王国、オーストラリア、ニュージーランド及びカナダに派遣し、教育活動への参加、家庭滞在等の実体験を通じて、国際的視野に立った識見及び教職に対する誇りと自覚を高めさせることにより、初等中等教育諸学校の国際化を推進するための中核となる教員の養成、確保を図る。				
対 象	公立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、盲学校、聾学校及び養護学校の教員（現職の英語教員は除く。）で25歳以上35歳以下の者。				
派遣期間	別紙のとおり			60日間	
参加人数	計画人数	73人	受講者数	73人	（参加率） 100.0%
派遣国 及び 大 学	連合王国 オーストラリア（クィーンズランド州、南オーストラリア州） ニュージーランド カナダ（ブリティッシュコロンビア州、オンタリオ州）				

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	50人	71.4%	20人	28.6%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

○訪問校で一つの学級に副担任のような形で入ることができ、担当教員や子どもたちと十分に理解し合え充実できた。

○訪問国でのオリエンテーションでその国の教育制度等について詳しい説明があり、学校訪問の際に戸惑うことがなく有意義であった。

○幼、小、中、高と異なる子どもたちに対し、授業を行うことができ、非常に満足しています。

○ホームルーム担任、教科担任、クラブ顧問をすることができ、沢山の実践を経験できとても有意義だった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成 1 4 年度教職員派遣研修 一覽

(若手派遣)

略号	派遣先	人数	派遣期間
U K	連合王国	1 2	9 月 1 8 日 (水) ～ 1 1 月 1 6 日 (土)
Q L D	クィーンズランド州	1 2	1 0 月 1 日 (火) ～ 1 1 月 2 9 日 (金)
S A	南オーストラリア州	1 2	1 0 月 2 日 (水) ～ 1 1 月 3 0 日 (土)
N Z	ニュージーランド	1 2	1 0 月 1 日 (火) ～ 1 1 月 2 9 日 (金)
B C	ブリティッシュコロンビア州	1 3	9 月 2 3 日 (月) ～ 1 1 月 2 1 日 (木)
O N	オンタリオ州	1 2	9 月 1 8 日 (水) ～ 1 1 月 1 6 日 (土)
計		7 3	

I 研修概要

研 修 名	教職員派遣研修（日米国民交流・若手教員の米国派遣）			
担当課係	研修事業第二課 海外派遣研修係			
研修目的 (趣旨)	日米首脳会談（平成8年4月）による日米国民交流計画を推進するため、若手教員を米国に派遣し、学校、家庭、地域社会における両国若者の相互理解深化を図るための交流活動を通じて、国際的視野に立った識見及び教職に対する誇りと自覚を高めさせることにより、初等中等教育諸学校の国際化を推進するための中核となる教員の養成、確保を図る。			
対 象	公立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、盲学校、聾学校及び養護学校の教員（現職の英語教員は除く。）			
派遣期間	別紙のとおり			90日間
参加人数	計画人数	107人	受講者数	86人（参加率） 80.4%
派遣国 及び 大 学	アメリカ合衆国の次の9州 コロラド州、イリノイ州、ミシガン州、ミズーリ州、オハイオ州、オレゴン州 バージニア州、ウィスコンシン州、メリーランド州			

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	62人	72.9%	23人	27.1%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

○訪問国で授業を見るだけでなく、実際に授業を行えたことは大きな収穫だった。 ○幼、小、中、高、大学と限無く視察できたため、一連の教育システムを知る上で非常に有効だった。 ○ボランティア活動では、アメリカの現状を学ぶ上で有益な施設を訪問でき、貴重な体験をすることができた。 ○訪問先の学区のほとんどの学校を訪問し、いろいろな学校・校種について知ることができたが、中心になる学校でもう少し時間があれば更に研修が深まった気がする。 ○ホームステイをしたことで、アメリカの社会や生活習慣等を体験でき、アメリカの良さや日本との違いを十分に気付くことができ、有意義だった。									

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成 1 4 年度教職員派遣研修 一覧

(日米国民交流・若手教員の米国派遣)

略号	派遣先	人数	派遣期間
CO	コロラド州	10	9月18日(水)～12月16日(月)
IL	イリノイ州	9	9月18日(水)～12月16日(月)
MI	ミシガン州	9	9月11日(水)～12月 9日(月)
MO	ミズーリ州	10	9月19日(木)～12月17日(火)
OH	オハイオ州	10	9月17日(火)～12月15日(日)
OR	オレゴン州	10	9月23日(月)～12月21日(土)
VA	バージニア州	9	9月17日(火)～12月15日(日)
WI	ウィスコンシン州	9	9月18日(水)～12月16日(月)
MD	メリーランド州	10	9月25日(水)～12月23日(月)
計		86	

I 研修概要

研 修 名	教職員派遣研修（英語担当派遣 12月）				
担当課係	研修事業第二課 海外派遣研修係				
研修目的 （趣旨）	中学校、高等学校及び中等教育学校において英語教育を担当する教員を12か月間連合王国及びアメリカ合衆国に派遣し、大学等における英語によるコミュニケーション能力及び英語教授法などに関する研修等を通じて指導力を高め、各都道府県・指定都市・中核市において指導的立場に立つ英語教員を育成し、もって我が国の英語教育の充実を図る。				
対 象	中学校（盲学校、聾学校及び養護学校の中学部を含む）及び高等学校（盲学校、聾学校及び養護学校の高等部を含む）において英語教育を担当する専任教員（教育委員会及び教育センターの指導主事等を含む）でおおむね30歳以上40歳以下の者。				
開催期日	別紙のとおり				12か月間
参加人数	計画人数	107人 （6か月派遣を含む）	受講者数	102人 （うち12か月派遣は15人）	（参加率） 95.3%
開催場所	連合王国（バーミンガム大学、エジンバラ大学） アメリカ合衆国（ジョージタウン大学）				

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	13人	86.7%	1人	6.7%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

○学校訪問での授業参観では、他国の教育事情や授業の進め方等大変参考になりました。しかし、現地の生徒との交流の時間がもう少し多ければさらに充実できたと思います。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 教職員派遣研修（英語担当派遣）

英語12か月

派遣国	大 学	人数	派 遣 期 間	協力団体
イギリス	バーミンガム	5	4月21日～ 3月17日	ブリティッシュカウンシル
	エジンバラ	5		国際教育交換協議会
アメリカ	ジョージタウン	5	4月17日～ 3月 9日	国際教育交換協議会
計		15		

英語：6か月

派遣国	大学	語学研修所	人数	派遣期間	協力団体		
イギリス	エセックス	ベルランゲッジ (ノリッチ校)	4	6月20日～12月12日	ブリティッシュカウンシル		
		ベルランゲッジ (ウォルデン校)	4				
	リーズ	コルチェスター	4			国際教育交換協議会	
		サウスデボン	3				
	エクセター	フォルクストン	4				
		オックスフォード	3				
	ノッティンガム	スザンヌスパロー	3				
		パース	4				
アメリカ	オハイオ州立	カリフォルニア (サンタバーバラ校)	3	6月13日～12月5日	国際教育交換協議会		
		コロラド (ボルダー校)	4				
	ミネソタ	ペンシルバニア	3			(株)アイエスエイ	
		ワシントン	4				
	ウィスコンシン州立 (マジソン校)	サンディエゴ州立	4				
		ゴンザガ	4				
	テキサス (オースチン校)	オレゴン州立	4				
		カリフォルニア (デービス校)	3				
	カリフォルニア (アーバイン校)	デラウェア	4				
		サウスカロライナ (コロンビア校)	4				
カナダ	アルバータ	オタワ大学	4	6月13日～12月5日	国際教育交換協議会		
		ブリティッシュ・コロンビア	3				
オーストラリア	キャンベラ	クイーンズランド	3	6月13日～12月5日	国際教育交換協議会		
		ラトロープ	4				
ニュージーランド	ウェリントンカレッジ	マッセー	3	6月20日～12月12日	国際教育交換協議会		
		ワイカト	4				
計			87				

I 研修概要

研修名	教職員派遣研修（英語担当派遣 6月）				
担当課係	研修事業第二課 海外派遣研修係				
研修目的 （趣旨）	中学校、高等学校及び中等教育学校において英語教育を担当する教員を6か月間アメリカ合衆国、連合王国、オーストラリア、ニュージーランド及びカナダに派遣し、大学等における英語によるコミュニケーション能力及び英語教授法などに関する研修等を通じて指導力を高め、各都道府県・指定都市・中核市において指導的立場に立つ英語教員を育成し、もって我が国の英語教育の充実を図る。				
対 象	中学校（盲学校、聾学校及び養護学校の中学部を含む）及び高等学校（盲学校、聾学校及び養護学校の高等部を含む）において英語教育を担当する専任教員（教育委員会及び教育センターの指導主事等を含む）でおおむね30歳以上40歳以下の者。				
開催期日	別紙のとおり				6か月間
参加人数	計画人数	107人 （12か月派遣を含む）	受講者数	102人 （うち6か月派遣は87人）	（参加率） 95.3%
開催場所	連合王国（エセックス大学、リーズ大学、エクセター大学、ノッティンガム大学） アメリカ合衆国（オハイオ州立大学、ミネソタ大学、ウィスコンシン州立大学、テキサス大学、カリフォルニア大学） カナダ（アルバータ大学） オーストラリア（キャンベラ大学） ニュージーランド（ウェリントンカレッジ大学） 以上12大学				

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	50人	60.2%	29人	34.9%	1人	1.2%	3人	3.6%

2. 研修内容に関する主な意見

- 語学研修では、内容が充実していて語学力アップに大変よかった。
- 語学研修や大学における研修は満足していますが、現地の学生と交流する機会がなかなか得られなかったのが残念でした。
- 6か月間という研修期間は短く、もう少し長く研修を続けたかった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 教職員派遣研修（英語担当派遣）

英語12か月

派遣国	大 学	人数	派 遣 期 間	協力団体
イギリス	バーミンガム	5	4月21日～ 3月17日	ブリティッシュカウンシル
	エジンバラ	5		国際教育交換協議会
アメリカ	ジョージタウン	5	4月17日～ 3月 9日	国際教育交換協議会
計		15		

英語：6か月

派遣国	大学	語学研修所	人数	派遣期間	協力団体	
イギリス	エセックス	ベルランゲッジ (ノリッチ校)	4	6月20日～12月12日	ブリティッシュカウンシル	
		ベルランゲッジ (ウォルデン校)	4			
	リーズ	コルチェスター	4			国際教育交換協議会
		サウスデボン	3			
	エクセター	フォルクストン	4			
		オックスフォード	3			
	ノッティンガム	スザンヌスパロー	3			
		パース	4			
アメリカ	オハイオ州立	カリフォルニア (サンタバーバラ校)	3	6月13日～12月5日	国際教育交換協議会	
		コロラド (ボールダー校)	4			
	ミネソタ	ペンシルバニア	3			(株)アイエスエイ
		ワシントン	4			
	ウィスコンシン州立 (マジソン校)	サンディエゴ州立	4			
		ゴンザガ	4			
	テキサス (オースチン校)	オレゴン州立	4			
		カリフォルニア (デービス校)	3			
	カリフォルニア (アーバイン校)	デラウェア	4			
		サウスカロライナ (コロンビア校)	4			
カナダ	アルバータ	オタワ大学	4	6月13日～12月5日	国際教育交換協議会	
		ブリティッシュ・コロンビア	3			
オーストラリア	キャンベラ	クイーンズランド	3	6月13日～12月5日	国際教育交換協議会	
		ラトロープ	4			
ニュージーランド	ウェリントンカレッジ	マッセー	3	6月20日～12月12日	国際教育交換協議会	
		ワイカト	4			
計			87			

I 研修概要

研 修 名	教職員派遣研修（産業教育）〔産業教育内地留学生〕		
担当課係	研修事業第二課 海外派遣研修係		
研修目的 (趣旨)	産業振興法の趣旨に基づき、中学校、高等学校又は中等教育学校において産業教育を担当する教員等を長期間にわたって大学その他産業教育に関する研修を行うにふさわしい施設に留学させ、産業教育に関する研修に専念させることを通じて、産業教育に関し必要な知識及び技術を習得させ、その資質の向上と指導力のかん養を図ることを目的とする。		
対 象	中学校、高等学校又は中等教育学校において産業教育を担当している教諭、助教諭及び実習助手（産業教育の担当を予定される教諭、助教諭及び実習助手を含む。）並びに産業教育の指導に関する事務を担当している指導主事とする。		
開催期日	別紙のとおり		3月以上1年未満
参加人数	計画人数	93人	受講者数 70人 (参加率) 75.3%
開催場所	派遣先は、①及び②に該当する機関を、内地留学生が、自ら選択する。 ① 国立大学、短期大学（国立を除く）、高等専門学校（国立を除く） ② 工場、農場、事務所、試験研究所その他産業教育に関する研修を行うにふさわしい施設		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	47人	78.3%	13人	21.7%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

○講義で得た最新の知識・実験手法等を授業（総合学習）に生かすことができる。

○理論説明ではなく、実体験を通して学んだことは、より深く・広範囲で具体的に指導できる。

○地域と学校との交流を進める中での指標ができた。

○企業における「ものづくり」の考え方や指導方法等、教育現場への応用ができる。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 教職員派遣研修（産業教育）

都道府県	派遣 人数				派遣先					備考
		所 属	職名	担当教科	派遣先	学部・学科名	実験・ 非実験	派遣時期	期間	
青森県	1	県立五所川原農林高等学校	教諭	家庭	弘前学院大学		非実験	14. 5. 1 ~ 14. 7. 31	3か月	
岩手県	1	一戸町立一戸中学校	教諭	技術・家庭	岩手大学	教育学部	非実験	14. 9. 2 ~ 14. 11. 29	3か月	
宮城県	2	宮城県古川工業高等学校	教諭	工業	東北大学	大学院情報科学研究科	非実験	14. 9. 1 ~ 15. 2. 28	6か月	
		村田町立村田第一中学校	教諭	技術・家庭	東北大学	大学院情報科学研究科	実験	14. 9. 1 ~ 15. 2. 28	6か月	
秋田県	2	象潟町立象潟中学校	教諭	技術・家庭	秋田大学	教育文化学部	実験	14. 5. 1 ~ 14. 7. 31	3か月	
		県立金足農業高等学校	教諭	情報、農業	秋田大学	教育文化学部	実験	14. 5. 1 ~ 14. 7. 31	3か月	
山形県	1	県立米沢工業高等学校	教諭	工業	NECカスタムテクニカ株式会社		実験	14. 10. 1 ~ 14. 12. 31	3か月	
福島県	2	県立福島明成高等学校	教諭	農業	岩手大学	農学部	実験	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	12か月	
		県立平工業高等学校	教諭	工業	東京工業大学	工学部	実験	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	12か月	
栃木県	2	県立栃木工業高等学校	教諭	工業	富士重重工業株式会社 群馬製作所		実験	14. 4. 1 ~ 14. 9. 30	6か月	
		県立栃木農業高等学校	教諭	農業	株式会社ニューフロンティア		実験	14. 10. 1 ~ 15. 3. 31	6か月	
	1	県立栃木工業高等学校	教諭	家庭	宇都宮大学	教育学部	実験	14. 10. 1 ~ 15. 3. 31	6か月	
群馬県	1	前橋市立第一中学校	教諭	技術・家庭	群馬大学	教育学部	実験	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	12か月	
	1	県立高崎工業高等学校	教諭	工業	関関電工 群馬支店		実験	14. 4. 1 ~ 14. 9. 30	6か月	
埼玉県	1	県立いずみ高等学校	教諭	農業	埼玉大学	理学部	実験	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	12か月	
	1	県立三郷高等学校	教諭	家庭	東京家政大学 家政学部		非実験	14. 4. 1 ~ 14. 9. 30	6か月	
千葉県	1	県立千葉商業高等学校	教諭	商業	一橋大学		非実験	15. 1. 6 ~ 15. 3. 28	3か月	
東京都	1	都立鮫洲工業高等学校	教諭	工業	電気通信大学	電気通信学部	非実験	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	12か月	
神奈川県	2	県立相模台工業高等学校	教諭	工業	横浜国立大学	大学院	実験	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	12か月	
		県立平塚商業高等学校	教諭	商業	横浜国立大学	教育人間科学部	非実験	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	12か月	
新潟県	1	県立加茂農林高等学校	教諭	農業	新潟県農業総合研究所		実験	14. 9. 1 ~ 14. 11. 30	3か月	
富山県	1	県立小矢部園芸高等学校	教諭	農業	清沢造園株式会社		非実験	14. 4. 15 ~ 14. 7. 14	3か月	
石川県	1	県立金沢商業高等学校	教諭	商業	金沢大学	教育学部	非実験	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	12か月	
	2	県立七尾工業高等学校	教諭	工業	金沢学院大学 美術文化学部		非実験	14. 4. 1 ~ 14. 9. 30	6か月	
		県立七尾工業高等学校	教諭	工業	石川職業能力開発促進センター		非実験	14. 10. 1 ~ 15. 3. 31	6か月	
山梨県	1	県立農林高等学校	教諭	家庭	山梨大学	教育人間科学部	非実験	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	12か月	
長野県	1	安曇野農業高等学校	教諭	農業	信州大学	農学部	実験	14. 10. 1 ~ 15. 3. 31	6か月	
	1	飯田工業高等学校	教諭	工業	長野県精密工業試験場		実験	14. 10. 1 ~ 15. 3. 31	6か月	
岐阜県	2	県立岐阜三田高等学校	教諭	家庭	名古屋女子文化短期大学		非実験	14. 5. 1 ~ 14. 7. 31	3か月	
		県立大垣商業高等学校	教諭	商業	田邊会計事務所		非実験	14. 9. 1 ~ 14. 11. 30	3か月	
静岡県	3	県立御殿場高等学校	教諭	工業	千葉大学	工学部	実験	14. 4. 1 ~ 14. 9. 30	6か月	
		静岡市立城山中学校	教諭	技術	静岡大学	教育学部	非実験	14. 4. 1 ~ 14. 9. 30	6か月	
		沼津市立第五中学校	教諭	技術	静岡大学	教育学部	非実験	14. 10. 1 ~ 15. 3. 31	6か月	
愛知県	2	県立宝陵高等学校	教諭	家庭	田原町立田原福祉専門学校		非実験	14. 5. 1 ~ 15. 10. 31	6か月	
		県立刈谷工業高等学校	教諭	工業	株式会社 豊田自動織機		実験	14. 6. 3 ~ 14. 8. 30	3か月	
三重県	1	県立明野高等学校	教諭	農業	三重大学	生物資源学部	実験	14. 4. 1 ~ 14. 9. 30	6か月	

都道府県	派遣 人数				派 遣 先					備 考
		所 属	職 名	担当教科	派遣先	学部・学科名	実験・ 非実験	派 遣 時 期	期間	
滋賀県	1	県立大津商業高等学校	教諭	商業	神戸大学	大学院	非実験	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	12か月	
京都府	2	府立田辺高等学校	教諭	工業	京都大学	総合情報メディアセンター	実験	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	12か月	
		府立海洋高等学校	教諭	水産	京都大学	工学部	実験	14. 10. 1 ~ 15. 3. 31	6か月	
	1	府立海洋高等学校	教諭	水産	福井県立大学	生物資源学部	実験	14. 4. 1 ~ 14. 9. 30	6か月	
大阪府	1	府立佐野工業高等学校	教諭	工業	大阪教育大学	教育学部	実験	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	12か月	
和歌山県	1	県立笠田高等学校	教諭	商業	和歌山大学	経済学部	実験	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	12か月	
鳥取県	1	米子工業高等学校	教諭	工業	長崎大学	工学部	実験	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	12か月	
	1	倉吉農業高等学校	教諭	農業	鳥取県産業技術センター		実験	14. 4. 1 ~ 14. 9. 30	6か月	
島根県	2	出雲農林高等学校	教諭	農業生産	島根大学	生物資源科学部	実験	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	12か月	
		松江工業高等学校	教諭	工業・土木	大阪大学	接合科学研究所	実験	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	12か月	
岡山県	2	県立津山工業高等学校	教諭	工業	岡山大学	環境理工学部	非実験	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	12か月	
		県立久世高等学校	教諭	農業	岡山大学	農学部	実験	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	12か月	
広島県	1	県立広島商業高等学校	教諭	商業	広島大学	経済学部	非実験	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	12か月	
	1	県立大崎海星高等学校	教諭	福祉	広島YMCA健康福祉専門学校		実験	14. 10. 1 ~ 15. 3. 31	6か月	
山口県	2	県立日置農業高等学校	教諭	農業	山口県畜産試験場		実験	14. 6. 1 ~ 14. 8. 31	3か月	
		県立柳井商業高等学校	教諭	商業	あさひ製菓株式会社		非実験	14. 7. 1 ~ 14. 9. 30	3か月	
香川県	1	県立高松南高等学校	教諭	看護	香川医科大学	医学部	非実験	14. 5. 1 ~ 14. 7. 31	3か月	
	1	県立飯山高等学校	教諭	商業	岡山商科大学	大学院	非実験	14. 5. 1 ~ 14. 7. 31	3か月	
愛媛県	1	県立川之石高等学校	教諭	家庭	愛媛大学	教育学部	非実験	14. 7. 1 ~ 14. 9. 30	3か月	
	1	県立松山商業高等学校	教諭	商業	松山大学	経営学部	非実験	14. 7. 1 ~ 14. 9. 30	3か月	
高知県	2	県立安芸工業高等学校	教諭	工業	高知工科大学		実験	14. 10. 30 ~ 15. 3. 31	6か月	
		県立高知農業高等学校	教諭	商業	高知情報ビジネス専門学校		非実験	14. 4. 1 ~ 14. 9. 30	6か月	
福岡県	1	県立折尾高等学校	教諭	商業	九州大学	大学院	非実験	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	12か月	
佐賀県	1	佐賀農業高等学校	教諭	農業	佐賀大学	農学部	実験	14. 9. 1 ~ 15. 2. 28	6か月	
	1	牛津高等学校	教諭	家庭	佐賀調理製菓専門学校		実験	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	12か月	
熊本県	2	県立球磨商業高等学校	教諭	商業	熊本県立大学 総合管理学部		非実験	14. 10. 1 ~ 15. 3. 31	6か月	
		県立阿蘇高等学校 (国際観光科)	教諭	商業	㈱JTB 熊本教育旅行センター		非実験	14. 10. 1 ~ 14. 12. 31	3か月	
					ホテル日航熊本 (くまもと新世紀株式会社)		非実験	15. 1. 1 ~ 15. 3. 31	3か月	
大分県	1	県立情報科学高等学校	教諭	商業	大分大学	経済学部	非実験	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	12か月	
	1	県立海洋科学高等学校	教諭	水産	大分県産業科学技術センター		実験	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	12か月	
宮崎県	2	宮崎県清武町立清武中学校	教諭	技術	宮崎大学	教育文化学部	実験	14. 5. 1 ~ 14. 7. 31	3か月	
		県立都城工業高等学校	教諭	工業	宮崎大学	工学部	実験	14. 9. 25 ~ 14. 12. 24	3か月	
鹿児島県	2	県立入来商業高等学校	教諭	商業	鹿児島ハイテク専門学校		非実験	14. 9. 1 ~ 14. 11. 30	3か月	
		県立出水工業高等学校	教諭	工業	富士通株式会社 幕張システムラボラトリ 教育文化ソリューション部		実験	14. 9. 1 ~ 14. 11. 30	3か月	
大阪市	1	鶴見商業高等学校	教諭	商業	関西大学 大学院		非実験	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	12か月	
合計	70									

※ 派遣人数欄の網掛けは、産業界への派遣人数を表す

I 研修概要

研 修 名	教職員派遣研修（理科教育）〔科学教育研究室研究生〕		
担当課係	研修事業第二課 海外派遣研修係		
研修目的 (趣旨)	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特殊教育諸学校の理科教育の担当教員に対し、理科教育に関する基礎的研究を行う機会を与え、もって理科教育担当教員の資質を向上し、その指導力の強化を図ることを目的とする。		
対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに盲学校、聾学校及び養護学校の小学部、中学部及び高等部の理科教育（算数・数学及び職業に関する教科教育を含む。）の担当教員。		
開催期日	別紙のとおり	3月以上12月以内	
参加人数	計画人数	80人	受講者数 60人 (参加率) 75.0%
開催場所	文部科学省が科学教育研究室の設置を承認した国立大学（31大学）のうち研究生が選択した大学		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	39人	76.5%	11人	21.6%	0人	0.0%	1人	2.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 最先端のテーマを生徒に提供でき、興味関心を高める為の助けとなっている。
- 最新の情報を入手でき、実験や実習を通して直接的に体験的に身につけることができた。
- 専門知識がより深まったことで、環境教育や総合的な学習の時間などにおいても役に立てられる。
- 大学の研究者、海外の共同研究者と協議議論する中で、広い視点で物事を考えることができた。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 教職員派遣研修（理科教育）

都道府県	派遣 人数						派遣する国立大学					備考
		年齢	所 属	職名	担当教科	大学名	学部・学科名	実験・ 非実験	派遣 時 期	期間		
北海道	5	58	北広島西高等学校	教諭	理科	北海道大学	理学部	非実験	H14. 5. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
		42	札幌旭丘高等学校	教諭	理科	北海道大学	理学部	実験	H14. 5. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
		53	札幌清田高等学校	教諭	理科	北海道大学	理学部	非実験	H14. 5. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
		47	札幌清田高等学校	教諭	理科	北海道大学	理学部	実験	H14. 5. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
		48	旭川西高等学校	教諭	理科	北海道大学	理学部	実験	H14. 5. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
宮城県	2	34	磨桑町立磨桑中学校	教諭	理科	東北大学	大学院工学研究科	実験	H14. 9. 1 ~ H15. 2.28	6か月		
		36	仙台市立幸町中学校	教諭	理科	東北大学	大学院工学研究科	実験	H14. 9. 1 ~ H15. 2.28	6か月		
秋田県	2	33	仁賀保町立平沢小学校	教諭	全教科	秋田大学	教育文化学部	実験	H14. 7. 1 ~ H14.12.31	6か月		
		32	県立大曲農業高等学校	教諭	数学	秋田大学	教育文化学部	実験	H14. 7. 1 ~ H14.12.31	6か月		
山形県	1	36	米沢市立屏小学校	教諭	算数	山形大学	教育学部	非実験	H14. 5. 1 ~ H14. 7.31	3か月		
栃木県	6	37	鹿沼市立加園小学校	教諭	数学	宇都宮大学	教育学部数学科	非実験	H14. 4. 1 ~ H14. 9.30	6か月		
		39	小山市立下生井小学校	教諭	数学	宇都宮大学	教育学部数学科	非実験	H14.10. 1 ~ H15. 3.31	6か月		
		40	大田原市立西原小学校	教諭	数学	宇都宮大学	教育学部数学科	非実験	H14.10. 1 ~ H15. 3.31	6か月		
		41	小山市立小山城南中学校	教諭	数学	宇都宮大学	教育学部数学科	非実験	H14.10. 1 ~ H15. 3.31	6か月		
		34	鹿沼市立西中学校	教諭	数学	宇都宮大学	教育学部数学科	非実験	H14. 4. 1 ~ H14. 9.30	6か月		
		32	塩谷町立大久保小学校	教諭	理科	宇都宮大学	教育学部理科	非実験	H14. 4. 1 ~ H14. 9.30	6か月		
神奈川県	5		綾瀬市立綾西小学校			横浜国立大学		実験	H14. 7. 1 ~ H14. 3.31	9か月		
			茅ヶ崎市立鶴嶺小学校			横浜国立大学		実験	H14. 7. 1 ~ H14. 3.31	9か月		
			県立綾瀬西高等学校			横浜国立大学		実験	H14. 7. 1 ~ H14. 3.31	9か月		
			県立綾瀬西高等学校			横浜国立大学		実験	H14. 7. 1 ~ H14. 3.31	9か月		
			県立長後高等学校			横浜国立大学		実験	H14. 7. 1 ~ H14. 3.31	9か月		
石川県	5	42	小松市立高等学校	教諭	理科	金沢大学	理学部生物学科	実験	H14. 4. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
		36	県立鶴来高等学校	教諭	理科	金沢大学	理学部化学科	実験	H14. 4. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
		43	県立大聖寺高等学校	教諭	理科	金沢大学	理学部生物学科	実験	H14. 4. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
		50	県立金沢中央高等学校	教諭	理科	金沢大学	医学部保健学科	実験	H14. 4. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
		49	県立高浜高等学校	教諭	理科	金沢大学	理学部化学科	実験	H14. 4. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
長野県	13	35	木曽高校	教諭	理科	信州大学	理学部	実験	H14. 5. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
		53	松本工業高校	教諭	理科	信州大学	理学部	実験	H14. 5. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
		42	松本筑摩高校	教諭	理科	信州大学	理学部	実験	H14. 5. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
		41	松本市立松島中学校	教諭	理科	信州大学	理学部	実験	H14. 5. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
		53	長野工業高校	教諭	工業	信州大学	理学部	実験	H14. 5. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
		54	松本市立寿小学校	教諭	理科	信州大学	農学部	実験	H14. 5. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
		42	伊那市立東部中学	教諭	理科	信州大学	農学部	実験	H14. 5. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
		39	茅野高校	教諭	理科	信州大学	農学部	実験	H14. 5. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
		28	木祖村立木祖小学校	教諭	理科	信州大学	農学部	実験	H14. 5. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
		48	塩尻市立丘中学校	教諭	理科	信州大学	農学部	実験	H14. 5. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
		54	南箕輪村立南箕輪中学校	教諭	理科	信州大学	農学部	実験	H14. 5. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
		31	松本市立寿小学校	教諭	理科	信州大学	農学部	実験	H14. 5. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
		39	上田高校	教諭	理科	信州大学	繊維学部	実験	H14. 5. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
奈良県	2		県立平城高等学校			奈良女子大学		実験	H14. 6. 1 ~ H15. 3.31	10か月		
		56	奈良市立一条高等学校			奈良女子大学		実験	H15. 1. 1 ~ H15. 3.31	10か月		
鳥取県	1	35	県立淀江産業技術高等学校	教諭	農業	鳥取大学	教育地域科学部	実験	H14. 4. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
山口県	2	32	日置町立日置中学校	教諭	理科	山口大学	教育学部	実験	H14. 9. 1 ~ H14.11.31	3か月		
		38	県立佐波高等学校	教諭	数学	山口大学	教育学部	非実験	H14. 9. 1 ~ H14.11.31	3か月		
福岡県	1	42	県立稲築志耕館高等学校	教諭	数学	福岡教育大学	教育学部	非実験	H14. 4. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
熊本県	3	38	熊本市立天明中学校	教諭	理科	熊本大学	教育学部	実験	H14. 4. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
		37	熊本市立花陵中学校	教諭	理科	熊本大学	教育学部	実験	H14. 4. 1 ~ H14. 9.30	6か月		
		31	玉名市立玉名町小学校	教諭	理科	熊本大学	教育学部	非実験	H14. 4. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
大分県	1	41	中津市立南部小学校	教諭	全教科	九州工業大学	工学部電気工学科	実験	H14. 4. 1 ~ H15. 3.31	12か月		
宮崎県	2	34	高原町立高原小学校	教諭	全教科	東京工業大学	教育工学開発センター	非実験	H14.10. 2 ~ H15. 3.26	6か月		
		37	宮崎市立生目中学校	教諭	理科	東京工業大学	教育工学開発センター	非実験	H14.10. 2 ~ H15. 3.26	6か月		
横浜市	9	42	横浜市中田中学校	教諭	理科	横浜国立大学	教育人間科学部	実験	H13. 5. 1 ~ H14. 3.31	12か月		
		55	横浜市立十日市場中学校	教諭	理科	横浜国立大学	教育人間科学部	実験	H13. 5. 1 ~ H14. 3.31	12か月		
		43	横浜市立あざみ野中学校	教諭	理科	横浜国立大学	教育人間科学部	実験	H13. 5. 1 ~ H14. 3.31	12か月		
		51	横浜市立南が丘中学校	教諭	理科	横浜国立大学	教育人間科学部	実験	H13. 5. 1 ~ H14. 3.31	12か月		
		52	横浜市立金沢高等学校	教諭	理科	横浜国立大学	教育人間科学部	実験	H13. 5. 1 ~ H14. 3.31	12か月		
		30	横浜市立戸塚高等学校	教諭	理科	横浜国立大学	教育人間科学部	実験	H13. 5. 1 ~ H14. 3.31	12か月		
		43	横浜市立秋葉小学校	教諭		横浜国立大学	教育人間科学部	実験	H13. 5. 1 ~ H14. 3.31	12か月		
		45	横浜市立能見台南小学校	教諭		横浜国立大学	教育人間科学部	実験	H13. 5. 1 ~ H14. 3.31	12か月		
		25	横浜市立下末吉小学校	教諭		横浜国立大学	教育人間科学部	実験	H13. 5. 1 ~ H14. 3.31	12か月		
計	60											

I 研修概要

研 修 名	進路指導講座（東日本地区）		
担当課係	研修事業第二課 国内短期研修係		
研修目的 (趣旨)	各都道府県教育委員会の進路指導担当指導主事及び中学校・高等学校の進路指導主事等に対して、進路指導に必要な専門的知識と技術を習得させ、各都道府県及び各学校における進路指導の中核となる者としての資質の向上を図り、もって中学校及び高等学校における進路指導の充実に資するものとする。		
対 象	各都道府県教育委員会の進路指導担当指導主事及び中学校（中等教育学校前期課程を含む。）高等学校（中等教育学校後期課程含む。）の進路指導主事またはこれに準ずる者		
開催期日	平成14年 6月24日（月）～平成14年 6月28日（金）	5日間	
参加人数	計画人数：115人	受講者数：102人	（参加率）：88.7%
開催場所	筑波大学		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	60人	59.4%	40人	39.6%	0人	0.0%	1人	1.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 今後の取り組みの基本的考え方や進路指導について体系的に学ぶことができた。
- カウンセリングについては様々な工夫がされていてとても有意義だった。
- 他県の教員との交流や校種を越えた情報交換等、有意義な研修を送ることができた。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講義・演習題目配当時間及び担当講師・助言者 (日程表)

東日本地区 (筑波大学)

	6月24日 (月)	6月25日 (火)	6月26日 (水)	6月27日 (木)	6月28日 (金)
9:00	受 付	【講義】 産業・経済の構造変化等の現状と課題 日本労働研究機構 主任研究員 小杉 礼 (9:00~10:00) 1H	【演習Ⅱ】 (中) 中学校進路学習の工夫・改善と構造化 (高) 高等学校進路学習の工夫・改善と構造化	【演習】 進路相談－カウンセリングー の実際・その1 筑波大学心理学系 教授 渡辺 三枝子	【講義】 進路指導におけるジェンダー イシュー 筑波大学教育学系 講師 藤田 晃之 (9:00~10:30) 1.5H
9:30	開 講 式 オリエンテーション (演習打合せ含む)				
10:00		【演習Ⅲ】 (中) 保護者・地域とともに進める進路指導の実際 筑波大学教育学系 助教授 吉田 武男	筑波大学教育学系 講師 藤田 晃之		
10:30	【講義】 現代の青少年と教育の課題 筑波大学教育学系 教授 桑原 隆 (10:30~12:00) 1.5H	(高) 「産業社会と人間」の実践 筑波大学学校教育部 教授 服部 次郎 (10:15~12:15) 2H	筑波大学教育学系 助教授 飯田 浩之 (9:00~12:00) 3H	筑波大学教育学系 助教授 飯田 浩之 (9:00~12:00) 3H	【協議】 研修の成果と今後の課題 筑波大学教育学系 教授 桑原 隆 (10:45~12:15) 1.5H
11:00					閉講式 (修了証書授与)
11:30					
12:00					
12:30					
13:00	【講義】 教育改革の進展と進路指導の 新たな展開 文部科学省教育課程課 教科調査官 板橋 孝志 (13:00~14:30) 1.5H	【演習Ⅰ】 計画的・組織的な進路指導の実践 第1分科会～第5分科会 文部科学省教育課程課 教科調査官 板橋 孝志 (13:00~15:00) 2H	【講義】 科学技術の発達と人材育成, その 現状と課題 筑波大学教育学系 教授 山本 眞一 (13:00~14:00) 1H	【演習】 進路相談－カウンセリングー の実際・その2 筑波大学心理学系 教授 渡辺 三枝子	
13:30					
14:00					
14:30			【講義】 進路相談の理論と方法 筑波大学心理学系 教授 渡辺 三枝子 (14:15~15:45) 1.5H		
15:00	【講義】 中・高等学校卒業者の進路状 況と進路指導の課題 文部科学省教育課程課 教科調査官 板橋 孝志 (14:45~16:15) 1.5H	小・中・高等学校の連携 文教大学 名誉教授 仙崎 武 (15:00~16:00) 1H			
15:30					
16:00					
16:30					
17:00					

I 研修概要

研 修 名	進路指導講座（西日本地区）		
担当課係	研修事業第二課 国内短期研修係		
研修目的 (趣旨)	各都道府県教育委員会の進路指導担当指導主事及び中学校・高等学校の進路指導主事等に対して、進路指導に必要な専門的知識と技術を習得させ、各都道府県及び各学校における進路指導の中核となる者としての資質の向上を図り、もって中学校及び高等学校における進路指導の充実に資するものとする。		
対 象	各都道府県教育委員会の進路指導担当指導主事及び中学校（中等教育学校前期課程を含む。）高等学校（中等教育学校後期課程含む。）の進路指導主事またはこれに準ずる者		
開催期日	平成14年 6月 3日（月）～平成14年 6月 7日（金）	5日間	
参加人数	計画人数	120人	受講者数 95人（参加率） 79.2%
開催場所	広島大学		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	39人	41.9%	53人	57.0%	1人	1.1%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 他県の教員と情報交換ができ他県の取り組みや新たな視点を見いだすことができた。
- 民間企業の方（教育界以外）の講義があった方が良かった。
- カウンセリングの演習は大変有意義ですぐにでも実践したいと思った。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度進路指導講座 日程表（西日本地区）

月／日 (曜日)	9:00 9:30	10:00 10:30	12:00 12:15	13:00	14:00 14:30	15:00	16:00 16:15	17:00
6/3(月)	受付	開 講 式 オリエンテーション (演習打合せ含む)	【 講 義 】 現代教育の課題 広島大学大学院教育学 研究科長 中原忠男 (10:30～12:00)1.5H	【 講 義 】 教育改革の進展と進路指導の 新たな展開 文部科学省児童生徒課 生徒指導調査官 板橋孝志 (13:00～14:30)1.5H	【 講 義 】 中・高等学校卒業者の 進路状況と進路指導の 課題 文部科学省児童生徒課 生徒指導調査官 板橋孝志 (14:45～16:15)1.5H			
6/4(火)	【 講 義 】 産業・経済の構造変化等の 現状と課題 広島大学学生就職センター 教授 田中秀利 (9:00～10:00)1H	【 演 習 III 】 (中) 保護者・地域とともに 進める進路指導の実践 広島大学大学院教育学研究科 助教授 中條和光 (高) 「産業社会と人 間」の実践 文部科学省児童生徒課 生徒指導調査官 板橋孝志 (10:15～12:15)2H	【 演 習 I 】 計画的・組織的な進路指導の 実践と中・高の連携 第1分科会～第5分科会 文部科学省児童生徒課 生徒指導調査官 板橋孝志 (13:00～15:00)2H	全体会 (分科会報告) 広島大学大学院教育学 研究科 講師 河原純一郎 (15:00～16:00)1H	意見交換 広島大学大学院 教育学研究科 教授 一丸藤太郎 (16:00～17:00)1H			
6/5(水)	【 演 習 II 】 (中) 中学校進路学習の工夫・改善と構造化 広島大学大学院教育学研究科 助教授 深澤広明 (高) 高等学校進路学習の工夫・改善と構造化 文部科学省児童生徒課 生徒指導調査官 板橋孝志 (9:00～12:00)3H	【 講 義 】 科学技術の発達と人材 育成、その現状と課題 広島大学大学院 先端物質科学研究科 教授 岩田 穆 (13:00～14:00)1H	【 講 義 】 進路相談の理論と方法 広島大学大学院 教育学研究科 教授 石井真治 (14:15～15:45)1.5H					
6/6(木)	【 演 習 】 進路相談－カウンセリングの実践・その1 広島大学保健管理センター 助教授 鈴木康之 (9:00～12:00)3H	【 演 習 】 進路相談－カウンセリングの実践・その2 広島大学大学院教育学研究科 助教授 菅野信夫 (13:00～16:00)3H						
6/7(金)	【 講 義 】 青年期の発達課題と進路指導 広島大学大学院教育学研究科 教授 前田健一 (9:00～10:30)1.5H	【 協 議 】 研修の成果と今後の課題 広島大学大学院教育学 研究科 教授 一丸藤太郎 (10:45～12:15)1.5H	(修了証書授与) 閉講式					

I 研修概要

研 修 名	公立高等学校事務職員幹部研修講座				
担当課係	研修事業第二課 国内短期研修係				
研修目的 (趣旨)	公立高等学校の事務職員で指導的立場にある者に必要な研修を行い、事務職員の資質の向上を図り、もって学校の運営に資する。				
対 象	公立高等学校において事務長等指導的立場にある事務職員				
開催期日	平成14年	5月27日(月)	～	平成14年	5月31日(金)
	5日間				
参加人数	計画人数	100人	受講者数	97人	(参加率)
	97.0%				
開催場所	独立行政法人教員研修センター				

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	48人	49.5%	49人	50.5%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 他県の方々と情報交換・交流を図ることができた。
- 民間企業の方の講義は非常によく、得ることが多かった。
- ベテラン事務長の実践的な講義があればよかった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

— ۱۸ —

注意：学習委員会・フア－リ－ガ－会、資料交換、班別討議における「各会場」とは、各班が利用する以下の研修室を指す。

1	班：研修棟	103	研修室
2	班：研修棟	104	研修室
3	班：研修棟	201	研修室
4	班：研修棟	203	研修室
5	班：研修棟	204	研修室

I 研修概要

研 修 名	教育情報化推進指導者養成研修（指導主事－全国1講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	都道府県・指定都市教育委員会，教育センターの指導主事等		
開催期日	平成14年 5 月 7 日（火）～平成14年 5 月10日（金）	4 日間	
参加人数	計画人数	50 人	受講者数 33 人（参加率） 66.0 %
開催場所	独立行政法人 教員研修センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	16人	48.5%	15人	45.5%	0人	0.0%	2人	6.0%

2. 研修内容に関する主な意見

○実践事例を入れて欲しい。 ○グループ討議など意見交換の時間を設けて欲しい。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程

指導主事—全国1講座

日時	9:00	12:00	13:00	14:50	15:00	16:30
5 / 7 (火)	10:30～受付(図書館棟入口) 11:00～オリエンテーション(※A) 11:30～開講式(※A)		【講義】※A 教育の情報化に関する国の施策 文部科学省初等中等教育局参事官付 情報教育調査官 樋口 聡		【講義】※A 学習指導要領における情報化への対応 国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官 中村 一夫	
5 / 8 (水)	【講義】※B 情報モラルの理解と指導 金城学院大学現代文化学部 助教授 長谷川 元洋		【講義】※B ネットワークの基礎知識と セキュリティの実際 日本電気(株) 文教ソリューション事業部 主任 井上 義裕		※B 自由研究	
5 / 9 (木)	【講義】※B 学校における情報コーディネータの役割 (コンサルテーションを含む) つくば市教育委員会 指導主事 毛利 靖		【講義】※B 校内研修の進め方 岡山市教育委員会 指導係長 青木 将		※B 自由研究	
5 / 10 (金)	【講義】※A 教育情報化の支援体制の在り方・ 外部人材の活用 福島県教育センター 指導主事 渡部 昌邦		11:50～12:00 閉講式 ※A アンケート回収 解 散			

※研修会場： A＝研修棟 101 研修室、B＝特別研修棟 情報教育研修室1

I 研修概要

研 修 名	教育情報化推進指導者養成研修（指導主事－全国2講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	都道府県・指定都市教育委員会，教育センターの指導主事等		
開催期日	平成14年 7 月 15 日（月） ～ 平成14年 7 月 19 日（金）	5 日間	
参加人数	計画人数	50 人	受講者数 21 人（参加率） 42.0 %
開催場所	独立行政法人 教員研修センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	5人	23.8%	15人	71.4%	0人	0.0%	1人	4.8%

2. 研修内容に関する主な意見

- ネットワーク関係の基本的な技能を高める研修を入れて欲しい。
- 実践事例の紹介やグループ討議を取り入れて欲しい。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程

指導主事—全国2講座

日時	9:00	12:00	13:00	14:50	15:00	16:30
7 / 15 (月)	10:30～受付(図書館棟入口) 11:00～オリエンテーション(※A) 11:30～開講式(※A)		【衛星講義】※A 教育の情報化に 関する国の施策 文部科学省初等中等教育局参事官付 情報教育調査官 杉通 聡		【衛星講義】※A (15:00～16:00) 学習指導要領における 情報化への対応 国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官 中村 一夫	
7 / 16 (火)	【講義】※B 授業設計と教材作成について 筑波大学附属駒場中高等学校 教諭 市川 道和		【講義】※A ネットワークの基礎知識と セキュリティの実際 日本電気(株) 文教ソリューション事業部 主任 井上 義裕		※B 自由 研究	
7 / 17 (水)	【衛星講義】(9:00～10:00)※A 情報モラルの理解と指導 広島大学大学院文学研究科 教授 越智 貢		【講義】※B 学校における情報コーディネータの 役割(コンサルティングを含む) つくば市教育委員会指導課 指導主事 毛利 靖		※B 自由 研究	
7 / 18 (木)	【衛星講義】(9:00～10:00)※A 校内研修の進め方 金沢大学教育学部 助教授 中川 一史		【講義】※B 校内研修案の作成 金沢大学教育学部 助教授 中川 一史		※B 自由 研究	
7 / 19 (金)	【衛星講義】(9:00～9:45) ～11:45※A 教育情報化の支援体制の在り方・ 外部人材の活用 福島県教育センター情報教育部 指導主事 渡部 昌邦		11:50～12:00 閉講式※A アンケート回収 解散			

※研修会場： A＝研修棟 101研修室、B＝特別研修棟 情報教育研修室1

I 研修概要

研 修 名	教育情報化推進指導者養成研修（小学校－全国講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 (趣旨)	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の小学校の教員		
開催期日	平成14年 6 月 3 日 (月) ～ 平成14年 6 月 7 日 (金)	5 日間	
参加人数	計画人数	50 人	受講者数 50 人 (参加率) 100.0 %
開催場所	独立行政法人 教員研修センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	31人	62.0%	16人	32.0%	2人	4.0%	1人	2.0%

2. 研修内容に関する主な意見

○ 5日間の研修で視野が広がり、パソコンを使って様々な授業を組み立ててみようと考えようになりました。

○ 大変内容の濃い研修でしたが、手際がよく、講師の先生の説明もよくわかりました。テキストが大変わかりやすかった。

○ 5日間の内容としては多すぎる。

○ グループ研修もしたい。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

教育情報化推進指導者養成講習（小学校－全国講座）

日時	8:30	11:00	12:30	13:30	17:30
6 / 3 (月)	9 : 3 0 ~ 受 付 1 0 : 0 0 ~ オリエンテーション 1 0 : 3 0 ~ 開講式 研修棟 1 0 1 研修室	【講義】 学習指導要領に おける情報化へ の対応 国立教育政策研究所教育課程研究 センター教育課程調査官 中村 一夫	【講義・演習】 ・情報教育教員支援プログラムへの理解 ・単元プランの作成 ----- インテル情報教育教員支援プログラム担当トレーナー 大柿 美和	自由 研究	
6 / 4 (火)	【講義・演習】 ・インターネットの検索とWebサイト及び引用リストの 作成 ・インターネットと電子百科事典を使った情報収集 ----- インテル情報教育教員支援プログラム担当トレーナー 大柿 美和	【講義・演習】 ・児童生徒が制作するプレゼンテーションの作成 ----- インテル情報教育教員支援プログラム担当トレーナー 大柿 美和	自由 研究		
6 / 5 (水)	【講義・演習】 ・児童生徒が制作する発行物の作成 ・単元教材の作成 1 ----- インテル情報教育教員支援プログラム担当トレーナー 大柿 美和	【講義・演習】 ・児童生徒が制作するWebページの作成 ----- インテル情報教育教員支援プログラム担当トレーナー 大柿 美和	自由 研究		
6 / 6 (木)	【講義・演習】 ・単元教材の作成 2 ----- インテル情報教育教員支援プログラム担当トレーナー 大柿 美和	【講義・演習】 ・単元プランの完成 ・リーダー研修 ----- インテル情報教育教員支援プログラム担当トレーナー 大柿 美和	自由 研究		
6 / 7 (金)	【講義・演習】 ・単元プランの評価 11 : 4 0 ----- インテル情報教育教員支援プログラム担当トレーナー 大柿 美和	11 : 4 5 ~ 閉 講 式 研修棟 1 0 1 研修室 アンケート回収 解 散			

I 研修概要

研 修 名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－全国1講座）			
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係			
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められる。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。			
対 象	国・公立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員			
開催期日	平成14年 5 月20日（月）～平成14年 5 月24日（金）			5 日間
参加人数	計画人数	50 人	受講者数	50 人 （参加率） 100.0 %
開催場所	独立行政法人 教員研修センター			

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	25人	50.0%	20人	40.0%	5人	10.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 校内ネットワークなどの研修も受講したい。
- 明日からすぐ使える単元プランを作れた。
- ワードの技術習得だけだったような気がする。
- 5日間の内容としては多すぎる。（時間が足りない）
- 研修したことを他の単元にも応用できコンピュータやインターネットを積極的に取り入れたい。
- 研修の目的がパソコンを使った授業を広めることにあるならば、インテルのプログラムは適切ではない。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

教育情報化推進指導者養成講習（中学校・高等学校一全国1講座）

日時	8:30	12:30	13:30	17:30
5 / 20 (月)	9:30～受付 10:00～オリエンテーション 10:30～開講式	【講義】 学習指導要領における情報化への対応 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 中村 一夫	【講義・演習】 ・情報教育教員支援プログラムへの理解 ・単元プランの作成 ----- インテル情報教育教員支援プログラム担当トレーナー 大柿 美和	自由研究
5 / 21 (火)	【講義・演習】 ・インターネットの検索とWebサイト及び引用リストの作成 ・インターネットと電子百科事典を使った情報収集		【講義・演習】 ・児童生徒が制作するプレゼンテーションの作成 ----- インテル情報教育教員支援プログラム担当トレーナー 大柿 美和	自由研究
5 / 22 (水)	【講義・演習】 ・児童生徒が制作する発行物の作成 ・単元教材の作成1 ----- インテル情報教育教員支援プログラム担当トレーナー 大柿 美和		【講義・演習】 ・児童生徒が制作するWebページの作成	自由研究
5 / 23 (木)	【講義・演習】 ・単元教材の作成2 ----- インテル情報教育教員支援プログラム担当トレーナー 大柿 美和		【講義・演習】 ・単元プランの完成 ・リーダー研修	自由研究
5 / 24 (金)	【講義・演習】 ・単元プランの評価 ----- インテル情報教育教員支援プログラム担当トレーナー 大柿 美和		11:45～ 閉講式 アンケート回収 解散	

I 研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－全国2講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員		
開催期日	平成14年11月11日（月）～平成14年11月15日（金）	5 日間	
参加人数	計画人数：50 人	受講者数：50 人	（参加率）：100.0 %
開催場所	独立行政法人 教員研修センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	35人	70.0%	12人	24.0%	2人	4.0%	1人	2.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 情報機器をどう教育に活用すると効果的なのか研修を通じて考えることができた。
- ネットワークやセキュリティの研修も受けたい。
- 自主研修の時間がもう少しあれば研修内容の習得と充実が図れたのではないかと思う。
- PowerPointやWordを使った研修が多かったが、ほとんど活用することがないので、得るものがなかった。
- 教材を生徒の立場で作成することで、自分の教材研究の新たな視点を見つけることができた。
- 常に研修内容を持ち帰ってどうしたらと考えつつ受講できて、大変有意義でした。
- 授業案に直結する研修内容であったので、予想以上に為になった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

教育情報化推進指導者養成講習（中学校・高等学校－全国２講座）

日時	8:30	11:00	12:30	13:30	17:30
11 / 11 (月)	9:30～受付 10:00～オリエンテーション 10:30～開講式	【講義】 学習指導要領における情報化への対応 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 中村 一夫		【講義・演習】 ・情報教育教員支援プログラムへの理解 ・単元プランの作成 ----- インテル情報教育教員支援プログラム担当トレーナー 大柿 美和	自由研究
11 / 12 (火)	【講義・演習】 ・インターネットの検索とWebサイト及び引用リストの作成 ・インターネットと電子百科事典を使った情報収集		【講義・演習】 ・児童生徒が制作するプレゼンテーションの作成	インテル情報教育教員支援プログラム担当トレーナー 大柿 美和	自由研究
11 / 13 (水)	【講義・演習】 ・児童生徒が制作する発行物の作成 ・単元教材の作成1		【講義・演習】 ・児童生徒が制作するWebページの作成	インテル情報教育教員支援プログラム担当トレーナー 大柿 美和	自由研究
11 / 14 (木)	【講義・演習】 ・単元教材の作成2		【講義・演習】 ・単元プランの完成 ・リーダー研修	インテル情報教育教員支援プログラム担当トレーナー 大柿 美和	自由研究
11 / 15 (金)	【講義・演習】 ・単元プランの評価 11:40 ----- インテル情報教育教員支援プログラム担当トレーナー 大柿 美和		11:45～ 閉講式 研修棟 101 研修室 アンケート回収 解 散		

I 研修概要

研 修 名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－全国3講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められる。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員		
開催期日	平成15年3月10日（月）～平成15年3月14日（金）	5 日間	
参加人数	計画人数：50 人	受講者数：29 人	（参加率）：58.0 %
開催場所	独立行政法人 教員研修センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	14人	48.3%	15人	51.7%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- すばらしい講師の先生方で、大変、研修が充実していた。
- 研修会の講師として派遣されることがあるのですが、細かな所まで知らなかったのが現状です。今回の研修により、多くのものが学べた。
- 17年度に向けて、ソフト面・ハード面、そして教員の知識・技能の在り方を明確になりました。
- リーダーとして情報教育を担当する上での考え方やビジョンを中心に構成されていた。
- 知識伝達型から受講者参画型にややとまどいを覚えたが、研修のこれからの方向性や授業への応用が理解できた。
- 校種や教科、年齢の壁を越えて、情報交換ができ、大いに刺激を受けた。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程

中学校・高等学校—全国3講座

日時	9:00	12:00	13:00	14:45	15:00	16:30
3 / 10 (月)	10:30～受付(図書館棟入口) 11:00～オリエンテーション(※A) 11:30～開講式(※A)		【講義】※B 情報化の方向性 情報化社会と教育		【講義】※B 情報教育を支える 技術と課題 情報教育の内容と理解	※B 自由研究
			岩手県立ソフトウェア情報学部 教授 鈴木 克明			
3 / 11 (火)	【講義・演習】※B 情報教育カリキュラムの作成	【講義】※B 情報倫理と プライバシー (Q&A事例中心に討議)	【講義】※B コンピュータやインターネット の教育利用	【講義】※B 校内ネットワークの 基礎知識 校内ネットワークの設計	※B 自由研究	
	金城学院大学現代文化学部 助教授 長谷川 元洋		日本電気㈱ 文教ソリューション事業部 主任 井上 義裕			
3 / 12 (水)	【講義】※B 教育の情報化に対応した授業づくり ・教育の情報化と授業モデル		【講義・演習】※B 授業評価 教材の設計	【発表・協議】※B 成果物の発表	※B 自由研究	
	筑波大学附属駒場中・高等学校 教諭 市川 道和					
3 / 13 (木)	【講義】※B コンサルテーションについて Q&A集 Aの作成(グループ)	【演習・協議】※B コンサルテーション 協議(グループ)	【講義・協議】※B 校内研修の進め方について (グループ協議)	※B 自由研究		
	東京都江東区立第三砂町小学校 教諭 田中 克昌					
3 / 14 (金)	【講義・演習】※B～11:45 校内研修案の作成 校内研修案の発表		11:50～12:00 閉講式 ※A アンケート回収 解散			
	東京都江東区立第三砂町小学校 教諭 田中 克昌					

※研修会場： A＝特別研修棟 プレゼンテーション室、B＝特別研修棟 メディアサポート室

I 研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（盲学校・聾学校－全国講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の盲学校・聾学校の教員		
開催期日	平成15年 1 月20日（月）～平成15年 1 月24日（金）	5	日間
参加人数	計画人数：50 人	受講者数：28 人	（参加率）：56.0 %
開催場所	独立行政法人 教員研修センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	5人	17.8%	21人	75.0%	1人	3.6%	1人	3.6%

2. 研修内容に関する主な意見

○課題をベースにした内容で非常に良かったと思う。

○共同学習の疑似体験においても、情報交換ができ有意義だった。

○本校の情報教育は他校に比べて大変遅れており、早急に研修を計画的に行い職員の意識と技量を高めていかなければならない事が痛い程解り、その方法を具体的に知ることができた。

○必要な情報が精選されていた。

○プレゼンやグループ討議の後の評価やアドバイスがもらえなくて残念だった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程

盲学校・聾学校—全国講座

日時	9:00	12:00	13:00	16:30
1 / 20 (月)	10:30～受付(図書館棟入口) 11:00～オリエンテーション(※A) 11:30～開講式(※A)		【講義】※A 我が国の特別支援教育と 情報化の意義・動向 ----- 文部科学省障害教育特別支援教育課 特殊教育調査官 横田 雅史	※B 自由 研究
1 / 21 (火)	【講義】※B コンピュータや インターネットの 教育利用	【講義】※B ネットを使った 社会参加と情報 モラル	【講義・演習】※B 授業設計と教材作成 一対象の子どもの実態に応じてー	※B 自由 研究
	東京都立葛飾ろう学校 教 諭 伊藤 守		国立特殊教育総合研究所 主任研究官 小野 龍智	
1 / 22 (水)	【講義・演習】※B 授業設計と教材作成 (続き)	【講義・演習】※B プレゼンテーション 発表と相互評価	【講義・演習】※B 校内研修の進め方と校内研修案の作成	※B 自由 研究
	国立特殊教育総合研究所 主任研究官 小野 龍智		横浜市立盲学校 教 諭 松田 基章	
1 / 23 (木)	【講義・演習】※B 校内研修の進め方と校内研修案の作成 (続き)		【講義・演習】※B コンサルテーション Q&A集の検討 協議、Aの作成	※B 自由 研究
	横浜市立盲学校 教 諭 松田 基章		東京都立光明養護学校 教 諭 金森 克浩	
1 / 24 (金)	【見学】～11:45 筑波技術短期大学の見学 ※受講者の希望により聴覚部と視覚部 の各キャンパスに分かれる ※バス移動		11:50～12:00 閉 講 式 ※A アンケート回収 解 散	

※研修会場： A＝特別研修棟 プレゼンテーション室、B＝特別研修棟 メディアサポート室

I 研修概要

研 修 名	教育情報化推進指導者養成研修（養護学校－全国講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の養護学校の教員		
開催期日	平成15年 1 月 6 日（月）～平成15年 1 月10日（金）	5 日間	
参加人数	計画人数：50 人	受講者数：49 人	（参加率）98.0 %
開催場所	独立行政法人 教員研修センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	10人	20.4%	36人	73.5%	2人	4.1%	1人	2.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- この研修を通して情報教育の大切さ、大変さを知り自分の中で意識改革になった。
- グループでの演習、プレゼン発表等は大変良かった。（2人）
- 内容については整理ができたが、戻った後の情報リーダーとしての自信が今ひとつ。
- 講義だけでなく演習も多く取り入れられており、お互い勉強になったと思う。
- 情報リーダーとしての自覚が高まり、その役割について認識できた。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

日時	9:00	12:00	13:00	16:30
1 / 6 (月)	10:30～受付(図書館棟入口) 11:00～オリエンテーション(※A) 11:30～開講式(※A)		【講義】※A 我が国の特別支援教育と 情報化の意義・動向 ----- 文部科学省障害教育特別支援教育課 特殊教育調査官 横田 雅史	※B 自由 研究
1 / 7 (火)	【講義】※B コンピュータや インターネットの 教育利用	【講義】※B ネットを使った 社会参加と情報 モラル	【講義・演習】※B 授業設計と教材作成 一対象の子どもの実態に応じてー	※B 自由 研究
	国立特殊教育総合研究所 主任研究官 大杉 成喜		神奈川県立鶴見養護学校 教諭 福田 裕志	
1 / 8 (水)	【講義・演習】※B 授業設計と教材作成 (続き)	【講義・演習】※B プレゼンテーション 発表と相互評価	【講義・演習】※B 校内研修の進め方と校内研修案の作成	※B 自由 研究
	神奈川県立鶴見養護学校 教諭 福田 裕志		神奈川県立総合教育センター 研修指導主事 中村 信雄	
1 / 9 (木)	【講義・演習】※B 校内研修の進め方と校内研修案の作成 (続き)		【講義・演習】※B コンサルテーション Q&A集の検討 協議、Aの作成	※B 自由 研究
	神奈川県立総合教育センター 研修指導主事 中村 信雄		東京都立光明養護学校 教諭 金森 克浩	
1 / 10 (金)	【見学】～11:45 筑波技術短期大学の見学 ※受講者の希望により聴覚部と視覚部 の各キャンパスに分かれる ※バス移動		11:50～12:00 閉講式 ※A アンケート回収 解散	

※研修会場： A＝特別研修棟 プレゼンテーション室、B＝特別研修棟 メディアサポート室

I 研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（小学校－東部1講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 (趣旨)	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の小学校の教員		
開催期日	平成14年10月7日(月) ～ 平成14年10月11日(金)	5 日間	
参加人数	計画人数	40 人	受講者数 32 人 (参加率) 80.0 %
開催場所	新潟情報専門学校		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	21人	65.6%	10人	31.3%	0人	0.0%	1人	3.1%

2. 研修内容に関する主な意見

○基本的なものから段々、実践的な内容へ移行しており、大変良かった。(7人)

○情報教育のリーダーに求められる資質等が確認できた。(4人)

○従来の講義形式の研修とは、全く異なっていて新鮮だった。
(参加型・インタラクティブな研修であった。)

○CD-ROMで全体が見渡せ、取り組みやすかった。

○戻って伝達講習があることを考えると、構成の工夫など、とても参考になった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 教育情報化推進指導者養成研修 日程表
【小学校 東部1】

日 時	午 前		午 後					
	9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:50	15:00	16:30
第1日 10／7 (月)	9:15 受付 9:45 オリエンテーション 10:15 開講式		①【講演】 情報教育の展望と課題		②【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育		③【講義】 情報教育を支える 技術と課題 情報教育の内容理解	
会 場	第4実習室		第4実習室					
講師等			岩手県立大学 教 授 鈴木 克明					
第2日 10／8 (火)	④【講義・演習】 情報教育カリキュ ラムの作成		⑤【講義】 情報倫理と プライバシー (Q&A事例中心に討議)		⑥【講義】 コンピュータや インターネットの教育利用		⑦【講義】 校内ネットワークの基礎知識 校内ネットワークの設計	
会 場	第4実習室							
講師等	東京国際大学商学部 助教授 山内 豊							
第3日 10／9 (水)	⑧【講義】 教育の情報化に対応した授業づくり ・教育の情報化と授業モデル				⑨【講義・演習】 ・授業評価 ・教材の設計		⑩【発表・協議】 ・成果物の発表	
会 場	第4実習室							
講師等	園田学園女子大学 助教授 原 克彦							
第4日 10／10 (木)	⑪【講義】 コンサルテーションについて Q&A集 Aの作成(グループ)				⑫【演習・協議】 コンサルテーション協議 (グループ)		⑬【講義・協議】 校内研修の進め方について (グループ協議)	
会 場	第4実習室							
講師等	新潟・上越市立東本町小学校 教 諭 清水 雅之							
第5日 10／11 (金)	⑭【講義・演習】 校内研修案の作成		⑮【発表・協議】 校内研修案の発表		12:20 閉講式			
会 場	第4実習室				第4実習室			
講師等	新潟・上越市立東本町小学校 教 諭 清水 雅之							

I 研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（小学校一東部2講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 (趣旨)	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の小学校の教員		
開催期日	平成14年10月7日(月)～平成14年10月11日(金)	5 日間	
参加人数	計画人数: 30 人	受講者数: 30 人	(参加率): 100.0 %
開催場所	千葉県総合教育センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	14人	46.7%	14人	46.7%	1人	3.3%	1人	3.3%

2. 研修内容に関する主な意見

- 最新の情報教育について分かったことも意義があったが、情報教育以外（授業改善など）のことも考え直せたことがよかった。
- 最新の情報にふれる良い機会になった。
- 内容がシンプルにまとまっており、効率良く研修できた。
- 講義は具体的な話も多く分かりやすかった。また、演習は、他の先生方の考え方が分かり自分の見方を広げるのに役立った。
- 推進指導者が、授業設計で実際に使用できるサンプルがあるとよかった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程

小学校 東部2講座

日 時	午 前		午 後	
	9:00	10:20 10:40	12:00	13:00 16:30
10月 7日 (月)	受付 オリエンテーション 開講式	【講義】 初等中等教育における情報 化への対応について 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官 中村一夫	【講義・協議】 情報教育の内容理解と授業設計 メディア教育開発センター 助教授 波多野和彦	
8日 (火)	【講義】 情報倫理と著作権 千葉学芸高等学校 校長 高橋邦夫	【講義】 情報教育を支える技術と課題 富士通ラーニングメディア 部長 戸田博人	【講義・協議】 教育の情報化と支援体制 (人材の活用) 福島県教育センター 指導主事 渡部昌邦	
9日 (水)	【講義・演習】 授業設計と教材の作成 (教材作成, Webページ作成) 松戸市教育委員会 千葉県総合教育センター 指導主事 安蒜 眞 研究指導主事 都丸 明彦 指導主事 小久保 武司			
10日 (木)	【講義・演習】 学習指導におけるコンピュータ,インターネットの役割・活用 上越教育大学 学校教育総合研究センター 教授 南部昌敏	【講義・演習】 コンサルテーションについて 国立教育政策研究所 教育研究情報センター 総括研究官 堀口 秀嗣		
11日 (金)	【講義・演習】 校内研修の進め方 つくば市教育委員会 指導主事 毛利 靖	閉講式		

I 研修概要

研 修 名	教育情報化推進指導者養成研修（小学校－中部１講座）					
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係					
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。					
対 象	国・公立の小学校の教員					
開催期日	平成１４年 ９ 月 ３０ 日（月） ～ 平成１４年 １０ 月 ４ 日（金）	５ 日間				
参加人数	計画人数	４０ 人	受講者数	３１ 人	（参加率）	７７．５ ％
開催場所	名古屋情報メディア専門学校					

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	8人	25.8%	22人	71.0%	0人	0.0%	1人	3.2%

2. 研修内容に関する主な意見

- 情報教育の必要性や有効性など改めて感じた。研修を受ける前とでは、学校を見る目が明らかに違ってきた。
- 全く場違いな研修に来たと当初考えていたが、大変わかりやすく、深く学べた充実感がある。
- ネットワークの設計等は、専門的すぎて理解しにくい所もあった。
- 5日間の研修の内容は興味深いものが多く良かった。(3人)
- ネットワークの基礎知識、設計の部分、コンサルティングの部分に良かった。
- 情報倫理（著作権、プライバシー等）について、自分自身にない面があったため、とても役立った。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程

小学校 中部1 講座

日 時	午 前		午 後	
	9:00 10:30	10:40 12:00	13:00 14:50	15:00 16:30
第1日 9/30 (月)	9:15 受付 9:45 オリエンテーション 10:15 開講式	①【講演】 情報教育の展望と課題	②【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育	③【講義】 情報教育を支える 技術と課題 情報教育の内容理解
会 場	201教室	201教室	201教室	
講師等		東京工業大学 教授 赤堀 侃司	岐阜大学教育学部 助教授 村瀬 康一郎	
第2日 10/1 (火)	④【講義・演習】 情報教育カリキュ ラムの作成	⑤【講義】 情報倫理と プライバシー (Q&A事例中心に討議)	⑥【講義】 コンピュータや インターネットの教育利用	⑦【講義】 校内ネットワークの基礎知識 校内ネットワークの設計
会 場	201教室		201教室	
講師等	岐阜大学教育学部 助教授 村瀬 康一郎		富士通ラーニングメディア 部 長 戸田 博人	
第3日 10/2 (水)	⑧【講義】 教育の情報化に対応した授業づくり ・教育の情報化と授業モデル		⑨【講義・演習】 ・授業評価 ・教材の設計	⑩【発表・協議】 ・成果物の発表
会 場	201教室			
講師等	岩手県立大学 教 授 鈴木 克明			
第4日 10/3 (木)	⑪【講義】 コンサルテーションについて Q&A集 Aの作成(グループ)		⑫【演習・協議】 コンサルテーション協議 (グループ)	⑬【講義・協議】 校内研修の進め方について (グループ協議)
会 場	201教室			
講師等	福島県教育センター 指導主事 渡部 昌邦			
第5日 10/4 (金)	⑭【講義・演習】 校内研修案の作成	⑮【発表・協議】 校内研修案の発表	12:20 閉講式	
会 場	201教室		201教室	
講師等	福島県教育センター 指導主事 渡部 昌邦			

I 研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（小学校－中部2講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の小学校の教員		
開催期日	平成14年 7 月 1 日（月）～平成14年 7 月 5 日（金）	'5 日間	
参加人数	計画人数：24 人	受講者数：14 人	（参加率）：58.3 %
開催場所	ソフトピアジャパン		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	3人	21.4%	9人	64.3%	0人	0.0%	2人	14.3%

2. 研修内容に関する主な意見

- 受講生同志わからないところを聞きあう雰囲気がとてもよかった。
- 他府県の様子や自分の知らない知識を教えてもらったり、方向性が見えたりした。（2人）
- 最終日の研修で皆で楽しく教材をつくることができた。
- 各地の先生方のご苦労が良く分かった。
- ホームページビルダーを使ったことがなかったが、他の方法で簡単にホームページができてうれしかった。すぐに活かそう。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 教育情報化推進指導者養成研修 日程表
【小学校 中部2】

日 時	午 前		午 後					
	9:00	10:30	10:40	12:10	13:10	14:50	15:00	16:30
第 1 日 7 / 1 (月)	9:15 受付 9:45 オリエンテーション 10:15 開講式		①【講演】 情報化の方向性 情報化社会と教育		②【講義】 情報教育を支える 技術と課題、他		③【講義】 情報教育の内容理解	
会 場	マルチメディア実習室 2		マルチメディア実習室 2					
講師等			岐阜大学教育学部 助教授 村瀬 康一郎					
第 2 日 7 / 2 (火)	④【講義・演習】 情報教育カリキュ ラムの作成		⑤【講義】 情報倫理と プライバシー (Q&A事例中心に討議)		⑥【講義】 コンピュータや インターネットの教育利用		⑦【講義】 校内ネットワークの基礎知識 校内ネットワークの設計	
会 場	マルチメディア実習室 2						マルチメディア実習室 2	
講師等	つくば市教育委員会 指導主事 毛利 靖						富士通トレーニングメディア 部 長 戸田 博人	
第 3 日 7 / 3 (水)	⑧【講義】 教材作成について (考え方)		⑨【講義・演習】 ホームページ作成 (教材として)				⑩【発表・協議】 製作物の発表	
会 場	マルチメディア実習室 2							
講師等	筑波大学附属駒場中・高等学校 教 諭 市川 道和							
第 4 日 7 / 4 (木)	⑪【講義】 コンサルテーションについて Q&A集 Aの作成 (グループ)				⑫【演習・協議】 コンサルテーション協議 (グループ)		⑬【講義・協議】 校内研修の進め方について (グループ協議)	
会 場	マルチメディア実習室 2							
講師等	岡山市教育委員会 指導係長 青木 将							
第 5 日 7 / 5 (金)	⑭【講義・演習】 校内研修案の作成		⑮【発表・協議】 校内研修案の発表		12:20 閉講式			
会 場	マルチメディア実習室 2				マルチメディア実習室 2			
講師等	岡山市教育委員会 指導係長 青木 将							

I 研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（小学校－西部1講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の小学校の教員		
開催期日	平成14年10月21日（月）～平成14年10月25日（金）	5 日間	
参加人数	計画人数：38 人	受講者数：38 人	（参加率）：100.0 %
開催場所	穴吹カレッジ・キャリアアップスクール		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	27人	71.1%	11人	28.9%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

○情報化を進める意義についての理論的な内容とともに、実際にそれをどのように推進していくかという、理論と実践のバランスがとれていたと思う。（同意見6名） ○「教育情報化」を進めるためのデータをいただいたり、お話を聞いたりできたので、自分のレベルが上がったような気がする。 ○情報化を推進する者の立場に沿った研修だった。 ○コンサルテーションの観点の大切さを教えてもらった。（同意見1名） ○どの講義も学校で実践していることと結びついており、すぐにでも生かせる内容が多かった。 ○講義と演習、発表などいろいろな内容があり適切であったと思う。（同意見1名）

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度教育情報化推進指導者養成研修 日程表

【小学校一西部1】

日 時	午 前			午 後	
	9:00	10:30	12:00	13:00	15:00 16:30
第1日目 10/21 (月)	受付 (9:00～9:30) オリエンテーション (9:30～10:00) 開講式 (10:00～)	① 【講義】 初等中等教育における情報化への対応について		② 【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育	③ 【講義・演習】 情報教育を支える技術と課題
講 師		国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官 中村一夫		香川大学教育学部 教授 松下文夫	富士通(株)教育文化ソリューション部 インストラクター 芳賀敬輔 木目貴子
第2日目 10/22 (火)	④ 【講義】 情報教育の内容理解 情報教育カリキュラムの作成			⑤ 【講義】 情報倫理とプライバシー	⑥ 【講義・演習】 校内ネットワークの基礎知識 コンピュータやインターネットの教育利用について
講 師	岐阜大学教育学部 助教授 加藤直樹			香川県教育センター 主任技師 山下明年	スズキ教育ソフト株式会社 インストラクター 杉村智恵子 増本恭三
第3日目 10/23 (水)	⑦ 【講義・演習】 コンサルテーションの必要性 Q&A集 Aの作成及び協議			⑧ 【講義・演習】 授業設計と教材作成 実践発表及び事例研究	
講 師	岡山県情報教育センター 研修課長 平松 茂			岡山県教育センター 指導主事 梶元達也	
第4日目 10/24 (木)	⑨ 【演習・発表・協議】 教材の提示・利用方法 発表と相互評価			⑩ 【講義・協議】 校内研修の進め方(実践発表) グループ協議	
講 師	香川県教育委員会事務局義務教育課主任指導主事 國木良輝 同上 東讃教育事務所指導主事 間嶋 浩			香川県教育センター 主席研究員 赤坂津代志	
第5日目 10/25 (金)	⑪ 【演習】 校内研修の立案	⑫ 【発表・協議】 校内研修のあり方と課題		閉講式	
講 師	香川県教育委員会事務局義務教育課 主任指導主事 國木良輝	香川県教育委員会事務局義務教育課 主任指導主事 國木良輝			

I 研修概要

研 修 名	教育情報化推進指導者養成研修（小学校－西部２講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 (趣旨)	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の小学校の教員		
開催期日	平成１４年 ９ 月 １ ７ 日（火） ～ 平成１４年 ９ 月 ２ ０ 日（金）	４ 日間	
参加人数	計画人数： ４ ０ 人	受講者数： ２ １ 人	(参加率)： ５ ２ . ５ %
開催場所	ＫＣＳ北九州情報専門学校		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	8人	38.1%	12人	57.1%	0人	0.0%	1人	4.8%

2. 研修内容に関する主な意見

○「リーダー」として必要な能力・資質が理解できた。また、自分にとって何が必要なのかも確認できた。(3人)

○情報教育の授業モデルや授業評価は、今後役に立つ。

○計画的、系統的に組まれた内容だった。

○資料が大変充実していたため、時間的にゆとりはなかったが、その内容の主旨はよく理解できた。

○グループによる協議、演習が多く組み込まれており、その中でいろいろな県の様子などがわかった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 教育情報化推進指導者養成研修 日程表
【小学校 西部2】

日 時	午 前		午 後	
	9:00 10:30	10:40 12:10	13:10 14:50	15:00 16:30
第1日 9/17 (火)	9:15 受付 9:45 オリエンテーション 10:15 開講式	①【講演】 情報化の方向性 情報化社会と教育	②【講義】 情報教育を支える 技術と課題 情報教育の内容理解	③【講義・演習】 情報教育カリキュラムの 作成
会 場	第2実習室	第2実習室		
講師等		上越教育大学 教 授 南部 昌敏		
第2日 9/18 (水)	④【講義】 情報倫理と プライバシー (Q&A事例中心に討議)	⑤【講義】 コンピュータや インターネットの 教育利用	⑥【講義】 教育の情報化に対応した 授業づくり ・教育の情報化と 授業モデル	⑦【講義・演習】 ・授業評価 ・教材の設計
会 場	第2実習室			
講師等	筑波大学附属駒場中・高等学校 教 諭 市川 道和			
第3日 9/19 (木)	⑧【発表・協議】 ・成果物の発表	⑨【講義】 コンサルテーション について (Q&A集 Aの作成)	⑩【演習・協議】 コンサルテーション協議 (グループ)	⑪【講義・協議】 校内研修の進め方について (グループ協議)
会 場	第2実習室			
講師等	東京都・台東区立忍岡中学校 教 諭 前田 光男			
第4日 9/20 (金)	⑫【講義・演習】 校内研修案の作成	⑬【発表・協議】 校内研修案の発表	12:20 閉講式	
会 場	第2実習室		第2実習室	
講師等	東京都・台東区立忍岡中学校 教 諭 前田 光男			

I 研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－東部1講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 (趣旨)	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員		
開催期日	平成14年 9 月 9 日(月) ～ 平成14年 9 月13日(金)	5 日間	
参加人数	計画人数：40 人	受講者数：20 人	(参加率)：50.0 %
開催場所	北海道情報専門学校		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	9人	45.0%	10人	50.0%	0人	0.0%	1人	5.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 教育情報化、情報教育の現在についての最新の実践例を学べた。(4人)
- 講師の人選がたいへん適切、素晴らしい方々だった。(2人)
- 「座学中心でなく」というねらいどおりの体験的演習が大変役に立った。
- 集中型であったから、間のびしない。CD付もすばらしい。過去に受けたあらゆる分野の研修の中でもベストに近いのではないか。
- リーダーとしての心構えやもつべき資質など、技術面ではなく、取り組み方を研修することができた。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 教育情報化推進指導者養成研修 日程表
【中学校・高等学校 東部1】

日 時	午 前		午 後					
	9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:45	15:00	16:30
第 1 日 9 / 9 (月)	9:15 受付 9:45 オリエンテーション 10:15 開講式		①【講演】 情報化の方向性 情報化社会と教育		②【講義】 情報教育のねらいと カリキュラム		③【講義】 情報教育の内容理解	
会 場	3 0 1 教室		3 0 1 教室				3 0 1 教室	
講師等			聖心女子大学 教 授 永野 和男				福島県教育センター 指導主事 渡部 昌邦	
第 2 日 9 / 10 (火)	④【講義・演習】 情報教育カリキュ ラムの作成		⑤【講義】 情報倫理と プライバシー (Q&A事例中心に討議)		⑥【講義】 コンピュータや インターネットの教育利用		⑦【講義】 校内ネットワークの基礎知識 校内ネットワークの設計	
会 場	3 0 1 教室						3 0 1 教室	
講師等	福島県教育センター 指導主事 渡部 昌邦						電子開発学園衛星教育センター リーダー 福井 雅隆	
第 3 日 9 / 11 (水)	⑧【講義】 教材作成について (考え方)		⑨【講義・演習】 ホームページ作成 (教材として)		⑩【発表・協議】 製作物の発表			
会 場	3 0 1 教室							
講師等	筑波大学附属駒場中・高等学校 教 諭 市川 道和							
第 4 日 9 / 12 (木)	⑪【講義】 コンサルテーションについて Q & A 集 A の作成 (グループ)				⑫【演習・協議】 コンサルテーション協議 (グループ)		⑬【講義・協議】 校内研修の進め方について (グループ協議)	
会 場	3 0 1 教室						3 0 1 教室	
講師等	東京・台東区立忍岡中学校 教 諭 前田 光男						金沢大学教育学部 教 授 中川 一史	
第 5 日 9 / 13 (金)	⑭【講義・演習】 校内研修案の作成		⑮【発表・協議】 校内研修案の発表		12:15 閉講式			
会 場	3 0 1 教室				3 0 1 教室			
講師等	金沢大学教育学部 教 授 中川 一史							

I 研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－東部2講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の中学校・高等学校の教員等		
開催期日	平成14年 9 月 9 日（月）～平成14年 9 月 13 日（金）	5 日間	
参加人数	計画人数：26 人	受講者数：23 人	（参加率）：88.5 %
開催場所	東北電子専門学校		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	8人	34.8%	14人	60.9%	1人	4.3%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- これからの情報教育を推進するために、有効な手立てを学んだ。
- 従来の講義中心の内容から、討議、発表中心へと転換しようとしていたことがよかった。
- 5日間の内容がしっかりしており、特に、前半の日程ではリーダーとしての意識をしっかり持つように工夫されていた。
- 中央で活躍されている講師の先生から直に話を聞くことができた。
- プレゼンテーションの時間を十分にとって欲しいと思った。
- プロジェクター画面が小さくて見えない。
- 受講生のスキルに大きな差がある。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 教育情報化推進指導者養成研修 日程表
【中学校・高等学校 東部2】

日 時	午 前		午 後							
	9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:00	15:00	16:30		
第1日 9／9 (月)	9:00 受付 9:30 オリエンテーション 10:00 開講式		①【講演】 情報教育の展望と課題		②【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育		③【講義】 情報教育を支える 技術と課題、他		④【講義】 情報教育の 内容理解	
会 場	201教室		201教室		201教室					
講師等			東京工業大学 教 授 赤堀 侃司		国立教育政策研究所教育研究情報センター 統括研究官 堀口 秀嗣					
第2日 9／10 (火)	⑤【講義・演習】 情報教育カリキュ ラムの作成		⑥【講義】 情報倫理と プライバシー (Q&A事例中心に討議)		⑦【講義】 コンピュータや インターネットの教育利用			⑧【講義】 校内ネットワークの基礎知識 校内ネットワークの設計		
会 場	201教室							201教室		
講師等	つくば市教育委員会 指導主事 毛利 靖							富士通マーケティング 部 長 戸田 博人		
第3日 9／11 (水)	⑨【講義】 教材作成について (考え方)		⑩【講義・演習】 ホームページ作成 (教材として)				⑪【発表・協議】 製作物の発表			
会 場	201教室									
講師等	千葉県総合教育センター 研究指導主事 森本 均									
第4日 9／12 (木)	⑫【講義】 コンサルテーションについて Q&A集 Aの作成(グループ)				⑬【演習・協議】 コンサルテーション協議 (グループ)			⑭【講義・協議】 校内研修の進め方について (グループ協議)		
会 場	201教室									
講師等	千葉県総合教育センター 研究指導主事 森本 均									
第5日 9／13 (金)	⑮【講義・演習】 校内研修案の作成		⑯【発表・協議】 校内研修案の発表		12:15 閉講式					
会 場	201教室				201教室					
講師等	東京・台東区立忍岡中学校 教 諭 前田 光男									

I 研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－東部3講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員		
開催期日	平成14年 9 月 30 日（月） ～ 平成14年10月 4 日（金）	5 日間	
参加人数	計画人数： 50 人	受講者数： 44 人	（参加率） 88.0 %
開催場所	東京都教職員研修センター分館 東京都総合技術教育センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	16人	36.4%	22人	50.0%	2人	4.5%	4人	9.1%

2. 研修内容に関する主な意見

- いろいろな角度から情報教育の在り方について研修を深めることができ、有意義なものとなった。（4人）
- 情報化の担当者として、現場で実際に動くときに、どれも大変役立つ内容であった。（4人）
- 教育情報化推進指導者としての意識付けという点では、適切であると思いましたが、内容に重複した所があった。（2人）
- 著作権について勉強になった。
- パワーポイントが現場にほぼ定着した現在では、研修内容の工夫が必要だと感じた。
- 教材、資料の準備が良かった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程

中学校・高等学校 東部3講座

日 時	午 前 ～ 9:30 9:40 10:00 12:20			午 後 13:20 16:30
第1日 9/30 (月)	受 付 <u>9:30</u> 起	開 講 式	【講 義】 初等中等教育における情報 化の対応について	【講 義】 ①情報化の方向性 ②情報教育の内容理解 ③情報化社会を支える技術と課題 ④情報化社会と教育
講 師	国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 中 村 一 夫			国立教育政策研究所総括研究官 堀 口 秀 嗣
第2日 10/1 (火)	【講義・演習】 情報倫理と著作権 ①個人情報の取扱いについて ②著作権の取扱いについて ③グループディスカッション			【講義・演習】 教材のプレゼンテーション ①プレゼンテーションの作成 ②プレゼンテーションの編集 ③プレゼンテーション・テクニック
講 師	東京都立小金井北高等学校教諭 延 味 道 都			東京都立池袋商業高等学校教諭 石 山 智 典
第3日 10/2 (水)	【講義・演習】 校内ネットワークの基礎 ①ネットワークの基礎知識 ②ネットワークの設計 ③ネットワークの運用管理の知識 ④インターネットの導入			【講義・演習】 コンサルテーション ①コンサルテーションの必要性 ②研修の進め方 ③グループディスカッション ④発表とまとめ
講 師	東京都立新宿山吹高等学校教諭 川 畑 由 彦			東京都総合技術教育センター 指導主事 三 神 幸 男
第4日 10/3 (木)	【講義・演習】 校内研修の進め方 ①未来の学校の紹介 ②研修の在り方について考えよう			【講義・演習】 校内研修案の作成 ①仮想の学校の研修案の作成 ②まとめと今後の課題
講 師	西東京市立田無第四中学校教諭 平 出 敏			東京都西東京市立田無第四中学校教諭 平 出 敏
第5日 10/4 (金)	研修のまとめ			閉講式
講 師	東京都総合技術教育センター指導主事 出 張 吉 訓			

I 研修概要

研 修 名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校一東部4講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員		
開催期日	平成14年 8 月 5 日（月） ～ 平成14年 8 月 9 日（金）	5	日間
参加人数	計画人数：40人	受講者数：39人	（参加率）：97.5%
開催場所	新潟県立新潟商業高等学校		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	9人	23.1%	27人	69.2%	0人	0.0%	3人	7.7%

2. 研修内容に関する主な意見

- 講義がとても充実していて教育情報化に向けて意識を高めることができ、また、スキルアップもできたので、大変ためになった。(4人)
- 資料も豊富で見やすくわかりやすかった。
- 情報教育の全体像と焦点をしばった内容が盛り込まれており、これからどうしていきべきかおおよそ理解できた。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 教育情報化推進指導者養成研修日程

年月日： 平成14年8月5日～8月9日

研修会場： 新潟県立新潟商業高等学校

日時	午 前		午 後	
第1日 8/5 (月)	9:30 ・受付 ・開講式 ・オリエンテーション	10:15 【講義】 ・初等中等教育における 情報化の対応について	12:00 【講義】 ・情報化の方向性 ・情報化社会と教育	13:00 【演習】 ・OS、マルチメディア
講 師		文部科学省教科調査官 中村一夫 先生	新潟県教育委員会高等 学校教育課指導主事 越沢祐一	新潟県立新潟商業高等学 校教諭 丸山和成
第2日 8/6 (火)	9:00 【講義・演習】 ・情報倫理とプライバシー	10:20 【講義・演習】 ・インターネットの導入 ・ホームページの制作	12:00 【講義・演習】 ・インターネットの導入 ・ホームページの制作	13:00 【演習】 ・制作したホーム ページの発表
講 師	新潟大学法学部 大野幸夫教授	新潟県立新潟商業高等学校教諭 新井勝博, 大島博文		
第3日 8/7 (水)	9:00 【講義・演習】 ・授業設計と教材の作成	12:00	13:00 【講義・演習】 ・授業設計と教材の作成	15:30 【演習】 ・教材のプレゼン テーション
講 師	新潟県立新潟商業高等学校教諭 大竹賢造, 坂井健治			
第4日 8/8 (木)	9:00 【講義・演習】 ・校内ネットワークの基礎知識 ・校内ネットワークの設計	12:00	13:00 【講義・演習】 ・校内ネットワークの設計 ・校内ネットワークの運用管理の知識	16:30
講 師	新潟県立新潟商業高等学校教諭 渡辺欣彦, 大竹賢造, 坂井健治			
第5日 8/9 (金)	9:00 【講義・演習】 ・校内研修の進め方	9:50 【演習】 ・校内研修の案の作成 ・研修案の発表	10:00	13:00 ・閉講式
講 師	新潟県立教育センター 情報・職業教育課 太田指導 主事			14:00

I 研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校一東部5講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員		
開催期日	平成14年 7 月 22 日（月） ～ 平成14年 7 月 26 日（金）	5 日間	
参加人数	計画人数： 40 人	受講者数： 32 人	（参加率） 80.0 %
開催場所	学校法人岩崎学園		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	11人	34.4%	18人	56.3%	2人	6.2%	1人	3.1%

2. 研修内容に関する主な意見

- 自分の職場以外の現状や取り組みがわかり大変参考になった。
- 提示された資料にはこれからの具体的な実践に参考になるものが多く、演習も良い経験になった。
- 全体的視野にたって情報教育を考える機会になった。技術中心に考えてきたことを反省する機会にもなった。
- グループディスカッション、プレゼンテーションが多かった。教材がCD-ROMで配布されるというのは利用しやすくよかった。
- 今回の研修は校種・教科が混合でしたので、研修の内容（項目）を絞ったほうが良かったと思う。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 教育情報化推進指導者養成研修 日程表
【中学校・高等学校 東部5】

日 時	午 前		午 後					
	9:00	10:30	10:40	12:10	13:10	14:50	15:00	16:30
第 1 日 7 / 22 (月)	9:15 受付 9:45 オリエンテーション 10:15 開講式		①【講演】 情報化の方向性 情報化社会と教育		②【講義】 情報教育を支える 技術と課題、他		③【講義】 情報教育の内容理解	
会 場	7 0 3 教室		7 0 3 教室					
講師等			上越教育大学 教 授 南部 昌敏					
第 2 日 7 / 23 (火)	④【講義・演習】 情報教育カリキュ ラムの作成		⑤【講義】 情報倫理と プライバシー (Q&A事例中心に討議)		⑥【講義】 コンピュータや インターネットの教育利用		⑦【講義】 校内ネットワークの基礎知識 校内ネットワークの設計	
会 場	7 0 3 教室						7 0 3 教室	
講師等	千葉県教育委員会 主 幹 真田 孝則						富士通ラーニングメディア 部 長 戸田 博人	
第 3 日 7 / 24 (水)	⑧【講義】 教材作成について (考え方)		⑨【講義・演習】 ホームページ作成 (教材として)				⑩【発表・協議】 製作物の発表	
会 場	7 0 3 教室							
講師等	筑波大学附属駒場中・高等学校 教 諭 市川 道和							
第 4 日 7 / 25 (木)	⑪【講義】 コンサルテーションについて Q&A集 Aの作成 (グループ)				⑫【演習・協議】 コンサルテーション協議 (グループ)		⑬【講義・協議】 校内研修の進め方について (グループ協議)	
会 場	7 0 3 教室						7 0 3 教室	
講師等	東京・江東区立第三砂町小学校 教 諭 田中 克昌						東京・台東区立忍岡中学校 教 諭 前田 光男	
第 5 日 7 / 26 (金)	⑭【講義・演習】 校内研修案の作成		⑮【発表・協議】 校内研修案の発表		12:20 閉講式			
会 場	7 0 3 教室				7 0 3 教室			
講師等	東京・台東区立忍岡中学校 教 諭 前田 光男							

I 研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－東部6講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員		
開催期日	平成14年 8 月 19 日（月）～平成14年 8 月 23 日（金）	5 日間	
参加人数	計画人数：40 人	受講者数：40 人	（参加率）：100.0%
開催場所	学校法人玉川大学		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	6人	15.0%	29人	72.5%	2人	5.0%	3人	7.5%

2. 研修内容に関する主な意見

- 講師の先生方が大変熱心で情報への熱意がこちらにひしひしと伝わり、これからの取り組みに対して心構えが強くなった。
- 情報教育を通して人間を育てる意識を再認識できた。
- 課題→グループ協議→発表という形式は、ただ話を聞くだけでなく自分で考え、また、他の学校の状況もわかり良かった。
- 今後につながる新しい知識、観点をうかがうことができた。（2人）
- 指導的立場がどうあるべきかということについては大変よく理解できたが、自分自身のレベルからするともう少し技術的なスキルアップが必要であると感じた。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 教育情報化推進指導者養成研修 日程表
【中学校・高等学校 東部6】

日 時	午 前		午 後							
	9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:00	15:00	16:30		
第1日 8/19 (月)	9:00 受付 9:30 オリエンテーション 10:00 開講式		①【講演】 情報教育の展望と課題		②【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育		③【講義】 情報教育を支える 技術と課題、他		④【講義】 情報教育の 内容理解	
会 場	1 2 7 演習室		1 2 7 演習室		1 2 7 演習室					
講師等			東京工業大学 教 授 赤堀 侃司		東京国際大学 助教授 山内 豊					
第2日 8/20 (火)	⑤【講義・演習】 情報教育カリキュ ラムの作成		⑥【講義】 情報倫理と プライバシー (Q&A事例中心に討議)		⑦【講義】 コンピュータや インターネットの教育利用			⑧【講義】 校内ネットワークの基礎知識 校内ネットワークの設計		
会 場	1 2 7 演習室							1 2 7 演習室		
講師等	東京国際大学 助教授 山内 豊							富士通ラーニング・メディア 部 長 戸田 博人		
第3日 8/21 (水)	⑨【講義】 教材作成について (考え方)		⑩【講義・演習】 ホームページ作成 (教材として)				⑪【発表・協議】 製作物の発表			
会 場	1 2 7 演習室									
講師等	福岡県教育庁 指導主事 奥 浩 幸									
第4日 8/22 (木)	⑫【講義】 コンサルテーションについて Q&A集 Aの作成(グループ)				⑬【演習・協議】 コンサルテーション協議 (グループ)			⑭【講義・協議】 校内研修の進め方について (グループ協議)		
会 場	1 2 7 演習室									
講師等	東京・台東区立忍岡中学校 教 諭 前田 光男									
第5日 8/23 (金)	⑮【講義・演習】 校内研修案の作成		⑯【発表・協議】 校内研修案の発表		12:15 閉講式					
会 場	1 2 7 演習室				1 2 7 演習室					
講師等	東京・台東区立忍岡中学校 教 諭 前田 光男									

I 研修概要

研 修 名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－中部1講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員		
開催期日	平成14年12月9日（月）～平成14年12月13日（金）	5 日間	
参加人数	計画人数：40 人	受講者数：39 人	（参加率）：97.5 %
開催場所	石川県教育センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	20人	51.3%	19人	48.7%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 推進指導者として、何を知識としてどうあるべきかの方向性を明確にしていた。
- 5日間の研修が大変系統的であり、各先生方が述べている事柄に1本すじが通っていた。
- 今まで知らなかった情報教育の流れや著作権について勉強できた。
- 各分野の一流の講師陣で、どの講義からも大変参考になることが吸収できた。（2人）
- 内容は良いと思うが、受講者が興味深く受けられるものへと更に工夫をしてもらえるとありがたい。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

日時	午前		午後	
	9:00	12:00	13:00	17:00
第1日 12／9 (月)	受付 オリエンテーション 開講式	① 【講義】 初等中等教育における情報化の対応について	② 【講義】 教育情報ナショナルセンターの「教育の情報化」支援について	③ 【講義】 情報教育の内容理解
		国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 中村 一夫	国立教育政策研究所 教育情報センター長 清水 康敬	富山大学教育学部 助教授 黒田 卓
第2日 12／10 (火)	④ 【講義・演習】 情報倫理とプライバシーについて		⑤ 【講義・演習】 情報カリキュラムの作成	⑥ 【講義】 学習指導における活用
	社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会 調査部次長 三橋 信司		東京工業大学 教授 赤堀 侃司	石川県教育センター 指導主事 村井万寿夫
第3日 12／11 (水)	⑦ 【講義・演習】 Web ページや教材の作成について、事例研究 マルチメディア教材の作成、教材の発表			
	金沢星稜大学経済学部 教授 岡部 昌樹 石川県教育センター 指導主事 Web 教材作成：多井伸明、塚田秀和 PPT 教材作成：寺西孝文、山口文彦			
第4日 12／12 (木)	⑧ 【講義・演習】 コンサルティングについて Q＆A集 Aの作成		⑨ 【講義・協議】 校内研修の進め方	
	関西大学情報学部 教授 黒上 晴夫		岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 教授 鈴木 克明	
第5日 12／13 (金)	⑩ 【演習・発表】 校内研修案の作成と発表		閉講式 アンケート回収	
	金沢大学教育学部 助教授 中川 一史			

I 研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－中部2講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員		
開催期日	平成14年11月11日（月）～平成14年11月15日（金）	5	日間
参加人数	計画人数：40人	受講者数：26人	（参加率）：65.0%
開催場所	園田学園女子大学 30周年記念館4F情報教育センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	9人	34.7%	16人	61.5%	1人	3.8%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 情報教育の重要性が強く認識できた。
- 今までにない内容が多く勉強になった。
- ハード面もそうだが、研修面でも、やはり費用をかけて集中した研修が必要だと感じた。
- 情報教育についての知識が少なかったため、全てが新鮮だった。
- 講師の先生の個性あふれる考え方、資料の提示など、工夫されていて、とても参考になった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 教育情報化推進指導者養成研修 日程表
【中学校・高等学校 中部2】

日 時	午 前		午 後	
	9:00 10:30	10:40 12:00	13:00 14:50	15:00 16:30
第1日 11/11 (月)	9:15 受付 9:45 オリエンテーション 10:15 開講式	①【講演】 情報教育の展望と課題	②【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育	③【講義】 情報教育を支える技術と課題 情報教育の内容理解
会 場	546教室	546教室		
講師等		大阪大学 教 授 前迫 孝憲		
第2日 11/12 (火)	④【講義・演習】 情報教育カリキュラムの作成	⑤【講義】 情報倫理と プライバシー (Q&A事例中心に討議)	⑥【講義】 コンピュータや インターネットの教育利用	⑦【講義】 校内ネットワークの基礎知識 校内ネットワークの設計
会 場	546教室	546教室	546教室	546教室
講師等	園田学園女子大学 助教授 原 克彦	園田学園女子大学 助教授 伊藤 剛和	園田学園女子大学 助教授 原 克彦	園田学園女子大学 助教授 伊藤 剛和
第3日 11/13 (水)	⑧【講義】 教育の情報化に対応した授業づくり ・教育の情報化と授業モデル		⑨【講義・演習】 ・授業評価 ・教材の設計	⑩【発表・協議】 ・成果物の発表
会 場	546教室			
講師等	筑波大学附属駒場中・高等学校 教 諭 市川 道和			
第4日 11/14 (木)	⑪【講義】 コンサルテーションについて Q&A集 Aの作成(グループ)		⑫【演習・協議】 コンサルテーション協議 (グループ)	⑬【講義・協議】 校内研修の進め方について (グループ協議)
会 場	546教室			
講師等	岡山市教育委員会 指導係長 青木 将			
第5日 11/15 (金)	⑭【講義・演習】 校内研修案の作成	⑮【発表・協議】 校内研修案の発表	12:15 閉講式	
会 場	546教室		546教室	
講師等	大阪教育大学附属池田中学校 教 諭 田中 龍三			

I 研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－中部3講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員		
開催期日	平成14年11月18日（月）～平成14年11月22日（金）	5	日間
参加人数	計画人数：40人	受講者数：25人	（参加率）：62.5%
開催場所	園田学園女子大学 30周年記念館4F情報教育センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	11人	44.0%	13人	52.0%	1人	4.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 情報教育における指導のしかたについて学習や話し合いを深めることができた。
- 日頃の実践の中で、問題となる点がたくさんあるが、そのいくつかを解決するきっかけがつかめてきたように思う。
- 研修の目的内容は、適切であったが、自分自身の情報の知識・技術が乏しいことから、厳しいものがあつた。
- これまでの研修と大きく変わった点は、自分の意識が変わったことで、これからは「ゆるがない」ことを目指していきたい。
- グループでの協同作業は、地域、校種の違いを乗り越えられて良かった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 教育情報化推進指導者養成研修 日程表
【中学校・高等学校 中部3】

日 時	午 前		午 後					
	9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:50	15:00	16:30
第 1 日 11/18 (月)	9:15 受付 9:45 オリエンテーション 10:15 開講式		①【講演】 情報教育の展望と課題		②【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育		③【講義】 情報教育を支える技術と課題 情報教育の内容理解	
会 場	5 4 6 教室		5 4 6 教室					
講師等			岐阜大学教育学部附属中学校 副校長 井上 志郎					
第 2 日 11/19 (火)	④【講義・演習】 情報教育カリキュ ラムの作成		⑤【講義】 情報倫理と プライバシー (Q&A事例中心に討議)		⑥【講義】 コンピュータや インターネットの教育利用		⑦【講義】 校内ネットワークの基礎知識 校内ネットワークの設計	
会 場	5 4 6 教室		5 4 6 教室		5 4 6 教室			
講師等	園田学園女子大学 助教授 原 克彦		園田学園女子大学 助教授 伊藤 剛和		富士通ラーニングメディア 部 長 戸田 博人			
第 3 日 11/20 (水)	⑧【講義】 教育の情報化に対応した授業づくり ・教育の情報化と授業モデル				⑨【講義・演習】 ・授業評価 ・教材の設計		⑩【発表・協議】 ・成果物の発表	
会 場	5 4 6 教室							
講師等	大阪教育大学附属池田中学校 教 諭 田中 龍三							
第 4 日 11/21 (木)	⑪【講義】 コンサルテーションについて Q & A 集 A の作成 (グループ)				⑫【演習・協議】 コンサルテーション協議 (グループ)		⑬【講義・協議】 校内研修の進め方について (グループ協議)	
会 場	5 4 6 教室							
講師等	新潟・上越市立東本町小学校 教 諭 清水 雅之							
第 5 日 11/22 (金)	⑭【講義・演習】 校内研修案の作成		⑮【発表・協議】 校内研修案の発表		12:20 閉講式			
会 場	5 4 6 教室				5 4 6 教室			
講師等	新潟・上越市立東本町小学校 教 諭 清水 雅之							

I 研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－中部4講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員		
開催期日	平成14年11月25日（月）～平成14年11月29日（金）	5	日間
参加人数	計画人数：40人	受講者数：24人	（参加率）：60.0%
開催場所	園田学園女子大学 30周年記念館4F情報教育センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	12人	50.0%	12人	50.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 担当者として広い視野と今後の方向性が見えた気がする。
- 毎日の講義をわくわくしながら、楽しみながら受講でき、今後にも生かしたい内容であり、大変満足している。
- 特に後半は、作業（協同作業）が多く、多くの先生方から様々な事を学ぶことができた。
- 参加するにあたって、その研修の目的を十分に理解し、参加することの大切さを実感した。
- 現場とかけ離れた内容もあった。できれば、学校現場を見た講義の方が、この研修のスタートとして適切なものになると思う。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 教育情報化推進指導者養成研修 日程表
【中学校・高等学校 中部4】

日 時	午 前		午 後	
	9:00 10:30	10:40 12:00	13:00 14:50	15:00 16:30
第1日 11/25 (月)	9:15 受付 9:45 オリエンテーション 10:15 開講式	①【講演】 情報教育の展望と課題	②【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育	③【講義】 情報教育を支える技術と課題 情報教育の内容理解
会 場	546教室	546教室		
講師等		大阪大学 教 授 前迫 孝憲		
第2日 11/26 (火)	④【講義・演習】 情報教育カリキュ ラムの作成	⑤【講義】 情報倫理と プライバシー (Q&A事例中心に討議)	⑥【講義】 コンピュータや インターネットの教育利用	⑦【講義】 校内ネットワークの基礎知識 校内ネットワークの設計
会 場	546教室	546教室	546教室	546教室
講師等	園田学園女子大学 助教授 原 克彦	園田学園女子大学 助教授 伊藤 剛和	園田学園女子大学 助教授 原 克彦	園田学園女子大学 助教授 伊藤 剛和
第3日 11/27 (水)	⑧【講義】 教育の情報化に対応した授業づくり ・教育の情報化と授業モデル		⑨【講義・演習】 ・授業評価 ・教材の設計	⑩【発表・協議】 ・成果物の発表
会 場	546教室			
講師等	園田学園女子大学 助教授 原 克彦			
第4日 11/28 (木)	⑪【講義】 コンサルテーションについて Q&A集 Aの作成(グループ)		⑫【演習・協議】 コンサルテーション協議 (グループ)	⑬【講義・協議】 校内研修の進め方について (グループ協議)
会 場	546教室			
講師等	川崎市立下作延小学校 教 諭 岩田 昭彦			
第5日 11/29 (金)	⑭【講義・演習】 校内研修案の作成	⑮【発表・協議】 校内研修案の発表	12:20 閉講式	
会 場	546教室		546教室	
講師等	川崎市立下作延小学校 教 諭 岩田 昭彦			

I 研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－中部5講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員		
開催期日	平成14年 9 月 30 日（月） ～ 平成14年10月 4 日（金）	5 日間	
参加人数	計画人数： 40 人	受講者数： 37 人	（参加率）： 92.5 %
開催場所	大阪情報専門学校		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	16人	43.2%	19人	51.4%	2人	5.4%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 学校ですぐに活用できる内容であった。(3人)
- 内容に系統性があり、「教育の情報化」の概略をつかむことができた。(2人)
- 情報化の進展に対応する能力も必要だが、心構えも必要だということが分かり良かった。(2人)
- 講義の後に、協議・発表その後にまとめという形で進められたので、とても充実した内容だった。
- 自分の現場での学習不足・努力不足がよく分かったし、もう一度、頑張ろうという気になった。
- 内容が濃密であったので、振り返りの時間が少なくなつた。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程

中学校・高等学校 中部5 講座

日 時	午 前		午 後					
	9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:50	15:00	16:30
第1日 9／30 (月)	9:15 受付 9:45 オリエンテーション 10:15 開講式		①【講演】 情報化の方向性 情報化社会と教育		②【講義】 情報教育を支える 技術と課題、他		③【講義】 情報教育の内容理解	
会 場	403教室		403教室					
講師等			大阪大学 教 授 前迫 孝憲					
第2日 10／1 (火)	④【講義・演習】 情報教育カリキュ ラムの作成		⑤【講義】 情報倫理と プライバシー (Q&A事例中心に討議)		⑥【講義】 コンピュータや インターネットの教育利用		⑦【講義】 校内ネットワークの基礎知識 校内ネットワークの設計	
会 場	403教室							
講師等	千葉県総合教育センター 研究指導主事 森本 均							
第3日 10／2 (水)	⑧【講義】 教育の情報化に対応した授業づくり ・教育の情報化と授業モデル				⑨【講義・演習】 ・授業評価 ・教材の設計		⑩【発表・協議】 ・成果物の発表	
会 場	403教室							
講師等	富山大学教育学部 助教授 黒田 卓							
第4日 10／3 (木)	⑪【講義】 コンサルテーションについて Q&A集 Aの作成(グループ)				⑫【演習・協議】 コンサルテーション協議 (グループ)		⑬【講義・協議】 校内研修の進め方について (グループ協議)	
会 場	403教室							
講師等	東京都江東区立第三砂町小学校 教 諭 田中 克昌							
第5日 10／4 (金)	⑭【講義・演習】 校内研修案の作成		⑮【発表・協議】 校内研修案の発表		12:20 閉講式			
会 場	403教室				403教室			
講師等	東京都江東区立第三砂町小学校 教 諭 田中 克昌							

I 研修概要

研 修 名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－西部1講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員		
開催期日	平成14年 9 月 3 0 日（月） ～ 平成14年10月 4 日（金）	5 日間	
参加人数	計画人数： 4 0 人	受講者数： 4 0 人	（参加率） 1 0 0 . 0 %
開催場所	広島情報専門学校		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	17人	42.5%	19人	47.5%	2人	5.0%	2人	5.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 情報が大変豊富で良い刺激になった。（3人）
- 技術的なことだけでなく、基本的な考え方が最初に述べられていたので良かった。
- 学校や地域へ帰った後、すぐに研修内容が実践できるようにカリキュラムが考えていると思った。（5人）
- グループに分かれての演習は、とても勉強になった。
- レベルが高く、私にとっては大変だった。内容も理解出来ないことが多かった。
- やはり一週間という時間の中で、これだけのテーマは大変だった。（8人）

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 教育情報化推進指導者養成研修 日程表
【中学校・高等学校 西部1】

日 時	午 前		午 後					
	9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:50	15:00	16:30
第 1 日 9 / 30 (月)	9:15 受付 9:45 オリエンテーション 10:15 開講式		①【講演】 情報化の方向性 情報化社会と教育		②【講義】 情報教育を支える 技術と課題、他		③【講義】 情報教育の内容理解	
会 場	6 S 3 教室		5 N 2 教室					
講師等	上越教育大学 教 授 南部 昌敏							
第 2 日 10 / 1 (火)	④【講義・演習】 情報教育カリキュ ラムの作成		⑤【講義】 情報倫理と プライバシー (Q&A事例中心に討議)		⑥【講義】 コンピュータや インターネットの教育利用		⑦【講義】 校内ネットワークの基礎知識 校内ネットワークの設計	
会 場	5 N 2 教室							
講師等	日本電気㈱ 文教ソリューション事業部 主 任 井上 義裕							
第 3 日 10 / 2 (水)	⑧【講義】 教育の情報化に対応した授業づくり ・教育の情報化と授業モデル				⑨【講義・演習】 ・授業評価 ・教材の設計		⑩【発表・協議】 ・成果物の発表	
会 場	5 N 2 教室							
講師等	岡山市教育委員会 指導係長 青木 将							
第 4 日 10 / 3 (木)	⑪【講義】 コンサルテーションについて Q & A集 Aの作成 (グループ)				⑫【演習・協議】 コンサルテーション協議 (グループ)		⑬【講義・協議】 校内研修の進め方について (グループ協議)	
会 場	5 N 2 教室							
講師等	三重県教育委員会 研修主事 中村 武弘							
第 5 日 10 / 4 (金)	⑭【講義・演習】 校内研修案の作成		⑮【発表・協議】 校内研修案の発表		12:20 閉講式			
会 場	5 N 2 教室				6 S 3 教室			
講師等	三重県教育委員会 研修主事 中村 武弘							

I 研修概要

研 修 名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－西部2講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員		
開催期日	平成14年 9 月17日（火）～平成14年 9 月20日（金）	4	日間
参加人数	計画人数：40 人	受講者数：27 人	（参加率）：67.5 %
開催場所	KCS福岡情報専門学校		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	6人	22.2%	20人	74.1%	0人	0.0%	1人	3.7%

2. 研修内容に関する主な意見

- 情報教育の重要性を認識することができたのでよかった。
- 新たな発見や知識を得て、現場ですぐ活用できる内容であった。（2人）
- 情報化推進にあたっての意義や課題、問題点を認識することができた。（2人）
- 講師によって内容・説明の充実度に差があった。
- 情報教育の留意点を踏まえて、今後、考えていかなければならないことを、グループで協議できたことは適切であった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 教育情報化推進指導者養成研修 日程表
【中学校・高等学校 西部2】

日 時	午 前		午 後	
	9:00 10:30	10:40 12:10	13:10 14:50	15:00 16:30
第1日 9/17 (火)	9:15 受付 9:45 オリエンテーション 10:15 開講式	①【講演】 情報化の方向性 情報化社会と教育	②【講義】 情報教育を支える 技術と課題 情報教育の内容理解	③【講義・演習】 情報教育カリキュラムの 作成
会 場	208教室	208教室		
講師等		武庫川女子大学 教 授 中野 彰		
第2日 9/18 (水)	④【講義】 情報倫理と プライバシー (Q&A事例中心に討議)	⑤【講義】 コンピュータや インターネットの 教育利用	⑥【講義】 教育の情報化に対応した 授業づくり ・教育の情報化と 授業モデル	⑦【講義・演習】 ・授業評価 ・教材の設計
会 場	208教室			
講師等	メディア教育開発センター 助教授 波多野 和彦			
第3日 9/19 (木)	⑧【発表・協議】 ・成果物の発表	⑨【講義】 コンサルテーション について (Q&A集 Aの作成)	⑩【演習・協議】 コンサルテーション協議 (グループ)	⑪【講義・協議】 校内研修の進め方について (グループ協議)
会 場	208教室			
講師等	東京都・江東区立第三砂町小学校 教 諭 田中 克昌			
第4日 9/20 (金)	⑫【講義・演習】 校内研修案の作成	⑬【発表・協議】 校内研修案の発表	12:20 閉講式	
会 場	208教室		208教室	
講師等	東京都・江東区立第三砂町小学校 教 諭 田中 克昌			

I 研修概要

研 修 名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－西部3講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員		
開催期日	平成14年 9 月24日（火）～平成14年 9 月27日（金）	4 日間	
参加人数	計画人数：40 人	受講者数：19 人	（参加率）：47.5 %
開催場所	KCS福岡情報専門学校		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	7人	36.8%	12人	63.2%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 内容が、今の学校の現状に合っている。リーダーの心構えの指針となる。
- 貴重な資料や講義は、これから情報教育を推進していく上で、非常に役に立ち、心強い。
- グループ協議が多く、いろいろな項目でいろいろな意見が聞けて、幅が広がった。
- 情報教育を用いた指導案作りやコンサルテーション協議は、現場に戻っても役立つ内容だと感じた。
- もう少し時間があればと思う。（1つ1つをもう少し、じっくり取り組みたい。）（4人）

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 教育情報化推進指導者養成研修 日程表
【中学校・高等学校 西部3】

日 時	午 前		午 後	
	9:00 10:30	10:40 12:10	13:10 14:50	15:00 16:30
第1日 9/24 (火)	9:15 受付 9:45 オリエンテーション 10:15 開講式	①【講演】 情報化の方向性 情報化社会と教育	②【講義】 情報教育を支える 技術と課題 情報教育の内容理解	③【講義・演習】 情報教育カリキュラムの 作成
会 場	208教室	208教室		
講師等		国立教育政策研究所 統括研究官 堀口 秀嗣		
第2日 9/25 (水)	④【講義】 情報倫理と プライバシー (Q&A事例中心に討議)	⑤【講義】 コンピュータや インターネットの 教育利用	⑥【講義】 教育の情報化に対応した 授業づくり ・教育の情報化と 授業モデル	⑦【講義・演習】 ・授業評価 ・教材の設計
会 場	208教室			
講師等	長崎県・長崎市立洲中学校 教 諭 田中 真			
第3日 9/26 (木)	⑧【発表・協議】 ・成果物の発表	⑨【講義】 コンサルテーション について (Q&A集 Aの作成)	⑩【演習・協議】 コンサルテーション協議 (グループ)	⑪【講義・協議】 校内研修の進め方について (グループ協議)
会 場	208教室			
講師等	福岡県教育庁 指導主事 奥 浩幸			
第4日 9/27 (金)	⑫【講義・演習】 校内研修案の作成	⑬【発表・協議】 校内研修案の発表	12:20 閉講式	
会 場	208教室		208教室	
講師等	福岡県教育庁 指導主事 奥 浩幸			

I 研修概要

研 修 名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－西部4講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員		
開催期日	平成14年 9 月 2 日（月）～平成14年 9 月 6 日（金）	5 日間	
参加人数	計画人数：32 人	受講者数：23 人	（参加率）：71.9 %
開催場所	熊本県立教育センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	16人	69.6%	7人	30.4%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 「教育の情報化」と「情報教育」の違いが見えてくるにつれ、授業改善の視点がはっきりしてきた。（5人）
- 情報化というテーマ全体をおさえつつ、実践で使える資料や教材が豊富であった。（4人）
- 課題を中心に進めていく研修はとても良かった。
- グループ学習により、お互いに情報交換ができ、有効な対策を考える事ができた。（3人）
- 推進リーダーとしてなすべきことが、認識できた。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程

中学校・高等学校－西部4講座

日 時	午 前		午 後			
	9:00 10:30	10:40 12:10	13:10 14:10	14:20 15:20	15:30 16:30	
第 1 日 9 / 2 (月)	9:00 受付 9:30 オリエンテーション 10:00 開講式	①【講義】 初等中等教育における情報化への対応	②【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育	③【講義】 情報教育を支える技術と課題	④【講義】 情報教育の内容理解	
講 師		国立教育政策研究所 教育課程調査官 中村 一夫	静岡大学助教授 堀田 龍也			
第 2 日 9 / 3 (火)	⑤【講義】 情報教育カリキュラム	⑥【講義】 情報倫理とプライバシー	⑦【講義】 コンピュータやインターネットの教育利用	⑧【講義】 授業設計と教材作成 事例研究		
講 師	静岡大学助教授 堀田 龍也		鳴門教育大学助教授 益子 典文			
第 3 日 9 / 4 (水)	⑨【講義・演習】 授業設計と教材作成			⑩【発表・協議】 教材のプレゼンテーション		
講 師	鳴門教育大学助教授 益子 典文					
第 4 日 9 / 5 (木)	⑪【講義・演習】 コンサルテーションについて Q & A 集		⑫【協議】 コンサルテーション協議	⑬【講義・協議】 校内研修の進め方について		
講 師	熊本大学助教授 田口 浩継					
第 5 日 9 / 6 (金)	⑭【演習】 校内研修案の作成	⑮【発表・協議】 校内研修案の発表 協議	閉講式 12:15			
講 師	熊本大学助教授 田口 浩継					

I 研修概要

研 修 名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－西部5講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 (趣旨)	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員		
開催期日	平成14年10月7日(月) ～ 平成14年10月11日(金)	5 日間	
参加人数	計画人数	40 人	受講者数 28 人 (参加率) 70.0 %
開催場所	KCS大分情報専門学校		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	17人	60.7%	10人	35.7%	0人	0.0%	1人	3.6%

2. 研修内容に関する主な意見

- 今までの自分の視野を広げてもらえた。(3人)
- 情報リーダー育成に適した研修であった。(2人)
- 国際的な動向、社会全体の方向性を違う視点から理解することができた。(2人)
- 講義と演習がうまくコンビネーションされ、これからの「情報化」の方向性をつかむ事ができた。
- これまで受けてきた講座は、スキル中心のものだっただけに、今回の講座は、キーボードが苦手な先生方も興味を持って出来ると感じた。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 教育情報化推進指導者養成研修 日程表
【中学校・高等学校 西部5】

日 時	午 前		午 後					
	9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:50	15:00	16:30
第 1 日 10／ 7 (月)	9:15 受付 9:45 オリエンテーション 10:15 開講式		①【講演】 情報教育の展望と課題		②【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育		③【講義】 情報教育を支える 技術と課題 情報教育の内容理解	
会 場								
講師等	大阪大学 教 授 前迫 孝憲							
第 2 日 10／ 8 (火)	④【講義・演習】 情報教育カリキュ ラムの作成		⑤【講義】 情報倫理と プライバシー (Q&A事例中心に討議)		⑥【講義】 コンピュータや インターネットの教育利用		⑦【講義】 校内ネットワークの基礎知識 校内ネットワークの設計	
会 場								
講師等	日本電気㈱文教ソリューション事業部 主 任 井上 義裕							
第 3 日 10／ 9 (水)	⑧【講義】 教育の情報化に対応した授業づくり ・教育の情報化と授業モデル				⑨【講義・演習】 ・授業評価 ・教材の設計		⑩【発表・協議】 ・成果物の発表	
会 場								
講師等	筑波大学附属駒場中・高等学校 教 諭 市川 道和							
第 4 日 10／10 (木)	⑪【講義】 コンサルテーションについて Q & A集 Aの作成 (グループ)				⑫【演習・協議】 コンサルテーション協議 (グループ)		⑬【講義・協議】 校内研修の進め方について (グループ協議)	
会 場								
講師等	東京都・台東区立忍岡中学校 教 諭 前田 光男							
第 5 日 10／11 (金)	⑭【講義・演習】 校内研修案の作成		⑮【発表・協議】 校内研修案の発表		12:20 閉講式			
会 場								
講師等	東京都・台東区立忍岡中学校 教 諭 前田 光男							

I 研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－西部6講座）		
担当課係	研修事業第一課 長期研修第二係		
研修目的 （趣旨）	新しい学習指導要領では、各教科等や「総合的な学習の時間」において、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため、初等中等教育においては、情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため、教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。		
対 象	国・公立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員		
開催期日	平成14年10月7日（月）～平成14年10月11日（金）	5 日間	
参加人数	計画人数：40 人	受講者数：14 人	（参加率）：35.0 %
開催場所	KCS鹿児島情報専門学校		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	10人	71.4%	4人	28.6%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- リーダーとしての役割を認識でき、意欲が湧いた。（2人）
- 情報教育が置かれている現状や、皆さんが抱えている問題点が、共通している事が分かった。
- 現場の教員が直面するであろう、さまざまな問題について、よく整理されていた。
- 各種CDを見ながら今後も自主学習を進められると思った。
- 協議、実習が多く取り込まれ、とても為になった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 教育情報化推進指導者養成研修 日程表
【中学校・高等学校 西部6】

日 時	午 前		午 後					
	9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:50	15:00	16:30
第 1 日 10／ 7 (月)	9:15 受付 9:45 オリエンテーション 10:15 開講式		①【講演】 情報教育の展望と課題		②【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育		③【講義】 情報教育を支える 技術と課題 情報教育の内容理解	
会 場								
講師等			武庫川女子大学 教 授 中野 彰					
第 2 日 10／ 8 (火)	④【講義・演習】 情報教育カリキュ ラムの作成		⑤【講義】 情報倫理と プライバシー (Q&A事例中心に討議)		⑥【講義】 コンピュータや インターネットの教育利用		⑦【講義】 校内ネットワークの基礎知識 校内ネットワークの設計	
会 場								
講師等	徳島・池田町立池田小学校 教 諭 中川 斉史							
第 3 日 10／ 9 (水)	⑧【講義】 教育の情報化に対応した授業づくり ・教育の情報化と授業モデル				⑨【講義・演習】 ・授業評価 ・教材の設計		⑩【発表・協議】 ・成果物の発表	
会 場								
講師等	鳴門教育大学 大学院生 山脇 隆史							
第 4 日 10／10 (木)	⑪【講義】 コンサルテーションについて Q&A集 Aの作成(グループ)				⑫【演習・協議】 コンサルテーション協議 (グループ)		⑬【講義・協議】 校内研修の進め方について (グループ協議)	
会 場								
講師等	日本教育工学振興会 教育部長 三谷 新太郎						日本教育工学振興会 次長・研究部長 森田和夫	
第 5 日 10／11 (金)	⑭【講義・演習】 校内研修案の作成		⑮【発表・協議】 校内研修案の発表		12:20 閉講式			
会 場								
講師等	日本教育工学振興会 次長・研究部長 森田 和夫							

I 研修概要

研修名	「総合的な学習の時間」研修講座（小学校英語活動研修講座 第1回）			
担当課係	研修事業第三課 語学・国立学校係			
研修目的 （趣旨）	小学校の「総合的な学習の時間」において、各学校が国際理解に関する学習の一環としての英語活動を行う場合に、小学校段階にふさわしい学習活動ができるよう支援するため、指導的な立場を担う小学校教員及び教育委員会の指導主事等に対して、基本的な知識や指導方法等を習得させる。			
対 象	各都道府県等内において指導的立場にある小学校（盲学校、聾学校及び養護学校の小学部を含む）の教員又は教育委員会、教育センター等の指導主事等で、都道府県教育委員会等所属機関の長が推薦する者とする。			
開催期日	平成14年 9月30日（月）～平成14年10月 4日（金）			5日間
参加人数	計画人数	200人	受講者数	127人（参加率） 63.5%
開催場所	広島県立生涯学習センター、広島YMCA			

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	95人	78.5%	17人	14.0%	4人	3.3%	5人	4.1%

2. 研修内容に関する主な意見

【研修講座全体】

- ・現在の英語活動の状況がよく分かり、とても良かった。研修させてもらったことを基に、今後も英語活動を懸命にやっていきたいと思っている。（多数）
- ・ALTなどに対する疑問が解決できて良かった。（多数）
- ・理論と実践の両面から研修することができてとても良かった。全国的な動向を知ることができ、大変参考になったとともに役立った。（多数）
- ・英語活動に対する捉え方がはっきりしてきた。自分自身、あやふやな所があったがスッキリした。できれば実践的な内容をもっと増やしてもらいたい。
- ・他県・他校の英語活動に取り組む姿勢、熱意を感じることができ、本校での研修を振り返る良い機会となった。
- ・理論と実践が自分の中で結びついた。帰ってから他の先生にも説明できるかと思う。
- ・自分の中の英語活動に対する心配を取り除くとともに、小学校における英語活動に対する正しい認識をすることができた。

【講義で取り上げてほしいテーマ等】

- ・実際の授業で役立つ、歌、チャンツ、ゲームなどの実技講習。（多数）
- ・英語活動の内容をもっと詳しく講義して欲しい。（多数）
- ・各教科との関連を考えた英語活動の在り方、授業実践例のようなもの。
- ・文字指導（大・小）は、いつ、どのように指導をすれば子供達は嫌がらずに身につけていくことが出来るか。
- ・体験活動をもっと入れて欲しい。
- ・先生の英語嫌い（怖がり）をなくすようなプログラム。
- ・語学習得の理論。
- ・英語のブラッシュアップのための研修（例えば宿泊1ヶ月）を実施して欲しい。
- ・教室でのインターネットを活用した英会話授業。
- ・講師による模擬授業。（5分位のものを幾つか紹介して欲しい）
- ・小中連携のためのポイント。
- ・英語活動に対しての教師の意識改革の在り方。
- ・総合学習及び各教科との連携について。
- ・ALTの方からの意見や要望など。
- ・外国（英語圏以外）での英語教育の実際について、ビデオ等を通して参考にしたい。

【研究協議】

- ・他府県市町村の取組が分かった。点から線へ、面へと英語活動を広げることの難しさを感じた。
- ・学校により実践の度合いが違い、自分の学校にあてはまらないこともあったが、先進校の話などは役に立ちそうだ。
- ・各学校、悩んでいることや知りたいことをお互いに情報交換できて、大いに参考になった。
- ・時間が短くて、班の中には例示されたテーマについて、まとめてきたことを発言出来ないままの人もいて残念だった。
- ・もっと研究協議の時間を長くしてもらえれば、それぞれのテーマが深まっていたのではないかと感じた。
- ・もっと少人数のグループでフリーに話し合った方が良いのではないか。取組の程度によって分けられるならベストだと思う。

【研究協議で取り上げてほしいテーマ等】

- ・小中の連携をどのように図っていくか。(多数)
- ・1つの学校の取組を市町村全体への取組へどう広げるか。
- ・児童の興味を惹く単元について。
- ・班全体でもう少しゆっくりと話が出来るように時間設定をして欲しい。
- ・高学年の指導の在り方について、どう進めていけばよいか取り上げて欲しい。
- ・教材、A L Tとの打ち合わせのテーマを大きくして欲しい。
- ・子供に対するアンケート調査。
- ・言語脳（英語を聞き取る力）をいかに育てるか。
- ・評価、評価基準の作成の仕方や見取りの方法について。
- ・英語活動の年間計画作成の方法。
- ・研究推進国の取組について、計画の立て方、職員研修その他色々なものをもっと聞きたい。
- ・人権の要素をどのように取り入れていくか。
- ・民間の英会話教室（キッズ英語）のカリキュラムの取り入れ方や学校での取り入れの是非について。
- ・年間計画を立てる際の他教科との関連や、総合的な学習の時間の中における英語活動、国際理解以外との関連について。

【ワークショップ】

- ・具体的な活動の例を知ることが出来た。
- ・実践可能な活動だったので、大変役に立った。(多数)
- ・参加者の質問・疑問にも詳しく分かり易く回答いただいて大変役に立った。
- ・それぞれ学校に差がある中で、悩みを出し合い、案をくれたことがとても良かった。
- ・実際に指導案を考え、模擬授業をやったことは良かったと思う。
- ・A L Tの方と初めて授業づくりをしたのが、良い経験になった。
- ・悩みは共通だと分かり、安心するとともに、どうしたらよいかを話し合うことが出来てとても勉強になった。
- ・もっと沢山の教材を集めたいとも思ったが、基本的な学校づくりについて理解を深めることができた。先進校にとってはどうかかわからないが、後進的な自分にとっては良かった。
- ・大変に思えた授業案づくりであったが、先生方の色々なアイデアに触れ大変勉強になった。
- ・子供の立場に立って、授業に参加する大切さを知った。
- ・授業実践はとても役に立ったが、学年やテーマ（トピック・題材）も自由というのではなく、もう少し絞って焦点化してあれば良かった。グループで学年を設定して同じテーマでどういう授業が考えられるかなども楽しいと思う。
- ・これが小学校で行う英語活動だと思って、自校に帰ったら一体どうなるかと思う。単なるゲームを発表し合っても、何にもならない。ただグループ毎に指導案や教材を作成し合うという活動は互いの情報交換になり良かった。
- ・グループ別ワークショップだったが、他のグループの教材や教具も教えていただけると、より多くの指導法を習得出来たように思う。(多数)
- ・他のグループの指導助言を担当された学校の取組も聞きたかった。
- ・ワークショップは、もっとねらいを意識した活動を組むようにすべき。
- ・後半のワークショップは授業実践の方法論の要素が大きく、指導主事と学校教諭が一緒に行う意味に少し疑問を感じた。
- ・英語の基礎概念を教えてもらうワークショップも大切なのではないか。

Ⅲ 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 小学校英語活動研修講座(第1回) 日程

会 場：広島YMC A国際文化ホール
広島県立生涯学習センター

9:30		12:30		13:00		14:00		14:10		15:30		15:40		17:00																																													
9月30日(月)				受付		開講式 【行政説明】 「総合的な学習の時間」と英語活動		休憩		【講義】 小学校英語活動の現状と展望 宮崎大学 教授 影浦 攻		休憩		【講義】 英語活動の基本的な理論 宮崎大学 教員 影浦 攻																																													
		11:00 11:30		12:50						14:20 14:40				16:10																																													
10月1日(火)		【講義】 年間活動計画の構想 宮崎大学 教員 影浦 攻 10:00		質疑応答		昼 休 み		【講義】 英語活動の方法・内容・活動案の構想 国立教育政策研究所 総研館 渡邊 寛治		休憩		【講義】 授業の観察 国立教育政策研究所 総研館 渡邊 寛治																																															
10月2日(水)		【講義】 歌、チャンツ、クイズ、ゲームなどの実際 文化女子大学 非常勤講師 久埜 百合		昼 休 み		【講義】 教材・教具の作成の実際 文化女子大学 非常勤講師 久埜 百合		休憩		* 【研究協議】 各グループにおいて、 ワークショップⅠの講師 (小学校教諭)が指導助言を行う																																																	
10月3日(木)		* 【ワークショップⅠ】 英語活動の準備 実践事例紹介 授業の構想 授業実践準備		<table><tr><th colspan="4">グループ別 講師(教諭)・指導助言者(ALT)</th></tr><tr><td>宮城県塩竈市立浦戸第一小学校</td><td>教諭</td><td colspan="2">小野寺由起</td></tr><tr><td>宮城県塩竈市教育委員会</td><td>ALT</td><td colspan="2">David Goldberg</td></tr><tr><td>千葉県成田市立成田小学校</td><td>教諭</td><td colspan="2">佐藤広幸</td></tr><tr><td>千葉県成田市教育委員会</td><td>ALT</td><td colspan="2">Ruka Laladidi</td></tr><tr><td>大阪府河内長野市立天野小学校</td><td>教諭</td><td colspan="2">梅本 多</td></tr><tr><td>大阪府河内長野市教育委員会</td><td>NET</td><td colspan="2">Kim Takeda</td></tr><tr><td>鹿児島県川内市立平佐西小学校</td><td>教諭</td><td colspan="2">八巻充憲</td></tr><tr><td>鹿児島県川内市教育委員会</td><td>ALT</td><td colspan="2">Michael Kubick</td></tr><tr><td>佐賀県伊万里市立滝野小学校</td><td>教諭</td><td colspan="2">宗 誠</td></tr><tr><td>佐賀県伊万里市教育委員会</td><td>ALT</td><td colspan="2">Clear Lee</td></tr></table>												グループ別 講師(教諭)・指導助言者(ALT)				宮城県塩竈市立浦戸第一小学校	教諭	小野寺由起		宮城県塩竈市教育委員会	ALT	David Goldberg		千葉県成田市立成田小学校	教諭	佐藤広幸		千葉県成田市教育委員会	ALT	Ruka Laladidi		大阪府河内長野市立天野小学校	教諭	梅本 多		大阪府河内長野市教育委員会	NET	Kim Takeda		鹿児島県川内市立平佐西小学校	教諭	八巻充憲		鹿児島県川内市教育委員会	ALT	Michael Kubick		佐賀県伊万里市立滝野小学校	教諭	宗 誠		佐賀県伊万里市教育委員会	ALT	Clear Lee	
グループ別 講師(教諭)・指導助言者(ALT)																																																											
宮城県塩竈市立浦戸第一小学校	教諭	小野寺由起																																																									
宮城県塩竈市教育委員会	ALT	David Goldberg																																																									
千葉県成田市立成田小学校	教諭	佐藤広幸																																																									
千葉県成田市教育委員会	ALT	Ruka Laladidi																																																									
大阪府河内長野市立天野小学校	教諭	梅本 多																																																									
大阪府河内長野市教育委員会	NET	Kim Takeda																																																									
鹿児島県川内市立平佐西小学校	教諭	八巻充憲																																																									
鹿児島県川内市教育委員会	ALT	Michael Kubick																																																									
佐賀県伊万里市立滝野小学校	教諭	宗 誠																																																									
佐賀県伊万里市教育委員会	ALT	Clear Lee																																																									
								14:10 14:30		15:00																																																	
10月4日(金)		* 【ワークショップⅡ】 英語活動の実践 授業実践 まとめ		各グループの講師・指導助言者は ワークショップⅠに同じ				休憩		閉講式																																																	

* 【研究協議】【ワークショップⅠ・Ⅱ】は、5つのグループに分かれて実施する。

I 研修概要

研 修 名	「総合的な学習の時間」研修講座（小学校英語活動研修講座 第2回）			
担当課係	研修事業第三課 語学・国立学校係			
研修目的 (趣旨)	小学校の「総合的な学習の時間」において、各学校が国際理解に関する学習の一環としての英語活動を行う場合に、小学校段階にふさわしい学習活動ができるよう支援するため、指導的な立場を担う小学校教員及び教育委員会の指導主事等に対して、基本的な知識や指導方法等を習得させる。			
対 象	各都道府県等内において指導的立場にある小学校（盲学校、聾学校及び養護学校の小学部を含む）の教員又は教育委員会、教育センター等の指導主事等で、都道府県教育委員会等所属機関の長が推薦する者とする。			
開催期日	平成14年10月28日（月）～平成14年11月 1日（金）			5日間
参加人数	計画人数	200人	受講者数	144人（参加率） 72.0%
開催場所	独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）			

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	110人	82.7%	19人	14.3%	1人	0.8%	3人	2.3%

2. 研修内容に関する主な意見

【研修講座全体】

- ・全国各校の取組の様子・実践・文部科学省の考えているこれからの英語活動の流れを知ることが出来た。（多数）
- ・理論と実践、情報交換等、内容が充実していた。（多数）
- ・どれも細部まで十分検討されていたと思う。非常にバランス良く丁寧な内容だった。
- ・実際の教材準備が出来たことが、とても役に立った。
- ・文部科学省の方からの今後の幼年期の内容が、ある程度具体的に示されることを望む。（そのことに対する県教委の施策には、予算が伴うから）
- ・今後は国際理解、コミュニケーション力の育成、語学学習など、分科会で分かれて討議をしても良いと思った。
- ・英語活動教育推進の大きな動機づけが持てた。

【講義で取り上げてほしいテーマ等】

- ・教材・教具の作成の講義のように、実際に帰ってから現場ですぐに実践できそうな具体的な指導法について、今後も取り上げて欲しい。（多数）
- ・実際の授業を拝聴したい。（多数）
- ・年間指導計画の立て方や系統性に関する講義。（具体的なもの）（多数）
- ・英語活動に必要な基本的英会話、コミュニケーションのための講座。（多数）
- ・外国、日本での小学校英語活動の実際。
- ・学年の発達段階に応じたカリキュラムの作成。
- ・歌やチャンツの実技をしたい。
- ・実際に実践したもので、効果的であり、成果が見られたことなどを多く聞けると良い。
- ・えいごリアン等の番組を使ってどのように授業を行っていくか、具体的な例を知りたかった。（視聴覚機器等の活用）
- ・活動別講義（会話・場面設定・ゲーム・歌・チャンツ・ストーリーテリング・スキット作り・コンピュータ活用・交流など）
- ・英語活動における小学校教諭の研修の具体的な内容（校外は勿論、校内研修の必要性など）
- ・もっと詳しく、沢山の教材・教具・授業の実例を教えて欲しい。
- ・今の進め方で十分だと思う。
- ・今回と同じで良いと思う。

【研究協議】

- ・時数の確保の問題や、ALTがいない時のHRTだけの指導について等、日頃の悩みについて他校の様子・実状を聞くことが出来て良かった。大変学ぶ点が多かった。(多数)
- ・研究熱心な参加者の先生方の例を具体的に知る事ができ、大いに参考になった。
- ・具体的なチャンツ・ゲーム・歌等、即実践に役立つものをたくさん吸収でき、有意義であった。
- ・職員会でクラスルームイングリッシュの練習をしている小学校があることなどを聞き、授業以前に先生方の意欲を高める手だてが必要であることを感じた。
- ・どうしても質問内容が重複したりするので、なるべく時間の無駄を省くためにも質問事項を予め集約・多く出ている質問に関しては回答を用意して欲しい。
- ・校内の研修をどの様に進めていくか。実際に進めている学校の実践を具体的に聞くことが出来たら良かったと思う。
- ・もっと時間が欲しかったが、最終日に時間を取っていただけなので十分な時間となった。
- ・もう少し研究協議の時間が長くても良かったと思う。(多数)
- ・もう少し人数を減らせば、それぞれ発言の回数も増え、より活発な情報交換が出来たのではないかなと思う。(多数)
- ・課題別、経験別、小グループでの話し合いも取り入れられると良いと思う。(多数)
- ・テーマを事前に与え、各自が選べるような形の方が先生方のニーズに合うと思う。
- ・各校での課題や、問題点を事前に取りまとめておくようなシステムを取った方が、ポイントが絞られると思った。
- ・年間活動計画を作成するまでの学校の取組についても聞きたかった。
- ・自分のこれまでの実践、自分の市の取組を紹介することが多く、新しく考えさせられる物はなかった。
- ・それぞれの様子については情報交換できたが、どうしたらよいのかの提言や助言がもっと欲しかった。

【研究協議で取り上げてほしいテーマ等】

- ・ALTとの打ち合わせをどの時間で、どのように行っているのか、もう少し各校の現状を知りたい。(多数)
- ・校内研究体制の中で職員研修をどう進めているのか、事例を詳しく知りたい。(多数)
- ・年間計画や段階が見える内容・指導法。(多数)
- ・HRTだけの英語活動の在り方。
- ・学校で始める前はどの学年も同じスタートを切るわけだが、内容は同じにやるのか、その時の留意点など。
- ・実際の授業を通しての研究協議。
- ・今後も具体的な視点を明確にして取り組めると良い。
- ・子供達が学んだことを実践に結びつける工夫について。
- ・指導計画の系統性について。
- ・ALTの立場からの意見。
- ・45分単位、モジュールの成果がはっきりするようなテーマをまたお願いしたい。
- ・参加者のニーズをアンケート等で把握し、それに絞って取り上げていけばより成果があると思う。
- ・国際理解と英語活動の関連。
- ・学年に応じた英語活動の在り方。
- ・教室英語の使い方。
- ・学年に応じた言語材料の検討。
- ・TT授業実践だけではなく、HRT一人で行う場合の実践及び留意点等。
- ・全員が指導者（英語活動のため）としてのコミュニケーションをするワークショップ。
- ・今回と同じでよいと思う。

【ワークショップ】

- ・色々な地域の人達と身近に触れ合い、具体的実践・互いの悩み疑問等を出し合える場など、非常に役に立った。(多数)
- ・講師の先生やグループの先生方から授業をどのように立てていくのか、教材を具体的にどのように作っていくのか学ぶことが出来た。(多数)
- ・紙を使ったツイスターゲームの応用や、モールを使った形作りなどのゲーム紹介はとても参考になった。
- ・自校ではあまりALTと打ち合わせをすることはないので、ALTと協力しながら授業を組み立てていくのが分かった。
- ・ALTの方から積極的に関わって頂いたのが良かった。
- ・ワークショップの内容が多かったので、指導助言にあてられた時間は短かったが、助言は適切でとても役に立った。
- ・具体的なゲーム、チャンツなどのやり方について、講義を受けたいと思った。

- ・模擬授業を通して具体的に歌、プレゼンテーション、英語表現の練習（ゲーム）などを教えていただき参考になった。（多数）
- ・活動を体験しながら、子供の立場を理解できて良かった。
- ・ワークショップでの実践事例紹介は分かり易く、ゲームを通じて学ぶことが出来た。とても充実していた。
- ・非常に濃密な内容で、ALTの方が単に言語技術としての英語ではなく、言語は人に属するものだとして強調していた点が心に残った。
- ・授業の実際を具体的に直接指導を受けたり、自ら授業をする内容はとても素晴らしいと思う。（多数）
- ・アクティビティが中心であったが、どのグループも工夫を加えていて素晴らしいと思うし、明日からの授業に生かせるようなものでとても良かった。
- ・実際の教材準備にグループで行ったことが、実践への動機付けとなった。
- ・参加者相互の人間関係にも深まりが見られ、良い情報交換の場となった。（多数）
- ・一番時間がかかって大変なのが教材作りとアイデアの生み出しで、それを皆で考えたり、先進的に行っている学校の様子についての紹介がプラスになった。
- ・教材・教具を作る際の留意点を作業しながら学ぶことが出来て良かった。
- ・ワークショップのグループ人数がもう少し少ない方が、より密度の濃い研修となったと思う。ALT及び助言者の方を増やし、一つの班を20人程度にできれば理想的だと思う。

Ⅲ 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 小学校英語活動研修講座(第2回) 日程

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

9:30		12:30		13:00		14:00		14:10		15:30		15:40		17:00																																													
10月28日(月)				受付		開講式 【行政説明】◇ 「総合的な学習の時間」と英語活動		休憩		【講義】◇ 小学校英語活動の現状と展望 宮崎大学 教授 影浦 攻		休憩		【講義】◇ 英語活動の基本的な理論 宮崎大学 教員 影浦 攻																																													
		11:00 11:30		12:50						14:20 14:40				16:10																																													
10月29日(火)		【講義】◇ 年間活動計画の構想 宮崎大学 教員 影浦 攻 10:00		質疑応答		昼 休 み		【講義】◇ 英語活動の方法・内容・活動案の構想 信州大学 教授 渡邊 時夫		休 憩		【講義】 授業の観察 信州大学 教授 渡邊 時夫																																															
10月30日(水)		【講義】 歌、チャンツ、クイズ、ゲームなどの実際 文化女子大学 非常勤講師 久埜 百合		昼 休 み		【講義】 教材・教具の作成の実際 文化女子大学 非常勤講師 久埜 百合		休 憩		* 【研究協議】 各グループにおいて、 ワークショップⅠの講師 (小学校教諭)が指導助言を行う																																																	
10月31日(木)		* 【ワークショップⅠ】 英語活動の準備 実践事例紹介 授業の構想 授業実践準備		<table><tr><th colspan="4">グループ別 講師(教諭)・指導助言者(ALT)</th></tr><tr><td>宮城県塩竈市立浦戸第一小学校</td><td>教諭</td><td>小野寺由起</td><td></td></tr><tr><td>宮城県塩竈市教育委員会</td><td>ALT</td><td>David Goldberg</td><td></td></tr><tr><td>千葉県成田市立成田小学校</td><td>教諭</td><td>佐藤広幸</td><td></td></tr><tr><td>千葉県成田市教育委員会</td><td>ALT</td><td>Ruka Laladidi</td><td></td></tr><tr><td>東京都文京区立誠之小学校</td><td>教諭</td><td>三浦邦子</td><td></td></tr><tr><td>東京都文京区教育委員会</td><td>ALT</td><td>Joseph Guzman</td><td></td></tr><tr><td>宮城県角田市立藤尾小学校</td><td>教諭</td><td>横山直起</td><td></td></tr><tr><td>宮城県角田市教育委員会</td><td>ALT</td><td>Scott Glen</td><td></td></tr><tr><td>兵庫県和田山町立糸井小学校</td><td>教諭</td><td>水田伊都美</td><td></td></tr><tr><td>兵庫県和田山町教育委員会</td><td>ALT</td><td>Sally Shepard</td><td></td></tr></table>												グループ別 講師(教諭)・指導助言者(ALT)				宮城県塩竈市立浦戸第一小学校	教諭	小野寺由起		宮城県塩竈市教育委員会	ALT	David Goldberg		千葉県成田市立成田小学校	教諭	佐藤広幸		千葉県成田市教育委員会	ALT	Ruka Laladidi		東京都文京区立誠之小学校	教諭	三浦邦子		東京都文京区教育委員会	ALT	Joseph Guzman		宮城県角田市立藤尾小学校	教諭	横山直起		宮城県角田市教育委員会	ALT	Scott Glen		兵庫県和田山町立糸井小学校	教諭	水田伊都美		兵庫県和田山町教育委員会	ALT	Sally Shepard	
グループ別 講師(教諭)・指導助言者(ALT)																																																											
宮城県塩竈市立浦戸第一小学校	教諭	小野寺由起																																																									
宮城県塩竈市教育委員会	ALT	David Goldberg																																																									
千葉県成田市立成田小学校	教諭	佐藤広幸																																																									
千葉県成田市教育委員会	ALT	Ruka Laladidi																																																									
東京都文京区立誠之小学校	教諭	三浦邦子																																																									
東京都文京区教育委員会	ALT	Joseph Guzman																																																									
宮城県角田市立藤尾小学校	教諭	横山直起																																																									
宮城県角田市教育委員会	ALT	Scott Glen																																																									
兵庫県和田山町立糸井小学校	教諭	水田伊都美																																																									
兵庫県和田山町教育委員会	ALT	Sally Shepard																																																									
								14:10 14:30		15:00																																																	
11月1日(金)		* 【ワークショップⅡ】 英語活動の実践 授業実践 まとめ		各グループの講師・指導助言者は ワークショップⅠに同じ				休 憩		閉 講 式																																																	

* 【研究協議】【ワークショップⅠ・Ⅱ】は、5つのグループに分かれて実施する。

* 上記日程の◇印は、当該講義を11月29日(金)9:30～17:10に衛星配信する予定であることを示す。

I 研修概要

研 修 名	「総合的な学習の時間」研修講座（小学校英語活動研修講座 第3回）			
担当課係	研修事業第三課 語学・国立学校係			
研修目的 (趣旨)	小学校の「総合的な学習の時間」において、各学校が国際理解に関する学習の一環としての英語活動を行う場合に、小学校段階にふさわしい学習活動ができるよう支援するため、指導的な立場を担う小学校教員及び教育委員会の指導主事等に対して、基本的な知識や指導方法等を習得させる。			
対 象	各都道府県等内において指導的立場にある小学校（盲学校、聾学校及び養護学校の小学部を含む）の教員又は教育委員会、教育センター等の指導主事等で、都道府県教育委員会等所属機関の長が推薦する者とする。			
開催期日	平成15年 1月27日（月）	～	平成15年 1月31日（金）	5日間
参加人数	計画人数	200人	受講者数	166人（参加率） 83.0%
開催場所	独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）			

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	133人	85.3%	19人	12.2%	0人	0.0%	4人	2.6%

2. 研修内容に関する主な意見

【研修講座全体】

- ・英語教育を推進するための理由がよく分かり、必要性を理解できた。（多数）
- ・他地域の人達と情報交換ができて良かった。（多数）
- ・小学校での英語教育のねらいがはっきりした。
- ・英語活動の実践が役立った。
- ・意識を高めるのに役立った。
- ・理論的な裏付けも分かって、今後の活動に大いに役立つと思う。
- ・英語活動をどのように取り組んでいったらよいのか、具体的に分かり、大変役立った。
- ・実践してみようという意欲が出てきた。
- ・理論から実践まで大変役立ったが、理論2：実践3の割合でも良いと思う。
- ・HRTの心構えがよく分かった。
- ・他地域の現状の差を知り、驚きと同時に自分の地域の遅れを痛感した。

【講義で取り上げてほしいテーマ等】

- ・学年に応じた、年間指導計画の在り方について。
- ・国際理解教育の評価基準について。
- ・英語活動の評価の視点や方法等について。
- ・英語活動の実践例をもっと紹介して欲しい。
- ・教師側の研修の在り方について。
- ・英語を母国語としない国での、英語教育の実践。
- ・先進校の取り組みを1、2本実践発表として入れて欲しい。
- ・コミュニケーションを成り立たせるもの。（要素）
- ・「えいごリアン」等のソフトの効果的な活用。
- ・教師自身の英語力の磨き方、ワークシート等の作成方法について。
- ・実際に歌、チャンツ、ゲームなどを体験する時間。
- ・実際に体験する講義。（ALTと話をする等）
- ・ALTの先生方からの意見などを聞いてみたい。
- ・音声重視とは、具体的にどのような事なのか。
- ・中途半端な実践にならないために、理論と実践力を養えるような研修。

【研究協議】

- ・協議内容等、適当だったと思う。
- ・先進校の話や他県の取り組み等、実態が分かってとても参考になり良かった。(多数)
- ・同じ様な悩みを持ち、取り組まれていることが共有できたのが良かった。
- ・実践に基づいた内容で、適切な指導に説得力があった。
- ・各自抱えている不安を細かく指導していただき、分かり易かった。(多数)
- ・各自の課題が出されたことで、共通理解が図れた。
- ・ALTとの打ち合わせ、評価等、色々な学校の様子を知ることができ、大変参考になった。
- ・各校の置かれている現状が様々なので、情報交換・意見交換のための時間がもっと必要。
- ・時間が無くて、講師の先生の話(指導助言等)が聞けなかった。(多数)
- ・もっとALTとの効率的なコミュニケーションの取り方、実践の様子を聞きたかった。
- ・司会進行が上手くいかなかったため、一人の人が長く話すことがあった。
- ・テーマが広くて、深まらずに終わってしまった。
- ・もう少し焦点を絞った話し合いと、具体的な助言が欲しかった。(多数)

【研究協議で取り上げてほしいテーマ等】

- ・評価について。
- ・中学校との連携について。
- ・英語活動におけるモジュールタイムの設定方法について。
- ・学年差に応じて進めていく方法についての協議。
- ・ALTが配置されていない学校(学級)での、具体的な進め方について。
- ・総合的な学習の時間における、英語活動の捉え方。
- ・これから活動を始める学校で、どのような体制を整えたらよいのか、具体的方法について。
- ・英語活動を進めていく上での、課題とその対策。
- ・県または市の支援体制事業等の情報交換。
- ・校内の職員研修(英語活動)の在り方について。
- ・今回のようなテーマで良いと思う。
- ・前もってアンケートを取り、課題のテーマを絞っての協議。

【ワークショップ】

- ・講師の先生の実践例や活動の紹介など具体的なアドバイスが分かり易かった。(多数)
- ・豊富な経験からの助言が多く、とても分かり易く参考になった。
- ・同じグループの先生方、講師の先生、ALTの先生方と互いの考えを出し合ったり、指導していただけてとても有意義だった。
- ・自分の課題に対するヒントを沢山得ることができた。(多数)
- ・色々な資料や教材等を用意していただき、実演できてとても役に立った。
- ・多くの教材・教具を準備して下さっていて、それらを見るだけでもとても勉強になった。
- ・グループ毎の指導案作りから、模擬授業までの時間配分が大変だと思った。
- ・グループ編成の際に担当学年を配慮してくれたので、話し合いが比較的スムーズにできた。(多数)
- ・グループ編成の人数も適当で良かった。
- ・実際に授業の構想や実践ができて、大変良い経験ができた。(多数)
- ・これからどのようにALTと仕事を進めたら良いか、掴めた気がする。
- ・目の前でモデル授業を見ることができ、実践的なコツや課題が発見できた。
- ・構想の段階から、適切な指導や多くの事例を紹介していただき、とても参考になった。
- ・先進校における実際の授業の様子をビデオで見せていただき、とても良かった。
- ・色々な授業の在り方や、何よりも他の先生方と話ができ良かった。
- ・各グループで話し合いを持つ、時間的なゆとりがあると良い。
- ・グループを6～7つに編成するなら、2人程度のALTがいると効率がよい。
- ・ALTが1日目に(交通機関の事情により)参加できなかったのが、とても残念。(多数)
- ・1日目にALTが(交通機関の事情により)不参加で、受講生がALT役となつての進行が勉強になった。
- ・もっと実践の話しや子供を活動させる際の具体的なゲームやチャンツ等を見たり聞いたりしたかった。
- ・デモンストレーションの授業をグループで考え、討議する時間がやや短かった。
- ・模擬授業を構成する時間、準備の時間が不足していた。
- ・学年毎に分けるより言語材料で分ける方が、様々なパターンを見合うことができたと思う。
- ・既に取り組んでいる学校、今後取り組む学校があるので、演習の進め方で何らかの配慮が欲しい。
- ・クラスの人数、状況等が様々な中で、授業を組み立てるのは難しいと感じた。

Ⅲ 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成14年度 小学校英語活動研修講座(第3回) 日程

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

9:30		12:30		13:00		14:00		14:10		15:30		15:40		17:00																																		
1月27日(月)				受付		開講式 【行政説明】 「総合的な学習の時間」と英語活動		休憩		【講義】 小学校英語活動の現状と展望 宮崎大学 教授 影浦 攻		休憩		【講義】 英語活動の基本的な理論 宮崎大学 教員 影浦 攻																																		
		11:00 11:30		12:50						14:20 14:40				16:10																																		
1月28日(火)		【講義】 年間活動計画の構想 宮崎大学 教員 影浦 攻 10:00		質疑応答		昼休み		【講義】 英語活動の方法・内容・活動案の構想 広島大学 松浦		休憩		【講義】 授業の観察 広島大学 松浦																																				
1月29日(水)		【講義】 歌、チャンツ、クイズ、ゲームなどの実践 文化女子大学 非常勤講師 久埜 百合		昼休み		【講義】 教材・教具の作成の実際 文化女子大学 非常勤講師 久埜 百合		休憩		* 【研究協議】 各グループにおいて、 ワークショップⅠの講師 (小学校教諭)が指導助言を行う																																						
1月30日(木)		* 【ワークショップⅠ】 英語活動の準備 実践事例紹介 授業の構想 授業実践準備		<table><tr><th colspan="3">グループ別 講師(教諭)・指導助言者(ALT)</th></tr><tr><td>石川県金沢市立南小立野小学校</td><td>教 諭</td><td>今井 京</td></tr><tr><td>石川県金沢市教育委員会</td><td>A L T</td><td>Anna Wojtalewicz</td></tr><tr><td>大阪府河内長野市立天野小学校</td><td>教 諭</td><td>梅本 多</td></tr><tr><td>大阪府河内長野市教育委員会</td><td>A L T</td><td>Ryan Fujiwara</td></tr><tr><td>宮城県角田市立藤尾小学校</td><td>教 諭</td><td>横山直起</td></tr><tr><td>宮城県角田市教育委員会</td><td>A L T</td><td>Scott Glen Allen</td></tr><tr><td>福岡県那珂川町立安徳北小学校</td><td>教 諭</td><td>上原明子</td></tr><tr><td>福岡県那珂川町教育委員会</td><td>A L T</td><td>Justin Kalpa</td></tr><tr><td>佐賀県伊万里市立滝野小学校</td><td>教 諭</td><td>宗 誠</td></tr><tr><td>佐賀県伊万里市教育委員会</td><td>A L T</td><td>Clear Lee</td></tr></table>												グループ別 講師(教諭)・指導助言者(ALT)			石川県金沢市立南小立野小学校	教 諭	今井 京	石川県金沢市教育委員会	A L T	Anna Wojtalewicz	大阪府河内長野市立天野小学校	教 諭	梅本 多	大阪府河内長野市教育委員会	A L T	Ryan Fujiwara	宮城県角田市立藤尾小学校	教 諭	横山直起	宮城県角田市教育委員会	A L T	Scott Glen Allen	福岡県那珂川町立安徳北小学校	教 諭	上原明子	福岡県那珂川町教育委員会	A L T	Justin Kalpa	佐賀県伊万里市立滝野小学校	教 諭	宗 誠	佐賀県伊万里市教育委員会	A L T	Clear Lee
グループ別 講師(教諭)・指導助言者(ALT)																																																
石川県金沢市立南小立野小学校	教 諭	今井 京																																														
石川県金沢市教育委員会	A L T	Anna Wojtalewicz																																														
大阪府河内長野市立天野小学校	教 諭	梅本 多																																														
大阪府河内長野市教育委員会	A L T	Ryan Fujiwara																																														
宮城県角田市立藤尾小学校	教 諭	横山直起																																														
宮城県角田市教育委員会	A L T	Scott Glen Allen																																														
福岡県那珂川町立安徳北小学校	教 諭	上原明子																																														
福岡県那珂川町教育委員会	A L T	Justin Kalpa																																														
佐賀県伊万里市立滝野小学校	教 諭	宗 誠																																														
佐賀県伊万里市教育委員会	A L T	Clear Lee																																														
								14:10 14:30		15:00																																						
1月31日(金)		* 【ワークショップⅡ】 英語活動の実践 授業実践 まとめ		各グループの講師・指導助言者は ワークショップⅠに同じ				休憩		閉講式																																						

* 【研究協議】【ワークショップⅠ・Ⅱ】は、5つのグループに分かれて実施する。

I 研修概要

研 修 名	総合学科等新科目実技指導講座			
担当課係	研修事業第二課 国内短期研修係			
研修目的 (趣旨)	総合学科設置校の教員等に対し、「産業社会と人間」及び「課題研究」等の指導内容・方法を中心に、生徒の進路選択及び科目選択のためのガイダンスの内容・方法等に関する研修を行う。			
対 象	①各都道府県教育委員会の総合学科担当者 ②総合学科設置校の教員等 ③総合学科設置予定校の教員等 ④「産業社会と人間」を開設又は開設予定の高等学校の教員等			
開催期日	平成14年 6月11日(火) ～ 平成14年 6月14日(金)			4日間
参加人数	計画人数	200人	受講者数	168人 (参加率) 84.0%
開催場所	独立行政法人教員研修センター			

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	82人	52.6%	72人	46.2%	2人	1.3%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 他県または他校の状況を知ることができとても有意義だった。
- 「産業社会と人間」の指導計画作りはとても充実していた。
- ガイダンス・カウンセリングの必要性、インターンシップの指導のノウハウと留意点すべてが新鮮だった。
- 研究協議という場で、お互いの学校の立場に基づいた話し合いは大変有意義だった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

日 程 表

月 日					13:00				17:00						
6 / 1 1 (火)					13:30	14:00	15:30 15:45				16:30				
					受 付	開 講 式	講演 「青少年の意思決定力をどう育むか」 ジュニア・アチーブメント本部専任理事 中 許 善 弘				オリエンテーション				
					講 堂										
6 / 1 2 (水)	9:00				12:00				13:00				17:00		
	実践発表『『産業社会と人間』の事例研究』 岐阜県立土岐紅陵高等学校教諭 高山 里美				10:20	10:30	講義 『『産業社会と人間』 の指導』 文部科学省教育課程課 教科調査官 板橋 孝志				昼 食	演習 『『産業社会と人間』の指導計画作成』		16:30	
	講 義「インターンシップへの参画」 三重県桑名商工会議所事務局長 阪野 房義														
	講 堂								各 会 場						
6 / 1 3 (木)	9:00				12:00				13:30				17:00		
	講義「ガイダンス・カウンセリングの理論」 筑波大学大学院心理学系教授 渡邊 三枝子				10:30	10:40	講義「ガイダンス・カウンセリングの実践」 東京都立雪谷高等学校教頭 大池 公紀				昼 食	研究協議「ガイダンスの充実に向けた取組」 (指導・助言者) 東京都立雪谷高等学校教頭 大池 公紀 千葉商科大学助教授 鹿嶋 研之助 上宮太子中学校・高等学校長 田村 昌平 筑波大学附属坂戸高等学校長 服部 次郎		16:30	
	講 堂								各 会 場						
6 / 1 4 (金)	9:00				12:20				13:30				15:00		
	講義 「総合学科における入学者 選抜の改善」 東京都立桐ヶ丘高等学校長 天井 勝海				9:50	10:00	講義 「総合学科における『総 合的な学習の時間』」 文部科学省教育課程課教科調査官 板橋 孝志				10:50	11:00	実践発表及び研究協議 『『総合的な学習の 時間』への取組』 広島県立高陽東高等学校教諭 高村 聖吾 兵庫県立神戸甲北高等学校長 藤井 俊之		昼 食
	講 義 「総合学科における『総 合的な学習の時間』」 文部科学省教育課程課教科調査官 板橋 孝志								班発表及び研究協議 『『産業社会と人間』の指導計画 文部科学省教育課程課教科調査 板橋 孝志				閉 講 式		
	講 堂								講 堂						

I 研修概要

研 修 名	道徳教育連携・推進講座 （第1回中央研修講座）				
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係				
研修目的 (趣旨)	道徳教育の重要性について保護者や地域の人々の理解を促し、学校の教育活動に積極的な参加を得て、学校・家庭・地域社会が連携した道徳教育を進めるとともに、指導計画、指導方法等の工夫・改善を進めていくことのできる、道徳教育推進の中核となる指導者を養成し、道徳教育の一層の充実を図る。				
対 象	小・中学校の校長及び教頭並びに教育委員会の指導主事				
開催期日	平成14年 9月24日(火) ～ 平成14年 9月27日(金)			4	日間
参加人数	計画人数	280人	受講者数	236人	(参加率) 84.3%
開催場所	独立行政法人教員研修センター				

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	167人	81.9%	34人	16.7%	1人	0.5%	2人	1.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 道徳教育の重要性を強く感じました。 (多数)
- 特別講演は、教育の立場からではなく、広い視点から人材育成等の話を聴くことができ興味深かった。
- 「豊かな心をはぐくむこれからの道徳教育」の講演は、道徳教育の原点を分かりやすく話していただいた。
- シンポジウムは、実践発表についての質問や協議する時間が不足していたが、学校評議員の立場からのご意見は大変よく、実践が見えた。
- テーマ演習は、指導助言の先生の話がとても分かりやすく理解がすすんだ。
- テーマ演習は、もう少し時間がほしい。
- 教科調査官の指導が理論から具体まで、非常にわかりやすかった。教科調査官の表現力を我々教員が身に付けなければならない。
- 他県の先生方と県教育事情について、話せたことはよかった。 (多数)
- この研修を通して学んだことを機会があるごとに発信し、校内及び幼・保・小・中、家庭、地域等へ拡充をしていけたらと考えています。
- 今後もこの研修を継続してほしい。 (多数)
- この研修が各学校の道徳主任等に参加してもらおうと効果が上がるのではと思う。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度道德教育連携・推進講座(第1回中央研修講座)
日 程 表

第 1 日 目											
9月24日 (火)	10:30		11:00	11:4012:00		13:00	14:3014:45		16:1516:25	18:00	20:00
	受 付	オリ エン テー ション	開 講 式	昼 休 み		講 義 1 「道德教育の現状と課題」 国立教育政策研究所教育課程 研究センター教育課程調査官 (併)文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 柴原 弘志	休 憩	特 別 講 演 「アメリカ経済から考える 人材育成・学校経営」 スタンフォード大学 スタンフォード日本センター 理事 兼 上席研究員 安延 申	休 憩	班 別 会 議 (自己紹介,資料交換, 演習の打合せ等)	情報交換会
第 2 日 目											
9月25日 (水)	9:00 9:30		10:4511:00		12:30	14:00		16:45			
	班 別 会 議	講 義 2 「学校における道德 教育の効果的な推進」 国立教育政策研究所教育課程 研究センター教育課程調査官 (併)文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 永田 繁雄	休 憩	講 演 「豊かな心をはぐくむ これからの道德教育」 京都教育大学 副学長 小寺 正一	昼 休 み		シ ン ポ ジ ウ ム 「学校、家庭、地域社会の連携による 道德教育の推進に向けて」 コーディネーター 昭和女子大学教授 押谷 由夫 シンポジスト 京都教育大学副学長 小寺 正一 厚木市役所市政企画部広報課副主幹 齊藤 淳一 (厚木市立上依知小学校学校評議員) 調布市立深大寺小学校教頭 木村 恵子 佐世保市立山澄中学校長 山口 喜典				
第 3 日 目											
9月26日 (木)	9:00		11:30		13:00		15:0015:15		16:45		
	テ ー マ 演 習 1 「道 徳 教 育 に 対 す る 教 員 や 家 庭 ・ 地 域 の 意 識 向 上 を 図 る 取 組 」 1 班 東京都中央区立常盤小学校長 生越 詔二 2 班 埼玉県鴻巣市立鴻巣中央小学校長 鈴木 賢一 3 班 東京都台東区立東泉小学校長 巖 正子 4 班 東京都港区立麻布小学校長 長谷 徹 5 班 東京都新宿区立牛込第二中学校長 菊地 正直 6 班 群馬県高崎市立高崎中学校長 岸 純子 7 班 山梨県白根町立白根巨摩中学校長 比志 保 8 班 山口県教育庁指導課指導主事 中邑 至道			昼 休 み		テ ー マ 演 習 2 「学習指導要領の趣旨を生かした 道徳の時間の充実への取組」 1 班 東京都中央区立常盤小学校長 生越 詔二 2 班 埼玉県鴻巣市立鴻巣中央小学校長 鈴木 賢一 3 班 東京都台東区立東泉小学校長 巖 正子 4 班 東京都港区立麻布小学校長 長谷 徹 5 班 東京都新宿区立牛込第二中学校長 菊地 正直 6 班 群馬県高崎市立高崎中学校長 岸 純子 7 班 山梨県白根町立白根巨摩中学校長 比志 保 8 班 山口県教育庁指導課指導主事 中邑 至道			休 憩	テ ー マ 演 習 3 「自由演習テーマ」 生越 詔二 鈴木 賢一 巖 正子 長谷 徹 菊地 正直 岸 純子 比志 保 中邑 至道	
第 4 日 目											
9月27日 (金)	9:00		12:1512:30								
	講 義 3 「道 徳 教 育 の 充 実 に 向 け て 」 (Q & A を 含 む) 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 (併)文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 柴原 弘志 永田 繁雄				閉 講 式						

I 研修概要

研 修 名	道徳教育連携・推進講座 （第2回中央研修講座）				
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係				
研修目的 (趣旨)	道徳教育の重要性について保護者や地域の人々の理解を促し、学校の教育活動に積極的な参加を得て、学校・家庭・地域社会が連携した道徳教育を進めるとともに、指導計画、指導方法等の工夫・改善を進めていくことのできる、道徳教育推進の中核となる指導者を養成し、道徳教育の一層の充実を図る。				
対 象	小・中学校の校長及び教頭並びに教育委員会の指導主事				
開催期日	平成14年11月 5日(火) ～ 平成14年11月 8日(金)			4 日間	
参加人数	計画人数	280人	受講者数	228人	(参加率) 81.4%
開催場所	独立行政法人教員研修センター				

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	177人	81.6%	38人	17.5%	0人	0.0%	2人	0.9%

2. 研修内容に関する主な意見

- 道徳教育について、様々な視点から学ぶことができ、その認識を深めることができました。
(多数)
- このような研修をもっと多くの機会、もっと多くの先生がもっと気安く受けることができないだろうか。
- 道徳についてこれまでの捉え方が変わったように思います。特に調査官の講義は心に響きました。
- 「子どもの心を育てる道徳教育」のお話は、具体性があり、今困っていることに対してのアドバイス等、聞く者にとって胸に落ちる。
- シンポジウムは、PTA代表の意見が聞けてよかった。(多数)
- テーマ演習は、各県、各学校からの情報が多くもらうことができた。(多数)
- テーマ演習は、演習問題をもっとしばって時間をとって話を深めた方がよかった。
- テーマ演習の特に指導助言は、討議の中での疑問点にズバリ回答していただき、素晴らしいものでした。
- 質のよい内容であった。4日間は短い、せめて10日間は欲しい。講義等の研修内容は言うまでもないが、宿泊施設・食事等も大変よかった。
- 文部科学省の考えがこんなにも柔軟なのに、県レベルさらに教育事務所レベルまでくると、どうしても堅苦しいものになりがちである。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度道德教育連携・推進講座(第2回中央研修講座)
日 程 表

第 1 日 目												
11月5日 (火)	10:30		11:00	11:40	12:00	13:00	14:30	14:45	16:15	16:25	18:00	20:00
		受 付	オリ エン テー ション	開 講 式	屋 休 み	講 義 1 「道德教育の現状と課題」 国立教育政策研究所教育課程 研究センター教育課程調査官 (併)文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 柴原 弘志	休 憩	特 別 講 演 「アメリカ道德教育事情」 岡山大学 助教授 青木 多寿子	休 憩	班 別 会 議 (自己紹介、資料交換、 演習の打合せ等)	情 報 交 換 会	
第 2 日 目												
11月6日 (水)	9:00	9:30	10:45		11:00	12:30	14:00		16:45			
	班 別 会 議	講 義 2 「学校における道德 教育の効果的な推進」 国立教育政策研究所教育課程 研究センター教育課程調査官 (併)文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 永田 繁雄	休 憩	講 演 「子どもの心を 育てる道德教育」 関西学院大学 教 授 横山 利弘	屋 休 み	シ ン ポ ジ ウ ム 「学校、家庭、地域社会の連携による 道德教育の推進に向けて」 コーディネーター 香川大学教育学部 附属教育実践総合センター教授 七條 正典 シンポジスト 関西学院大学教授 横山 利弘 京都市立陶化中学校PTA会長 小西 静雄 参加者から2名 (小・中学校より1名ずつ)						
第 3 日 目												
11月7日 (木)	9:00	11:30			13:00	15:00		15:15	16:45			
	テ ー マ 演 習 1 「道德教育に対する教員や家庭・ 地域の意識向上を図る取組」 1班 愛知県一宮市立浅井中学校長 浅井 晃 2班 徳島県教育研修センター相談課相談員 大宮 俊恵 3班 東京都教育庁指導部主任指導主事 小林 福太郎 4班 広島県広島市立船越中学校前校長 世木田 寛子 5班 青葉学園短期大学講師 富山 保 6班 東京都世田谷区立松沢小学校元校長 橋本 誠司 7班 埼玉県越谷市教育委員会指導課指導担当主査 広瀬 仁郎 8班 千葉県千葉市立西小中小学校長 好岡 肇子				屋 休 み		テ ー マ 演 習 2 「学習指導要領の趣旨を生かした 道德の時間の充実への取組」 1班 愛知県一宮市立浅井中学校長 浅井 晃 2班 徳島県教育研修センター相談課相談員 大宮 俊恵 3班 東京都教育庁指導部主任指導主事 小林 福太郎 4班 広島県広島市立船越中学校前校長 世木田 寛子 5班 青葉学園短期大学講師 富山 保 6班 東京都世田谷区立松沢小学校元校長 橋本 誠司 7班 埼玉県越谷市教育委員会指導課指導担当主査 広瀬 仁郎 8班 千葉県千葉市立西小中小学校長 好岡 肇子		休 憩	テ ー マ 演 習 3 「自由演習テーマ」		
第 4 日 目												
11月8日 (金)	9:00					12:15 12:30						
	講 義 3 「道德教育の充実に向けて」 (Q & Aを含む) 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 (併)文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 柴原 弘志 永田 繁雄					閉 講 式						

I 研修概要

研 修 名	環境教育担当教員講習会（東部地区）		
担当課係	研修事業第二課 国内短期研修係		
研修目的 （趣旨）	小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校における環境教育に関する指導内容、指導方法等に関する研修を行い、環境教育を担当する教員の指導力の向上を図り、学校における環境教育の一層の充実に資する。		
対 象	国立、公立、私立の小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校の教員及び教育委員会の指導主事等		
開催期日	平成14年11月12日（火）～平成14年11月15日（金）	4日間	
参加人数	計画人数	75人	受講者数 70人（参加率） 93.3%
開催場所	独立行政法人国立少年自然の家国立若狭湾少年自然の家		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	27人	39.7%	40人	58.8%	0人	0.0%	1人	1.5%

2. 研修内容に関する主な意見

- いろいろな視点から環境が考えられることに気づかされた。
- ワークショップは新鮮であり、かつ他県の方と交流ができてよかった。
- 他のワークショップが体験できるとよかった。
- 研究協議の時間が短かった。
- 文部科学省の講義は大変よかった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 環境教育担当教員講習会（東部地区）日程

◇第1日 11月12日（火）

- 受付（9:00～9:50）
- 開講式（10:00～10:30）
- 講義Ⅰ 「学校における環境教育の基本的な考え方」
（10:30～11:30） 文部科学省
- オリエンテーション（11:30～12:00）
- 講演 「これからの環境教育」
（13:00～14:30） 岐阜大学教育学部教授 北 俊夫
- 講義Ⅱ 「体験学習法と環境教育」
（15:00～16:00） 株式会社生態計画研究所代表取締役所長 小河原孝生
- 実習 「自分を知る、相手を知る」
（16:00～17:00） 有限会社アウトドア・エデュケーションセンター代表取締役 田中 裕幸
- 講義Ⅲ 「ワークショップの紹介と登録」
（17:30～18:30） 株式会社生態計画研究所代表取締役所長 小河原孝生 外4名
- ※情報交換会（19:00～21:30）

◇第2日 11月13日（水）

- ワークショップ 「ともに生きる・ともに創る～環境教育の充実のために～」
（9:00～12:00 13:00～17:00）
- 株式会社生態計画研究所代表取締役所長 小河原孝生
- 神奈川県自然環境保全センター研究部専門研究員 中川 重年
- ama水辺の自然文化研究所代表 長谷川孝一
- 有限会社アウトドア・エデュケーションセンター代表取締役 田中 裕幸
- 富士常葉大学環境防災学部助教授 山田 辰美

◇第3日 11月14日（木）

- ワークショップ 「ともに生きる・ともに創る～環境教育の充実のために～」
（9:00～12:00）
- 株式会社生態計画研究所代表取締役所長 小河原孝生
- 神奈川県自然環境保全センター研究部専門研究員 中川 重年
- ama水辺の自然文化研究所代表 長谷川孝一
- 有限会社アウトドア・エデュケーションセンター代表取締役 田中 裕幸
- 富士常葉大学環境防災学部助教授 山田 辰美
- 研究協議Ⅰ 「環境教育の取り組みと課題」
（13:00～17:00）
- 小学校分科会 「かかわりを大切にする子どもの育成」 東京都板橋区立金沢小学校
- 中学校分科会 「『人』や『環境』を考え『共に生きる』実践力の育成をめざして」 埼玉県さいたま市立七里中学校
- 高等学校分科会 「総合学科の取り組み」 大阪府立松原高等学校

◇第4日 11月15日（金）

- 研究協議Ⅱ 「パネルディスカッション～環境教育の活性化のために～」
（9:00～11:00） パネリスト
- 株式会社生態計画研究所代表取締役所長 小河原孝生
- 神奈川県自然環境保全センター研究部専門研究員 中川 重年
- ama水辺の自然文化研究所代表 長谷川孝一
- 有限会社アウトドア・エデュケーションセンター代表取締役 田中 裕幸
- 富士常葉大学環境防災学部助教授 山田 辰美
- コーディネーター 福岡教育大学環境教育講座助教授 藤本 登
- まとめ（11:00～11:30）
- 閉講式（11:30～12:00）

I 研修概要

研 修 名	環境教育担当教員講習会（西部地区）		
担当課係	研修事業第二課 国内短期研修係		
研修目的 (趣旨)	小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校における環境教育に関する指導内容、指導方法等に関する研修を行い、環境教育を担当する教員の指導力の向上を図り、学校における環境教育の一層の充実に資する。		
対 象	国立、公立、私立の小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校の教員及び教育委員会の指導主事等		
開催期日	平成14年11月26日（火）～平成14年11月29日（金）	4日間	
参加人数	計画人数	75人	受講者数 80人 (参加率) 106.7%
開催場所	独立行政法人国立少年自然の家国立山口徳地少年自然の家		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	32人	41.0%	38人	48.7%	3人	3.8%	5人	6.4%

2. 研修内容に関する主な意見

- 自分の知らなかった視点、発想の転換が得られた。
- 複数のワークショップに参加できるとよかった。
- ワークショップは刺激的で大変よかった。
- 研究協議の課題が大きすぎて、もっと具体的な実践レベルでの交流ができればよいと思った。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 環境教育担当教員講習会（西部地区） 日程

◇第1日 11月26日（火）

- 受付 (9:00~9:50)
- 開講式 (10:00~10:30)
- 講義Ⅰ 「学校における環境教育の基本的な考え方」
(10:30~11:30) 文部科学省
- 班別演習Ⅰ 「参加・体験型学習における導入法」
(13:00~14:00)
 - フリーランス 川島 憲志
 - マザーアースエデュケーション 松木 正志
 - 環境共育事務所カラーズ 西村 仁志
- 講演 「これからの環境教育」
(14:00~15:30) 東京学芸大学付属環境教育実践施設 教授 樋口 利彦
- 講義Ⅱ 「環境教育と参加・体験型の学び」
(15:30~17:30)
 - フリーランス 川島 憲志
 - マザーアースエデュケーション 松木 正志
 - 岐阜県立森林文化アカデミー 高田 研
- 講義Ⅲ 「ワークショップの紹介と登録」
(18:30~19:30)
 - フリーランス 川島 憲志
 - マザーアースエデュケーション 松木 正志
 - 国立赤城青年の家 韓 承花
 - 帝塚山大学助教授 宮川 治樹
 - 岐阜県立森林文化アカデミー 高田 研
 - 環境共育事務所カラーズ 西村 仁志

◇第2日 11月27日（水）

- 班別演習Ⅱ 「体験による学び～ワークショップ体験～」
(9:00~12:00 12:30~17:00)
 - フリーランス 川島 憲志
 - 岐阜県立森林文化アカデミー 高田 研
 - 帝塚山大学助教授 宮川 治樹
 - マザーアースエデュケーション 松木 正志
 - 環境共育事務所カラーズ 西村 仁志

◇第3日 11月28日（木）

- 講義Ⅳ 「環境教育と体験学習法」
(9:00~11:00)
 - フリーランス 川島 憲志
 - 岐阜県立森林文化アカデミー 高田 研
 - 環境共育事務所カラーズ 西村 仁志
 - マザーアースエデュケーション 松木 正志
 - 帝塚山大学助教授 宮川 治樹
- 事例発表 小学校分科会 「身近な環境を豊かに感じ取れる子どもを育てる」
(11:00~12:00) ~幼稚園・小学校教育の連携、接続をめざして~ 荒瀬 尚三
- 中学校分科会 「私につながる、気づき・感じる学び」 鷺原 晴彦
- 高等学校分科会 「信頼で結ばれた絆の物語」
：野外のインターグループを活用した野外環境教育」 平野 智之
- 研究協議Ⅰ 「学校における環境教育の取り組みと課題」
(13:00~17:00)
 - 小学校分科会 司会 フリーランス 川島 憲志
 - 中学校分科会 助言 福岡県福岡市立内野小学校教諭 荒瀬 尚三
 - 高等学校分科会 司会 環境共育事務所カラーズ 西村 仁志
 - 助言 岡山県総社市立総社西中学校教諭 鷺原 晴彦
 - 助言 マザーアースエデュケーション 松木 正志
 - 助言 大阪府立松原高等学校教諭 平野 智之

※情報交換会
(18:00~20:00)

◇第4日 11月29日（金）

- 研究協議Ⅱ 「全員参加型パネルディスカッション～これからの環境教育～」
(9:30~11:00)
- 班別演習Ⅲ 「ふりかえりとわかちあい」
(11:00~11:30)
- 閉講式
(11:30~12:00)

I 研修概要

研 修 名	体験活動担当教員講習会（東日本ブロック）		
担当課係	研修事業第二課 国内短期研修係		
研修目的 (趣旨)	学校教育における体験活動の一層の充実を図るため、体験活動の指導内容、実施上の配慮、施設の利用方法等についての研究協議・情報交換を行い、体験活動担当教員の資質向上を図る。		
対 象	国立、公立、私立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校の体験活動担当教員及び都道府県教育委員会等の体験活動担当指導主事。		
開催期日	平成14年10月 1日（火）～平成14年10月 4日（金）	4日間	
参加人数	計画人数：70人	受講者数：71人	(参加率)：101.4%
開催場所	独立行政法人国立青年の家国立磐梯青年の家		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	30人	42.9%	39人	55.7%	0人	0.0%	1人	1.4%

2. 研修内容に関する主な意見

- アイスブレイキングの大切さがよく分かった。またとても新鮮だった。
- 体験学習法の方法と必要性が十分理解できた。
- ボランティアの基本について改めて整理できた。
- 他県の学校の取り組み状況や交流がはかれ大変よかった。
- 情報機器（デジカメ・パソコン等）の活用方法などすぐに実践できそうな事例がたくさんあり参考になった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

日 程 表

東日本ブロック

実 施 会 場		国立磐梯青年の家	
実 施 期 間		平成14年10月1日（火）～10月4日（金）	
時 間		内 容	
第 1 日	13：30～14：00	開会行事	
	14：00～14：30	趣旨説明 「新学習指導要領における体験活動の位置づけ」	
	14：30～16：30	アイスブレイク	
	16：30～18：00	講 演「体験学習法」	
	19：30～22：30	入浴、就寝準備	
第 2 日	＜自然体験活動コース＞ 選択実習 1（9:00～12:00） A. 環境学習 B. コミュニケーションゲーム C. 情報機器の活用 D. 林間レクリエーション ※ 選択実習1・2は、上の A～Cの中から2種目を選択し、グループごとにワークショップ形式で展開する。 選択実習 2（13:20～16:20） ※ 午前と別のプログラムを選択して体験。		＜社会奉仕体験活動コース＞ 実習 1（9:30～12:30） 「パークボランティア」 ※ 参加者は8:40にバス乗車し、裏磐梯高原中瀬沼に移動し実習を行い、昼食後に再び青年の家に戻る。 ミニシンポジウム（14:00～16:30） 「学校教育とボランティア活動」
	19：00～20：30	自由参加型選択実習 A. ナイトプログラムあれこれ B. 夜の樹木オリエンテーリング C. バリアフリーを体験しよう！ D. キャップハンディ（障害者の楽しめるゲーム集）	
	20：30～22：30	入浴、就寝準備	
	第 3 日	＜自然体験活動コース＞ 講 義（9:00～10:00） 「自然体験活動プログラムの立案とその展開」 演 習（10:00～17:30） 「自然体験活動プログラムの企画・立案」 （注）第2日に実施した活動から1種目を選択して、種目別グループごとに、さらに5～6人の小グループに分かれてプログラムを立案する。 （備考）昼食・休憩時間は、各小グループごとに設定する。	
19：30～21：30		情報交換会 （注）講師・参加者とともに意見交換・情報交換を行う。	
21：30～22：30		入浴、就寝準備	

第 4 日	8 : 4 5 ~ 1 1 : 3 0	全体研究協議 (注) グループで立案したプログラムを体験しあい、研究協議を行う。
	1 1 : 3 0 ~ 1 2 : 2 0	閉会行事 (修了証書の交付等) 昼食後、自由解散

注1 : 日程については、天候等の都合により変更になる場合があります。

注2 : 第2日の「自然体験活動コース」の選択実習1・選択実習2、「社会奉仕体験活動コース」の実習1の内容は、概ね以下のとおりです。

<自然体験活動コース>

選択実習1・選択実習2

○環境学習

自然の中で様々な体験活動をとおして、自然のすばらしさや重要性を伝え、人と自然との関わりを学ぶ

例) 木の幹のこぶ、樹木の形、岩肌を観察し想像力を働かせなに見えるか
見つけだし、自然の中にある異なったものから、共通した部分を見つけたし自然とのつながりを考える

○コミュニケーションゲーム

アイスブレイキングの延長となるようなものから、より凝集性を高めることを目的としたダイナミックな活動にいたるまで、実施上の留意点、安全管理やふりかえりの手法を学ぶ

○情報機器の活用

デジカメ等、野外に持ち出せる情報機器を使って自然の中での利用方法を学び、子ども達を感じたこと気づいたことなどを、まとめ、ふりかえり、発表・共有への生かし方を学ぶ

○林間レクリエーション

自然の中で自然を活用したレクリエーション活動

例) フリスビーを使った林間ゴルフ

<社会奉仕体験活動コース>

実習

○パークボランティア

裏磐梯高原の遊歩道（障害者のために整備が行き届いている）において、互いにロールプレイしながら、自然観察のガイドを体験する

I 研修概要

研 修 名	体験活動担当教員講習会（西日本ブロック）		
担当課係	研修事業第二課 国内短期研修係		
研修目的 (趣旨)	学校教育における体験活動の一層の充実を図るため、体験活動の指導内容、実施上の配慮、施設の利用方法等についての研究協議・情報交換を行い、体験活動担当教員の資質向上を図る。		
対 象	国立、公立、私立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校の体験活動担当教員及び都道府県教育委員会等の体験活動担当指導主事。		
開催期日	平成14年10月29日（火）～平成14年11月 1日（金）	4日間	
参加人数	計画人数：70人	受講者数：53人	(参加率)：75.7%
開催場所	独立行政法人国立青年の家国立江田島青年の家		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	29人	54.7%	22人	41.5%	0人	0.0%	2人	3.8%

2. 研修内容に関する主な意見

- 様々な活動の中で新しい知識を得ることができ有意義だった。
- 自然体験活動、社会奉仕体験活動の両方のコースを体験できるともっとよかった。
- 学校へ戻ったらすぐに実践できるプログラムをたくさん習得できた。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

日 程 表

西日本ブロック

実 施 会 場		国立江田島青年の家
実 施 期 間		平成14年10月29日（火）～11月 1日（金）
時 間		内 容
第 1 日	13:30～14:00	開会行事
	14:00～14:30	趣旨説明 「新学習指導要領における体験活動の位置づけ」
	15:00～16:30	アイスブレイク
	17:00～20:00	特別体験 「野外炊事を楽しむ」
	20:00～22:30	入浴、就寝準備
第 2 日	＜自然体験活動コース＞ 選択実習 1 (9:00～12:20) A. 環境学習 B. コミュニケーション C. 情報機器の活用 ※ 選択実習1・2は、上の A～Cの中から2種目を選択し、グループごとにワークショップ形式で展開する。 選択実習 2 (13:30～16:50) ※ 午前と別のプログラムを選択して体験する。	
	＜社会奉仕体験活動コース＞ 講 演 (9:00～10:00) 「学校教育とボランティア活動」 事例発表 (10:20～12:20) 学校における実践・事例発表 実 習 (13:30～16:50) A 「福祉ボランティア体験」 B 「環境ボランティア体験」 ※ A, B のグループに分かれて、ボランティアを体験する。	
	20:00～22:30	入浴、就寝準備
第 3 日	＜自然体験活動コース＞ 講 義 (9:00～10:00) 「自然体験活動プログラムの立案とその展開」 演 習 (10:00～15:30) 「自然体験活動プログラムの企画・立案」 (注) 第2日に実施した活動から1種目を選択して、種目別グループごとに、さらに5～6人の小グループに分かれてプログラムを立案する。 (備考) 昼食・休憩時間は、各小グループごとに設定する。 グループ研究協議 (15:30～18:30) (注) 種目別グループごとに、小グループで立案したプログラムを体験しあい、研究協議を行う。	
	＜社会奉仕体験活動コース＞ ミニシンポジウム (9:00～12:00) 「聞いて語ろうーボランティア学習の世界をつくろう」 講 義 (13:30～14:30) 「ボランティア活動プログラムの立案とその展開」 演 習 (15:00～18:30) 「ボランティア活動プログラムの企画立案」 (注) 5～6人の小グループに分かれてプログラムを立案する。	
	19:30～21:30	情報交換会 (注) 講師・参加者とともに意見交換・情報交換を行う。
	21:30～22:30	入浴、就寝準備

第 4 日	8 : 4 5 ~ 1 1 : 3 0	全体研究協議 (注) グループで、立案したプログラムを発表し、研究協議を行う。
	1 1 : 3 0 ~ 1 2 : 2 0	閉会行事（修了証書の交付等） 昼食後、自由解散

注1：日程については、天候等の都合により変更になる場合があります。

注2：第2日の「自然体験活動コース」の選択実習1・選択実習2、「社会奉仕体験活動コース」の実習の内容は、概ね以下のとおりです。

<自然体験活動コース>

選択実習1・選択実習2

○環境学習

自然の中で様々な体験活動をとおして、自然のすばらしさや重要性を伝え、人と自然との関わりを学ぶ

例) 木の幹のこぶ、樹木の形、岩肌を観察し想像力を働かせなに見えるか
見つけだし、自然の中にある異なったものから、共通した部分を見つけたし自然とのつながりを考える

○コミュニケーション

アイスブレイキングの延長となるようなものから、より凝集性を高めることを目的としたダイナミックな活動にいたるまで、実施上の留意点、安全管理やふりかえりの手法を学ぶ

○情報機器の活用

デジカメ等、野外に持ち出せる情報機器を使って自然の中での利用方法を学び、子ども達を感じたこと気づいたことなどを、まとめ、ふりかえり、発表・共有への生かし方を学ぶ

<社会奉仕体験コース>

実習

○福祉ボランティア

特別養護老人ホームにてボランティアの体験

児童生徒の目的・興味・動機付けをどうするか考え、施設において注意する点等ふまえながら実際に体験し、ふりかえりを行う

○環境ボランティア

児童生徒の目的・興味・動機付けをどうするか考え、海岸においての環境または自然とのつながりを考え、実際に海岸の清掃を体験し、ふりかえりを行う

I 研修概要

研 修 名	学校体育指導者中央講習会 （東部地区）		
担当課係	研修事業第三課 体育・健康教育係		
研修目的 (趣旨)	小学校、中学校及び高等学校における体育指導者の資質の向上を図るとともに、都道府県における学校体育実技指導者講習会等の指導者の養成を図る。		
対 象	指導主事又は小学校、中学校及び高等学校の教員等		
開催期日	平成14年 5月21日(火) ～ 平成14年 5月24日(金)	4 日間	
参加人数	計画人数： 400 人	受講者数： 338 人	(参加率)： 84.5 %
開催場所	秋田県児童会館・県教育センター・秋田県青少年交流センター体育館・秋田市八橋陸上競技場・秋田市茨島体育館・秋田市立体育館・秋田市八橋運動公園・県立スポーツ会館・秋田県立体育館・県生涯学習センター		

体育指導者中央講習会（3地区、東部地区・中部地区・西部地区）

参加人数	計画人数： 1200 人	受講者数： 996 人	(参加率)： 83.0 %

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	246人	84.2%	36人	12.3%	0人	0.0%	10人	3.4%

2. 研修内容に関する主な意見

○形式的にならずに最新の情報、指導技術の伝達など大変素晴らしいものだった。 ○これまで行っていた指導の他に柔軟な発想で体づくり運動を捉え、実施できる方法・内容を教えていただき、大変感謝している。(体づくり運動) ○とても有意義であったが、2日間で得たことをきちんと伝達できるのか。しかも与えられた短い時間でできるかどうか、ちょっと心配な面もある ○実技では事故・けがに対する配慮をしていただき有り難かった。分かりやすく指導していただき実のある研修になった。(陸上運動) ○今年度の実技研修の中にも出てきたと思うが、講師のその後の研究(現代っ子版、子どもの体のゆがみ)など、興味深い。また、動画をおさめたCD-ROMをいただき大変役に立った。伝達講習会等において活用していきたい。(体づくり運動)

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度東部地区学校体育指導者中央講習会実施要項

1 目的

小学校・中学校、高等学校及び中等教育学校における体育指導者等の資質向上を図るとともに、都道県における学校体育実技指導者講習会等の指導者の養成を図る。

2 企画

文部科学省

3 実施

独立行政法人教員研修センター 秋田県教育委員会 秋田市教育委員会

4 地区、開催期日、開催地及び参加都道県

地 区	開 催 期 日	開催地	参 加 都 道 県
東 部	5月21日(火) ～24日(金)	秋田県	北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨 (15都道県)

5 日程

時 刻	9	10	11	12	13	14	15	16	17
(第1日) 5月21日(火)						受 付 開 会 式	解 説		講師・運営 委員長打合せ
(第2日) 5月22日(水)		班 別 実 技		昼 食		班 別 実 技			
(第3日) 5月23日(木)		班 別 実 技		昼 食		班 別 実 技			
(第4日) 5月24日(金)	受 付	班 別 研究協議	閉 会 式						

※ 第1日目の受付は各県の引率指導主事が行う。

※ 開会式は午後2時、講師・運営委員長打合せは午後4時30分から行う。

※ 班別研究協議は午前9時30分から行う。閉会式は各班ごとに行う。

6 講習内容

(1) 解 説

「これからの学校体育の在り方 ～指導と評価の一体化～」

文部科学省 担当官

(2) 実技及び講師

No	校 種	班 別 等	講 師	所 属 ・ 役 職
①	小 学 校	基 本 の 運 動	品 田 龍 吉	宮 崎 大 学 教 授
②		体 つ く り 運 動	長谷川 聖 修	筑 波 大 学 助 教 授
③		陸 上 運 動	山 本 俊 彦	三 重 大 学 教 授
④		ボ ー ル 運 動	中 村 康 弘	千 葉 市 教 育 委 員 会 指 導 主 事
⑤	中 学 校	体 つ く り 運 動	三 木 四 郎	大 阪 教 育 大 学 教 授
⑥		バスケットボール	小 倉 健 一	鳥 取 県 教 育 委 員 会 体 育 保 健 課 体 育 係 長
⑦		ソフトテニス	熊 田 章 甫	岐 阜 県 立 岐 阜 女 子 商 業 高 等 学 校 教 諭
⑧	高 等 学 校	柔 道	野 瀬 清 喜	埼 玉 大 学 助 教 授
⑨		ダ ン ス	高 橋 和 子	横 浜 国 立 大 学 教 授
⑩	高 等 学 校	レ ス リ ン グ	長 島 偉 之	栃 木 県 立 足 利 工 業 高 等 学 校 教 諭

(3) 研究協議

○ 開設班ごとに研究協議を行う。

協議題 「新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりについて」

I 研修概要

研 修 名	学校体育指導者中央講習会 (中部地区)		
担当課係	研修事業第三課 体育・健康教育係		
研修目的 (趣旨)	小学校、中学校及び高等学校における体育指導者の資質の向上を図るとともに、都道府県における学校体育実技指導者講習会等の指導者の養成を図る。		
対 象	指導主事又は小学校、中学校及び高等学校の教員等		
開催期日	平成14年 5月14日(火) ～ 平成14年 5月17日(金)	4 日間	
参加人数	計画人数： 400 人	受講者数： 346 人	(参加率)： 86.5 %
開催場所	福井市文化会館・福井市西体育館・福井市北体育館・福井運動公園福井県営体育館・福井市体育館・鯖江広域西番スポーツセンター・福井県立武道館・福井勤労者体育センター・福井県民会館・福井県職員会館		

体育指導者中央講習会 (3地区、東部地区・中部地区・西部地区)

参加人数	計画人数： 1200 人	受講者数： 996 人	(参加率)： 83.0 %

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	227人	76.9%	56人	19.0%	2人	0.7%	10人	3.4%

2. 研修内容に関する主な意見

○最新の情報というよりも、その先生の持っているアイディアの伝達という感じがした(陸上運動) ○子ども達が生涯スポーツを楽しむために我々教師の責任が大事だと思った。スポーツの素晴らしさを改めて感じた。(ボール運動) ○講師の先生方が講習会の内容をお考えになるときにかなりの時間を費やし、準備されていることに感動した。機会があれば、可能な限り参加したい。(体づくり運動) ○今回いろいろと学ばせてもらった中で、一番参考になったのは先生もおっしゃっている工夫して楽しいだけではなく、各種目の特性をしっかりと教材の中に盛り込み、技術をつけることも大切ということだ。今後の私自身の教材作りに役立つことと思う。 ○楽しみながら、体育の授業を行うことの大切さがわかった。実際、自分が子どもの立場で受講できたことは大変よかった。その時その時の子どもの気持ちが変わったり、発展の仕方が納得できたりし、自分としては大きな成果を得られた講習会だった。 ○講習会に参加する前は「ケガ」について心配していたが、講習会の進め方が体に負担をかけないように徐々に負荷がかかるようなものになっていたのも、安心して「体づくり」の実技講習を受けることができた。他の実技班はどうだったのか。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成14年度中部地区学校体育指導者中央講習会実施要項

1 目 的

小学校、中学校及び高等学校における体育指導者の資質向上を図るとともに、府県学校体育実技指導者講習会における指導者の養成を図る。

2 企 画

文部科学省

3 実 施

独立行政法人教員研修センター・福井県教育委員会・福井市教育委員会

4 開催期日 平成14年5月14日（火）～17日（金）

5 開催地 福井市

6 参加府県 15府県

北信越	長野県 新潟県 富山県 石川県 福井県
東 海	岐阜県 静岡県 愛知県 三重県
近 畿	滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県

7 日 程

		13:00	13:30	14:15	15:30
第1日	5月14日（火）		受付	開会式	解 説
		8:45	9:00	12:00	13:00
第2日	5月15日（水）	受付	班 別 実 技	昼 食	班 別 実 技
第3日	5月16日（木）	受付	班 別 実 技	昼 食	班 別 実 技
第4日	5月17日（金）	受付	班別研究協議	閉会式	

*閉会式は、各班ごとに行う。

<開会式>

平成14年5月14日（火）13時30分

〔受付〕 13時00分～13時25分

〔会場〕 福井市文化会館 福井市春山2-7-1

I 研修概要

研 修 名	学校体育指導者中央講習会 (西部地区)		
担当課係	研修事業第三課 体育・健康教育係		
研修目的 (趣旨)	小学校、中学校及び高等学校における体育指導者の資質の向上を図るとともに、都道府県における学校体育実技指導者講習会等の指導者の養成を図る。		
対 象	指導主事又は小学校、中学校及び高等学校の教員等		
開催期日	平成14年 5月 7日(火) ～ 平成14年 5月10日(金)	4 日間	
参加人数	計画人数	400 人	受講者数 312 人 (参加率) 78.0 %
開催場所	県民ふれあい会館ホール・鳥取市立遷喬小学校・鳥取市立美保小学校・鳥取市立久松小学校・鳥取市立明德小学校・鳥取市民体育館・県立鳥取東高等学校・鳥取産業体育館・鳥取市武道館・鳥取市立西中学校・白兎会館		

体育指導者中央講習会 (3地区・東部地区・中部地区・西部地区)

参加人数	計画人数	1200人	受講者数	996人	(参加率)	83.0 %

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	188人	74.6%	56人	22.2%	0人	0.0%	8人	3.2%

2. 研修内容に関する主な意見

- 講師の先生は、我々の状況を把握しながらすすめてくださったのでよかった。私たちに必要な力は現状(実態)を分析し、そこにどんな内容をどう組み立てていくかということだと思う。そのことの重要性が伝わってきた。
- 実技講習は大変わかりやすいものだった。伝達講習(各県での)のことを考えると授業形式でやるともっとよいのではと思う。
- 評価に関しては、校内においても論点になっている。今回の内容が体育だけでなく、他の教育活動においてもいかされと思う。
- 班別実技では今までの自分の指導や考え方を見直すよい機会になったとともに、新しい発見をすることができた。特に講師の先生の指導がわかりやすく受講生を引き付ける姿は今後の授業、部活をする上で、すばらしい手本となった。
- 他県の先生との交流はあまり深められなかったが、むしろ県内の中・高の先生との交流が深められ、中学から高校へ指導を系統的につなげていくべきことなどがわかりよかった。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成14年度西部地区学校体育指導者中央講習会実施要項

- 1 目 的 小学校、中学校及び高等学校における体育指導者の資質の向上を図るとともに、各県における学校体育実技指導者講習会の指導者の養成を図る。
- 2 企 画 文部科学省
- 3 実 施 独立行政法人教員研修センター、鳥取県教育委員会、鳥取市教育委員会
- 4 開催期日 平成14年5月7日（火）～10日（金）（4日間）
- 5 開催地及び参加予定県
 - (1) 開催地 鳥取県（鳥取市）
 - (2) 参加予定県 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県（以上17県）
- 6 会 場 （別紙1）
- 7 講習内容及び講師
 - (1) 解 説 「これからの学校体育の在り方 ～指導と評価の一体化～」
文部科学省スポーツ・青少年局担当官
 - (2) 実 技

区分	班	講 師		
		氏 名	職 名	所 属
小学校	基本の運動	赤 松 喜 久	助 教 授	大 阪 教 育 大 学
	体づくり運動	川 口 啓	校 長	名古屋市立八熊小学校
	陸上運動	尾 縣 貢	助 教 授	筑 波 大 学
	ボール運動	武 隈 晃	助 教 授	鹿 児 島 大 学
中高等学校	体づくり運動	芹 澤 康 子	助 教 授	中 京 女 子 大 学
	バスケットボール	清 水 信 行	助 教 授	鹿 屋 体 育 大 学
	テ ニ ス	石 井 源 信	教 授	東 京 工 業 大 学
	剣 道	村 山 勤 治	助 教 授	滋 賀 大 学
	弓 道	張 替 謙 一	教 諭	茨城県立境高等学校
	ダ ン ス	村 田 芳 子	助 教 授	筑 波 大 学

(3) 研究協議

- ア 開設する班ごとに研究協議を行うので、各県教育委員会の割当表に基づき、該当班の発表者1名を決定すること。
- イ 協議題は「新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりについて」である。

8 日 程

日 時	9:00	12:00	13:00	14:00	16:00
第 1 日					受付 開会式 解 説
第 2 日	班 別 実 技	昼食	班 別 実 技		
第 3 日	班 別 実 技	昼食	班 別 実 技		
第 4 日	班 別 研 究 協 議	閉会式			

(注) 閉会式は班別に行う。

9 参加対象等

(1) 参加対象

各県における中堅的指導者で次に掲げる者

ア 指導主事又は小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校の教員等で、県教育委員会が推薦する者。

イ 国立大学又は国立大学の学部附属する小学校、中学校及び高等学校の教員で、当該学校の校長が推薦する者。

ウ 前記 7 (2) の「剣道」及び「弓道」については、中学校及び高等学校の部活動指導者を含むことができる。

(2) 参加者数

ア 指導主事又は小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校の教員等

各種目の班ごとに 2～3 名とする。なお、指定都市及び中核都市を含む県においては、各班ともさらに 2 名程度を加えて参加させることができる。

イ 国立学校の教員

小学校、中学校及び高等学校とも各校 1 名とする。

10 参加及び宿泊申込み

(1) 参加申込み

各県教育委員会及び各国立学校は様式 1 により、受講者名簿を平成 14 年 4 月 5 日 (金) までに独立行政法人教員研修センター (東京事務所) 及び鳥取県教育委員会あてにそれぞれ 1 部提出すること。

独立行政法人教員研修センター事業部研修事業第 3 課体育・健康教育係

鳥取県教育委員会体育保健課体育係

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者中央研修会		
担当課係	研修事業第三課 体育・健康教育係		
研修目的 (趣旨)	小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校における健康教育に関する研修を行い、教職員等の指導力の向上に資することとする。		
対 象	小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校の健康教育（保健教育、安全教育、給食指導）に関して指導的立場にある教員並びに都道府県及び市（政令指定都市及び中核市を含む。）町村教育委員会の健康教育担当指導主事。		
開催期日	平成14年10月16日(水) ～ 18日(金)/10月22日(火)～24(木)	6 日間	
参加人数	計画人数： 210 人	受講者数： 242 人	(参加率)： 115.2 %
開催場所	独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター/日本青年館		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	111人	55.5%	68人	34.0%	2人	1.0%	19人	9.5%

2. 研修内容に関する主な意見

- 授業の工夫、改善など直接授業にかかわる者の時間をとってほしかった。
- 全国での推進校の実践事例を紹介してほしい。
- 実践を交えた講義を多くしてほしい。
- 中学校部会では、性に関する部分、喫煙・飲酒・薬物乱用に関する実態の部分を研修したかった。
- 現場で活用できる講義を増やしてほしい。
- 資料にホームページの紹介も載せてほしい。
- 学習指導要領の内容にできるだけ近いものを設定してほしい。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 健康教育指導者中央研修会【前期】 日程一覧

【学校保健・学校安全部会】

会場：独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター

部会	会場	9:30	10:00	10:15	11:00	11:10	12:30	13:30	14:50	15:10	16:30
10月16日(水)	全体会	国際交流棟	受付	開会式	行政説明1 「学校健康教育の現状と課題」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課長 中岡 司	休憩	行政説明2 「新学習指導要領と学校健康教育」 文部科学省スポーツ・青少年局 体育官 戸田 芳雄	昼食・休憩	行政説明3 「喫煙、飲酒及び薬物乱用防止に関する指導」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課健康教育企画室 健康教育調査官 鬼頭 英明	休憩	行政説明4 「心の健康に関する指導」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課健康教育企画室 健康教育調査官 田嶋 八千代

部会			会場		9:30		10:50 11:05		12:30		13:30		14:50 15:10		16:30	
10月 17日 (木)	小学校部会	センタールーム309棟	受付	講義1「毎日の生活と健康」 ～子どもの生活と健康状態～ 大妻女子大学 人間生活科学研究所 教授 大澤 清二	休憩	講義2「育ちゆく体とわたし」 ～子どもの体の発育・発達～ 東京女子医科大学 名誉教授 和洋女子大学 教授 村田 光範	昼食・休憩	講義3「けがの防止」 ～人の行動や環境に潜む危険～ 東京学芸大学 教育学部 助教授 渡邊 正樹	休憩	講義4「病気の予防」 ～喫煙、飲酒、薬物乱用防止～ 兵庫教育大学 学校教育学部 助教授 西岡 伸紀						
	中学校部会	センタールーム310棟	受付	講義5「心身の機能の発達と心の健康」 ～思春期の心身の発育・発達～ 東京大学大学院 教育学研究科 教授 衛 藤 隆		講義6「傷害の防止」 ～自然災害時の危険～ 株式会社 社会安全研究所 ヒューマンファクター研究部長 首藤 由紀		講義7「健康と環境」 ～空気や飲料水の衛生的管理～ 岐阜薬科大学 衛生学講座 教授 永瀬 久光		講義8「健康な生活と疾病の予防」 ～生活習慣病の予防～ 鳥取大学 教育地域科学部 助教授 國土 将 平						
	高等学校部会	センタールーム311棟	受付	講義9「現代社会と健康Ⅰ」 ～ヘルスプロモーション～ 東京都立大学大学院 都市科学研究科 教授 星 旦 二		講義10「現代社会と健康Ⅱ」 ～感染症の予防～ 国立感染症研究所 感染症情報センター 予防接種室長 多屋 馨 子		講義11「生涯を通じる健康」 ～保健医療制度と地域の保健医療機関の活用～ 産業医科大学 医学部 教授 松田 晋 哉		講義12「社会生活と健康」 ～環境の汚染と健康～ 大分大学 教育福祉学部 教授 吉岡 義 正						

部会	会場	9:30	11:30	12:30	15:30	15:45
10月18日(金)	小学校部会	センタールーム401	受付	講義13「実践力を育てるための保健学習の考え方、進め方」 筑波大学 体育科学系 助教授 野津 有司	昼食・休憩	演習1「実践力を育てるための保健学習の指導方法の工夫」 筑波大学 体育科学系 助教授 野津 有司 栃木県宇都宮市立上戸祭小学校 教諭 森 良一
	中学校部会	センタールーム402	受付	講義14「実践力を育てるための保健学習の考え方、進め方」 宇都宮大学 教育学部 教授 和唐 正勝	昼食・休憩	演習2「実践力を育てるための保健学習の指導方法の工夫」 宇都宮大学 教育学部 教授 和唐 正勝 福井大学教育地域科学部附属中学校 養護教諭 木下 洋子
	高等学校部会	センタールーム403	受付	講義15「実践力を育てるための保健学習の考え方、進め方」 千葉大学 教育学部 助教授 高橋 浩之	昼食・休憩	演習3「実践力を育てるための保健学習の指導方法の工夫」 千葉大学 教育学部 助教授 高橋 浩之 千葉県立若松高等学校 教諭 長岡 知

平成14年度 健康教育指導者中央研修会【後期】 日程一覧

【学校給食部会】

会場：財団法人 日本青年館

会場	9:30 10:00 10:15	11:00 11:10	12:30 13:30	14:50 15:10	16:30
10月22日(火) 日本青年館 501会議室	受付 開会式	行政説明1 「学校健康教育の 現状と課題」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課長 中岡 司 休憩	行政説明2 「食中毒発生時における 学校の衛生管理体制」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 学校給食調査官 金田 雅代 昼食・休憩	行政説明3 「食に関する現代的課題と 学校給食」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 学校給食調査官 米満 裕 休憩	行政説明4 「新学習指導要領と学校健康教育」 文部科学省スポーツ・青少年局 体育官 戸田 芳雄

会場	9:30	11:30 12:30	14:00 14:20	16:00
10月23日(水) 日本青年館 501会議室	講義1 「子どもの食生活」 徳島大学 医学部 教授 山本 茂 受付	講義2 「変化する日本の食中毒と学校給食」 共立薬科大学 客員教授 中村 明子 昼食・休憩	講義3 「食生活学習教材の活用」 神戸大学 発達科学部 教授 丸谷 宣子 休憩	

会場	9:30	11:30 12:30	15:30 15:45
10月24日(木) 日本青年館 501会議室	実践発表・研究協議1 「食に関する指導について」 (発表者) ①香川県宇多津町学校給食センター 宮武 千津子 ②愛知県佐織町北河田小学校 長野 元紀 (助言者) 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 学校給食調査官 米満 裕 受付	実践発表・研究協議2 「学校給食の衛生管理について」 (発表者) ①広島県東広島市立寺西小学校 教諭 本岡 寛 ②広島県東広島市立西条学校給食センター 主任栄養士 名井 直子 ③滋賀県八日市市立南小学校 校長 山田 栄治 (助言者) 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 学校給食調査官 金田 雅代 昼食・休憩	閉会

I 研修概要

研修名	先端技術体験プログラム（工業：K-1）			
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係			
研修目的 (趣旨)	専門高校においては、産業社会の進展に対応した最新の知識や技術を身につけ、我が国の産業社会を支える人材を育成することが期待されており、教員自身も先端の技術に触れ、専門高校における教育についても技術革新を視野に入れたものとするのが求められる。このため、専門高校の教員に対して、先端の技術に触れさせる作業・実習を伴った研修を実施し、指導者としての資質の向上を図る。			
対象	高等学校の工業担当教員等又は教育委員会の関係指導主事			
開催期日	平成14年 8月19日(月) ～ 平成14年 8月22日(木)	4 日間		
参加人数	計画人数	30人	受講者数	30人 (参加率) 100.0%
開催場所	宇宙開発事業団筑波宇宙センター			

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	25人	86.2%	4人	13.8%	0人	0.0%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

○今後もこのような研修会が続けられるよう期待する。 ○これまで受けた講習会の中でも最も印象に残るものとなった。 ○新学習指導要領の改訂のポイント、これからの工業教育に何が必要なのかが理解できたような気がする。 ○地球のすばらしさを改めて感じた。また地球を守る、環境を守る大切さを感じた。 ○センサーの働き、衛星データの送受信等、先端技術に関する内容は授業でも話題提供することができるので、生徒に紹介していきたい。 ○ものづくりを通して、モデルロケットに対する取り組み方、生徒への指導方法、本研修で最もなじみやすい内容であった。 ○ものづくり教育を進めていく上で、基礎基本を教えるためにもこのような先端技術や日本の工業技術を知ることが大変必要であり、多くの工業に関係する教職員が参加すべきであると感じた。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

(別紙様式1)

平成14年度先端技術体験プログラム

(工業, K-1)

社団法人全国工業高等学校長協会

日時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
8月19日 (月)				受付	オリエンテーション	講演 (宇宙のはなし)	施設見学 (筑波宇宙センター)		
8月20日 (火)		講義 (衛星データ利用)		昼休み	講義 (衛星データ利用)			文部科学省 挨拶及び講話	
8月21日 (水)		講義 (国際宇宙 ステーション)	講義 (ロケット)	昼休み	講義 (モデルロケット)	実習 (モデルロケットの製作と 打ち上げ)			
8月22日 (木)		講義 (宇宙活動を支える先端的技術)		閉講式					

実施場所 宇宙開発事業団 筑波宇宙センター

I 研修概要

研 修 名	公立小・中学校中堅事務職員研修講座				
担当課係	研修事業第二課 国内短期研修係				
研修目的 (趣旨)	公立の小学校及び中学校の事務職員に必要な研修を行い、事務職員の資質の向上を図り、もって学校の運営に資する。				
対 象	公立小学校及び中学校の中堅事務職員				
開催期日	平成14年 5月13日(月) ～ 平成14年 5月17日(金)			5 日間	
参加人数	計画人数	100人	受講者数	100人	(参加率) 100.0%
開催場所	独立行政法人教員研修センター				

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	69人	70.4%	27人	27.6%	0人	0.0%	2人	2.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 文部科学省の話を直接聞く機会が少ないので貴重な経験になった。
- 他県の状況もわかり日々の業務を見直すよい機会となった。
- 他県の事務職員との交流・情報交換が有意義なものとなった。
- 一般企業経営者等の講義があればよい。
- 講義内容に重複している部分があったが参考になった。
- 早口で聞き取りにくい講師がいた。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成14年度公立小・中学校中堅事務職員研修講座日程表

		午 前 の 部		午 後 の 部				
5／13 (月)				受付・宿泊棟 入室 13:30 ～14:10	オリエンテー ション 14:10 ～14:50	開 講 式 15:00 ～15:10	「学校教育の課題と事務職員の役割」 15:25～16:55 文部科学省初等中等教育局視学官 河 野 公 子	資料交換 17:10 ～17:40
				レセプション ホール	講 堂			
5／14 (火)		課題研究① 9:00～ 10:15	「学校経営の現状と課題」 10:30～12:00 中野区立中央中学校校長 小 野 具 彦	「教育課程の改善」 13:00～14:30 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教育課程企画室室長 楠佐 松 永 賢 誕		課題研究② 14:45～18:30		
		各会場	レセプションホール				各 会 場	
5／15 (水)		課題研究③ 9:00～ 10:15	「情報教育の現状と課題」 10:30～12:00 文部科学省初等中等教育局参事官付情報教育係長 笹 田 慶 太	「総合学習と事務職員 のかかわり」 13:00～14:00 東京都練馬区立大泉東小学校主査 浅 川 晃 雄		「現代の子どもの 現状と課題」 14:15～15:45 文部科学省初等中等教育局主任視学官 小 田 豊	課題研究④ 16:00 ～18:30	
		各会場	レセプションホール					各 会 場
5／16 (木)		課題研究 ⑤ 9:00～ 9:30	「教育財政 について」 9:45～10:45 文部科学省初等中等教育局 財務課教育財政室室長楠佐 錦 戸 健 二	「地方教育行政 について」 11:00～12:00 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育委員会係長 猪 股 志 野	課 題 研 究 ⑥ (討議・発表) 13:00～17:00 武蔵野市立第四小学校主任 丹 治 益 栄 宇都宮市立陽北中学校事務長 吉 江 琢 也			
		各会場	レセプションホール					
5／17 (金)		自由 研究 9:00～ 9:45	「生き抜く力と 自己責任」 10:00～11:30 経済同友会調査役 橋 口 理 文	閉 講 式 11:45～ 12:00	注意：課題研究の各会場は、以下の通り。 レセプションホール (4班で使用) 103研修室 (5/15・16両日午前中のみ) 104研修室 (") 201研修室 (2班で使用) 203研修室 (5/15・16両日午前中のみ) 204研修室 (") 図書館 (5/15・16両日午前中以外) 第1宿泊棟会議室 (") 第2宿泊棟会議室 (") 第3宿泊棟会議室 (")			
			レセプションホール					

I 研修概要

研 修 名	養護教諭中央研修会					
担当課係	研修事業第三課 体育・健康教育係					
研修目的 (趣旨)	いじめ、不登校、保健室登校等、児童生徒が抱える心身の健康問題などの解決は緊急な教育課題となっており、養護教諭の果たす役割はますます重要となってきた。 そのため、養護教諭を対象に、専門的な知識・技術に関する研修を行い、その資質の向上を図る。					
対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び盲・聾・養護学校の中堅的養護教諭で今後それぞれの地域において指導的役割を果たす者(平成12年度以前の参加者を除く)並びに各教育委員会において養護教諭の指導を担当する者。					
開催期日	平成14年11月11日(月) ～ 平成14年11月15日(金)		5 日間			
参加人数	計画人数	240 人	受講者数	225 人	(参加率)	93.8 %
開催場所	独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	132人	74.2%	33人	18.5%	0人	0.0%	13人	7.3%

2. 研修内容に関する主な意見

- 学校現場で使える新しいマニュアル等を教えて欲しい。
- 新しい情報・知識を得る事が出来た。専門性を磨き発揮することの大事さを痛感した。保健指導、保健学習の具体的な話、演習が勉強になった。
- グループワークが体験できる参加型の研修にしてほしい。
- 自分たちの使命や社会的責任を再認識した。
- 学習指導要領について詳しく性格に理解できた。
- 演習はテーマを1点に絞り、問題解決について具体的に話し合う場を設定して欲しい。
- 今の日本社会を支える子どもの健康問題を一手に引き受ける養護教諭の職種の尊さを感じ、さらなるモチベーションの向上へとつながった。
- 養護教諭の特性を生かした指導を実践してゆくに当たり、基本的知識を再認識することができた。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成14年度 養護教諭中央研修会日程一覧

会場	9:30	10:00	10:15	10:50	11:00	12:00	13:00	14:00	14:15	15:15	15:30	16:30
11月11日(月)	国際会議室	受付	開会式	行政説明1 「健康教育の現状と課題」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課長 中岡 司	休憩	行政説明2 「養護教諭の職務と課題への対応」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課健康教育調査官 田嶋 八千代	昼食・休憩	行政説明3 「新学習指導要領と健康教育」 文部科学省スポーツ・青少年局 体育官 戸田 芳雄	休憩	行政説明4 「学校環境衛生の課題と対応」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課健康教育調査官 鬼頭 英明	休憩	行政説明5 「学校における保健管理と行政的対応」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課専門官 大竹 輝臣

会場		10:00		11:30		12:30		14:50 15:00		16:30	
11月12日(火)	センター棟 417研修室 (セミナーホール)	受付	講義 1		昼食・休憩	講義 2		休憩	講義 3		
			「養護教諭の進める調査・研究の進め方とまとめ方」	「総合的な学習の時間と健康教育」		「学校における性教育・エイズ教育に求められるもの ～青少年の性行動の実態より～」					
			千葉大学 教育学部 助教授 岡田 加奈子			鳴門教育大学 学校教育学部 教授 村川 雅弘			広島大学大学院医歯薬学総合研究科 講師 木原 雅子		

会場		10:00	12:30	13:30	16:30			
11月13日(水)	カルチャール小ホール棟	受付	講義4・演習1 「保健指導の考え方、進め方の理論と実際 ～ 課題のとらえ方と計画化 ～ 」 女子栄養大学 教授 三木 とみ子	昼食・休憩	講義5・演習2 「保健学習の考え方、進め方の理論と実際」 ＜小学校部会＞ 筑波大学 体育科学系 助教授 ＜中学校部会＞ 宇都宮大学 教育学部 教授 ＜高等学校部会＞ 千葉大学 教育学部 助教授	野津 有司 和唐 正勝 高橋 浩之	センター棟 高：304研修室	
								講義・演習会場 国際交流棟 小：第1ミーティング 中：第2ミーティング

会場		10:00		(12:00)		(13:00)		14:45 15:00		16:30	
11月14日(木)	国際会議室 (講義6会場)	受付	【課題別研究協議】				昼食・休憩◎昼食・休憩の時間帯は目安。		会場	休憩	講義6 「薬物乱用防止教育の進め方」
			第1課題 保健指導、保健学習の進め方								
			助言者 福井大学教育地域科学部附属中学校養護教諭 木下 洋子 スポーツ・青少年局体育官 戸田 芳雄								
			第2課題 保健管理の進め方								
			助言者 東京大学大学院 教育学研究科 教授 衛藤 隆 学校健康教育課 健康教育調査官 鬼頭 英明								
第3課題 健康相談活動の進め方						国際会議室		兵庫教育大学			
助言者 愛知女子短期大学 生活科学科 教授 徳山美智子 学校健康教育課 健康教育調査官 田嶋八千代						第3課題		学校教育学部 教授			
						センター棟 501		勝野 眞 吾			

会場		10:00	11:10	11:20	12:30	13:30	15:00	15:30
11月15日(金)	国際会議室 国際交流棟	受付	講義7 「安全管理・安全教育と 養護教諭」	休憩	講義8 「感染症の新たな課題への 対応」	昼食・休憩	講義9 「心の健康問題の理解と対応」	閉会式
			神戸大学 発達科学部 教授 南 哲		国立感染症研究所 感染症情報センター長 岡部 信彦		近畿大学 名誉教授 花田 雅憲	

I 研修概要

研 修 名	保健室相談活動研修会		
担当課係	研修事業第三課 体育・健康教育係		
研修目的 (趣旨)	いじめ、不登校、ナイフによる問題行動、保健室登校など児童生徒が抱える心の健康問題等の解決は緊急な教育課題となっている。 これらの問題を解決するためには、保健室における健康相談活動の充実、とりわけ養護教諭資質の向上を図る必要がある。そのため、保健室を訪れる児童生徒への対応の充実を図るため、養護教諭を対象に保健室における健康相談活動の知識や技術に関する研修を行い、その資質の向上を図る。		
対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び盲・聾・養護学校の養護教諭で保健室における相談活動に関し、各都道府県及び市（指定都市及び中核市を含む。）において指導的役割を果たす者並びに各教育委員会において養護教諭の指導を担当する者。		
開催期日	平成14年 7月 9日（火）～平成14年 7月12日（金）	4 日間	
参加人数	計画人数：200 人	受講者数：180 人	（参加率）：90.0 %
開催場所	独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	119人	82.1%	22人	15.2%	1人	0.7%	3人	2.1%

2. 研修内容に関する主な意見

- これまでの自分の健康相談活動について見直すのに役立ち、すぐに実践の参考となるものを得た。
- 健康相談活動の重要性を感じた。一人一人の子どもに正面から向き合い、ネットワークを使い連携をとりながら相談活動を実践していきたい。
- 事例研究の内容が現在抱えている課題にあてはまっており、班内の質疑で参考になるアドバイスを得られた。
- 本研修会を通して健康相談活動の組織作りについて考え、柱となるものが見えてきた。
- 教育相談と保健室相談活動の違いを明確化できた。
- 養護教諭が行う診断において器質的以上を除外してゆくことが、一般教諭にない専門性であり保健室の機能であることを再認識した。
- 昨年度より内容が充実し、健康相談活動が明確になっていた。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 保健室相談活動研修会 日程一覧

会場	9:30	10:00	10:10	10:50	11:00	12:00	13:00	16:30	16:45	17:30
7月9日(火)	国際交流棟	国際会議室	受付	開会式 行政説明1 「健康教育の現状と課題」 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課長 中岡 司 【衛星配信予定】	休憩	行政説明2 「保健室における健康相談活動と養護教諭の役割」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課健康教育企画室 健康教育調査官 田嶋 八千代 【衛星配信予定】	昼食・休憩	講義1 「学校教育とカウンセリングの基本」 東京成徳大学 教授 國分 康孝	休憩	グループ別 演習のための 打合せ会

	10:00		11:30		12:30		16:30	
7月10日 (水)	受付	講義 2		昼・休 食 憩	部会別実習 「養護教諭の行う健康相談活動の理論と実際」			
		「養護教諭の行う健康相談活動の理論と実際」						
		女子栄養大学 教授 三木 とみ子						
会場		国際交流棟 国際会議室		会場		センター棟		

10:00		11:30		12:30		16:30																							
7月11日(木)	受付	講義 3 「健康相談活動の事例研究の意義と基本」 愛知女子短期大学 教授 徳山 美智子		昼食・休憩	グループ別演習 「健康相談活動の事例研究の進め方と実際」																								
			小学校		<table><tr><td>第1班</td><td>408</td></tr><tr><td>第4班</td><td>410</td></tr><tr><td>第7班</td><td>411</td></tr><tr><td>第10班</td><td>412</td></tr></table>	第1班	408	第4班	410	第7班	411	第10班	412	中学校	<table><tr><td>第2班</td><td>413</td></tr><tr><td>第5班</td><td>505</td></tr><tr><td>第8班</td><td>506</td></tr></table>	第2班	413	第5班	505	第8班	506	高校	<table><tr><td>第3班</td><td>507</td></tr><tr><td>第6班</td><td>508</td></tr><tr><td>第9班</td><td>509</td></tr></table>	第3班	507	第6班	508	第9班	509
		第1班	408																										
第4班	410																												
第7班	411																												
第10班	412																												
第2班	413																												
第5班	505																												
第8班	506																												
第3班	507																												
第6班	508																												
第9班	509																												
会場	国際交流棟 国際会議室	会場	センター棟																										

会場		10:00		11:00 11:10		12:30		13:30		15:00 15:30	
7月12日(金)	国際交流棟 国際会議室	受付	講義 4 「健康相談活動における連携の在り方と進め方」	休憩	講義 5 「心の健康問題と身体症状」	昼食・休憩	講義 6 「児童生徒の心の発達と課題や問題活動への対応」	閉会式			
			千葉大学 助教授 岡田 加奈子		横浜労災病院 心療内科部長 江 花 昭 一		近畿大学 名誉教授 花 田 雅 憲				

I 研修概要

研 修 名	学校栄養職員等研修会		
担当課係	研修事業第三課 体育・健康教育係		
研修目的 (趣旨)	学校栄養職員等の専門知識を深め、指導力の向上を図るための研修を行い、もって学校給食の普及充実に資する。		
対 象	学校給食を実施する学校又は学校給食共同調理場に15年以上勤務する学校栄養職員(原則として既受講者は除く。)及び教育委員会に勤務する栄養指導担当者。		
開催期日	平成14年 9月10日(火) ～ 平成14年 9月13日(金)	4 日間	
参加人数	計画人数: 100 人	受講者数: 101 人	(参加率): 101.0 %
開催場所	独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	86人	88.7%	9人	9.3%	0人	0.0%	2人	2.1%

2. 研修内容に関する主な意見

- 日ごろの課題が講義や研究協議によって解決あるいはその糸口をつかむことができた。今回得ることができた貴重な情報、知識を地区の栄養士にも伝達し、皆で推進してゆきたいと思います。
- 行動療法やわかりやすい話し方など、普段の栄養士の研修会では聞けない内容でよかった。特に分科会ではウェット方式をドライ化する具体策や非常勤講師制度の届出の方法など実践例が伺えて良かった。
- 事前に、地場産物を生かした献立集を冊子で作ってあるのに、それを検討するような研究協議が無くただ持ち帰るのはもったいない。
- 分科会の持ち寄り資料の中に、栄養士の人数や調理員人数、建築年数などを記入する欄があるとより参考になると思います。
- 食品成分表の見方など新しい情報を得る事が出来た。
- 著名な講師陣の新しい話を聞くことが出来大変よかった。
- 日々変わってゆく研究成果を自分たちの仕事にどのように取り入れたらよいか参考になった。
- 実践発表は今後も続けて欲しい。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成14年度 学校栄養職員等研修会 日程一覧

	9:30	10:00	10:10	11:00	12:00	13:00	14:15	14:25	15:40	15:45	17:00
9月10日(火)		受付	開会式	講義1 「学校給食の現状と課題」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課長 中岡 司	講義2 「学校給食の衛生管理について」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課学校給食調査官 金田 雅代	昼休 憩	講義3 「最近の食中毒の傾向と対策」 共立薬科大学 客員教授 中村 明子	休憩	講義4 「食品の選定について」 女子栄養大学 教授 五明 紀春	休憩	講義5 「食品成分表から見る日本人の食生活」 千葉県立衛生短期大学 助教授 渡邊 智子
会場	センター棟 309 研修室										

	9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:15	14:30	(15:45)	17:00
9月11日(水)	受付	講義6 「カルシウム代謝と食生活」 日本女子大学 名誉教授 江澤 郁子	休憩	講義7 「食習慣改善のための指導」 広島国際大学 人間環境学部 教授 あだち健康行動学研究所 所長 足達 淑子	昼休 憩	講義8 「生活習慣病と食生活」 独立行政法人 国立健康・栄養研究所 研究企画・評価主幹 吉池 信男	休憩	食物アレルギーについて 実践発表・研究協議 ①岡山県美星町学校給食センター 学校栄養主幹 藤原 尚子 ②岩手県盛岡市立厨川小学校 主任栄養士 東野真理子 助言者：飯倉洋治 昭和大学教授 医学部小児科教授 飯倉 洋治	
会場	センター棟 501 研修室								

	9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	17:00
9月12日(木)	受付	講義10 「学校栄養職員の新たな役割と求められる資質」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課学校給食調査官 金田 雅代	休憩	講義11 「学校教育活動全体で取り組む食に関する指導」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課学校給食調査官 米満 裕	昼休 憩	研究協議(分科会) 協議題 ①「学校栄養職員が行う食に関する指導」 ②「衛生管理責任者としての学校栄養職員の役割」 助言者 文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課 学校給食調査官 金田 雅代 学校給食調査官 米満 裕
会場	センター棟 501 研修室				センター棟	

第1班	502 研修室
第2班	503 研修室
第3班	510 研修室
第4班	511 研修室
第5班	512 研修室
第6班	514 研修室

		9:00		10:30 10:40		12:00		13:00		14:45		15:00 15:30	
9月13日(金)	受付	講義12 「生きた教材となる献立作成」	休憩	講義13 「分かりやすい話し方」	昼休 ・ 食憩	研究協議（分科会）報告				指導助言	閉会式		
		女子栄養大学 教授 鈴木久乃		元NHKアナウンサー 東京農業大学 客員教授 松田輝雄									
	会場	センター棟 309 研修室											

I 研修概要

研 修 名	国立大学等部長級研修		
担当課係	研修事業第三課 語学・国立学校係		
研修目的 (趣旨)	国立学校等の新任の部長級幹部職員に対し、その職務の遂行に必要な広範な行政的識見の醸成及び高度の管理能力の充実を図り、もって国立学校等の円滑な管理運営に資することを目的とする。		
対 象	平成13年度の本研修後に新たに国立大学等の部長等（厚生補導に関する部の部長を除く。）、厚生補導に関する部の次長、事務部次長及び管理部次長に就任した者のうち、各機関の長の推薦を受けて、独立行政法人教員研修センターが、文部科学省と協議の上決定する。		
開催期日	平成14年11月27日（水）～平成14年11月29日（金）	3日間	
参加人数	計画人数	90人	受講者数 103人（参加率） 114.4%
開催場所	独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	52人	51.0%	38人	37.3%	0人	0.0%	12人	11.8%

2. 研修内容に関する主な意見

【講義等全般】

- ・法人化を前にした国立大学の職員を対象とすることから、民間企業の経営手法等の講義を拝聴できたことは大変良かった。(多数)
- ・種々の業界の責任ある立場の方の話を聞くことは、大変役に立つことだった。(多数)
- ・講師に先行独法の理事級の方も加えて欲しい。
- ・講義内容が必ずしも「部長」を対象としたものになっておらず、一般的な内容が多い印象を受けた。
- ・異分野の方々のものの見方、考え方が分かる様な講義が良い。
- ・大学の「公共性」や職員にその視点から求められるものについても、「競争性」と併せた話を今後伺えると有り難い。

【演 習】

- ・班の構成は、事前に知らせてもらえると演習がもう少し充実していたと思う。
- ・演習の班構成について、再考して欲しい。
- ・参加者同士の突っ込んだ話ができなかったことが残念。
- ・班の構成が多様なメンバーだったので、それぞれの立場からの課題について意見交換でき、大変有意義なものだった。(多数)
- ・法人化対応で、先行法人の状況が参考となった。(多数)
- ・大学の系列別、高専、その他に区分した方が、議論が進んだように思われる。(多数)
- ・班全員が責任ある発言をして、少しでも参考になる事例等を今後の職務に役立てようとする熱意が感じられた。今後とも続けて欲しい。
- ・法人化をテーマにしたが班員に独法関係者が入っていたため、独法化後の変化、法人化に向けての留意点などについての多少の知識を得ることができた。
- ・様々な職種が混在となっていたが、名簿順に上から機械的に繰り返して割り振ったため、職種が偏っていた。もう少しきめ細かく割り振って欲しかった。
- ・職種の違いによる温度差を感じた。
- ・班別討議の進め方について、半日は今回の方式、もう半分は同じ立場・業務ごとの班別討議もあった方が良くと思う。

- ・テーマの対象が広すぎて、各大学等の現状紹介が中心のような感じだった。
- ・できれば話題提供者に相当する事例が演習の参考資料としてあれば、より効果的な気がした。
- ・演習テーマを決めておく必要は無いと思う。
- ・演習の発表があった方がよい。
- ・演習についての必要性は薄いと思う。部長として人事管理や周辺状況把握のためのマインド部分の強さを強調して、その様な経験や著名人の話を伺った方がより良い成果が得られると思う。

【希望する講義テーマ等】

- ・私立大学における経営手法、経営戦略（多数）
- ・その道の第一人者（スポーツ・囲碁・将棋等）の経験談（多数）
- ・職員の意識改革（多数）
- ・顧客サービスとニーズの把握（デパート等の顧客管理など）
- ・新商品の開発とマーケティング手法について（中小のメーカー）
- ・人材派遣と専門職
- ・産学連携で企業が大学に望む視点
- ・企業が大学に寄付をしたいと思う視点
- ・独法に向けて地方公共団体の首長は国立大学に今何を期待し、何が還元できるか再考したい
- ・特殊法人のマネジメント
- ・その時々問題になっている事柄についての講義
- ・部長、課長、事務長の立場を認識しての職務執行に関わる事項
- ・今回の「放送席から見るスポーツ界のリーダー像」
- ・法人における人事・労務管理について
- ・自己啓発
- ・最近の経済状況
- ・異業種のできるだけ職務と関わりの薄い分野の話がもう一コマ欲しい
- ・前年受講者代表による、パネルディスカッション

Ⅲ 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 国立学校等幹部職員研修(部長級) 日程

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
センター棟 309研修室

11月27日(水)	11月28日(木)	11月29日(金)
10:00 受付	9:30 90分 国立大学等を取り巻く 課題と状況について ～国立大学の法人化に向けて～ 東北大学副総長 北村 幸久 氏	9:00 90分 職場の健康管理 (株)東京ストレスマネジメント 取締役 渡辺 章二 氏
10:30 開講式 (人事課長) オリエンテーション	11:00 会場移動	10:30 休憩
11:00 90分 民間企業の経営手法 古河物流(株)相談役 桐村 晋次 氏	11:15 75分 【演習】 班別討議 I ・自己紹介等 ・課題テーマ選定 ・課題テーマに沿った討議	10:45 90分 放送席から見る スポーツ界のリーダー像 前 横浜国際総合競技場長 西田 善夫 氏
12:30 休憩	12:30 休憩	12:15 休憩
13:45 120分 リーダーの危機管理 田中危機管理・広報事務所 所長 田中 正博 氏 途中、15分程度の休憩を設ける	13:45 120分 【演習】 班別討議 II ・課題テーマに沿った討議 各班、適宜休憩を15分程度設ける	12:30 閉講式 (修了証書授与) 12:45
15:45 休憩	15:45 休憩	
16:00 60分 職員の服務 文部科学省 大臣官房人事課担当官	16:00 60分 【演習】 班別討議 III ・課題テーマに沿った討議 ・討議とりまとめ	
17:00	17:00	

17:30 情報交換会 国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟 1F レセプションホール 19:00

・独立行政法人教員研修センター
事務控室：センター棟 308研修室

I 研修概要

研 修 名	国立大学等課長級研修		
担当課係	研修事業第三課 語学・国立学校係		
研修目的 (趣旨)	国立大学等の新任の課長級幹部職員に対し、その職務の遂行に必要な広範な行政的識見の養育及び高度の管理能力の充実に図り、もって国立学校等の円滑な管理運営に資することを目的とする。		
対 象	平成13年度の本研修実施後に新たに国立大学等の課長又は課長相当職(室長は含み、事務長を除く。)に就任した者とする。なお、事務長研修を受講した者は除く。		
開催期日	平成14年6月12日(水) ～ 平成14年6月14日(金)	3日間	
参加人数	計画人数	220人	受講者数 254人 (参加率) 115.5%
開催場所	独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京)		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	125人	50.2%	111人	44.6%	0人	0.0%	13人	5.2%

2. 研修内容に関する主な意見

【講義等全般】

- ・新任着任後、早い時期での開催は非常にありがたい。全体的、包括的な学習機会を得ることができ、満足。
- ・座学の内容が本当に参考になった。班別討議も色々な分野の方と一緒に有意義だ。
- ・今後の法人化をにらんだテーマが多く、研修を機会に色々な事を考える時間をとれた事は自身にとって有意義であった。
- ・各機関の方との有意義な意見交換、講義・演習を通じて得られた知見を職務等に生かしていきたい。
- ・管理職としての対応が自覚でき、以前からの心掛けと一致する部分もあり役立った。
- ・演習の時間で各大学のような現状、問題点が把握でき参考になった。
- ・国立機関以外の講演が役立った。
- ・独法化に向け、事務組織のあり方、管理職の役割、特に筋論クレーマー、マスコミ対応等の危機管理についての対応など実践的な研修が参考になった。
- ・民間会社の人事管理・リスクマネジメント等の事例。
- ・民間の経営手法等講演及び施設見学(私大及び民間)を取り入れて欲しい。
- ・独法化について関心、問題意識が全員にあるが、それについての掘り下げ事例が少ない。例えば、私立大学の事務長、経営管理の理事等の講義が聞きたい。
- ・研修のための研修といった感じ。大学等の法人化が対象であるので、必要なのかもしれないが、日常業務を別視点から捉えるのも良いのではないか。

【演 習】

- ・短時間で2つのテーマを考えることは、進め方、まとめ方を含め役立った。
- ・与えられたグループ環境の中で個々人のキャラクターを考えながら考えることは有益
- ・班分けは事前レポートのテーマ別にするべき。大学、高専、他機関では状況が違いすぎるためかみ合った議論は難しい。
- ・課題テーマが簡単で、各班とも方向性が同じ。参考にならない。今後の準備に役立つ、管理職としての“経営”感覚を問うようなものが良い。
- ・課題が大きすぎ。概念的な検討になるので、テーマは具体的なものにするべき。
- ・あるテーマを企画立案、効果的にプレゼンテーションする演習も有益。討議過程で適切な助言が欲しい。
- ・事例に基づく、事例研究を取り入れることにより、予防策、対応策、他への影響等の認識に共有意識が養える。

- ・事前レポート2つは多く、テーマ設定は具体的に絞り込む方が良い。事後レポートは研修期間中に完了する方法を。研修プログラムを見直そうとしている姿勢は見られるが、演習に疑問。
- ・研修者の所属が様々なため、掘り下げる課題への共通認識ができないもどかしさがある。
- ・班別討議の時間は長くあったが役に立たず。積極的意見、話し合うという雰囲気がメンバーに希薄、進行方法が上手くないことが原因。
- ・研修方式としては適当だが、検討を行う時間が短い。全体発表は中間でなく最終に全班に発表させる、ただし、テーマは一つとして5分位でよいのではないか。
- ・班別討議での相部屋は他の班の声が聞こえたりするため集中しづらい。確保できない場合は2班一緒に議論。

【事前レポート】

- ・簡単で、準備を要しないもの。
- ・2本のレポートは時間的、精神的余裕がなく、厳しい。
- ・量的な、目安があればよい。
- ・テーマを一つにして欲しい。(回答複数)
- ・より具体的な課題、例として講義に則したもの。

【事後レポート】

- ・事後レポートは代表者に負担。研修期間内で終えるべき。
- ・班で完全にまとめるのは時間的に難しい。
- ・当日提出がよい。(回答複数)
- ・全員の提出。(回答複数)
- ・研修達成度の成果を見るため関連テーマを出して、全員に提出。

【希望する講義テーマ等】

- ・今求められるリーダー像。
- ・職場における人材育成(人材開発)、必要性和展開。
- ・職場での健康、メンタルヘルスマネジメント。
- ・仕事の評価法、人間関係論。
- ・公務員の倫理。
- ・情報公開のあり方(マスコミ等の担当者、論説委員等を招き、情報公開を行うことにより、真の開かれた大学等の運営のあり方を一考)。
- ・危機管理の具体例を挙げた講義。
- ・不祥事故、セクハラ防止等関係の講義
- ・経営戦略、行政経営、政策評価、組織マネジメント。
- ・企業から見た産学連携と大学に求められるもの。
- ・民間企業における経営戦略、人事評価。
- ・法人化の具体的な事項に関するテーマ、資産管理、資産運用等。
- ・独法化をふまえた、先方独法もしくは民間(私学)の話。
- ・先進的事業に取り組む、国立学校等の事例紹介。
- ・私立大のマネジメント、法人化後に役立つ内容が必要。座学の時間が長い、討議に外の人間がいるとおもしろい。
- ・私立大の戦略、経営管理運営、事務組織 等。

Ⅲ 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成14年度 国立学校等幹部職員研修（課長級）日程

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
カルチャー棟 小ホール

6月12日（水）	6月13日（木）	6月14日（金）
9:30 受付	9:15 【講義】 国立大学等を取り巻く課題と状況について ～国立大学の法人化に向けて～ 京都大学事務局長 本間 政雄 氏	9:15 【演習】 全体会
10:30 開講式 （文部科学省大臣官房人事課長） オリエンテーション	10:45 会場移動	10:15 会場移動
11:00 【講義】 民間企業の経営 ～サービス産業における人材育成～ 横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ 研修担当ディレクター 袖山 雅弘氏	11:00 【演習】 班別討議Ⅰ	10:30 【演習】 班別討議Ⅲ
12:30 休憩	12:30 休憩	12:30 休憩
13:45 【講義】 組織マネジメントについて （学）産業能率大学 主幹研究員 金津 健治 氏	13:30 【演習】 班別討議Ⅱ	13:30 【講義】 職場での健康・メンタルヘルスマネジメントについて 新赤坂クリニック 院長 松木 康夫 氏
15:15 休憩		14:30 休憩
15:30 【講義】 リーダーの危機管理について （株）電通パブリックリレーションズ 顧問 田中 正博 氏	※ 班毎に、適宜休憩を挟む。	14:40 閉講式 （修了証書の交付） 15:00
17:00	17:00	

17:30 情報交換会 国際交流棟 1F レセプションホール 19:00

※ 独立行政法人教員研修センター 事務控室
・カルチャー棟 小ホール楽屋事務室
・センター棟 413研修室

I 研修概要

研 修 名	国立大学事務長研修				
担当課係	研修事業第三課 語学・国立学校係				
研修目的 (趣旨)	国立大学の事務長に対し、その職務の遂行に必要な広範な行政的識見の醸成及び高度の管理能力の充実を図り、もって国立大学の円滑な管理運営に資することを目的とする。				
対 象	平成13年度の本研修後に新たに国立大学の事務長に就任した者で、年齢56歳以下の者のうち、各機関の長の推薦を受けて、独立行政法人教員研修センターが、文部科学省と協議の上決定する。				
開催期日	平成14年11月13日(水)～平成14年11月15日(金)				3日間
参加人数	計画人数	100人	受講者数	53人	(参加率) 53.0%
開催場所	独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京)				

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	30人	56.6%	20人	37.7%	1人	1.9%	2人	3.8%

2. 研修内容に関する主な意見

【講義等全般】

- ・外部からの講師については、いずれの講師も話し上手で好評であった。
- ・法人化または、大学によっては統合と大きな課題が近くにあるこの時期の研修は正直言って不安を抱えての出席であった。テーマは大変役に立つ内容であった。
- ・充実していた、特に外部講師の講義は参考になった。

【演 習】

- ・様々な大学の混成なので、それらの情報が役立った。
- ・演習テーマに関し、「大学をどのように改革すべきか」などの討議の焦点が明確になるものにすべきであった。大学の報告会、個人的な意見の発表会となってしまう。
- ・演習テーマに関し、大学の再編や統合を控えた大学がある中での「現状課題」について討議してもなんの意味もなさない。
- ・班の人員構成が様々な職種混在となっていることにも一つのメリットはあるが、共通課題の発見に時間がどうしても取られるので、ある程度の同様な部署構成とすれば更に具体的かつ突っ込んだ意見交換が可能となるように感じた。
- ・互いの実状の情報交換と諸先輩の助言はおおいに役立った。班の役割や発表のための時間は無駄である。
- ・私自身は発表に当たったので問題点の整理に役立ったが、その他の人たちは言いつばなしになってしまい時間がもったいない。各大学の情報提供を話し合っって色々な取組があることを例示として示した方が役に立つのではないかな。
- ・班別討議で、ある程度の意見の集約作業は必要かもしれないが、発表内容が建前と概念的な内容にならざるを得ないと思うので、テーマをより具体的に最初から絞り込んだ設定とし、より具体的な発表になれば良いのではないかなと思う。

【希望する講義テーマ等】

- ・時期的なものもあるが独立行政法人化の講義を希望する。(多数)
- ・独立行政法人化を目前にしている事務長研修の内容としては、あまりにも一般的で「大学が生き残らなければならない」「今後の大学運営をどうしたらよいのか」などの課題を抱えている状況の中で、中堅研修や係長研修レベルのものでは管理職としての事務長の啓発には役に立たないのではないかなと感じた。

- ・独立行政法人化に向けてだけに限らず最新の情報が得られる様な内容の講義を検討願いたい。
- ・民間の方を迎えての講義は、新鮮で印象深いものばかりだったので、今後の継続を望む。
- ・大学改革は不確定な部分があり、テーマとしては結論を出すのが困難であるが、法人化問題は衆目の一致する問題。来年以降はもっと限定してテーマを設定してはどうか。
- ・危機管理については積極的に取り上げていただきたい。

Ⅲ 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 国立大学事務長研修日程

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
センター棟 409 研修室

11月13日(水)	11月14日(木)	11月15日(金)
10:00	9:15 90分	9:15 【演習】 75分
受付	組織マネジメント (学)産業能率大学 主幹研究員 金津 健治 氏	全体発表 ※全ての班が発表を行う
10:30	10:45	10:30 休憩
開講式 (人事課長) オリエンテーション	休憩	10:45 90分
11:00 90分	11:00 90分	国立大学等を取り巻く課題と 状況について ～国立大学の法人化に向けて～ 京都大学事務局長 本間 政雄 氏
民間企業の経営 ～サービス産業における人材育成～ 横浜ベイクストンホテル&タワーズ 研修担当ディレクター 袖山 雅弘 氏	効率的な会議の進め方 ～討議法～ (株)話し方教育センター 代表取締役 千名 貴志 氏	12:15 休憩
12:30 休憩	12:30 休憩	12:30 閉講式 (修了証書授与) 12:45
13:45 120分	13:30 【演習】 90分	
リーダーの危機管理 田中危機管理・広報事務所 所長 田中 正博 氏 ※途中、15分程度の休憩 を設ける	班別討議 I ・自己紹介等 ・課題テーマ選択 ・課題テーマに沿った討議	
15:45 休憩	15:00 休憩	
16:00 60分	15:15 【演習】 105分	
職員の服務 文部科学省担当官	班別討議 II ・課題テーマに沿った討議 ・討議まとめ ※適宜、各班休憩を15分 程度設ける	
17:00	17:00	

17:30
情報交換会
国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟 1F レセプションホール
19:00

・独立行政法人教員研修センター
事務控室：センター棟 407 研修室

I 研修概要

研 修 名	国立大学等課長補佐級研修				
担当課係	研修事業第三課 語学・国立学校係				
研修目的 (趣旨)	国立大学等の課長補佐、室長補佐、事務長補佐、専門員及び主任専門職員に対し、その職務の遂行に必要な行政的識見を更に深めさせ、相当高度の管理及び指導能力を修得させることにより、国立大学等の円滑な管理運営に資することを目的とする。				
対 象	平成13年度の本研修後に新たに国立大学等の課長補佐、室長補佐、事務長補佐、専門員（職制定数上の専門員をいう。）及び主任専門職員に就任した者で、原則として年齢50歳以下の者のうち、各機関の長の推薦を受けて、独立行政法人教員研修センターが文部科学省と協議の上決定する。				
開催期日	平成14年10月15日（火）～平成14年10月18日（金）			4日間	
参加人数	計画人数	215人	受講者数	212人	(参加率) 98.6%
開催場所	独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）				

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	110人	53.1%	94人	45.4%	0人	0.0%	3人	1.4%

2. 研修内容に関する主な意見

【講義等全般】

- ・全ての講義について、今後の自分に役立つテーマと内容で大変良かった。（多数）
- ・専門外の方と情報交換が出来て、とても有意義だった。（多数）
- ・リーダーの危機管理が面白かった。大学に帰ったらすぐに対応したい。（多数）
- ・特に民間講師の話は、日常あまり聞けない情報なので興味深く受講できた。
- ・演習前に討議法の講義があり、スムーズに進められた。
- ・独法化を見据えた演習が多かったと思う。より具体的なテーマについて議論できれば、有り難いと思う。
- ・今後、独立行政法人に移行するわけだから、公私立大学を含めた研修が出来ればと考える。
- ・もう少し法人化に向けた意見交換ができるプログラムが欲しかった。

【演 習】

- ・今までの研修にない、演習の時間が多いのは大変有意義だった。仲間意識も生まれて良かった。
- ・班別討議の段階で、「効率的な会議の進め方」に基づいて進行が即実践できたことはとても良かった。
- ・演習Ⅱについては職種別（施設・事務）等に班分けして、もう少し身近なテーマで討議しても良いのではないと思った。（多数）
- ・全体発表は、出来れば同日に全班が発表するなどして発表班の重複は避けるべき。（多数）
- ・同職種グループで1コマ組ませて欲しい。（多数）
- ・演習Ⅰ・Ⅱともテーマが抽象的すぎて、討論と整理に時間が不足してどの班についても発表内容が乏しかったので、テーマをもう少し具体的に絞って欲しい。
- ・テーマの設定は適正であったが、どうしても全体発表に向けての意見集約という点に絞られての意見交換になってしまい、まとめをどうしても意識してしまった点が残念。
- ・司会の人選に注意を。司会の進め方で論議がどうにでもなってしまう。
- ・演習は少人数での討論ということもあって、人とのネットワークの構築が出来るのも先々大いに役に立つものと思う。

【希望する講義テーマ等】

- ・平成16年度の法人化に向けて、ユニークな計画や成功例としての大学の実例についての報告等の講義。(多数)
- ・企業からの講師の講義。(多数)
- ・「リーダーの危機管理について」をまた実施して欲しい。知らない部分もあり、講師の先生の話し方が上手で良かった。(多数)
- ・「国立大学等を取り巻く課題と状況について～国立大学の法人化に向けて～」の講義は本質的な部分に踏み込んだ話だったので、とても参考になったため、続けて欲しい。
- ・接遇・企業の経営方針について。
- ・その時期にあった、タイムリーな内容の講義。
- ・メンタルケア関係。
- ・「職員の服務」は、研修の最初にやるべきではないだろうか。
- ・「円滑な職場環境の在り方」や「教職員のメンタルヘルス」は、補佐になった者には興味がある。
- ・職場の人間関係。
- ・新たな人事評価制度について。
- ・補佐、専門員の役割について。

Ⅲ 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 国立学校等課長補佐級研修日程

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
「417」セミナーホール

10月15日(火)	10月16日(水)	10月17日(木)	10月18日(金)
	9:00 ————— 90分	9:00 ————— 80分	9:00 ————— 80分
	国立大学等を取り巻く 課題と状況について ～国立大学の法人化に 向けて～	演 習 I (全 体 発 表) ※代表 5 ～ 6 班が発表	演 習 II (全 体 発 表) ※代表 5 ～ 6 班が発表
	京都大学事務局長 本間 政雄 氏	10:20 ————— 休憩	10:20 ————— 休憩
	10:30 ————— 休憩	10:35 ————— 100分	10:35 ————— 60分
	10:45 ————— 90分	リーダーの危機管理 (株)電通パブリックリレーションズ コミュニケーション推進 プロデューサー 伊原 正俊 氏	職員の服務 文部科学省人事課
	私立大学の経営 津田塾大学事務局長 塚本 栄 氏		11:35 ————— 休憩
			11:50 ————— 閉 講 式 12:10 (修了証書授与)
12:15 ————— 60分	12:15 ————— 休憩	12:15 ————— 休憩	
受付			
13:15 ————— 30分	13:30 ————— 90分	13:30 ————— 90分	
開 講 式 (文部科学省人事課長) オリエンテーション	演 習 I [班 別 討 議 ①] ・ 自己紹介等 ・ 課題テーマ選定 ・ 課題テーマに沿った 討議	演 習 II [班 別 討 議 ③] ・ 課題テーマの選定 ・ 課題テーマに沿った 討議	
13:45 ————— 90分	15:00 ————— 休憩	15:00 ————— 休憩	
組織マネジメント (学)産業能率大学 主幹研究員 金津 健治 氏	15:15 ————— 105分	15:15 ————— 105分	
15:15 ————— 休憩	演 習 I [班 別 討 議 ②] ・ 課題テーマに沿った 討議 ・ 討議とりまとめ 各班、適宜休憩を 15分程度設ける	演 習 II [班 別 討 議 ④] ・ 課題テーマに沿った 討議 ・ 討議とりまとめ 各班、適宜休憩を 15分程度設ける	
15:30 ————— 90分	17:00	17:00	
効率的な会議の進め方 ～討議法～ (株)話し方教育センター 取締役 遠山 法子 氏			

17:45
情 報 交 換 会
国立オリンピック記念青少年総合センター
レセプションホール
(国際交流棟1F)
19:15

・独立行政法人教員研修センター
事務控室： センター棟413研修室

I 研修概要

研 修 名	会計事務研修 地区別会計事務研修						
担当課係	研修事業第三課 語学・国立学校係						
研修目的 (趣旨)	各地区の国立学校等の事務職員に対して国の会計法規に関する知識を修得させ、かつ、大学改革等に必要の見識を授けることにより、各職員の資質の向上を図ることを目的とする。						
対 象	会計に関する事務の経験が1年以上の者で原則として初級者を対象とする。						
開催期日	北海道地区	平成14年10月 7日(月) ～ 平成14年10月11日(金)				5日間	
	東北地区	平成14年10月21日(月) ～ 平成14年10月25日(金)				5日間	
	関東・甲信越地区	平成14年11月11日(月) ～ 平成14年11月15日(金)				5日間	
	東海・北陸地区	平成14年10月28日(月) ～ 平成14年11月 1日(金)				5日間	
	近畿地区	平成14年10月21日(月) ～ 平成14年10月25日(金)				5日間	
	中国・四国地区	平成14年11月11日(月) ～ 平成14年11月15日(金)				5日間	
	九州地区	平成14年10月28日(月) ～ 平成14年11月 1日(金)				5日間	
参加人数	北海道地区	計画人数	45人	受講者数	39人	参加率	86.7%
	東北地区	計画人数	50人	受講者数	50人	参加率	100.0%
	関東・甲信越地区	計画人数	100人	受講者数	85人	参加率	85.0%
	東海・北陸地区	計画人数	65人	受講者数	70人	参加率	107.7%
	近畿地区	計画人数	50人	受講者数	64人	参加率	128.0%
	中国・四国地区	計画人数	75人	受講者数	73人	参加率	97.3%
	九州地区	計画人数	70人	受講者数	78人	参加率	111.4%
開催場所	1. 北海道地区 : 北海道大学 (大滝セミナーハウス) 2. 東北地区 : 東北大学 (秋田温泉さとみ) 3. 関東甲信越地区 : 東京工業大学 (国立オリンピック記念青少年総合センター) 4. 東海・北陸地区 : 豊橋技術科学大学 (スズキ荘観月園) 5. 近畿地区 : 大阪大学 (大阪府立羽衣青少年センター) 6. 中国・四国地区 : 岡山大学 (国立吉備少年自然の家) 7. 九州地区 : 九州大学 (福岡県社会教育総合センター)						

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
北海道地区	8人	20.5%	29人	74.4%	2人	5.1%	0人	0.0%
東北地区	16人	32.0%	29人	58.0%	2人	4.0%	3人	6.0%
関東・甲信越地区	36人	43.4%	44人	53.0%	2人	2.4%	1人	1.2%
東海・北陸地区	16人	24.6%	45人	69.2%	2人	3.1%	2人	3.1%
近畿地区	21人	32.8%	41人	64.1%	0人	0.0%	2人	3.1%
中国・四国地区	32人	44.4%	40人	55.6%	0人	0.0%	0人	0.0%
九州地区	35人	47.9%	36人	49.3%	2人	2.7%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

①北海道地区

- ・自分が担当したことの無い会計事務の話が聞けて、今後役に立てていきたい。
- ・講義の内容は難しかったが、その中でも得るものもあり、大変有り難かった。
- ・基本的なところを学ぶことができて良かった。
- ・講師の方々が立派すぎて、自分達が分かっていることをどんどん進めていくので、もう少し噛み砕いた話を聞きたかった。
- ・単調な話し方をする講師が多かったので、その点を改善した方が良いと思う。
- ・班別討議は他大学の現状を知ることができたりとても面白かったので、もう少し色々なテーマで話し合いの時間が多いほうが良い。
- ・文部科学省の方が講義をして下さるので難しいとは思いますが、事前に内容等チェックできれば良いと思う。

【今後、研修に取り入れてほしい科目等】

- ・独法化に向けて
- ・簿記に関する科目
- ・民間の会社の話
- ・旅費の仕組み
- ・日頃からの問題点、改善点等
- ・体育
- ・実務の説明
- ・公認会計士の講師

②東北地区

- ・独法化とはどんなものなのか、進行状況、考え方などの講義は聴いていてとても為になった。
- ・自分の中で意識改革ができた。
- ・演習課題について、他大学の進行状況が分かって良かった。
- ・自分が携わったことのない業務の講義も聴講でき、大変参考になった。
- ・独法化に関する内容を多くして欲しかった。

【今後、研修に取り入れてほしい科目等】

- ・簿記関係の講義
- ・企業会計制度
- ・独立行政法人に関する研修
- ・医療関係
- ・財政学
- ・政府調達
- ・入札の仕方や予定価格の立て方
- ・旅費・給与・退職手当
- ・科研費・委任経理事務について
- ・パソコン・情報関連

③関東甲信越地区

- ・会計に関することを改めて見直すことができ、他機関の方と交流がとれて良かった。(多数)
- ・普段携わっていない会計事務について概要等から知る良い機会になった。
- ・国立大学の法人化について、あまり考える機会が無かったが、今回その知識を高めることが出来た。
- ・特に班別討議は法人化についてということで興味があったのと、他大学の検討状況など聞け参考になった。
- ・全体的にもう少し独法化をふまえた内容にして欲しかった。
- ・講義は経験したことのない科目でも理解できるようにしてほしい。

【今後、研修に取り入れてほしい科目等】

- ・企業会計
- ・独立行政法人会計基準
- ・簿記
- ・先行独立行政法人見学
- ・電算システム
- ・科学研究費補助金

④東海・北陸地区

- ・多くの他機関職員と真剣に議論できたことは、大変有意義だった。
- ・講義によっては、単に本や資料を読むだけのものもあったが、全体的には今後役立つ内容だったと思う。
- ・独法化に向けて関連の深いテーマも取り入れられており、大変勉強になった。
- ・配付資料のことを事前に周知して欲しい。(持ち帰り用の袋が欲しい)
- ・もう少し文部科学省の方々からの法人化の情報が欲しかった。
- ・通常業務に関することも含めた質問コーナーを設けて欲しい。

【今後、研修に取り入れてほしい科目等】

- ・独法化関係
- ・簿記
- ・レクリエーション（体育等）
- ・企業会計系
- ・給与関係
- ・経営マネージメント
- ・私立大学や市立病院の業務

⑤近畿地区

- ・他機関の交流がとれて良かった。（多数）
- ・会計事務について系統的に学べる良い機会だった。（多数）
- ・各大学の独立行政法人化に向けた取組状況を聞いたので良い経験となった。
- ・危機意識のようなものを強く感じた。
- ・担当したことのない会計業務について知ることができた。

【今後、研修に取り入れてほしい科目等】

- ・国立大学法人会計基準
- ・独立行政法人関係
- ・レクリエーション
- ・企業会計
- ・民法

⑥中国・四国地区

- ・日頃の日常業務について、改めて基礎から勉強することができた。
- ・普段の仕事の内容以外にも触れ、大変勉強になった。
- ・意識改革の大きなきっかけになった。
- ・独法化に向けての取り組みについて話し合ったことが、これから役立つと思う。
- ・独法化に向けて、今後すべきことがあまりに多いことに驚いた。
- ・各大学等の方々との情報交換・意見交換を行うことができ、非常に有意義な機会となった。
- ・中国地方の人はこの研修しかないので、今後もこういった研修があればよいと思う。
- ・自由時間について、施設の利用可能なもの等教えて欲しかった。
- ・講義、討議等概ね適切に配分されていたと思う。

【今後、研修に取り入れてほしい科目等】

- ・スポーツ等のレクリエーション
- ・独法化に向けての内容
- ・企業会計関係
- ・簿記の基本
- ・独法の会計基準
- ・民間企業の実践的な話
- ・医事に関する概略
- ・経営分析
- ・資格等に関すること

⑦九州地区

- ・会計事務の知識を深めるばかりでなく、色々な方々と交流できて良かった。
- ・会計の流れや担当の一部署の仕事のみならず、その他の部署の仕事など、全体像を把握するのに勉強になった。
- ・立場や仕事内容が違う人から色々な話を聞くことができ、これから仕事をしていく上で役に立つと思う。
- ・特別講義は、独法のための意識改革に役立った。
- ・班別討議では、各大学の現状を勉強することができて、大変有意義だった。
- ・全体的に話ばかりではなく、ビデオ、図など視聴覚教材を多く取り入れて欲しい。
- ・配布された図書は有り難いが、持ち帰るときの不便さ等、何か改善されないものだろうか。

【今後、研修に取り入れてほしい科目等】

- ・独法化に向けて
- ・運動、レクリエーション等
- ・簿記
- ・給与・共済関係
- ・旅費法
- ・資産運用（国債など）について
- ・大学職員について
- ・見学等
- ・公認会計士の講師

Ⅲ 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度北海道地区会計事務研修日程表

於：北海道地区国立大学大滝セミナーハウス

時 月日 (曜)	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	22
	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	
第 1 日 10月 7 日 (月)	札幌発						昼食	開講式 部長挨拶 オリエンテーション及び写真撮影	講話 会計職員の心構え 北海道大学 経理部長 五十嵐義明 (60分)	文教予算事務 文部科学省大臣官房会計課 第二予算班第二係長 大淵 学 (120分)	夕食	自由研修		就寝
第 2 日 10月 8 日 (火)	起床 体操	朝食	収入・債権管理事務 文部科学省大臣官房会計課 経理班経理第三係主任 杵山広樹 (120分)		支出・支出負担行為事務 文部科学省大臣官房会計課 総務班法規係長 松本 歩 (120分)		昼食	契約事務 文部科学省大臣官房会計課 用度班調度第二係長 矢野耕一 (120分)		政府調達事務 文部科学省大臣官房会計課 用度班調度第二係長 矢野耕一 (120分)		夕食	自由研修 就寝	
第 3 日 10月 9 日 (水)	起床 体操	朝食	物品管理事務 文部科学省大臣官房会計課 監査班財務分析評価係長 加藤 充 (120分)		国有財産管理・処分事務 文部科学省大臣官房会計課 国有財産調査官 渡邊一幸 (120分)		昼食	特別講義Ⅰ 北海道大学大学院法学研究科 附属高等法政教育研究センター ガバナンス部門 教授 宮脇 淳 (120分)		決算事務 文部科学省大臣官房 会計課庁舎管理班主査 関根正夫 (90分)		夕食	自由研修 就寝	
第 4 日 10月10日 (木)	起床 体操	朝食	外部資金事務 文部科学省研究振興局 研究環境産業連携課 技術移転推進室 専門職 堤田真也 (120分)		講話 服務制度 北海道大学 総務部人事課 専門員 佐竹順一 (90分)	班別討議 の進め方 北海道大学 経理部主計 課総務班長 片岡平和 (30分)	昼食	班別討議 文部科学省大臣官房会計課 経理高度化専門官 宮本隆正 (180分)		自由討議 (事例紹介) 国立大学法人移行のため 準備・検討状況 北海道大学法人移行 準備室財務会計班 専門職員 入澤秀次 (60分)		夕食	自由研修 就寝	
第 5 日 10月11日 (金)	起床 体操	朝食		会計経理上の諸問題 文部科学省大臣官房会計課 経理高度化専門官 宮本隆正 (120分)			閉講式	昼食	解散					

平成14年度 東北地区国立学校等会計事務研修日程表

当番校 秋田大学

1. 講師

文部科学省大臣官房会計課

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

独立行政法人 国立岩手山青年の家

朝日監査法人 パブリック・本部・国立大学部

政府調達専門官

専門官

主査

第一係長

監査第二係長

総括係長

物品係長

経理第一係主任

技術移転係長

庶務課長

公認会計士

澤田佳成

横町直明

児玉孝

小林英夫

堀江直純

丹野忠

深松順一

一條敬一

鈴木慰人

野田優明

金子靖

2. 日程

月 日 \ 時 間	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	13:30	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
10月21日(月)						受 付	移 動	開 講 式	写 真 撮 影	講 話 (60分) 秋 田 大 学 事 務 局 長	オ リ エン テー ション	夕 食	自 由 研 修
10月22日(火)		外部資金について (90分) (鈴木 慰人)	物 品 管 理 事 務 (90分) (丹野 忠)	昼 食	契 約 事 務 (政 府 調 達 を 含 む) (180分) (澤田 佳成)				特 別 講 義 「私立大学における 会計経理について」 (90分) (金子 靖)		夕 食	自 由 研 修	
10月23日(水)		国 有 財 産 管 理 事 務 (90分) (児玉 孝)	文 教 予 算 に つ い て (90分) (小林 英夫)	昼 食	特 別 講 義 「独立行政法人の1 期目の決算を終え て」 (90分) (野田 優明)		班 別 討 議 「国立大学の法人化に向けて の会計経理上の取り組みに ついて」 (120分)		課 外 研 修 (90分)		夕 食	自 由 研 修	
10月24日(木)		収 入 ・ 債 権 管 理 事 務 (90分) (深松 順一)	支 出 ・ 支 出 負 担 行 為 事 務 (90分) (一條 敬一)	昼 食	講 話 「服務規律」 (60分) (秋田大学 人事課長)		決 算 事 務 (90分) (堀江 直純)		班 別 討 議 (全体発表) (120分)		夕 食	自 由 研 修	
10月25日(金)		会 計 経 理 上 の 諸 問 題 (120分) (横町 直明)		閉 講 式	昼 食	移 動							

第37回 関東甲信越地区国立大学等会計事務研修 講義科目及び時間割表

【 日 程 等 】

		8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
11月11日(月)							受付	開 講 式	オリエン テーション	【講義】 予算 (120分)	休憩	夕食	自主研修			就寝
11月12日(火)	洗面 室内整理	朝食	移動	【講義】 収入・債権 (120分)	【講義】 支出・支出 負担行為① (60分)	昼食	【講義】 支出・支出 負担行為② (60分)	【講義】 契約・政府調達① (180分)			休憩	夕食	自主研修			就寝
11月13日(水)	洗面 室内整理		移動	【講義】 契約・政府 調達② (60分)	【講義】 物品管理 (120分)	昼食	【講義】 国有財産管理及び処分 (120分)	【講義】 外部資金 (120分)			休憩	夕食	自主研修			就寝
11月14日(木)	洗面 室内整理		移動	【講話】	【講義】 決算 (90分)	昼食	【講義】 会計経理上の諸問題 (120分)	【班別討議】 (120分)			休憩	夕食	自主研修			就寝
11月15日(金)	洗面 室内整理		移動	【特別講義】	【班別討議】 (60分)	閉 講 式	写真 撮影									

平成14年度（第39回）東海・北陸地区国立学校等会計事務職員研修講義時間割振表

当番校：豊橋技術科学大学

会 場：スズキ荘観月園

月 日	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
10月28日 (月)						受 付	開講式 オリエンテーション	特 別 講 演 I (180分)			交 換 研 修		自 由 研 修			就寝	
10月29日 (火)	朝 食		予 算 関 係 (90分)		決 算 関 係 (90分)		昼 食	収入・債権事務 (90分)		物品管理事務 (90分)		班別討議 I (60分)		夕食及び 自由時間		自 由 研 修	就寝
10月30日 (水)	朝 食		国有財産管理 及び処分関係 (90分)		契 約 関 係 (90分)		昼 食	政府調達関係 (90分)		支 出・支 出 負担行為関係 (90分)		班別討議 II (60分)		夕食及び 自由時間		自 由 研 修	就寝
10月31日 (木)	朝 食		外部資金関係 (120分)			班別討議 III (60分)		昼 食	講 話 (服務規律関係:120分)		特 別 講 演 II (120分)		夕食及び 自由時間		自 由 研 修		就寝
11月 1日 (金)	朝 食		会計経理上の 諸 問 題 (120分)			開 講 式											

平成14年度近畿地区国立学校等会計事務研修日程表

当番校：大 阪 大 学
研修場所：羽衣青少年センター

時間 月 日	9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00		15:00		16:00		17:00		
		9:30		10:30		11:30		12:30		13:30		14:30		15:30		16:30		17:30	
10月21日 (月)									受付	オリエンテーション		開講式	予算 (120分) 文部科学省大臣官房会計課 国立学校特別会計第二予算班 病院第二係長 尾田 史郎				チェック イン	野外 実習	
10月22日 (火)		決算 (90分) 文部科学省 大臣官房会計課監査班 決算係長 築坂 直樹			物品管理 (90分) 文部科学省 大臣官房会計課 専門官 濱渦 明夫			昼食		支出・支出負担行為 (90分) 文部科学省 大臣官房会計課 庁舎管理班 施設係長 田村 耕造		特別講義 (1) (150分) 新日本監査法人							
10月23日 (水)		講話 (60分) 服務規律に関すること (大阪大学人事課職員)		特別講義 (2) (120分) 独立行政法人国立博物館 東京国立博物館 総務課長 松岡正和			昼食		外部資金 (120分) 文部科学省研究振興局 研究環境産業連携課 技術移転推進室 専門職 堤田 真也			契約・政府調達契約 (120分) 文部科学省 大臣官房会計課政府調達室 政府調達第二係主任 塚本 英則							
10月24日 (木)		班別討議 (180分) ～国立学校の法人化に向けての会計経理上の 取り組みについて～ 文部科学省大臣官房会計課管財班 管財第一係長 鹿又 仁郎						昼食		国有財産管理及び処分 (120分) 文部科学省 大臣官房会計課管財班 管財第一係長 鹿又 仁郎			収入・債権 (120分) 文部科学省 大臣官房会計課経理班 経理第二係長 吉田 茂						
10月25日 (金)		会計経理上の諸問題 (120分) 文部科学省 大臣官房会計課 経理班主査 阿部 幸輔				アンケート		閉講式											

平成 1 4 年度 地区別 会計事務研修 (中国・四国地区) 日程

共催：文 部 科 学 省
独立行政法人教員研修センター
岡 山 大 学

7	:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
	7:30	8:30	9:30	10:30	11:30	12:30	13:30	14:30	15:20	16:10	17:30	18:30	19:30	20:30	21:30	
11 月 11 日 (月)								受 付	オ リ エ ン シ ョ ン	開 記 念 式 展 影	講 話 (9分) 岡山大学 学長 寺尾 繁美	講 話 (9分) 「岡山大学について」 岡山大学学長 野澤 知弘	夕 食	入 浴 自 由 時 間		消 灯 就 寝
11 月 12 日 (火)	起 床 寝具整理 消 掃	朝 食	講義(180 分) 「契約・政府調達について」 講師：文部科学省会計課政府調達室 政府調達専門官 澤田 佳成			昼 食	講 義(120 分) 「予算について」 講師：文部科学省会計課 総括予算班 専門官 川中 文治		講 義(120 分) 「収入・債権について」 講師：文部科学省会計課 経理班 経理第一係長 吉井 博幸		夕 食	入 浴 自 由 時 間		消 灯 就 寝		
11 月 13 日 (水)	起 床 寝具整理 消 掃	朝 食	講義(90 分) 「決算について」 講師：文部科学省会計課 監査班 監査第一係長 佐藤 元則	講義(90 分) 「物品管理について」 講師：文部科学省会計課 庁舎管理班 管理第二係主任 小島 修一	昼 食	講 義(120 分) 「外部資金について」 講師：文部科学省研究開発産業連携課 技術振興推進室 技術振興係 鳥生 浩司		班別討議(120 分) 「国立大学の法人化に向 けての会計経理上の取り 組みについて」 指導助言：文部科学省会計課 管財班 管財係長 梅津 美昭		夕 食	入 浴 自 由 時 間		消 灯 就 寝			
11 月 14 日 (木)	起 床 寝具整理 消 掃	朝 食	講 義(120 分) 「国有財産管理及び処分 について」 講師：文部科学省会計課 管財班 宿舎係長 梅津 美昭		班 別 討 議 (60 分) 「国立大学の法人化に 向けての会計経理上の 取り組みについて」 全体発表 指導助言：梅津 美昭	昼 食	講 義(120 分) 「支出負担行為・支出に ついて」 講師：文部科学省会計課 総務班 総務係長 小坂 慎治		特別講義(120 分) 「独立行政法人の 1 期目 の決算を終えて」 講師：独立行政法人 国立女性教育会館 理事 廣瀬育生		夕 食	入 浴 自 由 時 間		消 灯 就 寝		
11 月 15 日 (金)	起 床 寝具整理 消 掃	朝 食	講 義(120 分) 「会計経理上の諸問題に について」 講師：文部科学省会計課 用度班主査 前田 千尋		閉 講 式	退 所										

平成14年度 九州地区会計事務研修日程表

場 所 福岡県立社会教育総合センター

区 分		9:0010:0010:3011:0012:0013:0013:3014:0014:3015:0015:3016:0017:0017:3019:3021:00															
第1日	10月28日 (月)					入 所 準 備		入 所	開 講 式	オリエンテーション	特別講義 (120分) 「国立大学法人化に向けて」 講師：監査法人トーマツ 公認会計士 香野 剛			夕べの つどい		夕 食 ・ 入 浴	自主研修 (90分)
第2日	10月29日 (火)	予 算 (120分) 講師：文部科学省大臣官房会計課 国立学校特別会計調査官 箱田 規雄		収入・債権 (60分) 講師：文部科学省大臣官房会計課総理 班経理第五係長 和田 聡		昼 食		収入・債権 (60分) 講師：文部科学省大臣官房会計課総理 班経理第五係長 和田 聡		支出・支出負担行為 (120分) 講師：文部科学省大臣官房会計課 総務班企画係長 森 昭一郎			講 話 (60分) 服務規律について 講師：九州大学総務 部人事課長 林田 豊治		夕べの つどい		自主研修 (90分)
第3日	10月30日 (水)	物品管理 (120分) 講師：文部科学省大臣官房会計課 用度班調度第一係長 久保 信		国有財産管理 及び処分 (60分) 講師：文部科学省大臣官房会計課国有 財産調査官 渡邊 一幸		昼 食		国有財産管理 及び処分 (60分) 講師：文部科学省大臣官房会計課国有 財産調査官 渡邊 一幸		決 算 (90分) 講師：文部科学省大臣官房 会計課専門官 高山 宏		特別講義 (90分) 「私立大学の経営管理」 講師：学校法人麻生学園 事務局長 八木 淑夫		夕べの つどい	自主研修 (90分)		
第4日	10月31日 (木)	契約・政府調達 (180分) 講師：文部科学省大臣官房会計課政府調達室 政府調達第一係長 池田 幸太郎				昼 食		外部資金 (120分) 講師：文部科学省研究振興局研究環 境産業連携課技術移転推進室 技術移転係長 鈴木 慰人			会計経理上の諸問題 (120分) 講師：文部科学省大臣官房会計課 総務班主査 西村 直章			夕べの つどい	自主研修 (90分)		
第5日	11月1日 (金)	班別討議(90分) 「国立大学の法人化に向け ての会計経理上の取り組みについて」 講師：文部科学省大臣官房 会計課総務班主査 西村 直章		班別発表(90分) 「国立大学の法人化に向け ての会計経理上の取り組みについて」 講師：文部科学省大臣官房 会計課総務班主査 西村 直章		昼 食		特別講義 (120分) 「外から見た国立学校等」 講師：元(株)博報堂九州支社 支社長代理 平岡 豊			閉 講 式	退 所					

I 研修概要

研 修 名	留学生担当者研修会		
担当課係	研修事業第二課 国内短期研修係		
研修目的 (趣旨)	大学、高等専門学校、専修学校、準備教育施設及び関係団体において、留学生関係事務担当者（初任職員）に対し、留学生の受入れ及び派遣に伴う諸問題に関する研修の機会を提供し、資質の向上を図ることにより、我が国における留学生交流体制の整備充実資することを目標とする。		
対 象	国公立大学、高等専門学校、専修学校、準備教育施設及び留学生関係団体職員で、原則として留学生担当業務経験年数が2年以下のもの		
開催期日	平成14年11月13日（水）～平成14年11月15日（金）	3日間	
参加人数	計画人数	200人	受講者数 222人 (参加率) 111.0%
開催場所	独立行政法人教員研修センター		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	54人	26.1%	142人	68.6%	8人	3.9%	3人	1.4%

2. 研修内容に関する主な意見

- 他校の人たちと交流ができ、いろいろな情報交換ができたのが有意義だった。
- 部会別討議や事例研究はもう少し時間が欲しかった。
- 文部科学省や法務省の講義は施策や制度についてとても参考になった。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度留学生担当者研修会日程表

時間		月日														
		9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	30	50	14:00	15:00	15	16:15	17:00	45	18:00	20:00
11月 13日 (水)	第 1 日					受 付	オリ エン テー ション	開 講 式	講義 1 「我が国の留 学生施策の現 状と課題に ついて」 文部科学省 留学生課長 黒木 慎一 (60分)	休 憩	講義 2 「日本留学試験 について」 教育企画・準備教育指導課長 田中 賢一 「留学生の受入 れについて」 私費留学生係長 森 博人 (60分)	宿泊オリ エンテー ション等 (45分)		司 会 打 合 せ	懇 親 会 (120分)	入 浴 等
11月 14日 (木)	第 2 日	7:30	9:00	30	10:00	30	50	11:50	13:00	14:00	15	15:15	30	17:30	19:00	20:00
		洗面・朝食等	講義 3 「異文化間教育 としての留 学生支援」 目白大学人間社会学部教授 原 裕視 (60分)	休 憩	班別討議 (事例研究) (60分)	昼 食	講義 4 「留学生担当者 の仕事の範囲 と仕事上の役 割について」 国際大学生センター係長 武田 里子 (60分)	休 憩	講義 5 「出入国管理の 現状と留 学生 の受入れにつ いて」 法務省入国管理局 入国在留課上席補佐官 沖 貴文 (60分)	休 憩	設置者部会別討議 (国立大学)及び(公私立大学) 受入業務部会、奨学金部会 生活支援部会 (高等専門学校) 高専部会 (専修学校) 専修学校部会 (120分)	夕 食 ・ 休 憩	自 主 研 修	入 浴 等		
11月 15日 (金)	第 3 日	7:30	9:00	10:00	11:00	12:00	30									
		洗面・朝食	宿 舎 室 清 掃	全 体 会 議 (設置者部会別討議報告) (120分)			修了証書授与・式 (30分)									

I 研修概要

研修名	人権教育セミナー（第1回）		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 (趣旨)	人権教育実施上の課題等について研修を行い、学校における人権教育の一層の充実を図る。		
対 象	教育委員会の指導主事及びその他の職員 幼稚園、小・中・高等学校及び中等教育学校の教職員		
開催期日	平成14年6月25日(火) ～ 平成14年6月26日(水)	2 日間	
参加人数	計画人数	300 人	受講者数 325 人 (参加率) 108.3%
開催場所	文部科学省分館虎ノ門ホール		

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	115人	44.6%	140人	54.3%	1人	0.4%	2人	0.8%

2. 研修内容に関する主な意見

- 国の施策・方向性をきちっと説明していただき、学校教育における人権教育の推進に役立てたいと考えている。
- 教師としてプロであることが、子どもの人権を保障することだというあたり前の「ことば」が、とても心に残りました。
- これから地域活動や教育活動の中で人権を尊重した考え方をベースとして考え、行動していくことが、大切であると強く感じました。
- 「人権教育」のアウトラインや、留意点などを把握する上で有意義な研修であった。
- これまでの人権教育の流れ、今求められている人権について、さまざまな視点からの講義があり、たいへん参考になりました。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度人権教育セミナー(第1回)

日 程 表

日 時: 平成14年6月25日(火)～平成14年6月26日(水)の2日間

場 所: 文部科学省分館 虎ノ門ホール

第1日目							
6月25日 (火)	13:00 13:30 13:50			14:50 15:10			16:10
		受 付	開 講 式	行 政 説 明 1 法 務 省 人権擁護局調査救済課	休 憩	行 政 説 明 2 文 部 科 学 省 初等中等教育局児童生徒課	
第2日目							
6月26日 (水)	9:20	10:50 11:00		12:30	13:40	15:10	
	講 演 1 「これからの人権教育」 宇都宮大学 教授 横島 章	休 憩	講 演 2 「障害者と人権教育」 帝京大学 教授 大南 英明	昼 休 み	講 演 3 「学校運営と児童生徒の人権」 上越教育大学 教授 若井 彌一		

I 研修概要

研 修 名	人権教育セミナー （第2回）					
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係					
研修目的 （趣旨）	人権教育実施上の課題等について研修を行い、学校における人権教育の一層の充実を図る。					
対 象	教育委員会の指導主事及びその他の職員 幼稚園、小・中・高等学校及び中等教育学校の教職員					
開催期日	平成14年10月29日（火） ～ 平成14年10月30日（水）	2	日間			
参加人数	計画人数	300 人	受講者数	292 人	（参加率）	97.3 %
開催場所	独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	90人	37.5%	149人	62.1%	1人	0.4%	0人	0.0%

2. 研修内容に関する主な意見

- 総合学習のあり方、進め方について、見つめ直すことができた。 (多数)
- 総合的な学習の時間、道徳、学校行事(特活)等がその本来の教育目標があるのについつい忘れがちになるところが否めない現実があります。そのことを思いつつ、もう一度総合的な学習の時間や道徳のねらいに立ち返った取り組みを進めることの大切さを感じた。
- ワークショップの活用など工夫された人権教育の実践例が良かった。
- 学校に帰り全職員に伝え共通理解を図り研修を深めたい。 (多数)

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成14年度人権教育セミナー(第2回)

日 程 表

日 時: 平成14年10月29日(火)～平成14年10月30日(水)の2日間

場 所: 独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター

開 講 式 , 講 演 : センター棟417

幼稚園・小学校部会 : センター棟417

中学校・高等学校部会 : センター棟416

第1日目

10月29日 (火)	13:00 13:30 13:45		15:15 15:30		17:00
	受 付	開 式	講 演 1 「人権教育に関する学習の進め方(1)」 —道徳教育及び総合的な 学習の時間の観点から— 奈良県立教育研究所 研究指導主事 島 恒生	休 憩	講 演 2 「人権教育に関する学習の進め方(2)」 —社会教育の観点から— 栃木県立宇都宮女子高等学校 校 長 島田 好正

第2日目

10月30日 (水)	10:00	12:00 13:00	15:00
	分 科 会 1 事 例 発 表 ・ 研 究 協 議 幼稚園・小学校部会 10:00～11:00 神奈川県愛川町教育委員会指導主事 中 村 正 11:00～12:00 京都市立竹田小学校長 小 篠 清 13:00～14:00 長野県阿南町立富草小学校教頭 原 泰 孝 中学校・高等学校部会 10:00～11:00 世田谷区立喜多見中学校長 大 竹 康 夫 11:00～12:00 青森市立油川中学校長 青 山 栄 明 13:00～14:00 宮崎県立都農高等学校長 岩 崎 健 一 郎	昼休み	分 科 会 2 事 例 発 表 ・ 研 究 協 議 指導助言者 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 安 野 功 指導助言者 国立教育政策研究所生徒指導研究センター総括研究官 森 嶋 昭 伸

I 研修概要

研修名	エイズ・薬物乱用防止教育研修会			
担当課係	研修事業第三課 体育・健康教育係			
研修目的 (趣旨)	エイズに関する正しい知識の普及を図り、エイズ教育の推進についての理解を促す。 また、学校における薬物乱用防止教育の一層の充実を図るため、薬物乱用防止教育についての理解を深めるための研修を行う。			
対象	小学校、中学校及び高等学校等の保健教育について、都道府県内で指導的立場にある教員並びに都道府県及び市（指定都市及び中核市を含む）町村教育委員会の保健教育担当指導主事			
開催期日	平成14年 6月19日（水）～平成14年 6月20日（木）			2 日間
参加人数	計画人数	250 人	受講者数	282 人（参加率） 112.8 %
開催場所	文部科学省分館 虎ノ門ホール			

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	84人	43.5%	94人	48.7%	0人	0.0%	15人	7.8%

2. 研修内容に関する主な意見

- 演習などをとりいれたらさらに効果的だと考えた。
- どの講義の内容も最新の情報なので大変参考になった。
- 現在の状況、早期教育の重要性について大変理解できが、5日制、新指導要領導入、絶対評価等の研修が大変な中で、どのようにマネジメントしてゆくべきなのか困惑している。
- エイズ教育については都市部の問題としてしか捉えてなかったが、改めて地方でも同じ問題として考えることが大切であり、早期教育の必要性を感じた。
- 遠方から中央の研修に参加でき大変参考になった。この刺激をぜひ学校に持ち帰り広めたい。
- 具体的なデータ、資料をいただき、今後の職員研修の資料として活用できるのでありがたい。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 エイズ・薬物乱用防止教育研修会 日程一覧

	9:15	9:45	10:00	10:30	12:30	13:30	14:30	14:45	16:15
6月19日(水)		受付	開会式	行政説明 「エイズ教育・性教育を取り巻く状況について」 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課専門官 森光敬子 【衛星配信予定】	実践発表 「エイズ教育・性教育の模擬授業」 (発表者) 筑波大学附属中学校 教諭 小磯透 愛知県立岡崎高等学校 教諭 藤岡寿美子 (指導助言者) 兵庫教育大学 教授 勝野真吾	昼食	講義1 「健康教育の取り組みについて」 兵庫教育大学 教授 勝野真吾 【衛星配信予定】	休憩	講義2 「青少年の性行動の実態とエイズ教育・性教育に求められるもの」 広島大学医学部医学科 公衆衛生学 講師 木原雅子 【衛星配信予定】
会場	虎ノ門ホール (文部科学省分館 1F)								

	9:30	10:00	11:30	12:45	14:15	14:35	16:05	16:30	16:45
6月20日(木)		受付	講義3 「喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育について」 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育企画室 健康教育調査官 鬼頭英明 【衛星配信予定】	昼食	講義4 「未成年者の喫煙及び飲酒行動について」 鳥取大学 医学部社会医学講座 環境予防医学分野 助教授 尾崎米厚 【衛星配信予定】	休憩	講義5 「喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方」 神戸大学 発達科学部 助教授 川畑徹朗 【衛星配信予定】	意見・情報交換セッション	閉会式
会場	虎ノ門ホール (文部科学省分館 1F)								

I 研修概要

研 修 名	公立学校（高等学校・特殊教育諸学校）事務職員研修講座					
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係					
研修目的 （趣旨）	公立の高等学校及び特殊教育諸学校の事務職員等に必要な研修を行い、事務職員の資質の向上と学校事務の効率的運営に資する。					
対 象	公立の高等学校及び特殊教育諸学校の事務職員並びに教育委員会事務職員					
開催期日	平成14年11月28日（木） ～ 平成14年11月29日（金）	2	日間			
参加人数	計画人数	900人	受講者数	709人	（参加率）	78.8%
開催場所	文部科学省分館 虎ノ門ホール（1日目） 文部科学省分館 虎ノ門ホール（2日目）、 東京都立つばさ総合高等学校 視聴覚室つばさホール（2日目）、 東京都立大崎高等学校 視聴覚室（2日目）、 東京商船大学 越中島会館 講堂（2日目）					

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	229人	33.3%	413人	60.0%	12人	1.7%	34人	4.9%

2. 研修内容に関する主な意見

- 現場における情報セキュリティの意識が低い。組織の整備、セキュリティポリシーの策定の必要性を感じた。
- 校内、学校間ネットワークの中で個人ができる日常的セキュリティも取り上げて欲しいと思う。
- セキュリティポリシーのような業界の先端を行く話は新しく、鋭い視点でとても良い。
- 現在の文部科学省の考え方について、方針等がよりよく理解できた。
- 文部科学省からの直接の講義は厳しい現状に置かれていることを身にしみて感じた。
- 時代の変化に伴い、学校を取り巻く環境も大きく変わろうとしていることがよく分かった。
- 各都道府県、その内の各学校の様々な運営方法、教員との関わりの難しさ、事業における事務の難しさを知ることができた。
- 学校が大きく変わる時代に事務職員として、学校全体に視野を広げ必要とされる事務職員として職務を行っていかねばと思った。
- 県教育庁では研修の意義、今回のテーマ決定の経緯等、充分認識しているようだが、学校での認識は薄い。
- 学校という単独の場所で、視野が狭くなっていたが、この研修で広がったようにも思う。

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 公立学校(高等学校・特殊教育諸学校)事務職員研修講座

日 程 表

日 時: 平成14年11月28日(木)～平成14年11月29日(金)の2日間

場 所: 全 体 会: 文部科学省分館 虎ノ門ホール

第1分科会: 東京都立つばさ総合高等学校 視聴覚室つばさホール

第2分科会: 文部科学省分館 虎ノ門ホール

第3分科会: 東京都立大崎高等学校 視聴覚室

第4分科会: 東京商船大学 越中島会館 講堂

第 1 日 目						
11月28日 (木)	13:00 13:30 13:50 15:20 15:35 17:00					
		受 付	開 講 式	講 演 「情報セキュリティ対策について」 NTTデータインフォマティクスセキュリティコンサルティング 代表取締役社長 高橋 洋介	休 憩	講 義 「公務員制度改革について」 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課
第 2 日 目						
11月29日 (金)	9:30 11:45 13:00 15:30					
	分 科 会 (発 表 ・ 討 議 ①) 第1分科会 「学校運営と事務管理」 第2分科会 「事務活動と研修」 第3分科会 「学校財政と施設」 第4分科会 「環境整備と生徒指導」	休 憩	分 科 会 (発 表 ・ 討 議 ②) 第1分科会 「学校運営と事務管理」 第2分科会 「事務活動と研修」 第3分科会 「学校財政と施設」 第4分科会 「環境整備と生徒指導」			

I 研修概要

研 修 名	衛生管理研修会				
担当課係	研修事業第三課 体育・健康教育係				
研修目的 (趣旨)	近年、腸管出血性大腸菌0157等による大規模な食中毒が発生しており、学校給食において、その防止対策等について各学校給食実施校等まで確実に周知徹底を図ることが喫緊の課題である。 このため、学校給食関係者を対象とした学校給食における衛生管理の推進に係る研修会を行う。				
対 象	都道府県及び指定都市教育委員会の給食担当者、指導主事、学校栄養職員、共同調理場長、校長等指導的立場の担当者				
開催期日	平成14年 6月 4日(火)				1日間
参加人数	計画人数	110人	受講者数	123人	(参加率) 111.8%
開催場所	文部科学省分館虎ノ門ホール				

II アンケート結果の状況

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	80人	71.4%	30人	26.8%	1人	0.9%	1人	0.9%

2. 研修内容に関する主な意見

○具体的な作業例、工夫例を知ることが出来参考になった。

○自分が伝達講習をするに当たり、教材ビデオの取扱等参考になった。

○実践発表がとても参考になった。学校へ帰り、改善点の参考にしたい。

○全般的な衛生管理や専門的な分野の講習といった機会を多くして欲しい。

○行政説明により衛生管理について再確認できた上、第三者的視点で自校の施設を見直すことが出来た。

○スライド、ビデオ、パワーポイントを使いわかりやすい説明、解説がよかった。

○今日の午前のスライドによる実態の把握、改善点についての説明等、具体的事例を通しての講習を多くして欲しい。

○ドライ運用に向けて調理員との連携を図りながら進めてゆきたい、所属の市でも他の栄養士との連携を図りながら、より安全な研修が出来るよう研修を積んでゆきたい。

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成14年度 衛生管理研修会 日程一覧

		9:30		10:00 10:15		11:45		12:45		13:45 14:00		15:00 15:10		16:50 17:00	
6 月 4 日 (火)		受 付	開 会 式	行政説明 「学校給食における衛生管理の充実 について」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 学校給食調査官 金 田 雅 代 【衛星配信予定】		昼 食	講義 1 「平成 1 3 年度学校給食に おける衛生管理の改善に 関する調査研究報告」 国立医薬品食品衛生研究所 食品衛生管理部 主任研究官 春 日 文 子 【衛星配信予定】		休 憩	講義 2 「食中毒防止ビデオを活用 した衛生管理の推進」 麻布大学 客員教授 伊 藤 武		休 憩	実践発表 ①東広島市教育委員会 課長補佐兼学校給食係長兼指導主事 藤井昭生 ②愛知県三好町立学校給食センター 学校栄養職員 橋本明子 ③鳥栖市立旭小学校 学校栄養職員 江口陽子		閉 会 式
	会場			虎 ノ 門 ホ ー ル （ 文 部 科 学 省 分 館 1 F ）											

I 研修概要

研修名	外国語指導助手に対する研修 新規来日外国語指導助手研修 (4月期)		
担当課係	研修事業第三課 語学・国立学校係		
研修目的 (趣旨)	「語学指導等を行う外国青年招致事業」による招致外国青年の中で語学指導に従事する中国語・韓国語指導助手(新規に来日する者及び契約更新者の中で国際交流員から外国語指導助手へ職種変更をする者)に対して、日本の学校教育制度、職務上必要とされる知識・指導技術等に関する理解を深めさせ、もって、我が国の中学校及び高等学校等における円滑な勤務に資する。		
対 象	開催要項上の趣旨項目において、上記「招致外国青年の中で語学指導に従事する中国語・韓国語指導助手(新規に来日する者及び契約更新者の中で国際交流員から外国語指導助手へ職種変更をする者)」としている。		
開催期日	平成14年 4月11日(木)		1日間
参加人数	計画人数	10人	受講者数 9人 (参加率) 90.0%
開催場所	ホテル ルポール麹町 (東京)		

II アンケート結果の状況

アンケートは実施していない

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	人	%	人	%	人	%	人	%

2. 研修内容に関する主な意見

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成14年度外国語指導助手来日直後オリエンテーション(4月期) 日程

月日	時 間	研 修 内 容 等	備 考
4 月 10 日 (水)		新規来日者 成田空港到着 バス移動 ホテル到着	
4 月 11 日 (木)	10:00～10:30	○開会式	C I Rとは、 別れて実施。
		A L T	
	10:30～12:00	○文部科学省担当官による講義 「日本の学校教育制度及び外国語教育の 現状等」 文部科学省教科調査官(外国語) 平田 和人	
	13:15～14:00	「外国語指導助手の役割とチーム・ティーチング の基本的考え方」 文部科学省教科調査官(外国語) 加納 幹雄 (昼食)	
	14:00～15:55	○日本における中国語教育の現状について ○日本における韓国語教育の現状について ○先輩ALTからの指導助言等Ⅰ ○先輩ALTからの指導助言等Ⅱ ○質疑応答, 意見交換等 ○文部科学省担当官によるまとめ	
		○閉会式 ○レセプション	
4 月 12 日 (金)		取りまとめ団体別国内移動	

I 研修概要

研修名	外国語指導助手に対する研修 新規来日外国語指導助手研修(A日程・B日程・第2次)					
担当課係	研修事業第三課 語学・国立学校係					
研修目的 (趣旨)	「語学指導等を行う外国青年招致事業」による招致外国青年の中で語学指導に従事する外国語指導助手(新規に来日する者及び再契約者の中で国際交流員から外国語指導助手への職種変更をする者)に対して、日本の学校教育制度、職務上必要とされる知識・指導技術等に関する理解を深めさせ、もって我が国の中学校及び高等学校等における円滑な勤務に資する					
対 象	開催要項上の趣旨項目において、上記「招致外国青年の中で語学指導に従事する外国語指導助手(新規に来日する者及び再び契約更新者の中で国際交流員から外国語指導助手へ職種変更をする者)」としている。					
開催期日	平成14年 7月29日(月) ～ 平成14年 7月30日(火)				2日間	
開催期日	平成14年 8月 5日(月) ～ 平成14年 8月 6日(火)				2日間	
開催期日	平成14年 8月22日(木)				1日間	
参加人数 A日程	計画人数	1,300人程度	受講者数	1,484人	(参加率)	114.2%
参加人数 B日程	計画人数	1,300人程度	受講者数	1,251人	(参加率)	96.2%
参加人数 第2次	計画人数	150人程度	受講者数	89人	(参加率)	59.3%
合 計	計画人数	2,750人	受講者数	2,824人	(参加率)	102.7%
【参 考】 4月期を含 めた場合 合 計	計画人数	2,760人	受講者数	2,833人	(参加率)	102.6%
開催場所	新宿京王プラザホテル(東京)					

II アンケート結果の状況

アンケートは実施していない

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	人	%	人	%	人	%	人	%

2. 研修内容に関する主な意見

III 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成14年度外国語指導助手来日直後オリエンテーション日程

A 日程	B 日程	時 間	項 目		
7 月 28 日 (日)	8 月 4 日 (日)	終 日	JET参加者の来日		
7 月 29 日 (月)	8 月 5 日 (月)	9:30～11:15	AJETワークショップ* (任意参加)		
		12:00～13:00	(昼 食)		
		13:00～13:30	県別オリエンテーション		
		13:30～14:00	開会式		
		14:00～14:05	AJETプレゼンテーション		
		14:05～14:45	JETプログラム概要説明 (重要情報)		
		A L T	時 間	C I R	
		15:00～15:30	文部科学省講義 「外国語指導助手の役割及び チーム・ティーチングの基本的考え方」 “The ALT Role in Foreign Language Education and Basics in Team-Teaching”	15:00～17:00	ALTと別にCLAIRが実施
		15:30～16:00	A L Tアドバイザーからの話		
		16:00～17:00	ティーム・ティーチングに関するビデオ視聴 「A L Tの学校での1日」 “An ALT's Day at School”		
		18:45～20:15	夕食会		
7 月 30 日 (火)	8 月 6 日 (火)	A L T		時 間	C I R
		9:00～10:20	ワークショップⅠ 「ティーム・ティーチングによる模擬授業と 効果的な授業計画」 “Team-teaching Demonstration and Effective Lesson Planning”	9:00～12:00	ALTと別にCLAIRが実施
		10:20～10:35	休 憩		
		10:35～11:25	ワークショップⅡ 「教材の創造的活用法と言語活動の組み立て」 “Creative Use of Teaching Materials and Designing Language Activities”		
		11:25～11:55	質疑応答		
		12:00～13:00	(昼 食)		
		13:00～13:40	CLAIRワークショップ1		
		14:00～14:40	CLAIRワークショップ2		
		15:00～15:40	CLAIRワークショップ3		
		16:00～16:40	CLAIRワークショップ4		
		16:45～19:00	荷物回収・AJETインフォメーションフェア		
7 月 31 日 (水)	8 月 7 日 (水)	7:30～11:30	取りまとめ団体別国内移動		

平成14年度外国語指導助手来日直後オリエンテーション(第2次)日程

第2次	時 間	内 容	備 考
8 月 21 日 (水)	終 日	JET参加者の来日	
8 月 22 日 (木)	9:30～ 9:45	受 付	
	9:45～10:05	開 会 式 ・ 開会挨拶 ・ 三省・CLAIR役員等紹介	
	10:05～11:20	TOA(歓迎オリエンテーションアシスタント) プレゼンテーション	
	11:20～11:30	AJETインフォメーション	
	11:30～12:00	重要情報(事務連絡)	
	12:00～13:00	昼 食	
	13:00～13:30	文部科学省講義(平田教科調査官) 「外国語指導助手の役割及びチーム・ティーチングの基本的考え方 “The ALT Role in Foreign Language Education and Basics in Team-Teaching” (10分休憩予定)	適宜、10分程度の 休憩を設ける
	13:30～14:45	文部科学省デモンストレーション (文部科学省平田教科調査官・Huw OliphantALTアドバイザー) 「チーム・ティーチング*についてのデモンストレーション」 文部科学省ALTアドバイザーからの説明 (文部科学省 Huw OliphantALTアドバイザー) 「ティーチングプランについて」	
	14:45～15:00	ALTアドバイザーとの質疑応答	
	15:00～16:00	ビデオプレゼンテーション「An ALT's Day at School」	
	16:10～16:30	取りまとめ団体別ミーティング	
	18:30～20:00	夕食会	
8 月 23 日 (金)	終 日	取りまとめ団体別国内移動	

I 研修概要

研 修 名	外国語指導助手に対する研修 再契約予定者研修会（A日程・B日程）					
担当課係	研修事業第三課 語学・国立学校係					
研修目的 （趣旨）	「語学指導等を行う外国語青年招致事業」による招致外国青年の中で、中学校・高等学校等において語学指導に従事する者（以下、「外国語指導助手」という。）の再契約予定者に対し、一層効果的な職務遂行ができるよう、必要な知識・指導技術等を習得させるとともに、外国語教育に係る諸問題について研究協議を行い、もって我が国の外国語教育の充実に資する。					
対 象	平成14年度に再契約を予定しているALTのうち、再契約が1回目の者とする。 なお、A日程、B日程の参加区分については下記のとおりとする。 A日程：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県 B日程：北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県、富山県、石川県、福井県、岐阜県、愛知県、三重県 ※A日程については、ALTのみを対象とする。 ※政令指定都市及び中核市については、その所在する道府県として取り扱う。					
開催期日	平成14年	5月22日（水）	～	平成14年	5月24日（金）（A日程）	3日間
開催期日	平成14年	6月 3日（月）	～	平成14年	6月 5日（水）（B日程）	
参加人数 A日程	計画人数	2,000人程度	受講者数	870人	（参加率）	95.3%
参加人数 B日程			受講者数	1,035人		
			計	1,905人		
開催場所	A日程：神戸ポートピアホテル（兵庫） B日程：新宿京王プラザホテル（東京）					

※ただし、外国語指導助手に関する研修については、A日程及びB日程とも1日半の日程となる。よって、A・B日程分合わせて、3日間（当該研修の中期計画上の「3日間」に合致する。）

II アンケート結果の状況

アンケートは実施していない

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	人	%	人	%	人	%	人	%

2. 研修内容に関する主な意見

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度外国語指導助手再契約予定者研修会（A日程）

期 日	時 間	内 容	備 考
5	15:00~15:30	開 会 式	
／	15:30~16:00	日 程 説 明	
22	16:00~17:30	基 調 講 演	
(水)	18:30~21:30	AJETチャリティーショー (任意参加)	
5	9:15~10:00	文部科学省講演	演題 “Expectations for Second-year ALTs ” 文部科学省初等中等教育局教育課程課 加納 幹雄教科調査官
／	10:00~10:30	文部科学省Q&A	{ 文部科学省 加納 幹雄教科調査官 ALTアドバイザー ヒュー・オリファント
23	10:30~10:45	(休 憩)	
(木)	10:45~12:00	ALTワークショップⅠ	[下記21のテーマから各自4テーマを選択] 1) Audio-visual Aids 2) CALL (Computer-assisted Language Learning) 3) Classroom Management 4) Drama in the Classroom 5) Elementary School Visits 6) Enhancing Students' Motivation 7) Extra-curricular Activities 8) Global Issues in the Foreign Language Classroom
	12:00~13:15	昼 食	
	13:15~14:30	ALTワークショップⅡ	
	14:30~14:45	(休 憩)	
	14:45~16:00	ALTワークショップⅢ	
	16:00~16:15	(休 憩)	
	16:15~17:30	ALTワークショップⅣ	
	18:30~20:00	AJET講演会 (任意参加)	
	20:00~21:00	AJETシネラルミーティング (任意参加)	
5	9:15~10:15	CLAIRワークショップⅠ	[設定する5テーマから各自2テーマを選択]
／	10:15~10:30	(休 憩)	
24	10:30~11:30	CLAIRワークショップⅡ	
(金)	11:30~12:20	質 疑 応 答	(CLAIRによる質疑応答)
	12:20~12:30	閉 会 式	

平成14年度外国語指導助手再契約予定者研修会（B日程）

期 日	時 間	内 容	備 考
6 / 3 (月)	15:00~15:30	開 会 式	ALT ・ CIR ・ SEA (合同)
	15:30~16:00	日 程 説 明	
	16:00~17:30	基 調 講 演	
	18:30~21:30	AJETチャリティーショー (任意参加)	
6 / 4 (火)	9:15~10:00	文部科学省講演	A L T
	10:00~10:30	文部科学省Q&A	
	10:30~10:45	(休 憩)	
	10:45~12:00	ALTワークショップⅠ	
	12:00~13:15	昼 食	
	13:15~14:30	ALTワークショップⅡ	
	14:30~14:45	(休 憩)	
	14:45~16:00	ALTワークショップⅢ	
	16:00~16:15	(休 憩)	
	16:15~17:30	ALTワークショップⅣ	
		演題 “ New Directions in Foreign Language Education ” 文部科学省初等中等教育局教育課程課 平田 和人教科調査官	
		{ 文部科学省 平田 和人教科調査官 ALTアドバイザー ヒュー・オリファント	
		[下記21のテーマから各自4テーマを選択] 1) Audio-visual Aids 2) CALL(Computer-assisted Language Learning) 3) Classroom Management 4) Drama in the Classroom 5) Education-centre based ALTs 6) Elementary School Visits 7) Enhancing Students' Motivation 8) Extra-curricular Activities 9) Global Issues in the Foreign Language Classroom 10) Lesson Designing 11) Life as a Second-year ALT 12) Music in the Classroom 13) Phonics and the <i>Ichu Nen Sei</i> 14) Principles of Activity Design 15) Special Needs Education 16) Teaching Adult Classes 17) Teaching Conversation Strategies 18) Teaching Debate/ Discussion 19) Trading Places 20) Teaching Second Foreign Languages 21) TEFL/TESOL Basic Theory	
	18:30~20:00	AJET講演会 (任意参加)	
	20:00~21:00	AJETジェネラルミーティング (任意参加)	
6 / 5 (水)	9:15~10:15	CLAIRワークショップⅠ	ALT ・ CIR ・ SEA (合同)
	10:15~10:30	(休 憩)	
	10:30~11:30	CLAIRワークショップⅡ	
	11:30~12:20	質 疑 応 答	
	12:20~12:30	閉 会 式	
		[設定する5テーマから各自2テーマを選択] (CLAIRによる質疑応答)	

I 研修概要

研 修 名	留学生交流研究協議会（北海道、東北、関東地区）			
担当課係	研修事業第二課 国内短期研修係			
研修目的 (趣旨)	大学等における留学生受入れ体制を整備、充実するため、留学生の受入れ・派遣に関する諸問題について、関係大学等の教員、幹部事務職員及び関係省庁等により研究協議を行う。			
対 象	①大学・短期大学・高等専門学校・専修学校・準備教育機関の留学生交流関係教員及び幹部事務職員 ②関係省庁担当職員 ③（財）日本国際教育協会職員 ④（財）国際学友会職員 ⑤（財）関西国際学友会職員 ⑥（財）内外学生センター職員 ⑦（財）留学生支援企業協力 ⑧（財）日本語教育振興協会職員 ⑨UMAP国内委員会職員			
開催期日	平成14年 6月20日（木）～平成14年 6月21日（金）			2日間
参加人数	計画人数	350人	受講者数	442人（参加率） 126.3%
開催場所	横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ（横浜国立大学）			

II アンケート結果の状況

アンケートは実施していない

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	人	%	人	%	人	%	人	%

2. 研修内容に関する主な意見

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度留学生交流研究協議会（北海道・東北・関東地区）日程表

6月20日(木)(第1日目)		6月21日(金)(第2日目)	
時 間	スケジュール	時 間	スケジュール
9:00 ～ 10:00	受付(5階ロビー)	10:00 ～ 11:30	分科会報告・質疑応答 会場：日輪(5階)
10:00 ～ 11:30	開会式 会場：日輪(5階) 全体会議 会場：日輪(5階)	11:30 ～ 11:50	閉会式 会場：日輪(5階) 終了
11:30 ～ 13:30	昼食(昼食後、分科会運営打合せ)	備 	

I 研修概要

研 修 名	留学生交流研究協議会（中部・近畿地区）			
担当課係	研修事業第二課 国内短期研修係			
研修目的 （趣旨）	大学等における留学生受入れ体制を整備、充実するため、留学生の受入れ・派遣に関する諸問題について、関係大学等の教員、幹部事務職員及び関係省庁等により研究協議を行う。			
対 象	①大学・短期大学・高等専門学校・専修学校・準備教育機関の留学生交流関係教員及び幹部事務職員 ②関係省庁担当職員 ③（財）日本国際教育協会職員 ④（財）国際学友会職員 ⑤（財）関西国際学友会職員 ⑥（財）内外学生センター職員 ⑦（財）留学生支援企業協力 ⑧（財）日本語教育振興協会職員 ⑨UMAP国内委員会職員			
開催期日	平成14年 6月27日（木）～平成14年 6月28日（金）			2日間
参加人数	計画人数	250人	受講者数	368人（参加率）147.2%
開催場所	ホテルアソシア静岡ターミナル（静岡大学）			

II アンケート結果の状況

アンケートは実施していない

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
		人数(人)	割合(%)	人数	割合	人数	割合	人数	割合

2. 研修内容に関する主な意見

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度留学生交流研究協議会日程表
(中部・近畿地区)

6月27日(木)

9:00 10:00		10:15		11:40 13:00		14:45 15:15		17:00 17:30		19:30	
受付	開 会 式		全 体 会 議		昼 <						

6月28日(金)

10:00	11:30	11:50
全体会議	閉会式	
シンポジウム報告及び質疑応答 テーマA～D	挨拶 文部科学省 静岡大学	
3階「駿府の間」		

[会場]

ホテルアソシア
静岡ターミナル

JR静岡駅北口
から徒歩3分

TEL 054-254-4141
FAX 054-255-6520

I 研修概要

研 修 名	留学生交流研究協議会（中国・四国・九州地区）		
担当課係	研修事業第二課 国内短期研修係		
研修目的 （趣旨）	大学等における留学生受入れ体制を整備、充実するため、留学生の受入れ・派遣に関する諸問題について、関係大学等の教員、幹部事務職員及び関係省庁等により研究協議を行う。		
対 象	①大学・短期大学・高等専門学校・専修学校・準備教育機関の留学生交流関係教員及び幹部事務職員 ②関係省庁担当職員 ③（財）日本国際教育協会職員 ④（財）国際学友会職員 ⑤（財）関西国際学友会職員 ⑥（財）内外学生センター職員 ⑦（財）留学生支援企業協力 ⑧（財）日本語教育振興協会職員 ⑨UMAP国内委員会職員		
開催期日	平成14年 7月 4日（木）～平成14年 7月 5日（金）	2日間	
参加人数	計画人数	200人	受講者数 224人 （参加率） 112.0%
開催場所	ホテルグランヴィア広島（広島大学）		

II アンケート結果の状況

アンケートは実施していない

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	人	%	人	%	人	%	人	%

2. 研修内容に関する主な意見

III 研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成14年度 留学生交流研究協議会日程
(中国・四国・九州地区)

会 場 ホテルグランヴィア広島

7月4日(木)

9:30	10:00	10:10	11:30	13:30	14:45	15:15	17:00	17:30	19:30
受 付	開 会 式	全 体 会 議	昼 食	分 科 会	休 憩	分 科 会		自由討議 及び 懇 親 会 (4階悠久の間)	
	挨拶 広島大学	留学生交流の当面する諸問題について		交 流 部 会 (4階悠久の間)		交 流 部 会 (4階悠久の間)			
	文部科学省	文部科学省		教育指導部会 (3階天平の間)		教育指導部会 (3階天平の間)			
	関係機関紹介 日程説明等	法務省 外務省 UMAP 日本国内委員会 (4階悠久の間)		生 活 部 会 (4階悠久の間) 高等専門学校部会 (3階天平の間)		生 活 部 会 (4階悠久の間) 高等専門学校部会 (3階天平の間)			

7月5日(金)

10:00	11:30	11:50
分科会報告・質疑応答	閉 会 式	
(交 流 部 会) (教 育 指 導 部 会) (生 活 部 会) (高等専門学校部会) (4階悠久の間)	挨拶 文部科学省 広島大学	

I 研修概要

研 修 名	道徳教育連携・推進講座（地区別研修講座）		
担当課係	研修事業第三課 道徳・産業教育係		
研修目的 (趣旨)	道徳教育の基本問題及び指導上の諸問題について都道府県教育委員会との連携・協力の下で研修を行い、教員の実践的指導力の向上を図るとともに、保護者や地域住民との交流を深め、道徳教育推進の中核的指導者・協力者となる人材を育成し、学校及び地域社会における道徳教育の一層の充実に資する。		
対 象	教育委員会の指導主事、国・公・私立学校の教員及びP T A関係者（保護者・地域住民）（P T A関係者については、単なる参加者としてではなく、シンポジストやオブザーバー、実践事例発表者として参加を得るよう工夫を図る。）		
開催期日	平成14年 4月	～	平成15年 3月 2～3 日間
参加人数	計画人数：30,000人	受講者数：42,613人	(参加率)：142.0%
開催場所	各都道府県で設定		

II アンケート結果の状況

アンケートは実施していない

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
		人数(人)	割合(%)	人数	%	人数	%	人数	%

2. 研修内容に関する主な意見

I 研修概要

研修名	外国語指導助手に対する研修 招致期間中外国語指導助手研修（中間期）		
担当課係	研修事業第三課 語学・国立学校係		
研修目的 （趣旨）	都道府県教育委員会との連携・協力の下、「語学指導等を行う外国青年招致事業」による招致外国青年のうち、中学校・高等学校等において語学指導に従事する者（以下、「外国語指導助手」という。）に対し、一層効果的な語学指導ができるよう必要な知識・指導技術等を習得させるとともに、外国語教育に係る諸問題について研究協議を行い、もって我が国の外国語教育の充実に資する。		
対 象	(1) 外国語指導助手 (2) 外国語指導助手と同数以上の中学校・高等学校の日本人外国語担当教員（以下、「担当教員」という。） (3) 都道府県・指定都市及び市町村教育委員会の外国語担当指導主事等		
開催期日	平成14年10月中旬から平成15年1月下旬の間において、概ね3日間の日程で各都道府県教育委員会が定める期間とする。		
参加人数	計画人数	10,000人	受講者数 11,161人 (参加率) 111.6%
開催場所	各都道府県教育委員会において設定する。		

II アンケート結果の状況

アンケートは実施していない

1. 研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	人	%	人	%	人	%	人	%

2. 研修内容に関する主な意見

I 研修概要

研 修 事 業 名		衛 星 配 信 研 修
研 修 事 業 名	配 信 し た 講 義 及 び 数	特 記 事 項
教職員等中央研修講座 (校長・教頭等)	「教育改革の推進」 外21	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
(中堅教員)	「教育課程の編成と展開」 外27	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
生徒指導総合研修講座	「関係機関との連携の在り方(1)学校と警察との連携の強化による非行防止対策の推進」 外12	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼 ・講義「問題行動を起こす児童生徒への対応」について、北海道(岩見沢市)及び福井県と双方向で実施 ・事例発表「体験活動の意義とそれを生かした生徒指導」については、北海道(稚内市)、宮城県及び群馬県と双方向で実施
外国人児童生徒等日本語指導講習会	「これからの外国人児童生徒教育」	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
学校安全教育指導者研修会	「学校における交通安全教育の考え方、進め方」 外8	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
教育情報化推進指導者養成研修 (指導主事全国2講座)	「教育の情報化に関する国の施策」 外4	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
「総合的な学習の時間」研修講座(小学校英語活動研修講座)(第2回)	「「総合的な学習の時間」と英語活動」 外4	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
保健室相談活動研修会	「健康教育の現状と課題」 外1	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
エイズ・薬物乱用防止教育研修会	「エイズ教育・性教育を取り巻く状況について」 外5	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
公立学校(高等学校・特殊教育諸学校)事務職員研修講座	「情報セキュリティの必要性和情報セキュリティポリシー」 外1	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
衛生管理研修会	「学校給食における衛生管理の充実について」 外1	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
10 研修事業	95 講義	